

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
	頼山陽江戸状								Ⅲ-183-1～26まで「頼山陽江戸状」として一括	Ⅲ-183
1	頼山陽書簡(土綱につき)	状	1通		安芸頼某口		12.2×99.9	半紙	端裏書(頼山陽筆)「京御文」, 山陽書簡を頼山陽が書写したものカ, 封筒(21.4×8.0, 頼古模筆)「家内山陽翁」	Ⅲ-183-1
2	封筒		1点		(頼山陽カ)		18.6×4.6	楮紙(薄茶)	封筒「芸州広島 頼餘一殿 頼徳太郎」, 同・裏「四月廿二日出 託牛海師 従京二条高倉」『此御状ハいかなることニヤ八月廿六日隣村光蓮寺と申より届申候』	Ⅲ-183-2
3	[袋]		1点				30.9×21.4	楮紙	袋上書「絹箋 三十六枚 久太郎様御書付副 閑齋」, 端書(頼山陽筆カ)『内拾枚神辺へ持参』, 同・裏面「春水翁御尺牘 外御書付」	Ⅲ-183-3
4	頼山陽書簡(今日当地伏見へ到着の事)	状	1通	(寛政9年3月)当廿五日	(頼山陽)		19.0×20.0	楮紙	前後欠	Ⅲ-183-4
5	頼山陽書簡(江戸到着之状)	状	1通	(寛政9年4月11日)	久太郎拜	母上様	13.7×36.0	諸口紙	封上書「母上様 久太郎拜 平安」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十一日到着之状 五月十五日至〇」, 2枚に剥離, 後欠	Ⅲ-183-5
6	頼山陽書簡(尾藤宅へ訪問の事)	状	1通	(寛政9年4月16日)	久太郎拜	母上様	13.9×38.4	諸口紙	封上書「母上様 久太郎拜 無異」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十六日認 五月三日 四月十一日着之左右 〇」, 2枚に剥離, 後欠	Ⅲ-183-6
7	[断簡](七月九日出之御状壱封沢大夫カ)	状	1通	(寛政9年)	(頼山陽)		14.0×7.0	諸口紙	前後欠	Ⅲ-183-7
8	頼山陽書簡(江戸遊学の様子)	状	1通	(寛政9年8月)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.2×33.7/ 14.2×34.1	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「□□□日出 同廿四日来」, 2枚に切断(間に欠損あり)	Ⅲ-183-8
9	頼山陽書簡(風邪にて灸延引, 尾藤おはも快復の事)	状	1通	(寛政9年)八月廿二日	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.2×36.6	諸口紙	前欠	Ⅲ-183-9
10	頼山陽書簡(此節補薬療治にて本復之事)	状	1通	(寛政9年)九月十三日	山陽	(頼梅颯)	14.1×30.7/ 14.1×7.7	諸口紙	封上書「内用 山陽」, 2枚に切断(間に欠損あり)	Ⅲ-183-10
11	頼山陽書簡(尾藤御嬢様御不快之儀につき)	状	1通	(寛政9年)十一月5日	久太郎拜	母上様	14.0×16.5	諸口紙	封上書「母上様 久太郎拜 平安」, 端裏書(頼梅颯筆)「十一月五日出 同廿四日至」, 後欠	Ⅲ-183-11
12	頼山陽書簡(月々の灸治の事, 尾藤氏嬢様御堅固の事)	状	1通	(寛政10年)2月10日	久太郎拜	母上様	14.4×33.2	諸口紙	封上書「母上様 久太郎拜 □□平安」, 端裏書(頼梅颯筆)「二月十日認 同廿二日届 〇」, 後欠	Ⅲ-183-12
13	頼山陽書簡(近々帰国にて仕度中の事)	状	1通	(寛政10年)3月21日	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.4×24.7	諸口紙	中央下部欠損甚	Ⅲ-183-13
14	頼山陽書簡(学業の事, 先日少し感冒仕候事)	状	1通	(寛政9年)	久太郎拜	(頼梅颯)	14.3×27.1	諸口紙	封上書「[] 久太郎拜」, 後欠	Ⅲ-183-14
15	[断簡]	状	1通	(寛政10年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.0×15.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-183-15
16	[断簡]	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	12.5×1.0	半紙	「尾藤へノ道ハ杉木ヨリ築山文右衛門殿へ行クヨリ又トヲシ」(断簡全文)	Ⅲ-183-16
17	[断簡](尾藤家出生小兒, 松太郎と命名)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	13.9×9.3	諸口紙	前後欠	Ⅲ-183-17
18	[断簡](外出時の行装, 買物の笠の事)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.2×6.4	諸口紙	前後欠	Ⅲ-183-18
19	[断簡](学友の事, 度々ノ御状御戒めの事)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	11.0×7.6	楮紙	前後欠, 下部欠損	Ⅲ-183-19

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
20	[断簡](御疑ひも有之候へども飾り申ず候事)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.1×4.4	諸口紙	前後欠, III-183-19と同一書簡カ	III-183-20
21	[断簡](養生の事は去年に比べてぬかりなき事)	状	1通	(寛政10年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.2×5.3	諸口紙	前後欠	III-183-21
22	[断簡]	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.0×4.5	諸口紙	前後欠	III-183-22
23	[断簡]	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽)	(頼梅颯)	14.3×1.2	諸口紙	細片, 前後欠	III-183-23
24	[断簡](当年御祭礼如何と察し候)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼山陽カ)		15.2×5.3	楮紙	前後欠	III-183-24
25	七言絶句	状	1通				19.2×27.2	小半紙	「裏」との記載あり	III-183-25
26	頼山陽書簡(心伝開教論につき)	状	1通	(文化12年)十一月三日	頼徳太郎襄	細六郎様	17.2×46.5	杉原紙	「権次郎も泉下二相成候へへ」との記載あり, 紙背に菅茶山宛頼聿庵書簡(臘月廿二日付)の控あり	III-183-26
27	頼春水書簡(小学御講釈申上, ことの外入御意候事)	状	1通	(天明4年)閏正月十四日	(頼春水)	久太郎へ申遣ス	15.4×23.3	楮紙	御進講居間の絵図あり	III-364-3
28	頼春水書簡(弥助書状にて堂島大火の事, お直縁談の事)	状	1通	(天明4年)三月十二日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×33.5	諸口紙	前欠, 右に大きく欠損あり	III-364-4
29	頼春水書簡(佐野善左衛門評判よろしく世直り大明神など申候由)	状	1通	(天明4年)四月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×38.0	諸口紙	前欠, 右, 大きく欠損	III-364-5
30	頼春水書簡(高山彦九郎来訪の事, 葛子琴病臥の事)	状	1通	(天明4年5月19日)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×37.0	諸口紙	前後欠	III-364-6
31	頼春水書簡(江戸市中の米の事, 諸色高直の事ほか)	状	1通	(天明4年)五月廿九日	(頼春水)	久太郎はへ	14.6×39.4	諸口紙	封上書「無事 久太郎はへへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「くし田より五月晦日出, 同十八日至」, 2枚に剥離, 破損甚	III-364-7
32	頼春水書簡(此間片桐殿へ参り馳走に合申候事)	状	1通	(天明4年)六月十日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.7×7.9	諸口紙	前欠	III-364-8
33	頼春水書簡(当秋交代することなく候, 葛子琴の様子いかが候や)	状	1通	(天明4年)六月廿一日	(頼春水)	久太郎はへ	14.6×42.9	諸口紙	封上書「平安 久太郎はへへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「○六月廿一日出 七月十五日至」	III-364-9
34	頼春水書簡(当秋つめ越し候ても来春ハ帰り可申候事)	状	1通	(天明4年)六月晦日出	(頼春水)	久太郎はへ	14.5×13.3	諸口紙	封上書「平安 久太郎はへへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「六月晦日出, 七月十三日至」, 後欠	III-364-10
35	頼春水書簡(高山彦九郎又々参り申候ゆへ明日ハ片桐殿へ同道之事)	状	1通	(天明4年)七月二日	(頼春水)	久太郎はへ	14.6×24.3	諸口紙	封上書「久太郎はへへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「七月三日出, 同十六日至」	III-364-11
36	頼春水書簡(義斎様御病身の由, 久太郎灸治之事)	状	1通	(天明4年)廿二日	(頼春水)	(頼梅颯)	12.3×16.8	半紙	前欠	III-364-12
37	頼春水書簡(梅颯の母没後の心配の事, 竹山へ頼候誌石之事)	状	1通	(天明4年)十月廿六日認	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×12.7	諸口紙	前欠	III-364-13
38	頼春水書簡(中井へ遣候誌石の事, 竹原にて石も段々組立候事)	状	1通	(天明4年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×37.0	諸口紙	前後欠	III-364-14
39	頼春水書簡(尾藤と中井へ申遣候墓誌の石につき)	状	1通	(天明4年)十一月廿六日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×18.5	諸口紙	前欠	III-364-15
40	頼春水書簡(卯一郎の事, 衣類夏物お越可給候)	状	1通	(天明4年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×7.2	諸口紙		III-364-16
41	頼春水書簡(小児にのませ候薬につき, 中井へ先頃尋候書状の事)	状	1通	(天明4年)十二月十二日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×24.2	諸口紙	前欠	III-364-17

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
42	頼春水書簡(江戸の御長屋の様子, 久太郎食事の事)	状	1通	(天明4年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×27.2	諸口紙	前後欠	III-364-18
43	1) 頼春水書簡(江戸炎暑の事, 廿四日に片桐公へ参り候事)	状	1通	(天明4年)六月卅日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×19.7	諸口紙	III-369-16-1~2まで貼継	III-369-16-1
43	2) 頼春水書簡(一翁来書, 葛子琴を惜しみ候事)	状	1通	(天明4年)六月十四日出	(頼春水)	久太郎はへへ	14.6×17.6	諸口紙	封上書「無事 久太郎はへへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「○中井方六月十日出 七月十六日至」	III-369-16-2
44	頼春水書簡(竹原疱瘡の事, 久太郎へ脇差遣度事)	状	1通	(天明5年)正月	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×35.4	諸口紙	前後欠	III-364-19
45	頼春水書簡(西国天領の米, 江戸に直に廻り候事, 先書の大坂火事の事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×18.0	諸口紙	前後欠	III-364-20
46	頼春水書簡(書状定日に出し可申候事, 江田氏書状参候事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.7×19.1	諸口紙	前後欠	III-364-21
47	頼春水書簡(加賀様御来訪の事, 井伊様御婚儀の事, 関東筋飢餓の事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×36.5	諸口紙	後欠	III-364-22
48	頼春水書簡(良平帰国の由, 鉄蔵詩見申度候事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×13.7	諸口紙	前後欠, 断片あり(8.4×2.4)	III-364-23
49	頼春水書簡(若殿様御小姓の雑言始末につき)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×15.8	諸口紙	前後欠, 左上部破損甚	III-364-24
50	頼春水書簡(万四郎方も久太郎事とかく弱々と見へ候様に申越候事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×26.4	諸口紙	前後欠	III-364-25
51	頼春水書簡(立介事, 此元痔の事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×20.0	諸口紙	前後欠	III-364-26
52	頼春水書簡(久太郎へ絵本取寄候事, 御姫様御誕生の事)	状	1通	(天明5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×17.0	諸口紙	前後欠	III-364-27
53	頼春水書簡(服部先生高山彦九郎松島行当十九日被帰候事)	状	1通	(天明6年6月頃)	(頼春水)	留守宅	14.5×22.4	諸口紙	端裏書「万四郎へも見せ可給候」	III-330-3-1
54	頼春水書簡(お直縁組の事, 義斎病状の事)	状	1通	(天明6年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×51.0	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「丙午年[]」, 2枚に剥離, 後欠, 欠損甚	III-364-28
55	頼春水書簡(若殿来年御登城の事, 万四郎縁談の事)	状	1通	(天明6年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×30.5	諸口紙	前後欠	III-364-29
56	頼春水書簡(読本久太郎へ遣申候事, お直破談の事)	状	1通	(天明6年)正月六日カ	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×28.2	諸口紙	前後欠	III-364-30
57	頼春水書簡(叔父様か千齡参候節に御祭被致可然候事)	状	1通	(天明6年)正月廿日	(頼春水)	お静とのへ	14.5×13.9	諸口紙	封上書「お静へ」, 端裏書(頼梅颯筆)「正月廿日認, 十二日至」, 後欠	III-364-31
58	頼春水書簡(湯島聖堂不残御焼失の事, 拝領鶴御料理の事)	状	1通	(天明6年2月7日カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×30.7	諸口紙	前後欠	III-364-32
59	頼春水書簡(当冬ハ火事甚繁一昼夜に五六度も有之候事)	状	1通	(天明6年2月)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×30.9	諸口紙	前後欠	III-364-33
60	頼春水書簡(久太郎へはかま上下の事, 高山彦九郎より奥州金華山ほうこ草来候事)	状	1通	(天明6年)五月廿六日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×42.0	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「丙午五年廿五日御書 六月十七日至」, 2枚に剥離	III-364-34

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
61	頼春水書簡(松山の周沢と申人, お直へあてかひ申度候事)	状	1通	(天明6年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×11.9	諸口紙		III-364-35
62	頼春水書簡(久太郎, 江戸絵のはなし, 服薬, 食事の事)	状	1通	(天明6年)十二月十三日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×23.6	諸口紙	前欠	III-364-36
63	頼春水書簡(久太郎読初, 書初あり候由, お直縁談の事)	状	1通	(天明7年)正月廿日燈下	(頼春水)	お静とのへ	14.3×43.9	諸口紙	封上書「お静とのへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「正月廿日出, 二月十一日至」, 2枚に切断	III-364-37
64	頼春水書簡(お十湿瘡の事, 片山北海書状持参の画人東洋の事)	状	1通	(寛政元年10月3日)	(頼春水)	留守へ	13.9×49.0	諸口紙	封上書「留守へ」, 後欠, 2枚に切断	III-364-38
65	頼春水書簡(飯岡義斎計報大坂より来り驚人候事)	状	1通	(寛政元年)十一月廿五日	(頼春水)	お静とのへ	14.5×36.2	諸口紙	封上書「お静とのへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「霜月廿五日出, 極十四日至」	III-364-39
66	頼春水書簡(久太郎来早春御目見につき脇差遣可申事)	状	1通	(寛政元年)	(頼春水)	(頼梅颯)	13.5×22.2	諸口紙	前後欠, 上部欠損	III-364-41
67	1) 頼春水書簡(お十乳母の事, 屋敷の事よき御触も出候由)	状	1通	(寛政元年)十一月廿八日	(頼春水)	奥へ	14.5×22.1	諸口紙	III-369-17-1~3まで貼継, 封上書「無事 奥へ」	III-369-17-1
67	2) 頼春水書簡(お十様子, 庭の事承り度候)	状	1通	(寛政2年)十月十四日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×9.2	諸口紙		III-369-17-2
67	3) 頼春水書簡(竹原焼塩所望, お十病氣, 琉球談の事)	状	1通	(寛政元年)十一月十三日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×12.7	諸口紙		III-369-17-3
68	頼春水書簡(杏坪妻お恭安産, 一郎出生の事)	状	1通	(寛政3年2月)九日出	(頼春水)	お静とのへ	14.0×37.0	諸口紙	封上書「お静とのへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「□安, []九日出, 三月十八日至」, 後欠	III-364-40
69	頼春水書簡(久太郎竹原行, 九月に成候事)	状	1通	(寛政3年)	弥太郎	万四郎殿, 久太郎へ	14.4×12.5	諸口紙	封上書「万四郎殿 久太郎へ 無事 弥太郎」, 後欠	III-364-42
70	頼春水書簡(久太郎事, 学館にて史記通読の事, お順上京, お直と乗船の事)	状	1通	(寛政3年4月)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×17.3	諸口紙	前後欠	III-364-43
71	頼春水書簡(丁祭の珍敷供物の事, お直の事)	状	1通	(寛政3年)五月十五日夜	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×13.2	諸口紙	前欠	III-364-44
72	頼春水書簡(斎賢・孚希宮御婚儀の事, お直嫁入のため江戸へ引越の事)	状	1通	(寛政5年)二月十七日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×38.7	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「二月十七日出, 三月十一日至 内延 □事」	III-364-45
73	頼春水書簡(お直嫁入資装・小道具類の事)	状	1通	(寛政5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×8.7	諸口紙	前後欠	III-364-46
74	頼春水書簡(大坂へ伊助と用意金遣候由, またお直の女切手の事)	状	1通	(寛政5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.3×22.7	諸口紙	前後欠	III-364-47
75	頼春水書簡(お直, 来月二日に江戸へ出立致候事)	状	1通	(寛政5年)三月二十九日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×36.6	諸口紙	前欠	III-364-48
76	頼春水書簡(お直, 伊助 明石に無事着の由, 路銀, 婚礼衣装の事)	状	1通	(寛政5年4月9日)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.3×35.7	諸口紙	前後欠	III-364-49
77	頼春水書簡(お直より当月六日に大坂出立の事)	状	1通	(寛政5年)四月十八日出	(頼春水)	お静との□	14.3×35.5	諸口紙	封上書「お静との□」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十八日出 五月七日至 堀田惣兵衛便 無事」, 後欠	III-364-50

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
78	頼春水書簡(お直, 無事に江戸へ到着の事, 久太郎謠稽古の事)	状	1通	(寛政5年)四月廿四日夜	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×17.4	諸口紙	前欠	III-364-51
79	頼春水書簡(お直無事に当廿一日到着の事)	状	1通	(寛政5年)4月24日)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×19.0	諸口紙	後欠	III-364-52
80	頼春水書簡(伊助道中苦勞の事, お直より伊助へ餞別の事)	状	1通	(寛政5年)五月十五日夜雨ふる	(頼春水)	(頼梅颯)	14.8×27.7	杉原紙	前後欠	III-364-53
81	頼春水書簡(お直江戸での生活の事, 伊助この度の骨折の事, 久太郎袖留の事)	状	1通	(寛政5年)六月十三日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×36.6	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「六月三日出, 同十九日至 □事」, 後欠	III-364-54
82	頼春水書簡(伊助広島到着の際に可被申聞候趣)	状	1通	(寛政5年)六月廿六日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×13.5	諸口紙		III-364-55
83	頼春水書簡(お直婚礼用意届かず口惜き事, 久太郎へ筆遣し申度事)	状	1通	(寛政5年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.9×35.7	杉原紙	前後欠	III-364-56
84	頼春水書簡(為替の事, 作事其他共, 万四郎・久太郎へ別紙遣申候事)	状	1通	(寛政5年)八月廿六日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×14.5	諸口紙	前後欠	III-364-57
85	手島伊助書簡(当十九日大坂着, 風悪敷故, 明石より陸地仕候)	状	1通	(寛政5年)3月)	(手嶋伊助)	(頼春水)	15.3×25.0	楮紙	後欠	III-364-58
86	頼春水書簡(此小切認置候故進候)	状	1通	(寛政5年)三月十日	春水, 頼弥太郎	手嶋伊助殿	12.3×9.0	半紙	包紙(24.0×7.4, 半紙)「手島伊助殿 頼弥太郎 内々用」, 同・裏「一兩日に船にて披見之事」, 黒文円印「孤飛」2顆, 封上書「手嶋伊助殿 春水 内要用 無事」	III-366-10
87	頼春水書簡(斎賢様御学事につき御輔翼方々心得)	状	1通	(寛政9年)丁巳三月十二日	(頼春水)	(黒瀬, 柴田)	14.1×59.5	諸口紙	端裏書「若殿様御内慮ニよりにて此両通黒瀬柴田へ官通ニ申遣ス丁巳三月十二日 △二通」, 『三』	III-300-3-3
88	頼春水書簡(近思録ほか御課業あらせられ候事)	状	1通	(寛政9年)丁巳三月十二日	(頼春水)	(黒瀬, 柴田)	14.1×44.0	諸口紙	端裏書「△」『四』, 校訂(墨)	III-300-3-4
89	1) 頼春水書簡(山王智光院にて観荷之集いたし候につき)	状	1通	(寛政12年)七月三日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×43.2	諸口紙	III-165-1~5まで貼継, 端裏書『七月廿六日至, 江戸ヨリ御来書之内』	III-165-1
89	2) 頼梅颯書簡(京の梨影より来書の事, 山陽死去の様子につき)	状	1通	(天保3年)十月十九日燈下	梅颯	餘一殿	12.0×161.3	半紙		III-165-2
89	3) 頼春風書簡(叔母君病状快方の事, お直夫妻不仲の事)	状	1通	正月十五日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×62.0	諸口紙		III-165-3
89	4) 頼杏坪書簡(三原を発し吉和へ到着の事, お民喜びの事)	状	1通	九月廿五日	杏磻	尚平殿, 餘一殿, 佐一郎殿同覽	16.6×83.7	大杉原紙(朱飾線)	端裏書「三原方御来書 九月廿五日出 十月四日至」	III-165-4
89	5) 頼養堂書簡(駒井お民安産, 男子出生, 母子共無滞肥立の事)	状	1通	六月十九日	公迂	杏坪大人様	14.5×94.4	諸口紙	封上書「杏坪大人様尊下 公迂」, 端裏書「六月廿三日至 ○」	III-165-5
90	頼春水書簡(竹山邸訪問, 翌朝乗船に, 兼葭堂見送りの事(ほか))	状	1通	(寛政12年)四月廿日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.0×106.4	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「四月廿日出, 閏四月四日来ル」	III-365-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
91	頼春水書簡(山陽朝寝につき、灸治など相談第一の事)	状	1通	(寛政12年)後四月廿一日朝	(頼春水)	おしつとの	14.1×36.2	諸口紙	封上書「無事、内々用」、Ⅲ-365-2の別啓	Ⅲ-365-3
92	頼春水書簡(為家集、赤崎へ申候事、お淳少寝悪癖に候事)	状	1通	(寛政12年)後四月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.0×25.8	諸口紙	封上書「無事、本書」、端裏書(頼梅颯筆)「後四月廿日出 五月十五日入手」	Ⅲ-365-4
93	頼春水書簡(新講学所、出来候事)	状	1通	(寛政12年)八月廿一日霖	弥太郎	万四郎殿	13.9×16.5	諸口紙	封上書「万四郎殿 弥太郎」、端裏書(頼杏坪筆)「無事、九月十日」	Ⅲ-365-5
94	1) 頼春水書簡(御石塔五輪金薄之事ほか)	状	1通	(寛政12年)十八日	(頼春水)	鋏邸	12.3×28.0	半紙	Ⅲ-369-6-1～19まで貼継、封上書「鋏邸 無異内用」	Ⅲ-369-6-1
94	2) 頼春水書簡(杜觸之画幅上下寸法申越候様、久太郎へ申付候事)	状	1通	(寛政12年)	(頼春水)		14.1×6.6	諸口紙		Ⅲ-369-6-2
94	3) 頼春水書簡(竹原喜八娘之事、講学所出勤の事)	状	1通	(寛政12年閏4月)閏廿一日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×13.3	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「閏廿一日出 五月十四日至」	Ⅲ-369-6-3
94	4) 頼春水書簡(内々要用 老奴不正働につき、留守宅油断ハ無之事)	状	1通	(寛政12年)閏四月十四日認置	(頼春水)	留守へ	14.0×20.7	諸口紙		Ⅲ-369-6-4
94	5) 頼春水書簡(内々 留守宅諸事心遣の事、江戸詰何事も不自由の事)	状	1通	(寛政12年)壬四月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	13.9×16.5	諸口紙		Ⅲ-369-6-5
94	6) 頼梅颯書簡(羽織と襦袢送り候事、久太郎、沢宅に参り候事)	状	1通	(寛政12年)廿六日朝	(頼梅颯)	(頼春水)	14.1×17.3	諸口紙	朱筆で頼春水の返答書入あり	Ⅲ-369-6-6
94	7) 頼春水書簡(江戸詰の様子、袴の縫目の事)	状	1通	(寛政12年)閏四月十九日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×32.4	諸口紙		Ⅲ-369-6-7
94	8) 頼春水書簡(留守宅の庭、菜園の様子につき)	状	1通	(寛政12年閏四月)閏廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×7.1	諸口紙		Ⅲ-369-6-8
94	9) 頼春水書簡(お直にお十の帯の事相談致候事)	状	1通	(寛政12年)八月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	13.8×19.6	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「八月廿日、九月九日至」	Ⅲ-369-6-9
94	10) 頼春水書簡(南部様御夫婦にて初て被為入、大さわぎの事)	状	1通	(寛政12年)八月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×36.8	諸口紙	封上書「無事、内々」、端裏書(頼梅颯筆)「八月廿日出 御状、九月九日来ル」、2枚に剝離、貼継ぎの際に前後を錯簡	Ⅲ-369-6-10
94	11) 頼春水書簡(尾藤・古賀・柴野との交遊、尾藤娘の嫁入りの事)	状	1通	(寛政12年)八月十九日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×31.7	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「八月十九日認、九月九日至」	Ⅲ-369-6-11
94	12) 頼春水書簡(近々上屋敷御長屋へ引移の事、有難き御触廻り落涙の事)	状	1通	(寛政12年)八月廿一日	(頼春水)	お静とのへ	13.8×25.2	諸口紙	朱文長方印「頼」1顆、封上書「無事、お静とのへ」、端裏書(頼梅颯筆)「八月廿一日 御追書 九月十一日入手」	Ⅲ-369-6-12
94	13) 頼春水書簡(知行拝領御役成御礼披露一件)	状	1通	(寛政12年)九月六日	(頼春水)	久太郎殿	13.8×35.7	諸口紙	封上書「御礼申上候一件 久太郎殿」	Ⅲ-369-6-13
94	14) 頼春水書簡(叔父様不快の事、黒瀬病気の事)	状	1通	(寛政12年)九月十日	(頼春水)	お静とのへ	14.4×52.2	諸口紙	封上書「無事、お静とのへ」、端裏書(頼梅颯筆)「九月十日出 同月廿九日至」	Ⅲ-369-6-14
94	15) 頼春水書簡(江戸の衣服の事)	状	1通	(寛政12年)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×23.7	諸口紙		Ⅲ-369-6-15

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
94	16) 頼春水書簡(眼がね使用の事, 尾藤怪我の事)	状	1通	(寛政12年) 九月八日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.4×18.7	諸口紙	封上書「無用の事」	III-369-6-16
94	17) 頼春水書簡(服部へ病気見舞いのこと, 西山孝叔来訪, 若槻より書状の事)	状	1通	(寛政12年) 四月廿一日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	14.0×54.7	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「四月廿一日出 壬四月四日来ル」	III-369-6-17
94	18) 頼春水書簡(京にて度々足の不順を覚へ申候事)	状	1通	(寛政12年) 四月廿一日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×10.0	諸口紙		III-369-6-18
94	19) 頼春水書簡(守山駅にて少将様御目見被仰付恐悦の事)	状	1通	(寛政12年) 三月廿五日夜 守山宿二而	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×16.2/ 14.2×32.0	諸口紙	封上書「三月廿五日夜 守山宿にて 留守皆々へ無事」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十日安井氏方」, 2枚の間に欠損部分あり, 2枚の内一枚は貼継ぎより剝離	III-369-6-19
95	1) 頼春水書簡(勘藏便書之答, 阿州小寺之書之事ほか)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼春水)	御多門と久太郎へ	14.1×7.5	諸口紙	III-369-7-1~7まで貼継	III-369-7-1
95	2) 頼梅颯書簡(留守宅山陽, お十の様子, 亡き大二郎の事)	状	1通	(寛政12年6月カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.2×47.0	諸口紙	端裏書「七月八日至」, 3枚で一通だが前欠, 途中欠損のまま貼継がれている, 頼春水による返答書入(朱書)あり	III-369-7-2
95	3) 頼春水書簡(山王御祭礼見物の事)	状	1通	(寛政12年カ) 六月十九日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×60.4	諸口紙	端裏書「七月八日至」, 欠損はないものの2枚に剝離したものを一行重複して貼継ぎ	III-369-7-3
95	4) 頼梅颯書簡(当廿一日ハ御役成多く, 築山御騎馬頭に成候)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×5.4	諸口紙	頼春水による返答書入(朱書)あり	III-369-7-4
95	5) 頼春水書簡(箕浦カ甥をつれ来候事)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×3.5	諸口紙		III-369-7-5
95	6) 頼春水書簡(阿州河田富五郎, 小寺書状持参の事)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.7×8.0	諸口紙		III-369-7-6
95	7) 頼春水書簡(お十日記便りに殊外よろこび申候事)	状	1通	(寛政12年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×6.3	諸口紙		III-369-7-7
96	1) 頼春水書簡(昨日万波物語申候奇談)	状	1通	(寛政12年) 七月十日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.0×19.3	諸口紙	III-369-8-1~2まで貼継, 前欠	III-369-8-1
96	2) 頼春水書簡(内要用: 家内惣算用方につき諸注意)	状	1通	(寛政12年カ) 五月七日認置	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×20.2	諸口紙		III-369-8-2
97	1) 頼春水書簡(明朝京都出立の事, 大坂竹山大馳走の事)	状	1通	(寛政12年) 三月廿四日夜	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×79.4	諸口紙	III-369-9-1~2まで貼継	III-369-9-1
97	2) 頼春水書簡(鶴の式幅と琉球朱を差越候事, 書物虫干しの事)	状	1通	(寛政12年) 七月廿四日追書	(頼春水)	(頼梅颯)	14.1×16.1	諸口紙		III-369-9-2
98	頼春水書簡(柴野栗山, 後赤壁会にて詩作の事)	状	1通	(享和2年10月)	(頼春水)	(頼杏坪カ)	11.6×18.4	半紙		III-365-6

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
99	頼春水書簡(御前四方山御咄しも申上引取候事)	状	1通	(享和2年)九月廿七日認置	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×18.9	諸口紙		Ⅲ-365-7
100	1) 頼春水書簡(大風呂敷に嶺松廬ノ図之かけ物つゝミ可被差越候)	状	1通	七月十八日	同人方	弥太郎	11.6×18.5	色半紙	Ⅲ-367-2-1~11まで貼継, 端裏書「江戸地交り 弥太郎方へ 同人方」(一部欠損), 右端部分破損	Ⅲ-367-2-1
100	2) 頼春水書簡(弁当急キ差越可給候)	状	1通	六日	同人方	弥太郎方へ	12.2×14.2	半紙	端裏書「弥太郎方へ 同人方 無事」	Ⅲ-367-2-2
100	3) 頼春水書簡(御書物此ものに可被差越候)	状	1通	十九日	同人方	弥太郎方へ	11.7×15.0	色半紙	端裏書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ-367-2-3
100	4) 頼春水書簡(昌平坂御学問所講釈, 公儀より被仰付候事ほか)	状	1通	(享和2年)十二月廿六日	(頼春水)	留守へ	11.8×68.5	半紙	封上書「無事, 留守へ」, 端裏書(頼梅颯筆)「○ 十二月廿六日, 正月十四日入手」	Ⅲ-367-2-4
100	5) 頼春水書簡(療用の事)	状	1通	(享和2年)十二月廿六日	(頼春水)	留守へ	11.7×24.6	半紙	Ⅲ-367-2-4の別啓	Ⅲ-367-2-5
100	6) 頼春水書簡(御脚便, 賃錢五十文遣候事)	状	1通	(享和2年)十二月廿四日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×5.3	半紙		Ⅲ-367-2-6
100	7) 頼春水書簡(正月組重来客へ出候事)	状	1通	(享和3年)正月二日	(頼春水)	お十へ	11.7×16.6	半紙	端裏書(頼春水筆)「お十へ」, (頼梅颯筆)「正月三日 同十九日至」	Ⅲ-367-2-7
100	8) 頼春水書簡(かの病人(山陽)の事, 人にも申されぬ心のくるしみにて候事)	状	1通	(享和3年1月)二十八日夜 認置	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×22.4	半紙		Ⅲ-367-2-8
100	9) 頼春水書簡(山陽事, 尾藤と密談, 茶山殿にも相談の事)	状	1通	(享和3年)閏正月八日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.8 × 14.4 (追書を含む)	半紙	端裏書(頼春水筆)「内密談」	Ⅲ-367-2-9
100	10) 頼春水書簡(封しかけ候所へ書状相達, 諸事書付候事)	状	1通	(享和2年)十二月廿六日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×21.2	半紙	端裏書「無事, 九日出之返書」, 朱筆で筆記	Ⅲ-367-2-10
100	11) 頼春水書簡(尚々 お十日記の記述の事)	状	1通	(寛政12年)正月二日	(頼春水)	るすへ	12.0×13.0	三桎紙	端裏書(頼梅颯筆)「十九日入手」, 後欠	Ⅲ-367-2-11
101	1) 頼春水書簡(日記ノ事 春水有馬湯治の様子)	状	1通	(文化10年4月)十四日, 十五日	餘一	母上様, 兄様	16.4×32.9	楮紙	Ⅲ-369-10-1~3まで貼継, 封上書「母上様, 兄様 餘一拝」	Ⅲ-369-10-1
101	2) 頼春水書簡(江戸詰途上, 神辺御止宿などの様子)	状	1通	(享和2年)九月一日夜	弥太郎より	留守へ	16.6×31.0	楮紙	封上書「留守へ 弥太郎より 無事」	Ⅲ-369-10-2
101	3) 頼春水書簡(昨日初て外出, 昌平坂尾藤宅訪問の事)	状	1通	(享和2年)十月九日	(頼春水)	お静との, お十へ	13.7×52.8	諸口紙	封上書「無事 お静との, お十へ」	Ⅲ-369-10-3
102	1) 三穂書簡(母様はじめ留守宅無事, 都具雄いさましく成長の事)	状	1通	(享和2年)十月廿六日認	(頼三穂)	(頼春水)	12.2×33.4	半紙	Ⅲ-369-11-1~24まで貼継, 前欠, 頼春水による返答書入(朱書)あり, 十一月廿三日付	Ⅲ-369-11-1
102	2) 頼春水書簡(夏物取計ひにつき御多門へも相談の事)	状	1通	(享和3年)閏正月九日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×12.3	半紙		Ⅲ-369-11-2
102	3) 頼春水書簡(伊助風邪の事, 勘蔵事少しも心を許し不申取計ひの事)	状	1通	(享和3年)閏正月八日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×15.0	半紙		Ⅲ-369-11-3
102	4) 頼春水書簡(先刻奉書到来, 当春帰国の事)	状	1通	(享和3年)閏正月八日晚	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×21.6	半紙	端裏書「無事, 要用書, 追啓留守へ」	Ⅲ-369-11-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
102	5) 頼春水書簡(木村文蔵, 海部屋などへ愚筆認め置申候事)	状	1通	(享和3年) 閏正月七日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×7.5	半紙		Ⅲ -369-11-5
102	6) 頼春水書簡(林堅良事, 笠岡にて病死気毒なる事)	状	1通	(享和3年) 壬正月八日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.9×5.5	半紙		Ⅲ -369-11-6
102	7) 頼春水書簡(青木の文, 三宅伝言も皆届候事)	状	1通	(享和3年)	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×3.8	半紙		Ⅲ -369-11-7
102	8) 頼春水書簡(養生之事, 服薬・治療の事)	状	1通	(享和3年) 壬正月九日	(頼春水)	お静へ	11.8×32.0	半紙	封上書「お静へ 薬法申進候」, 本書簡の間にⅢ-369-11-9を貼継	Ⅲ -369-11-8
102	9) 頼春水書簡(当春加藤と交代, 四月十一日に江戸出立予定の事)	状	1通	(享和3年) 壬正月九日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	11.6×11.8	半紙		Ⅲ -369-11-9
102	10) 頼春水書簡(要用 熊吉養子之本願差出につき)	状	1通	(享和2年) 十一月廿四日	弥太郎より	留守へ	12.0×8.4	半紙		Ⅲ -369-11-10
102	11) 頼春水書簡(広しま屋と申候武兵衛事につき)	状	1通	(享和2年) 十一月廿日	(頼春水)	(頼梅颯)	12.0×18.8	半紙		Ⅲ -369-11-11
102	12) 頼春水書簡(御園郡中にて殿様御病気御祈禱の事)	状	1通	(享和2年) 壬正月八日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.7×4.8	半紙		Ⅲ -369-11-12
102	13) 頼春水書簡(梅颯病気の事, 大坂の鉄蔵事)	状	1通	(享和2年) 十一月十八日	(頼春水)	(頼梅颯)	12.1×34.7	半紙		Ⅲ -369-11-13
102	14) 頼春水書簡(御上御快復の事, 江戸極寒の事, 岩瀬勘平と初対面の事)	状	1通	(享和2年) 十月廿二日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	12.0×46.2	半紙		Ⅲ -369-11-14
102	15) 頼春水書簡(当十五日沈殿父子国許へ出立, その他人事につき)	状	1通	(享和2年) 十月十八日認	(頼春水)	(頼梅颯)	12.0×26.2	半紙		Ⅲ -369-11-15
102	16) 頼春水書簡(儀右衛門・東五 安否の事)	状	1通	(享和2年) 十月廿二日朝	(頼春水)	(頼梅颯)	12.0×9.2	半紙		Ⅲ -369-11-16
102	17) 頼春水書簡(土井大炊頭御老中ほか青山下野守, 稲葉丹後守, 人事)	状	1通	(享和2年) 十月廿一日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.9×7.8	半紙		Ⅲ -369-11-17
102	18) 頼春水書簡(大坂河内屋儀助の事, 京よりの似雲集は貞松へおくり可被申事)	状	1通	(享和2年) 十月廿二日	(頼春水)	(頼梅颯)	11.9×8.2	半紙		Ⅲ -369-11-18
102	19) 頼春水書簡(当月十四日迄書状出之事)	状	1通	(享和2年) 10月)	(頼春水)	(頼梅颯)	11.9×11.2	半紙		Ⅲ -369-11-19
102	20) 頼春水書簡(きのふ尾藤へ罷越, お直御隠居, 無事)	状	1通	(享和2年)	(頼春水)	(頼梅颯)	12.1×8.5	半紙		Ⅲ -369-11-20
102	21) 頼春水書簡(梅颯書状嵩高につき, 料紙使用の心得)	状	1通	(享和2年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	12.3×13.4	半紙		Ⅲ -369-11-21
102	22) 頼春水書簡(書添, 勘蔵事につき)	状	1通	(享和2年カ)	(頼春水)	(頼梅颯)	11.2×3.5	半紙		Ⅲ -369-11-22
102	23) 頼春水書簡(竹原様子, 熊吉事承度候事)	状	1通	(享和2年) 十月五日	(頼春水)	留守へ	12.2×8.5	半紙		Ⅲ -369-11-23

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
102	24) 頼春水書簡(赤崎事)	状	1通	(享和2年)	(頼春水)	(頼梅颯)	12.3×2.8	半紙	後欠	Ⅲ -369-11-24
103	1) 頼春水書簡(茂八事, 不憫を加へよろしき計ひの事)	状	1通	(享和3年)	(頼春水)	(頼梅颯)	11.9×3.7	半紙	Ⅲ-369-12-1~17まで貼継, 前欠	Ⅲ -369-12-1
103	2) 頼春水書簡(御学問所へ参る事一日六度, 林家之差図との事)	状	1通	(享和3年)正月二日	(頼春水)	留守へ	11.7×51.3	半紙	封上書「無事正月三ヶ日 留守へ」, 端裏書(頼梅颯筆)「同十九日 至」	Ⅲ -369-12-2
103	3) 頼春水書簡(十四日江戸出立の事, 竹原へも立寄る事)	状	1通	(享和3年)四月十二日	(頼春水)		11.8×41.5	半紙	封上書「無事, 追書也, 留守へ」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十二日出, 五月朔至返事」	Ⅲ -369-12-3
103	4) 頼春水書簡(ゆたん包此者へ渡し早々弁当の事)	状	1通	二十四日	同人方	弥太郎方へ	11.8×31.7	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-4
103	5) 頼春水書簡(ゆたん包此者へ渡候事)	状	1通	廿三日	同人方	弥太郎方へ	11.8×12.7	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-5
103	6) 頼春水書簡(迎えに六二と兩人可被差越, セツ時にてよろしく候)	状	1通	六日	同人方	弥太郎方へ	11.8×20.8	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-6
103	7) 頼春水書簡(九時弁当用意の事, 終日留守の事)	状	1通	廿七日	同人方	弥太郎留守へ	11.8×21.3	色半紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	Ⅲ -369-12-7
103	8) 頼春水書簡(先刻申進候物は持参に及ばず, 迎は七時頃)	状	1通	廿三日	同人方	弥太郎方へ	11.8×23.7	色半紙	封上書「頼弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-8
103	9) 頼春水書簡(迎え早く差越可被申候)	状	1通	十三日	同人方	弥太郎方へ	11.8×15.2	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-9
103	10) 頼春水書簡(今昼弁当早々差越候事, 今夕登城の事)	状	1通	十一月廿八日	同人方	弥太郎方へ	12.1×26.0	半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方 無事」	Ⅲ -369-12-10
103	11) 頼春水書簡(寒さにつき, どう着・弁当と一所に差越候事)	状	1通	六日	同人方	弥太郎方へ	11.7×23.5	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-11
103	12) 頼春水書簡(今日詩会相勤につき, 帰り七時の事)	状	1通	正月廿三日	同人方	弥太郎方へ	11.7×24.1	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-12
103	13) 頼春水書簡(伊助よりなわや久蔵へ火事羽織之事, たのみ可申候)	状	1通	九日	同人方	弥太郎方へ	11.8×28.8	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-13
103	14) 頼春水書簡(今朝之肴取計いの事, 少しの金子用意の事)	状	1通	廿二日	同人方	弥太郎方へ	12.1×25.5	半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方 用事」	Ⅲ -369-12-14
103	15) 頼春水書簡(進藤へ承知の返事承り候事)	状	1通	廿一日	同人方	弥太郎方へ	12.5×18.2	半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-15
103	16) 頼春水書簡(今朝之分, 此ゆたんに包ミ可被差越候)	状	1通	四月十八日	同人方	弥太郎方へ	12.1×11.8	半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-16
103	17) 頼春水書簡(引取候間點之事, 早々可被差越候)	状	1通	廿六日	同人方	弥太郎方へ	11.7×14.0	色半紙	封上書「弥太郎方へ 同人方」	Ⅲ -369-12-17
104	頼春水書簡(右京様御鷹野御越につき其宅へ被為成候事)	状	1通	(文化3年)寅正月十七日	春水	(頼春風)	14.0×15.0	諸口紙	封上書「爽気親目 春水」, 端裏書(頼春風筆)「寅正月十七日米屋脚夫便」, 後欠	Ⅲ-366-20

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
105	頼春水書簡(覚 倉敷岡元齡書状ほか 今度上ヶ申候品)	状	1通	(文化5年)四月九日	惟完	茶山老兄坐下	15.7×16.2	楮紙		Ⅱ-1-13
106	頼春水書簡(古賀精里明年韓人御用の 事, 登々庵長崎より帰り一夕閑話致候 事)	状	1通	(文化7年)十一月四日	(頼春水)	権次郎殿	12.3×45.9	半紙	封上書「無事, 権次郎殿」, 右下破損甚	Ⅲ-366-16
107	頼春水書簡(拙著之事 在津紀事と申二 冊書立申候)	状	1通	(文化8年)後 二月十四日	春水	万四郎殿, 権 次郎殿	12.4×22.7	半紙	包紙(25.0×34.5, 半紙)にてⅢ-177-49-1～3まで一括, 包紙「先生 父様御書簡二通」「御著作在津紀事之儀并 尾藤先生文章識見御 尊敬被遊候二通也, 外二御遺稿御行状ノ部一枚附」, 同・裏「嘉永甲 寅初秋餘一謹記」	Ⅲ -177-49-1
108	頼景讓書簡(冬読書餘受取につき)	状	1通	(文化8年)壬 五日付	権次郎	(頼春水)	12.4×11.8	半紙		Ⅲ -177-49-2
109	春水遺稿行状 七	一 紙 紙 本 木版	1枚	江戸後期			28.0×40.1	美濃紙	柱題「春水遺稿行状 七」	Ⅲ -177-49-3
110	頼春水書簡(竹原書中に八郎次大病と あるにつき)	状	1通	(文化8年カ) 正月三日燈 下	(頼春水)	(頼景讓)	12.2×5.5	半紙		Ⅲ-293-1
111	頼春水書簡(世説第一巻見へ不申, 心 当り無之や)	状	1通	(文化8年カ)	(頼春水)	権次郎殿	12.3×4.3	半紙		Ⅲ-293-2
112	頼春水書簡(回口旅之心得拝読, 灸治 脚気用心の事)	状	1通	(文化8年カ)	(頼春水)	(頼景讓)	12.5×4.9	半紙		Ⅲ-293-3
113	[断簡](田村政蔵より来書につき)	状	1通	(文化8年カ)	(頼春水)	(頼景讓)	12.3×4.3	半紙		Ⅲ-293-4
114	頼春水書簡(東坡の文と可園池三十首 の内不足分補写仕度候事)	状	1通	(文化8年)閏 二月廿九日	(頼春水)	権次郎殿	15.8×9.0	楮紙		Ⅲ-366-9
115	1) 頼春水書簡(権次郎今晚出達之事, 竹原方 法事之餅到来之事)	状	1通	(文化7年カ) 重陽前一日	(頼春水)	(頼春風カ)	11.8×23.8	半紙	Ⅲ-177-28-1～13まで貼継	Ⅲ -177-28-1
115	2) 口上之覚(私伴久太郎儀, 私病気見 舞として滞在伺書控)	状	1通	(文化7年)八 月	(頼春水)		14.5×13.2	諸口紙		Ⅲ -177-28-2
115	3) 覚(三尺縄, 馬柄杓注文書)	状	1通	十二月八日	頼		14.4×15.6	諸口紙		Ⅲ -177-28-3
115	4) 頼春水書簡(塩田取立之事につき)	状	1通	(文化11年 カ)二月廿九 日	(頼春水)	(頼春風カ)	14.1×35.8	諸口紙	端裏書「追書」, 校訂(墨)	Ⅲ -177-28-4
115	5) 頼春水書簡(新蔵事, 為見舞差遣候, 病児如何)	状	1通	正月二十九 日	(頼春水)		14.3×27.1	諸口紙		Ⅲ -177-28-5
115	6) 頼春水書簡(神尾家御馬具返上仕候 につき)	状	1通	正月十七日	(頼春水)		12.3×22.4	半紙		Ⅲ -177-28-6
115	7) 頼春水書簡(明十七日 餽酒一献進上 仕度につき)	状	1通	二月十六日	(頼春水)		12.1×20.6	半紙	校訂(墨)	Ⅲ -177-28-7

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
115	8) [断簡] (右御趣意, 何卒長右衛門手元においてよき考ハ無之哉と色々申談候事)	状	1通		(頼春水)		14.4×8.3	諸口紙	前後欠カ	Ⅲ -177-28-8
115	9) 頼春水書簡(追書: 墓誌御用にて御即答難仕候事)	状	1通	(文化10年)	(頼春水)		14.2×12.1	諸口紙		Ⅲ -177-28-9
115	10) 頼春水書簡(衝逆息切れにつき, 学問所出勤之事, 内々御伺い申上る控)	状	1通	二月廿四日	(頼春水)		14.3×43.0	諸口紙		Ⅲ -177-28-10
115	11) 頼春水書簡(唐紙沓枚, 絹地も受取置申候事)	状	1通	正月廿四日認	春水		16.0×7.5	三桎紙(薄茶)		Ⅲ -177-28-11
115	12) 頼春水書簡(旧臘十三日, 従長者上丘陵節迄相清申候事)	状	1通		(頼春水)		11.8×4.0	色半紙		Ⅲ -177-28-12
115	13) 頼春水書簡(少々徳閑隙候につき, 愚筆書認出来候事)	状	1通		(頼春水)		14.4×11.2	諸口紙	後欠	Ⅲ -177-28-13
116	頼春水書簡(権次郎事, 竹原へ転地療養如何)	状	1通	(文化11年カ) 八日	杉方	南へ	12.4×26.5	半紙	封上書「南へ 杉方 無事要用」	Ⅲ-366-21
117	1) 頼春水書簡(昨日竹原より焼塩多く参候につき)	状	1通	八日	春水	佐一郎殿	11.8×9.6	半紙	Ⅲ-369-14-1~16まで貼継, 封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-1
117	2) 頼春水書簡(此節学館無人につき)	状	1通	二日燈下	春水	佐一郎殿	12.2×14.9	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-2
117	3) 頼春水書簡(明朝, 明晩の相談につき)	状	1通	廿九日	春水	佐一郎殿	12.1×13.1	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-3
117	4) 頼春水書簡(対波ハ参り居不申候哉)	状	1通		(頼春水)	南へ	12.1×5.7	半紙	封上書「南へ 用事」	Ⅲ -369-14-4
117	5) 頼春水書簡(竹原来書へ返書早々被差越候事)	状	1通	十二日	(頼春水)	(頼采真)	12.1×5.6	半紙		Ⅲ -369-14-5
117	6) 頼春水書簡(法事につき, 竹原書状へ返事可被申候)	状	1通	十六日	本家方	佐一郎殿	11.8×10.7	半紙	封上書「佐一郎殿 本家方 要用」, 端裏書「×」	Ⅲ -369-14-6
117	7) 頼春水書簡(山荘修葺入用金につき)	状	1通	四日	(頼春水)	(頼采真)	12.4×	半紙	端裏書「返事」	Ⅲ -369-14-7
117	8) 頼春水書簡(石板之事, 薄田へ申入試候につき)	状	1通	十三日	本家方	佐一郎殿	12.4×14.0	半紙	封上書「佐一郎殿 本家方」	Ⅲ -369-14-8
117	9) 頼春水書簡(服忌の日数につき返事)	状	1通	四日	春水	佐一郎殿	12.2×21.5	半紙	封上書「佐一郎殿 春水 返事」	Ⅲ -369-14-9
117	10) 頼春水書簡(中村へ今朝も竹原之事申上候事)	状	1通	十日	春水	佐一郎殿	12.2×11.9	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-10
117	11) 頼春水書簡(明晩に卒器之寸志いたし遣し可申と存候)	状	1通	廿一日	春水	佐一郎殿	12.2×20.6	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-11
117	12) 頼春水書簡(竹原へ遣候もの舟出しの事, 千蔵事)	状	1通	十四日	春水	佐一郎殿	12.2×14.6	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-12

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
117	13) 頼春水書簡(築山殿大病, 危症の由につき)	状	1通	廿日	春水	佐一郎殿	12.6×24.4	半紙	封上書「佐一郎殿 春水 御答」	Ⅲ -369-14-13
117	14) 頼春水書簡(立川大病につき, 長崎に罷荘候実子へ脚夫遣し候一件)	状	1通	(文化12年カ) 八日	春水	佐一郎殿	11.9×15.7	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-14
117	15) 頼春水書簡(下ノ関迄先触同様に一書き出し度候につき)	状	1通	(文化12年カ) 十五日	春水	佐一郎殿	12.3×12.2	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-15
117	16) 頼春水書簡(昨日の御細書につき)	状	1通	廿六日	春水	佐一郎殿	12.5×13.1	半紙	封上書「佐一郎殿 春水」	Ⅲ -369-14-16
118	[断簡](少将様御泊につき)	状	1通		(頼春水カ)		14.1×14.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-125-3
119	頼春水書簡(倉敷碑文の事, 茶山同様自分も断りたい旨)	状	1通	(文化9年)	(頼春水)	(菅茶山)	15.7×9.5	楮紙	菅茶山による返答書入あり	Ⅱ-3-12-2
120	頼春水書簡(大人ほかへの書写, 宇都宮侯詩, 本翁先遣べき儀)	横帳 仮綴	1綴		兄惟完	万四郎様	17.1×47.8	漉返紙	反故紙使用, 4丁あり	Ⅲ-86
121	頼春水書簡(留守宅へ大坂での交遊, 学問の様子ほか)	仮綴	1綴	江戸中期	兄惟寛	大人へ尊答, 叔父大人へノ答, 千齡へ返書, 万四郎様	最大 16.7×48.0	杉原紙, 楮紙	書簡包紙の反故紙を使用, 春水大坂居住時代のもので竹原の父ほか3名に宛てたもの	Ⅲ-86
122	頼春水書簡(大坂へ差上セ申度品につき)	状	1通	正月十三日	(頼春水)		12.4×7.8	半紙	校訂(墨)	Ⅲ-177-6-7
123	頼春水書簡(家財など諸事能く取計可被下候)	状	1通		(頼春水)	(頼梅颯カ)	14.4×19.3	諸口紙		Ⅲ-177-6-9
124	頼春水書簡(山陽の藤井土晦父暮銘の事, 高砂井沢善右衛門碑文の事)	状	1通		(頼春水カ)		15.8×11.8	楮紙		Ⅲ -177-6-11
125	頼春水書簡(悔み状)	折紙	1通	九月廿八日	頼弥太郎惟完	高橋忠平様	15.6×44.4	中杉原紙		Ⅲ-177-16
126	[断簡](悔み状)	状	1通		(頼春水カ)		2.5×3.4	楮紙		Ⅲ-177-29
127	頼春水書簡(支払方第一にて聞合肝腰なる事)	状	1通		(頼春水カ)		14.1×18.9	鼠半切	前後欠	Ⅲ-177-30
128	頼春水書簡(飯岡義斎後配(岳母)実家につき)	状	1通		(頼春水)	(山口剛斎)	16.3×31.0	杉原紙	前後欠, 山口剛斎による返答書入あり	Ⅲ-196-11
129	頼春水書簡(別書相認進候)	状	1通		春水	佐一郎殿	15.5×3.4	三桎紙(薄藍色)		Ⅲ-290-93
130	[断簡](中井の返書ほか)	状	1通		(頼春水)	(頼梅颯カ)	4.5×1.1	楮紙	4片糊付け, 1片が剥離	Ⅲ-295-4
131	頼春水書簡(陸奥守様凶作につき御儉約願書の事, 広島痘ことの外流行の事)	状	1通		(頼春水)		15.4×19.1	楮紙		Ⅲ-364-1
132	頼春水書簡(江戸詰近習衆難儀の事, 若殿様に詩を御すゝめ申候事)	状	1通		(頼春水)		14.5×37.0	諸口紙	前後欠, 2枚に剥離	Ⅲ-364-2
133	頼春水書簡(先年詩稿の評を請候而赤崎海門へ遣候事)	状	1通		(頼春水)	(頼杏坪カ)	14.8×25.0	楮紙	前後欠	Ⅲ-365-8
134	頼春水書簡(大原左金吾参り, 松前に英船・露船近年多く来航の由)	状	1通		(頼春水)	(頼杏坪カ)	14.4×38.2	諸口紙	後欠	Ⅲ-365-9

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
135	頼春水書簡(書の分与の事, 屏風の金物の一札の事)	状	1通	二月三日認置, 江戸方	(頼春水)	(頼杏坪カ)	13.8×14.5	諸口紙	貼継の料紙が一部残存	III-365-11
136	頼春水書簡(此酒兩樽共此元へ被送越厚意謝々の事)	状	1通	二月廿六日	(頼春水)		16.7×22.3	大杉原紙	裏打ちあり	III-365-12
137	頼春水書簡(空之丞様, 御痘瘡御順症の由)	状	1通	二月廿(八カ)日	(頼春水カ)	(頼杏坪カ)	14.3×14.3	諸口紙	日付部分一部破損	III-365-13
138	頼春水書簡(はしか療治の心得につき)	状	1通	四月十一日	(頼春水)	(頼梅颯)	12.0×11.2	半紙		III-365-14-1
139	頼春水書簡(荷物に筒松下恕介へたのミ候事)	状	1通	四月十一日	(頼春水)	留守へ	12.0×10.7	半紙		III-365-14-2
140	頼春水書簡(木綿羽織参り不申, 案居候事)	状	1通	四月十三日	(頼春水)	(頼梅颯)	13.8×24.6	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「長蔵帛便」	III-365-15
141	頼春水書簡(御印材早く御越被下度候)	状	1通	六月十五日	(頼春水)		14.2×13.9	諸口紙	裏面に「六月十五日」と2回墨書	III-365-16
142	頼春水書簡(孝次よりの書状につき)	状	1通	廿二日	(頼春水)	お十へ	11.8×9.5	半紙		III-365-18
143	頼春水書簡(天神町に居候医人竹原ノ寺より相頼罷来候よし)	状	1通		(頼春水)		14.1×12.1	諸口紙		III-365-21
144	頼春水書簡(此度壺通差出申候事)	状	1通		(頼春水)		14.3×9.4	諸口紙		III-365-22
145	頼春水書簡(御額に相成候ハ四言之銘に似たる御作かと覚へ候事)	状	1通		(頼杏坪カ)	(頼春水カ)	14.3×10.4	諸口紙	変色甚	III-365-23
146	頼春水書簡(拙書之事, 照蓮寺隠居の長額の事)	状	1通		(頼春水)		14.2×24.3	諸口紙	後欠	III-366-2
147	頼春水書簡(竹原庄屋の取計一向に埒あけぬと申事につき)	状	1通		(頼春水)	(頼春風カ)	14.1×16.8	漉返紙(墨染)	前後欠	III-366-4
148	頼春水書簡(此間丁祭無御滞被為濟候由恐悦奉存候事)	状	1通	二月十日	弥太郎	勝之進様	14.3×55.0	諸口紙		III-366-5
149	頼春水書簡(鼻赤上人必其地へ尋ね参り可申かと存候事)	状	1通	三月十九日	(頼春水)	権次郎殿	12.4×17.8	半紙		III-366-6
150	頼春水書簡(木谷事, 菓子贈来候につき, 坂井へ内々たずね試度候事)	状	1通	廿八日	(頼春水)	権次郎殿へ	12.0×16.9	半紙	封上書「権次郎殿へ 要用」, 名札内側に同封(11.7×2.7, 白半紙), 「木谷太郎平」と墨書	III-366-7
151	頼春水書簡(龍仙寺へ致遊行候事)	状	1通	二月十九日	(頼春水)	権次郎殿	12.1×11.0	半紙		III-366-8
152	頼春水書簡(迎に参候節, 桶に此書状為持三奴へ遣候事)	状	1通	九月十三日	弥太郎方	留守へ	14.2×15.1	諸口紙	封上書「留守へ 弥太郎方」	III-366-12
153	1) 頼春水書簡(少し隙入可申候間, むすびにつほどもたせ候事)	状	1通	三日	同人方	弥太郎留守へ	12.2×18.5	半紙	III-367-1-1~3まで貼継, 端裏書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-1-1
153	2) 頼春水書簡(赤小豆出来候ハ、此ものへ被差越度候)	状	1通	十六日	同人方	弥太郎方へ	12.3×17.8	半紙	端裏書「弥太郎方へ 同人方」	III-367-1-2
153	3) 頼春水書簡(此人へ目薬可被差越候)	状	1通	廿三日	同人方	弥太郎方へ	12.5×9.9	半紙	端裏書「弥太郎方へ 同人方」	III-367-1-3
154	1) 頼春水書簡(今日帰りは半田方へ見舞に参候事)	状	1通	廿一日	同人方	弥太郎留守へ	13.9×13.5	諸口紙	III-367-3-1~6まで貼継, 封上書「弥太郎留守へ 同人方」, 端裏書(頼梅颯筆)「今宮へ 壺丈壺尺五寸」	III-367-3-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
154	2) 頼春水書簡(今朝のゆたん包ミ此者へ可被差越候)	状	1通	十六日	同人方	弥太郎留守へ	14.0×19.3	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-3-2
154	3) 頼春水書簡(寒気につき直会ハ得参り申間敷との事也)	状	1通	廿二日	同人方	弥太郎留守へ	14.0×12.0	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-3-3
154	4) 頼春水書簡(今日弁当昼後に差越候事)	状	1通	十九日	同人方	弥太郎留守へ	14.1×19.7	諸口紙	封上書「紙たん包ハ此俣ニいたし置事 弥太郎留守へ 同人方」	III-367-3-4
154	5) 頼春水書簡(村田に立寄候而灸之事たのミ候事)	状	1通	廿一日	同人方	弥太郎留守へ	13.9×15.7	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-3-5
154	6) 頼春水書簡(羽織をもたせ越可給候事)	状	1通	朔日	同人方	弥太郎留守へ	13.7×13.5	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-3-6
155	1) 頼春水書簡(茶山へ立寄, 昼迄話し候へとの事につき)	状	1通	二日	同人方	弥太郎留守へ	13.9×19.7	諸口紙	III-367-5-1~5まで貼継, 封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-5-1
155	2) 頼春水書簡(柄[袋]と雨羽織差越し候事, 金子熊介参候事)	状	1通	四日	同人方	弥太郎留守へ	13.6×15.2	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-5-2
155	3) 頼春水書簡(御多門の風呂に入り少し隙入可申候)	状	1通	廿七日	同人方	弥太郎留守へ	13.9×14.3	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-5-3
155	4) 頼春水書簡(指物屋市左衛門方へ早々取寄せ候につき)	状	1通	二月六日	同人方	弥太郎留守へ	14.0×14.6	諸口紙	封上書「弥太郎留守へ 同人方」	III-367-5-4
155	5) 頼春水書簡(日記, あね様申合せふたりしていか様にても書候て可被差越候)	状	1通	(寛政12年 か)六月九日	(頼春水)	お十へ	14.1×17.8	諸口紙	封上書「お十へ」	III-367-5-5
156	1) 頼春水書簡(今日帰りに老人同道の事)	状	1通	二日	(頼春水)		14.0×12.3	諸口紙	III-367-6-1~2まで貼継, 端裏に墨書あり	III-367-6-1
156	2) 頼春水書簡(此者へ写本入之箱差越候事)	状	1通	十月十一日	同人方	頼弥太郎方へ	14.0×16.3	諸口紙		III-367-6-2
157	頼春水書簡(久太郎着用物の事, 今日ハ御姫様を水野様へ御引取の事)	状	1通	九月十五日	(頼春水)	(頼梅颯)	13.9×5.5	諸口紙	前後欠	III-368-1
158	頼春水書簡(江戸での越年の事)	状	1通	十二月廿五日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.2×5.0	諸口紙	前欠	III-368-2
159	頼春水書簡(荷物, 町飛脚代格別高直につき)	状	1通	十八日	(頼春水)	お静殿	14.5×6.5	諸口紙	前欠	III-368-3
160	頼春水書簡(久太郎むね痛み候事, お十足はいか候や)	状	1通	七月十二日出	(頼春水)	お静とのへ	14.4×11.7	諸口紙	封上書「無事 お静とのへ」, 端裏書(頼梅颯筆)「七月十二日出 同廿七日至」, 後欠, 左上破損甚	III-368-4
161	頼春水書簡(銀子も参候ハ念のため申遣候事)	状	1通	十一月廿二日	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×2.8	諸口紙	前欠	III-368-5
162	頼春水書簡(久太郎も久々すぐれ不申由につき)	状	1通	十一月廿三日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.5×6.5	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「十一月廿三日出 十二月廿九日至 中村門作方」, 後欠	III-368-6
163	頼春水書簡(大人様にも御替りなく候事, 久太郎事)	状	1通	十二月十六日出	(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×7.7	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆)「十二月十六日出 同廿五日至 御屋敷」, 後欠	III-368-7
164	[断簡]	状	1通		(頼春水)	(頼梅颯)	7.4×14.1	楮紙	下部切取り, 前後欠カ	III-368-8

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
165	頼春水書簡(早春方御地之岳母龍神紹庵同道にて参込候事)	状	1通		(頼春水カ)		14.5×4.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-368-9
166	頼春水書簡(藩内人事大いに驚き候事)	状	1通		(頼春水)	(頼杏坪カ)	14.4×6.4	諸口紙	前欠	Ⅲ-368-10
167	頼春水書簡(此元疫病流行の事)	状	1通		(頼春水)	(頼梅颯)	14.6×4.3	諸口紙	前後欠	Ⅲ-368-11
168	頼春水書簡(若殿様, 近藤の乗馬を御覧遊ばされ候事)	状	1通		(頼春水)	(頼梅颯)	14.3×5.5	諸口紙	前後欠	Ⅲ-368-13
169	頼春水書簡(当秋十月か九月帰り候事と存候)	状	1通	(寛政12年カ)八月十一日出	弥太郎	留守江	14.5×6.7	諸口紙	封上書「留守江 三人合名 無事 弥太郎」, 端裏書(頼梅颯筆)「八月十一日出 同廿九日至」, 後欠	Ⅲ-368-14
170	[断簡]	状	1通		(頼春水カ)	(頼梅颯)	14.1×1.2	諸口紙カ		Ⅲ-368-15-2
171	1) 三穂書簡(当月十四日歌操亭へ参り, 十首の組題にてよみ候事)	状	1通		おと越	御父上様	14.0×24.0	諸口紙	Ⅲ-369-2-1~5まで貼継, 封上書「御父上様 おと越」, 端裏書(頼春水筆)『返事』, 頼春水による返答書入(朱書)あり, 五月廿四日付	Ⅲ-369-2-1
171	2) 頼春水書簡(赤飯のむすび壺つ差越可被下候)	状	1通	廿一日	同人方	弥太郎留守へ	12.3×18.6	半紙	封上書「弥太郎留守へ同人方」	Ⅲ-369-2-2
171	3) 献立	状	1通		(頼春水)		12.3×25.7	半紙		Ⅲ-369-2-3
171	4) 頼春水書簡(少し結び為持差越可被下候)	状	1通	十八日	同人方	弥太郎留守へ	12.5×14.2	半紙	封上書「弥太郎留守へ同人方」	Ⅲ-369-2-4
171	5) 頼春水書簡(此手紙不及返書候につき)	状	1通		(頼春水)	(留守宅)	12.2×5.5	半紙		Ⅲ-369-2-5
172	頼春水書簡(今夕, 着服之儀につき, 問合わせ)	状	1通	廿八日	弥太郎	万四郎殿	14.0×15.4	諸口紙	封上書「万四郎殿 弥太郎」, 頼杏坪による返答書入あり	Ⅲ-369-5
173	頼春水書簡(寺尾弥祐, 具足二領をことの外, 賞玩にて候由)	状	1通		(頼春水)	(頼春風)	14.9×56.5	楮紙(薄赤色)	端裏書「春風」	Ⅲ-370-132
174	頼春水書簡(正名緒言が林祭酒の建言にて公儀に達した事)	状	1通		頼春水カ		12.0×11.2	半紙		Ⅲ-372-27
175	頼春水書簡(武元勇次が閑谷の教授になった事)	状	1通		(頼春水カ)		17.4×10.4	楮紙		Ⅲ-372-46
176	頼春水書簡(尾藤の書を一覽後返してほしい事)	状	1通		(頼春水カ)		16.2×6.8	楮紙(赤染と薄墨染)		Ⅲ-372-48
177	頼春水書簡(藩主の発駕の事)	状	1通	五月三日	(頼春水カ)		14.4×10.3	楮紙		Ⅲ-372-49
178	頼春水書簡(菓の注文)	状	1通	六月十七日	頼春水	村田順迪様	14.5×23.0	楮紙	封上書「村田順迪様 頼弥太郎」, 校訂(朱)	Ⅲ-372-54
179	頼春水書簡(入用金の一覽)	状	1通	閏十一月卅日	頼弥太郎惟寛	仙石兵庫様, 三木内膳様	15.5×23.3	楮紙		Ⅲ-372-100
180	頼春水書簡(写本十二冊を表紙を付けて仕立てたい事)	状	1通		(頼春水カ)		14.0×4.5	諸口紙		Ⅲ-372-132
181	頼春水書簡(奴僕か書生を求めたいがままならない事)	状	1通		(頼春水カ)		14.3×6.2	諸口紙		Ⅲ-372-135
182	1) 頼春水書簡(明廿六日詩会之事, 私再勤ハ無心元候)	状	1通	(文化12年カ)廿五日	頼弥太郎	金子徳之助様	14.5×19.4	諸口紙	Ⅲ-177-4-1~4まで貼継, 封上書「金子徳之助様 頼弥太郎, 内用」	Ⅲ-177-4-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
182	2) 頼春水書簡(摺扇水滴拝領難有頂戴仕候)	状	1通	(文化12年 カ)六月廿日	餘一拝	叔父大人様	13.0×8.8	楮紙		Ⅲ-177-4-2
182	3) 頼春水書簡(今朝竹原脚夫便に来書之事)	状	1通	(文化12年 カ)	(頼春水)		12.4×11.0	半紙		Ⅲ-177-4-3
182	4) 頼春水書簡(餘一家筋相続につき、鮮鯛被饋下奉拝受候)	状	1通	(文化12年) 六月四日認	(頼春水)		14.2×45.7	諸口紙	校訂(墨)	Ⅲ-177-4-4
183	頼梅颯書簡(江戸堀の事、海棠、ふし、御懐しく思し召し給ふらめと思ひやり参らせ候事)	状	1通	(天明4年カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	15.8×62.0	楮紙	前後欠	Ⅲ-374-1
184	頼梅颯書簡(梅颯母の死に際の様子、龍淵寺へ葬致候事)	状	1通	(天明4年7 月)	(頼梅颯)	(頼春水)	15.5×54.7	楮紙	前後欠	Ⅲ-374-2
185	頼梅颯書簡(万四郎様、此もとへ今朝御着あそばされ候事)	状	1通	(天明4年)九 月十六日出	(頼梅颯)	(頼春水)	15.4×49.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○町便 九月十六日出 廿九日届、十月六日返事認」、後欠	Ⅲ-374-3
186	頼梅颯書簡(坪井屋も逗留の由、万四郎様大坂滞在の事)	状	1通	(天明4年)	(頼梅颯)	(頼春水)	15.4×29.8	楮紙	前後欠	Ⅲ-374-4
187	頼梅颯書簡(備中の桑田元孝、学僕の口はなきかと篠崎を訪ね候由)	状	1通	(天明4カ・5カ 年)むつき十 八日	(頼梅颯)	(頼春水)	16.1×18.2	杉原紙		Ⅲ-374-5
188	頼梅颯書簡(東の御道すから御摘遊ハシ候秋の草の色々おくり下され候事)	状	1通	(天明5年)九 月廿八日出	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×11.7	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「○二△ 九月廿八日出 十月十六日至 家書平安 十一月三日 返事認」、後欠	Ⅲ-374-6
189	頼梅颯書簡(広島大暑、大雨の事、雨漏の事)	状	1通	(天明6年8 月)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×27.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-7
190	頼梅颯書簡(梅颯つわりの事、御痔またまたおこり御困り被遊候はん事)	状	1通	(天明8年)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.4×36.9	諸口紙	後欠	Ⅲ-374-8
191	頼梅颯書簡(若殿様来春元服の名乗より、御考候様に仰蒙られ候由)	状	1通	(天明8年)霜 月廿六日夜	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×70.3	諸口紙	前後欠、3枚で1通、1枚目と2枚目は剥離、2枚目と3枚目は切断	Ⅲ-374-9
192	頼梅颯書簡(久太郎事、築山稽古にはやはや行たがり居申候事)	状	1通	(天明8年10 月11日)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×43.0	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-10
193	頼梅颯書簡(父上おなかも悪しく、おなを寸暇なく候由)	状	1通	(天明8年12 月)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×44.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-11
194	頼梅颯書簡(春水江戸詰途上の手紙への返書に添えた歌カ)	状	1通	(天明8年11 月11日)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×15.1	諸口紙		Ⅲ-374-26
195	頼梅颯書簡(おち様にも御きげんよろしく御逗留被遊候事)	状	1通	(寛政2年9月 18日)	(頼梅颯)		15.4×26.7	楮紙	前後欠	Ⅲ-374-12
196	頼梅颯書簡(お十、大病後の事、竹原男子(景讓)出生の事)	状	1通	(寛政2年)神 無月七日	(頼梅颯)	(頼春水)	15.3×58.6	楮紙	2枚に切断	Ⅲ-374-13
197	頼梅颯書簡(家内替り候事なく、当秋御帰まち入まいらせ候事)	状	1通	(寛政3年)長 月廿一日	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×55.1	諸口紙		Ⅲ-111
198	頼梅颯書簡(あなた様御不快の事、当秋御帰被遊度との事)	状	1通	(寛政3年8 月)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.4×43.0	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-14

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
199	頼梅颯書簡(久太郎事も当六日に嘉六ふねで、竹原へ参り参らせ候事)	状	1通	(寛政3年9月カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.5×11.7	諸口紙	後欠	Ⅲ-374-19
200	頼梅颯書簡(下女りさ、夫婦仲よき事ほか)	状	1通	(寛政4年)八月廿六日よ	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×41.1	諸口紙	前後欠、切断の上途中にⅢ-374-24を貼継	Ⅲ-374-15
201	頼梅颯書簡(白むく御一重、仕立につき)	状	1通	(寛政4年カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	13.4×11.8	諸口紙	上部欠損、前後欠の可能性あり、裏面に頼春水による返答書入(朱書)あり	Ⅲ-374-17
202	頼梅颯書簡(お直婚礼儀、式書付御越被遊、今日入手の事)	状	1通	(寛政5年)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×19.8	諸口紙	前後欠、頼春水による返答書入(朱書)あり	Ⅲ-369-1
203	頼梅颯書簡(お十は雷己来絶ず気分悪しく候事)	状	1通	(寛政5年8月)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×36.5	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-16
204	頼梅颯書簡(お十、体調不良の事、久太郎竹原行予定の事)	状	1通	(寛政5年カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.3×21.3	諸口紙	後欠	Ⅲ-374-18
205	頼梅颯書簡(飯米不足につき、今一俵御越可被下候)	状	1通	(文政2年12月)廿六日	(頼梅颯)	(頼杏坪)	14.6×14.7	諸口紙	前欠、頼杏坪による返答書入(朱書)あり	Ⅲ-374-20
206	梅颯書簡(山陽没後の供物到来の事、御国御俊約敵敷事)	状	1通	(天保3年)十二月廿六日燈下	梅颯	餘一殿御許江	12.3×85.8	半紙	前欠	Ⅲ-374-23
207	頼梅颯書簡(千助事、親の法事にて在まいり度につき)	状	1通		留守	権二郎殿	14.3×27.5	諸口紙	封上書「権二郎殿 留守 小者之事御申上」	Ⅲ-292-16
208	頼梅颯書簡(徳蔵出立十五日延引につき)	状	1通	十四日	すぎ/南	南/すぎ	16.5×14.8	大杉原紙	封上書「南 すぎ」、杏坪による返答書入あり、宛名・差出に「上」「下」の書入れあり	Ⅲ-369-3
209	頼梅颯書簡(進藤買物の事につき)	状	1通		本家/南	南/本家	14.5×19.0	諸口紙	封上書「南 本家」、後欠、頼杏坪による返答書入(朱書)あり、宛名・差出に「上」「下」の書入れあり	Ⅲ-369-4
210	頼梅颯書簡(若殿様にハ来年ハ御入部とて専申事にテ)	状	1通		(頼梅颯)	(頼春水)	14.1×9.0	諸口紙	前後欠	Ⅲ-374-21
211	頼梅颯書簡(植木ハ多く下直にて手に入候よし)	状	1通	十月十八日	志須方	御旦那様 御もとへ参る	15.1×21.6	杉原紙	前欠	Ⅲ-374-22
212	頼梅颯書簡(春水いつ頃大坂へ御着か承り度事、お十久太郎灸治、梅颯服薬の事)	状	1通	(寛政年間カ)	(頼梅颯)	(頼春水)	14.2×33.7	諸口紙	後欠、奥にⅢ-374-15の一部を貼継	Ⅲ-374-24
213	頼聿庵書簡(菽孤山遺稿惠贈の礼状につき杏坪案文)	状	1通	(文化13年)カ	(頼聿庵、頼杏坪代筆)	辛嶋才蔵様侍史	14.1×61.1	諸口紙	端裏書(頼杏坪筆)「草案」、校訂(墨)	Ⅲ-250-6
214	頼聿庵書簡(古賀精里死去につき悔み状案文)	状	1通	(文化14年)七月四日	頼餘一協	古賀小太郎様	16.5×46.9	大杉原紙	校訂(墨)、紙背墨書	Ⅲ-250-5
215	頼聿庵書簡(跡目被仰付候事、竹原千齡義後見被仰出候事)	状	1通	(文化14年)五月廿六日燈下認	餘一	雄佐丈	15.1×39.6	三桎紙(薄藍染)	封上書「遊佐丈 餘一 拝答」、Ⅲ-250-7-2と同内容(字句に異同あり)	Ⅲ-250-7-1
216	頼聿庵書簡(跡目被仰付候事、竹原千齡義後見被仰出候事)	状	1通	(文化14年)五月廿六日燈下認	(頼聿庵)	(遊佐)	14.8×36.6	三桎紙(薄藍・薄桃染)	Ⅲ-250-7-1と同内容	Ⅲ-250-7-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
217	頼事庵書簡(当春ハ亡父弥太郎大祥忌につき)	状	1通	(文政元年)四月廿五日	頼餘一	松永宗助様梧下	16.0×134.4	楮紙	封上書「松若宗助様」, 3枚に切断	III-317-40
218	1) 頼事庵書簡(明石にて破船の一奇事, 南大人, 巖島延年祭見物之事)	状	1通	(文政7年)七月廿一日	餘一拝上	萱大人膝下, 京大人御同覽可被遣候	16.5×257.7	楮紙	III-235-1~5まで貼継, 包紙(14.5×6.6, 諸口紙)「母上様餘一申上座右」, 端書(頼梅颯筆)「七月廿一日八朔至」, 封上書「奉 平安申上 元協」, 端裏書(頼梅颯筆)「七月廿一日出 八朔来, 南鐐四片添」	III-235-1
218	2) 頼支峰書簡(七月職制相改少博士と昇進仕候事)	状	1通	(明治元年)九月十六日	復	東三郎賢姪侍史	16.5×116.9	楮紙		III-235-2
218	3) 頼立齋書簡(大坂大変につき, 少々餘毒を蒙り候事)	状	1通	(天保8年カ)	綱	聿庵老兄	14.2×71.5	楮紙(墨染)		III-235-3
218	4) 頼達堂書簡(竹葉屋の支払につき迷惑仕候事)	状	1通	五月廿四日	達助	東三郎様	16.4×69.0	楮紙	端裏書「杉巷」	III-235-4
218	5) 頼来洲書簡(洪水殊の外大変につき, 私方所持の塩田損亡の事ほか)	状	1通	晩夏十三日	禧拝照	聿庵老大人, 東三郎様御同覽	16.5×121.6	竹紙	端裏書「杉」	III-235-5
219	頼聿庵書簡(亡父十三回忌法事にて, 来ル廿二日御展観得罷出不申候事)	状	1通	(文政11年カ)孟春十九日	(頼聿庵カ)		14.2×47.2	諸口紙	校訂(墨)	III-294-19
220	頼聿庵書簡(只今大坂着, 伏見着次第京都へ参懸御目候積の事)	状	1通	(天保2年)四月十三日午時	餘一	母上様, お臯, 三千三, 東同覽事	12.2×21.8.0	半紙	前欠, III-248-1~11まで頼多万「頼聿庵江戸状」(安田女子大学日本文学会編『安田文芸論叢 研究と資料』第2輯, 2010年)所収	III-248-1
221	頼聿庵書簡(明朝江戸入, 京都にて三木等皆初対面の事)	状	1通	(天保2年)四月廿七日	協	母上様膝下, お臯, 三千三, 東同覽	12.2×114.8	半紙		III-248-2
222	頼聿庵書簡(七日は殿様御前講仕候儀に御座候事)	状	1通	(天保2年)四月尽, 夜燈下九ツ半頃	協	母上様膝下, お臯, 三千三, 東三郎同覽	12.1×239.4	半紙		III-248-3
223	頼聿庵書簡(嶋原家中河北喜右衛門との学談, 静古堂之小文筆妙の事)	状	1通	(天保2年)五月廿六日午時	(頼聿庵)	母上様, 東も見よ, お臯, 三千三同覽	12.0×372.8	半紙	注記(朱), 前欠, 5枚に剥離	III-248-4
224	頼聿庵書簡(尾藤子供衆, 行儀正敷御子にて御座候事ほか)	状	1通	(天保2年)七月十一日	(頼聿庵)	三千三殿	12.3×222.6	半紙	3枚に剥離, 後半に日記を記載	III-248-5
225	頼聿庵書簡(尾藤先生へ参候につき, 叔母君至極御機嫌宜敷候事ほか)	状	1通	(天保2年)八月十一日暁七ツ時方起認	協	母上様, お臯殿, 三千三殿, 東三郎江	12.3×256.1	半紙	尚々書の一部欠損	III-248-6
226	頼聿庵書簡(母上様御不快, 御言語御六ヶ敷被為在候由につき)	状	1通	(天保2年)八月廿六日	協	母上様膝下, お臯, 三千三殿 同覽	12.1×151.1	半紙	尚々書の一部欠損	III-248-7

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
227	頼聿庵書簡(母上様御快復の事, 一昨日市河米庵同伴にて書画展観に参候事)	状	1通	(天保2年)九月十六日	協	母上様, 京大人様膝下	12.0×270.4	半紙	朱肉の汚れあり	III-248-8
228	頼聿庵書簡(菊池五山へ参候事/市河米庵へ度に参り古名書画食て見候事)	状	1通	(天保2年)九月廿五日 暁燈下	協	母上様, 京大人様膝下	12.3×369.2	半紙	封上書「平安拝稟 得読もどし不申御推見可被遊遣候」	III-248-9
229	頼聿庵書簡(昨日堀田外記殿方丹後嶋一端内々拝領仕候)	状	1通	(天保2年)十二月廿八日	協		12.5×81.9	半紙	封上書「平安追書」, 後欠カ	III-248-10
230	頼聿庵書簡(亡父遺篋底の硯一片呈上につき)	状	1通	(天保3年)臘月廿一日	頼餘一		17.5×13.6	大杉原紙	批正(墨), 後欠	III-168-10
231	頼聿庵書簡(京大人様御遺法之事, 江戸ハ琉球人上野拝参騒々敷事ほか)	状	1通	(天保3年)閏十一月十一日	協	母上様, おさわとの三千三との, 東兎	12.1×666.1	半紙	注記(朱), 前欠	III-248-11
232	頼聿庵書簡(来ル五日亡母三回忌につき)	状	1通	(弘化2年)十二月三日	(頼聿庵)	(植田カ)	14.3×22.8	諸口紙		III-243-7
233	[断簡](先人題鶴五絶)	状	1枚	癸丑(嘉永6年)仲冬	協		14.0×8.7	楮紙		III-323-2
234	頼聿庵書簡(梨影大人御訃告相違候につき悔み状)	折紙	1通	(安政2年)十月廿一日	餘一, 千枝, 東三郎	又二郎殿, 三木三郎殿, 御内室様御同覽, 御表次	16.0×44.9	大杉原紙		III-190-11
235	頼聿庵書簡(書物を入れる箱の誂えについて)	状	1通	十月十七日	協		16.0×67.0	楮紙	端書「本書ぬ□ハ両丁」, 返答書入(朱書)あり	III-245-2
236	頼聿庵書簡(漢詩の註, 語に関する質問)	状	1通		(頼聿庵)		14.0×88.8	諸口紙	前欠, 返答書入(朱書)あり	III-245-3
237	頼聿庵書簡(御行状再稿が済んだので持参させる事)	状	1通	十九日	協	杏坪老大人	14.3×17.8	諸口紙	封上書「杏坪老大人 座右 協拝上」, 端裏書(頼杏坪筆)『餘一様』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-1
238	頼聿庵書簡(ウルカ献上便の事)	状	1通	四日	餘一	杏老大人	12.0×40.0	半紙	封上書「杏老大人 御座右 餘一拝上」, 端裏書(頼杏坪筆)『書入御返事』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-2-1
239	頼聿庵書簡(詩の批正の依頼)	状	1通		餘一	杏老大人	14.5×23.0	諸口紙	封上書「杏老大人 御座右 餘一拝上」, 端裏書(頼杏坪筆)『批』, 頼杏坪批正(朱)	III-246-2-2
240	頼聿庵書簡(浄書が出来たので持参する事)	状	1通	六月七日	餘一	杏坪大人	14.2×14.8	諸口紙	封上書「杏坪大人 座右 餘一拝上」, 端裏書(頼杏坪筆)『別紙佐一郎へ返事遣候間, 急キ転し致て□候急用ニて候』	III-246-2-3
241	頼聿庵書簡(築地御屋敷敷島社記文が出来た事)	状	1通		餘一	杏老大人	14.2×30.3	諸口紙	封上書「杏老大人 御座右 餘一申上」, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-2-4
242	頼聿庵書簡(注文の代銀を此者へ渡し(てほしい)事)	状	1通	四月二日	協	杏坪老大人	14.0×9.5	諸口紙	封上書「杏坪老大人 座右 協拝上」, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-2-6
243	頼聿庵書簡(亡父詩文集上木の入用銀)	状	1通	正月十九日	餘一	杏大人	14.1×19.3	諸口紙	封上書「杏大人 座右 餘一申上」, (頼杏坪筆)『書入返事』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-4-1
244	頼聿庵書簡(祠堂口謁につき)	状	1通	九月十四日	餘一	南大人	14.5×13.7	諸口紙	封上書「南大人 座右 餘一申上」, (頼杏坪筆)『書入返事』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-4-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
245	頼家書簡(御不幸時分, 半紙一束御用意申候)	状	1通	十日	春記	南大人	13.9×12.5	諸口紙	封上書「南 すき」	III-246-5-1
246	頼杏坪書簡(竹原來書, 進藤典物の事)	状	1通	廿九日	杏坪弟		14.8×9.6	諸口紙	封上書「杏坪弟」, III-246-5-1の副啓カ	III-246-5-2
247	頼聿庵書簡(石井の詩の浄書二枚の内どちらが良いか)	状	1通	極月十七日	餘一	杏坪老大人	12.3×11.0	半紙	封上書「杏坪老大人 座右 餘一拝上」	III-246-6
248	頼聿庵書簡(享年, 行年, 寿, いずれが適当か)	状	1通		協	杏大人	13.8×22.5	諸口紙	封上書(頼杏坪筆)『書入返事』, 「杏大人 御座右 協申上」, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-7
249	頼聿庵書簡(集註の生理の二字の解釈について)	状	1通	九月朔日	餘一	杏老大人	12.2×18.4	半紙	封上書「杏老大人 御座右 餘一拝上」『カキ入』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-8
250	頼聿庵書簡(今晚の城詰の後, 明朝登城するかについて)	状	1通	九月廿七日	餘一	杏老大人	14.2×12.4	諸口紙	封上書「杏老大人 御座右 餘一拝上」, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-246-9
251	頼家書簡(頭痛の様子を知りたい事)	状	1通	二日	すぎ	南	14.1×15.0	諸口紙	封上書「南 すぎ」	III-246-10
252	[包紙]	状	1通	四月七日癸	頼餘一	頼尚平様	24.2×17.0	半紙	封上書「竹原 頼尚平様 頼餘一 平安差向儀」, 封裏書「四月七日癸 多門茂ハ飛脚ニ上ル」	III-349-13
253	頼聿庵書簡(病人の儀につき)	状	1通	(文政6年以後)二月廿一日	(頼聿庵)		14.5×45.6	諸口紙	前後欠	III-168-6
254	頼聿庵書簡(御用談集会への不参加につき)	状	1通	四月十九日	頼餘一	小幡繁太郎様	14.3×44.8	諸口紙	封上書「小幡繁太郎様 頼餘一」	III-168-7
255	頼聿庵書簡(御東上につき小鯛巻尾, えび十頭, 御足袋等進上)	状	1通	八月三日	頼餘一	渡辺又三様	14.5×67.8	諸口紙	封上書「渡辺又三様 頼餘一 要用 不願御答」	III-239-2
255	1) 頼聿庵書簡(御光駕の御礼につき酒壺進献仕度こと)	状	1通	二月十一日	(頼聿庵)		14.3×73.3	諸口紙	III-239-3~9まで貼継	III-239-3
255	2) 頼聿庵書簡(御碑面御治定之儀につき)	状	1通	六月廿二日	(頼聿庵)		14.2×78.1	諸口紙	前欠	III-239-4
255	3) 頼聿庵書簡(是ハ私祖父春水書にてハ無御座, 私実父之書に御座候)	状	1通	五月十五日当賀	頼餘一	渡辺万三郎様	14.5×44.2	諸口紙	封上書「渡辺万三郎様 頼餘一 内用御答」	III-239-5
255	4) 頼聿庵書簡(愚筆書認上候御屏風へ印章不仕につき)	状	1通	九月十五日当賀	(頼聿庵)		14.5×32.2	諸口紙		III-239-6
255	5) 頼聿庵書簡(今一双立之分, 印章仕申上度候事)	状	1通	三月二日	(頼聿庵)		14.5×17.7	諸口紙		III-239-7
255	6) 頼聿庵書簡(昨日噂仕置候御折本一冊につき)	状	1通	七月廿五日	(頼聿庵)		14.5×31.3	諸口紙		III-239-8
255	7) 達書(定之丞様御手習御稽古初につき南御屋敷へ出勤すべきこと)	状	1通	正月十一日	(頼聿庵)		14.4×28.5	諸口紙		III-239-9
256	頼聿庵書簡(亡父弥太郎墓誌銘につき)	状	1通	四月	頼餘一協拝	萬波甚太郎様	12.5×37.7	半紙	校訂(墨), 頼杏坪による案文カ	III-240-2
257	頼聿庵書簡(葉代ほか諸支払相分り不申候につき)	状	1通	九月廿五日	餘一	佐一郎様	14.2×28.4	諸口紙	封上書「佐一郎様 餘一 為得要用」, 後欠	III-240-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
258	頼聿庵書簡(三峰父子方との縁談の義につき)	状	1通	二月廿一日	頼餘一	栗原道味様	14.5×184.9	諸口紙	封上書「栗原道味様 頼餘一 要用御直披」	III-240-6
259	頼聿庵書簡(亡父弥太郎詩文集板行代料につき)	状	1通	三月四日	頼餘一	木村九十郎様, 八嶋六五郎様	14.5×35.1	諸口紙	封上書「木村九十郎様 八嶋六五郎様 頼餘一」, 2枚に剥離	III-240-7
260	頼聿庵書簡(返済銀の内, 先二百八拾五匁五分此ものへ御渡し之事)	状	1通	子極月廿八日	餘一	彦介様	12.5×67.1	半紙	封上書「彦介様 餘一 御内密御直披」, 校訂(墨)	III-240-18
261	頼聿庵書簡(此小鯛老尾進上仕候)	状	1通	二月十七日	頼餘一	横寺 次郎様	16.1×42.2	大杉原紙	封上書「横寺次郎様 頼餘一 不願御答」	III-240-20
262	頼聿庵書簡(特筆 日本外史家蔵板刻之儀につき)	状	1通		餘一	春草様	18.2×93.0	三桎紙	校訂(墨)	III-240-22
263	頼聿庵書簡(特筆 岡田への包につき 御取計可被下候事)	状	1通	廿六日	餘一	三千三殿	12.0×19.1	半紙		III-240-23
264	頼聿庵書簡(此鴨一羽, 竹原同姓より進上仕候事)	状	1通	霜月廿八日 当賀	頼餘一	上坂嘉膳様	14.4×45.6	諸口紙	封上書「上坂嘉膳様 頼餘一 内用不及御答」	III-240-27
265	頼聿庵書簡(此小絵包老つ, 今明日之内竹原へ届たく候事)	状	1通	九月十日	(頼聿庵)		14.5×32.6	諸口紙		III-240-29
266	頼聿庵書簡(尊大人様御長逝被成候由, 驚愕仕候)	状	1通	五月六日	頼餘一	植村昇様	14.4×33.2	諸口紙	封上書「植村昇様 頼餘一 要用御答」, 変色甚	III-240-33
267	頼聿庵書簡(口上 此鮎進上につき)	状	1通	仲秋 記	餘一	小石様	13.9×108.0	諸口紙	封上書「小石様 餘一 研北」	III-240-35
268	頼聿庵書簡(此度は竹原へ御越被遊候哉)	状	1通		(頼聿庵)		14.5×22.0	諸口紙		III-243-1
269	頼聿庵書簡(此三枚之内いづれに仕可申候哉)	状	1通	廿四日	餘一 拝上	杏坪老大人	14.2×10.7	諸口紙	封上書「杏坪老大人 餘一 拝上 座右」, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	III-243-13-2
270	頼聿庵書簡(竹原同姓尚平儀につき)	状	1通	九月廿五日	(頼聿庵)		14.6×52.5	諸口紙		III-243-14
271	頼聿庵書簡(御礼旁, 家事改革につき 交際向御断申候事)	状	1通	八月十五日	(頼聿庵)		15.3×50.0	楮紙		III-243-15
272	頼聿庵書簡(御内々御頼申置儀につき)	状	1通	二月七日 認置	餘一	道味国年	13.9×18.4	諸口紙	封上書「道味国年 餘一 要用」	III-243-19
273	頼聿庵書簡(御返事落手仕候)	状	1通	九月十七日	(頼聿庵)		14.8×26.4	三桎紙(薄藍色)	端裏書「六十九」	III-243-23
274	頼聿庵書簡(目出度御儀につき, 御肴呈上仕候)	状	1通	正月十八日	(頼聿庵)		14.4×49.0	諸口紙	2枚に剥離	III-243-25
275	頼聿庵書簡(明朝御出立につき挨拶状)	状	1通	後八月廿九日	頼餘一	市川文徴様	16.5×48.7	楮紙(薄赤色)	封上書「市川文徴様 頼餘一 内用書不及御答」	III-243-26
276	頼聿庵書簡(此紅魚老尾到来仕候につき)	状	1通	四月十八日	餘一	久大夫様	14.0×28.3	諸口紙	封上書「久大夫様 餘一 内用 不為及御答」, 変色甚	III-243-31
277	頼聿庵書簡(来ル廿八日, 致時祭申候につき)	状	1通	二月廿六日	頼餘一	梶山俊平様, 梶山直佐様	14.7×33.6	諸口紙	封上書「梶山俊平様 梶山直佐様 頼餘一 内用」	III-243-32
278	頼聿庵書簡(道中人足・先触につき)	状	1通	二月十三日	春嶂	蒙斎仁兄	14.4×18.5	諸口紙	封上書「蒙斎仁兄 春嶂」, 変色, 下部破損	III-243-34
279	頼聿庵書簡(今夕御用話奉翹望候)	状	1通	四月廿一日	頼餘一	久野善太郎様	14.3×20.1	諸口紙	封上書「久野善太郎様 頼餘一 内用」, 変色	III-243-39

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
280	頼事庵書簡(御霊前に匳菓奉供候事)	状	1通	四月七日	頼餘一	白藤源五郎様	13.9×36.1	諸口紙	封上書「白藤源五郎様 頼餘一」	III-243-43
281	頼事庵書簡(今朝之内火急に御相談申度候)	状	1通	五月十五日	頼	小山弟	16.6×27.3	三桎紙	校訂(墨)	III-243-44
282	頼事庵書簡(一昨日は結構被蒙仰、目出度奉存候)	状	1通	極月廿六日	(頼事庵)		13.9×59.0	諸口紙		III-243-47
283	頼事庵書簡(一昨日は久々にて出勤仕御懇切之儀御礼申上候)	状	1通	十一月廿三日	餘一	権八郎様	14.0×63.2	諸口紙	封上書「権八郎様 餘一 御内容拝候へ共御直披」	III-244-2
284	頼事庵書簡(昨秋御来駕被成下忝存候事)	状	1通	二月十日	元協	子讓親長兄侍史	13.7×33.7	諸口紙		III-244-3
285	頼事庵書簡(今般結構被為蒙仰目出度御儀(こつき、御看老折呈上仕候事)	状	1通		頼餘一	築山嘉平様	14.5×40.8	諸口紙	封上書「築山嘉平様 頼餘一 御内用」	III-244-5
286	頼事庵書簡(御品返上仕候儀、御容恕可被下候)	状	1通	七月廿日	頼餘一	河野儀右衛門様	14.6×53.6	諸口紙	封上書「河野儀右衛門様 頼餘一 要用」	III-244-6
287	頼事庵書簡(亡父弥太郎相認申候書掛物、拝借仕度候(こつき))	状	1通	三月十一日	頼餘一	池内勘六様	12.2×40.7	半紙	封上書「池内勘六様 頼餘一 内用差置」	III-244-9
288	頼事庵書簡(私義結構蒙仰候(こつき、格別之御骨折御礼申上候))	状	1通	極月廿九日	頼餘一	青野保太郎	14.2×64.2	諸口紙	封上書「青野保太郎様 頼餘一 要用不及御答」、校訂(墨)	III-244-18
289	頼事庵書簡(口上 今晚御隙に御来話被下候哉)	状	1通	九月七日	餘一	孫太郎様	14.7×24.7	鼠半切	封上書「孫太郎様 餘一 内用」	III-244-21
290	頼事庵書簡(口上 昼時御出被下候ハ言始メ仕度候)	状	1通	正月廿日	頼餘一	太刀掛勝登様	14.5×18.3	諸口紙	封上書「太刀掛勝登様 頼餘一」、校訂(墨)	III-244-24
291	頼事庵書簡(口上 御祝儀として酒進上致候)	状	1通	極月廿九日	杉頼	(伊豫主人)	13.8×21.2	諸口紙	封上書「伊豫主人 杉頼」	III-244-25
292	頼事庵書簡(大酔中失態(こつき、好き御処至御付被下候事))	状	1通	十月十八日	(頼事庵)		14.0×232.9	諸口紙	端裏書「火中もの」、校訂(墨)	III-250-1
293	頼事庵書簡(銀札五十貫目致借用度(こつき))	状	1通		餘一	文左衛門仁弟	15.9×109.4	三桎紙(2種類を貼継)	封上書「要用内密貴報 文左衛門仁弟 餘一」、後欠	III-250-2
294	[断簡]	状	1通		頼餘一	加藤太郎三様	14.6×18.2	諸口紙	封上書「加藤太郎三様 頼餘一」、後欠	III-250-12
295	頼事庵書簡(明朝御登城時刻(こつき伺い))	状	1通	五月廿日	餘一	序介様	16.5×37.8	三桎紙	本封上書「序介様 餘一 要用書」、同「下序介様」、大橋序介による返答書入あり	III-250-13
296	頼事庵書簡(佐一郎様一昨日御番入被成、今晚初而御泊りに候事)	状	1通	四月廿一日	元協		14.4×42.8	諸口紙	料紙変色甚	III-250-21
297	頼事庵書簡(結構の御品拝味仕候事)	状	1通	六月廿三日	餘一	介之丞様	14.0×54.0	諸口紙	封上書「介之丞様 餘一 御申上候」、料紙変色甚	III-250-22
298	頼事庵書簡	状	1通		(頼事庵)		13.6×10.2	楮紙	端書「池田江手紙」、校訂(墨)	III-250-24
299	頼事庵書簡(新年挨拶状)	状	1通	正月五日	頼餘一	佐々此母様	12.2×22.5	半紙		III-251-8
300	[断簡]	状	1通		頼餘一	佐藤与三右衛門様、村上角人様	14.1×5.7	諸口紙	封上書「佐藤与三右衛門様 村上角人様 頼餘一」、宛名部分のみ	III-251-13

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
301	[断簡]	状	1通		協	茶山老先生侍史	17.4×3.3	杉原紙	異筆で書入あり	Ⅲ-251-14
302	頼聿庵書簡(聿庵江戸状)	状	1通		(頼聿庵)	母上様、おさわとの、三千三との、東との	12.5×8.7	半紙		Ⅲ-251-16
303	頼聿庵書簡	状	1通		(頼聿庵)		12.2×17.7	半紙	前欠	Ⅲ-251-22
304	頼聿庵書簡(御賢息様御清書拝見、不快につきいまだ御手本執筆もできぬ事)	状	1通	九月晦日	(頼聿庵)		14.1×52.7	諸口紙		Ⅲ-292-13
305	1) 頼聿庵書簡(都合十三冊返進可申候事)	状	1通	三月	頼	森田氏	15.7×13.3	三桎紙(薄藍色)	Ⅲ-292-20-1~3まで貼継, 校訂(墨)	Ⅲ-292-20-1
305	2) 頼聿庵書簡(心得違之儀につき、詫び状控)	状	1通	十二月十六日	(頼聿庵)		14.2×12.6	諸口紙	前欠カ	Ⅲ-292-20-2
305	3) 頼聿庵書簡(御役付之御悦につき此香進上仕候)	状	1通	四月廿一日	(頼聿庵)		14.3×9.2	諸口紙	前欠	Ⅲ-292-20-3
306	頼聿庵書簡(昨日も元亮様御診察被下辱奉存候)	状	1通	二月廿日	聿庵	(中村家カ)	13.7×44.0	諸口紙		Ⅲ-292-28
307	頼聿庵書簡(老母と老祖母の呼称につき)	状	1通		(頼聿庵)		13.8×20.7	諸口紙	前欠, 返答書入あり	Ⅲ-292-32
308	頼聿庵書簡(鳥一羽何分御愛納可被下候)	状	1通	霜月七日	(頼聿庵)	六兵衛様	13.9×47.5	諸口紙	封上書「六兵衛様」	Ⅲ-294-13
309	頼聿庵書簡(御父子様御光駕の礼、小鯛御敏びとして進上の事)	状	1通	十一月十二日	(頼聿庵)		14.5×32.1	諸口紙		Ⅲ-294-14
310	頼聿庵書簡(兼而御依頼之拙筆御好通り書認につき)	状	1通	三月九日	(頼聿庵)		16.3×80.5	大杉原紙	裏面に漢詩あり	Ⅲ-294-15
311	頼聿庵書簡(室屋方請銀返納の事、春水遺稿詩文上木の事)	状	1通	子極月廿八日	(頼聿庵カ)		12.3×66.2	半紙		Ⅲ-294-16
312	頼聿庵書簡(昨日御約束仕候へ共、御断申上候事)	状	1通	九月廿日	(頼聿庵カ)		12.2×26.0	半紙	校訂(墨), 前欠カ	Ⅲ-294-17
313	頼聿庵書簡(紅魚一尾懸御目申度為持候事)	状	1通	四月十八日	(頼聿庵カ)		14.5×27.6	諸口紙		Ⅲ-294-20
314	頼聿庵書簡(来月廿一日に御取越法事につき)	状	1通	八月十一日	餘一	三千三殿, 三五との同覧	12.4×29.7	半紙	前欠	Ⅲ-294-22
315	頼聿庵書簡(愚妻儀安産仕候節、案内紙面につき)	状	1通		(頼聿庵)		14.4×77.1	諸口紙	校訂(墨), 後欠	Ⅲ-294-23
316	頼聿庵書簡(御入門被成見事之御肴拝受御礼)	状	1通		(頼聿庵カ)		13.8×40.1	諸口紙		Ⅲ-295-6
317	頼春風書簡(万四郎縁談之儀につき、加藤にきめ候由)	状	1通	(天明6年)六月廿三日	せんれい	御姉様	14.5×49.7	諸口紙	封上書「御姉様 せんれい」	Ⅲ-370-48
318	頼春風書簡(此元おりつ事、出痘候事)	状	1通	(寛政2年)十一月	愚兄惟彊	千祺賢弟	14.4×42.4	諸口紙	封上書「千祺賢弟 愚兄惟彊」, 端裏書(頼杏坪筆)「十一月廿四日至 瀬野便」, 後欠	Ⅲ-370-46

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
319	頼春風書簡(おりつ事, 昨廿四日午時至死去候)	状	1 通	(寛政2年11月23日)	愚兄惟彊	千祺賢弟	14.5×34.2	諸口紙	封上書「千祺賢弟 愚兄惟彊」, 端裏書(頼杏坪筆)「十一月廿八日至 長生寺 飛脚便 凶音」, 後欠	III-370-47
320	頼春風書簡(庄次郎御祝ひ候而何より之品御越給り相悦申候)	状	1 通	(寛政2年)	(頼春風)	(頼杏坪)	14.5×13.4	諸口紙	前後欠	III-370-60
321	頼春風書簡(お恭儀加藤へ被參候哉)	状	1 通	(寛政2年)十二月四日	(頼春風)	(頼杏坪)	14.2×14.1	諸口紙	前欠カ	III-370-90
322	頼春風書簡(小児の着類, 喰初わん祝納致し申し候事)	状	1 通	(寛政2年11月カ)	(頼春風)	(頼春水)	14.4×31.6	諸口紙	前後欠	III-370-126
323	頼春風書簡(私方去秋出生之男子, 熊吉と改名仕候事)	状	1 通	(寛政3年)正月十五日	不肖弟惟彊	家長兄老大人	14.4×38.0	諸口紙	封上書「家長兄老大人 侍右 不肖弟 惟彊」	III-370-44
324	頼春風書簡(江戸之御不快之御様子承候につき)	状	1 通	(寛政3年)	(頼春風)	(頼春水)	14.5×20.4	諸口紙	宛名(頼春風筆)「江戸へ別書差上度認かゝり候へとも此便急に候ゆへ間ニ合不申候此切紙御序ニ江戸へさし上可給候」, 後欠	III-370-62
325	頼春風書簡(追啓 例年之時祭廿五日に御執行被遊び候由)	状	1 通	八月十三日夕	(頼春風)	(頼春水)	14.2×19.0	諸口紙	後欠	III-370-63
326	頼春風書簡(久太郎様, 竹原へ御越候由)	状	1 通	(寛政6年カ)	(頼春風)	(頼春水)	14.5×8.5	諸口紙	前後欠	III-370-123
327	頼春風書簡(襄持病之気味につき, 散歩灸治などあしらい候事)	状	1 通	(寛政6年カ)	(頼春風)	(頼春水)	14.5×25.2	諸口紙	前後欠	III-370-127
328	頼春風書簡(篠田徳庵様御儀驚但仕候)	状	1 通	(寛政8年)七月廿一日	(頼春風)	(頼春水)	14.5×35.6	諸口紙	2枚に剥離	III-370-56
329	頼春風書簡(久太郎有福湯治, 此上は修静之工夫をいたさせ度候)	状	1 通	(寛政8年)	(頼春風)	家兄老大人, 千祺賢弟	14.3×125.8	諸口紙	封上書「家兄老大人, 千祺賢弟, 惟彊拝具」, 後欠, 3枚で一通(1枚目と2枚目は切断, 2枚目と3枚目は剥離)	III-370-65
330	頼春風書簡(叔母様快方, 五十年御法事之儀につき)	状	1 通	(寛政8年)	不肖弟惟彊拝	家兄老大人, 千祺賢弟	14.4×66.0	諸口紙	封上書「家兄老大人, 千祺賢弟, 不肖弟惟彊拝 八兵衛後便持參大豆ノ時」, 後欠, 善祐(第三世良皓)の五十年忌カ	III-370-66
331	頼春風書簡(此元叔母君追々御快復, 久太郎木鬱ハ如何)	状	1 通	(寛政8年カ)	惟彊拝具	長兄老大人, 千祺賢弟, 襄賢侄	14.5×30.1	諸口紙	封上書「長兄老大人 千祺賢弟 襄賢侄 惟彊拝具」, 後欠	III-370-67
332	頼春風書簡(昨日は中川元吾御地へ到着仕候はんと奉存候)	状	1 通	(寛政8年9月)	惟彊 拝	家兄老大人, 侍右, 千祺賢弟, 襄賢侄	14.5×27.5	諸口紙	封上書「家兄老大人 侍右 千祺賢弟 襄賢侄 惟彊拝」, 後欠	III-370-68
333	頼春風書簡(大兒痘につき, 一角を差上申候ほか)	状	1 通	(寛政8年)五月十八日	(頼春風)	(頼春水)	14.5×66.0	諸口紙	前欠	III-370-76
334	頼春風書簡(久太郎病後之儀につき, 嫂様当年之御愁鬱の御儀につき)	状	1 通	(寛政8年)	(頼春風)	(頼春水)	14.2×39.6	諸口紙	前後欠	III-370-128
335	頼春風書簡(万四郎・久太郎江戸行出立近寄り候につき)	状	1 通	(寛政9年2月)	(頼春風)	(頼春水)	14.5×40.0	諸口紙	前後欠, 円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-370-69
336	頼春風書簡(妙然様・浄圓様・外祖母様, 御法事之儀につき)	状	1 通	(寛政9年)二月十四日	(頼春風)	(頼春水)	14.2×28.7	諸口紙	前欠, 2枚に切断, 円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-370-71
337	頼春風書簡(本家親迎相済申候ハ、新婦へ衣類等贈申度候)	状	1 通	(寛政11年)	(頼春風)	御多門	14.5×20.2	諸口紙	封上書「御多門口」	III-370-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
338	頼春風書簡(西山之葬式之小冊子写取申候事)	状	1通	(寛政11年カ)	(頼春風)	(頼春水)	14.5×29.6	諸口紙		III-370-30
339	頼春風書簡(小祥忌無障候, 明日例之御法事之事)	状	1通	(享和元年カ)八月晦日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×37.2	諸口紙	前欠	III-370-86
340	頼春風書簡(権次郎此度帰り, 逗留之内山々申聞候事)	状	1通	文化五年戊辰十月	(頼春風)	(頼春水)	12.3×46.5	半紙	端裏書(頼春水筆)「文化五年戊辰十月 千齡手巻 付権次郎 候付書」	III-370-49
341	頼春風書簡(塩浜之仕込につき, 石炭此節高値につき)	状	1通	(文化6年カ)	(頼春風)	(頼春水)	12.3×33.9	半紙	前欠	III-370-113
342	頼春風書簡(景讓失態につき詫び状)	状	1通	(文化8年カ)	(頼春風)		14.5×51.2	楮紙	端裏書「御内談」	II-3-2
343	頼春風書簡(京都にて常太郎方茶籠老ツことつかり取帰申候)	状	1通	(文化8年頃)	(頼春風)	(頼杏坪)	14.2×18.0	諸口紙		III-370-50
344	頼春風書簡(其元妻緑之義につき)	状	1通	(文化11年カ)七月十六日	(頼春風)	(頼景讓)	16.2×47.5	三桮紙	封上書「内用書通申候」	III-294-35
345	頼春風書簡(御眠気も御快復, 欣々躍々御事に奉存候)	状	1通	(文化12年カ)	強 拝具	(頼春水)	14.1×36.6	諸口紙	宛名部分切り取り, 後欠	III-370-95
346	頼春風書簡(嫂大人御忌祭後宮島行之事, 山陽長崎行消息ハ無之哉)	状	1通	(文政元年3月)	(頼春風)	(頼聿庵)	12.2×34.1	半紙	前後欠	III-370-124
347	頼春風書簡(杏坪温泉にて得気力候由, 町奉行徐目につき)	状	1通	(文政3年)四月卅日	(頼春風)	(頼春水)	12.3×100.4	半紙	3枚に剥離	III-370-79
348	頼春風書簡(東囀の事, 東本願寺出火丸やけの事, 京より安産の好音御座候哉)	状	1通	(文政6年)臘月朔夜	(頼春風)	(頼聿庵カ)	16.5×101.2	三桮紙	繋ぎ箇所に付紙「昭和四五. 七. 三〇ツナグ」(頼惟勤氏による), 前欠	III-370-84
349	頼春風書簡(おみほ分娩之消息承度候事)	状	1通	(文政7年)	春風	(頼聿庵)	15.4×72.9	楮紙	封上書「平安要用 南御同覽 春風」, 後欠, 2枚に切断, 破損甚	III-370-101
350	[断簡](三事申上につき)	状	1通	廿一日至	惟強拝具		14.3×4.8	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「廿一日至 □□返事」	III-353-2
351	頼春風書簡(千蔵, 江戸遊学願書差出につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×32.0	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「千蔵願之事」	III-181-7
352	頼春風書簡(中南先生之義につき)	状	1通		(頼春風カ)	(頼春水カ)	14.5×10.5	諸口紙		III-292-17
353	頼春風書簡(古賀翁之詩, 餘一摸写上達の事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×11.2	諸口紙		III-292-23
354	頼春風書簡(高柴迂より返書, 落花春晚二篇の事)	状	1通	三月卅日	(頼春風カ)	(頼春水)	14.4×13.9	諸口紙	前欠	III-294-7
355	頼春風書簡(石臼之事, 此品古物に候へとも小ぶりにてよろしく存候)	状	1通		(頼春風)	御多門へ	15.9×8.2	楮紙	封上書「御多門へ」	III-294-8
356	[断簡]	状	1通		惟強拝具		12.5×2.9	半紙		III-295-1
357	[断簡](万四郎薬治之儀につき)	状	1通		(頼春風カ)	(頼春水カ)	14.0×4.0	諸口紙		III-368-15-1
358	頼春風書簡(神辺へ之書通伝蔵取帰, 私より土産五品遣候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.2×17.8	楮紙(漉返し)		III-370-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
359	頼春風書簡(薬剂藿香正気服用之儀につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×20.7	諸口紙		III-370-2
360	頼春風書簡(石井事, 御伽に相成候・井上玄圭事ほか)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.1×17.0	諸口紙		III-370-4
361	頼春風書簡(先日, 檜崎翁来訪につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×21.5	諸口紙		III-370-5
362	頼春風書簡(おとし儀, 周硯宅方同人附添帰候由)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×20.0	諸口紙		III-370-6
363	頼春風書簡(抑肝散加味之尊剂, 御服用可被下候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.9×11.0	漉返紙(薄赤色)		III-370-7
364	頼春風書簡(当春御頼駕之節, 御善酒御携送被下忝奉存候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	15.0×16.9	漉返紙(薄赤色)		III-370-8
365	頼春風書簡(義理涵養して軽率の性を化し重厚の人に相成候事)	状	1通		(頼春風)	権次郎殿	15.0×42.9	漉返紙(薄赤色)	封上書「権次郎殿」	III-370-9
366	頼春風書簡(磯宮近辺に土俵場を構へ, 竹原始めて角力興行の事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.9×28.0	漉返紙(薄赤色)		III-370-10
367	頼春風書簡(石炭の駄賃取り申候由につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.9×15.5	漉返紙(薄赤色)		III-370-11
368	頼春風書簡(尚平挾箱米屋便間に合不申, 毎々有之困り申候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×10.0	諸口紙		III-370-12
369	頼春風書簡(糸崎之詩, 備前斎藤兵衛門と茶山より承候につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×13.3	諸口紙		III-370-13
370	頼春風書簡(権次郎上方酒, 差上度便船無く残念なり申候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.3×12.4	諸口紙		III-370-14
371	頼春風書簡(時事・当所新町人殺し有之候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.7×24.6	諸口紙		III-370-15
372	頼春風書簡(霞関掌録十五卷此節拝見仕候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×20.7	諸口紙		III-370-16
373	頼春風書簡(伊勢太夫, 御地へ出申につき, 私方の添書相頼申候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×36.2	諸口紙	端裏書(頼春水筆カ)「伊勢[]記[]たのミの事」, 円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-370-17
374	頼春風書簡(富見いよいよ引取可申候につき, 名ノ事御考可被下候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.3×15.5	諸口紙	頼春水による返答書入(朱書)あり	III-370-18
375	頼春風書簡(専价之来書, 門張効訴之儀につき)	状	1通	廿日夜	(頼春風)	(頼春水)	14.2×140.7	諸口紙	封上書「極内に密答」	III-370-19
376	頼春風書簡(痘予防之薬効につき)	状	1通		(頼春風)	(頼杏坪)	15.9×21.7	楮紙	封上書「御多門へ申進候」	III-370-23
377	頼春風書簡(本家・進藤家縁談之義につき)	状	1通		(頼春風)	(頼杏坪カ)	16.4×45.2	三桮紙	封上書「本家縁談」	III-370-24
378	頼春風書簡(しふ紙代銀, 年内入用紙につき)	状	1通		(頼春風)	(本家カ)	14.3×15.5	諸口紙	他の書付の貼継跡あり	III-370-25

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
379	頼春風書簡(瀬戸田岳母訃告到来につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.5×35.5	諸口紙	封上書「瀬戸田凶事」	III-370-26
380	頼春風書簡(当所書院之儀につき, 山々有之候事)	状	1通		惟彊頓首拜	(頼春水)	14.6×45.4	諸口紙	封上書「平安申上惟彊頓首拜」, 変退色, 破損甚	III-370-27
381	頼春風書簡(叔母君御病状案外と御ゆるミ候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.3×36.3	諸口紙		III-370-28
382	頼春風書簡(権次郎情話に感涙悦申候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×23.0	諸口紙		III-370-29
383	頼春風書簡(菅礼卿十春之咏龍山に有之, 写取り進候ほか)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×28.8	諸口紙		III-370-31
384	頼春風書簡(近作之和歌数多被差越, 歌に大分身ヲ入候様に相見へ申候)	状	1通		(頼春風)	(頼杏坪)	15.8×33.3	楮紙	封上書「〇御多門へ返事」	III-370-32
385	頼春風書簡(兼而御頼申候, 古賀へ之拙詩, 御先東行之人へ托シヤリもらひ度候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×8.6	諸口紙		III-370-33
386	頼春風書簡(拙筆扇面詩箋之近作, 御咲正可被下候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.1×9.1	諸口紙		III-370-34
387	頼春風書簡(濱弓一張三千三へ祝遣度進上候事)	状	1通		(頼春風)	(本家)	14.4×27.2	諸口紙		III-370-35
388	頼春風書簡(特筆・御頼之平賀先生墓誌銘につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	16.0×10.3	三桎紙		III-370-36
389	頼春風書簡(子善寒衣之受取書付収手いたし候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.0×13.8	諸口紙		III-370-37
390	頼春風書簡(先日ノ絹は喜四郎頼候ものにて同人行状之事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	16.1×13.2	三桎紙		III-370-38
391	頼春風書簡(三千三事, 嫂大人御世話御いといたなく殊外御寵愛候由)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.4×17.5	諸口紙		III-370-39
392	頼春風書簡(岩城三郎兵衛来訪之事, 儀卿当春九州之望御座候事)	状	1通		(頼春風)	(頼杏坪カ)	15.2×18.0	楮紙		III-370-40
393	頼春風書簡(痘之写本一冊御多門へ遣申候事)	状	1通		(頼春風)	(頼杏坪カ)	15.7×15.7	楮紙		III-370-41
394	頼春風書簡(万弟方おくり給り候美酒之事, 伐蚊之説之事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×15.2	諸口紙	前欠カ	III-370-42
395	頼春風書簡(此度之水損見分につき, 御救ヲ願候由)	状	1通	十二日	(頼春風)	(頼春水)	14.5×12.2	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「[]月十二日瀬戸田屋船便」, 後欠, 頼春水による返答書入(朱書)あり	III-370-43
396	頼春風書簡(友五儀, 廿日嶋船へ乗り帰候積りに御座候哉)	状	1通	臘月廿一日	劣弟惟彊拜具	長兄老大人	14.4×37.5	楮紙	封上書「長兄老大人 劣弟惟彊拜具 侍右平安」, 端裏書(頼春水筆)「〇廿三日 即返事」	III-370-45
397	頼春風書簡(銀札三百目差上申候事)	状	1通	正月十七日	頼千齡	頼弥太郎様	14.5×23.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 頼千齡 追啓」	III-370-51
398	頼春風書簡(御容体御宜敷見受申上候につき一家欣々迎春之事)	状	1通	正月三日燈下	(頼春風)	(頼春水)	16.2×42.7	三桎紙		III-370-52

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
399	頼春風書簡(妙墨ヲ一枚御所望申度人有之候につき)	状	1通	十二月十一日	(頼春風)	(頼春水)	15.1×21.3	楮紙(薄赤色)		III-370-53
400	頼春風書簡(廿一史之儀, 塵紙之事)	状	1通	六月廿四日夜	(頼春風)	(頼春水)	12.5×59.5	半紙	裏打ちあり	III-370-54
401	頼春風書簡(杜多より書状差越, 幼主相携當所へ立寄申度由)	状	1通	十月廿五日	(頼春風)	(頼春水)	14.3×57.5	諸口紙	封上書「内々用書 千祺弟へ 御見セ可被下候」	III-370-55
402	頼春風書簡(御作見セ被下めつらしく感吟いたし候)	状	1通	三月八日	(頼春風)	(頼景讓カ)	14.9×45.7	楮紙		III-370-57
403	頼春風書簡(春閣書状にて風早審麻呂之碑文御揮写を御願申度趣につき)	状	1通	正月十六日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×35.3	諸口紙		III-370-58
404	頼春風書簡(三千三へ御遺金之儀任尊意申候)	状	1通	十月十八日	(頼春風)	(頼春水)	12.5×41.7	半紙	端裏書(頼春水筆カ)『百両ニ相定候事』	III-370-59
405	頼春風書簡(正次郎儀熊吉と改名之事)	状	1通	(寛政3年)	(頼春風)	(頼杏坪カ)	14.4×31.0	諸口紙	前後欠	III-370-61
406	頼春風書簡(革具足代銀四十九匁, 御落手可被下候)	状	1通	午正月十日	(頼春風)		14.9×26.0	楮紙(薄赤色)	封上書「特筆」	III-370-64
407	頼春風書簡(有福行兩人湯治の儀, 久太郎別而得氣力候由につき)	状	1通		惟彊 拝具	家兄老大人, 千祺賢弟, 久太郎賢弟	14.3×58.0	諸口紙	封上書「家兄老大人, 千祺賢弟, 久太郎賢弟 惟彊 拝具」, 後欠, 上部全体に破損甚	III-370-70
408	頼春風書簡(墓参不仕候類多ク当所ノ頼風不堪 大息候)	状	1通	五月十一日	(頼春風)	(頼春水)	14.3×40.1	諸口紙	前欠	III-370-72
409	頼春風書簡(二封之尊書追々相違忝拝誦仕候)	状	1通	八月六日	惟彊 拝具	(頼春水)	14.0×17.2	諸口紙	封上書「○ 無事, 用書, 惟彊 拝具 八月六日[]」, 後欠	III-370-73
410	頼春風書簡(照蓮新住持之母, 巖島行につき)	状	1通	六月十五日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×36.2	諸口紙	前欠	III-370-74
411	頼春風書簡(新々開洪水にて破損につき, 天野屋歎きに出府之事)	状	1通	四月廿一日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×61.7	諸口紙	前欠, 2枚に剥離, 円形に切取りあり(襖の引手カ)	III-370-75
412	頼春風書簡(礼卿・圭二咄にて充国人柄之事)	状	1通	四月十五日	(頼春風)	(頼春水カ)	14.4×38.3	諸口紙	前欠	III-370-77
413	頼春風書簡(晋卿へ書状・孝女之書付も態と達し不申候)	状	1通	六月廿九日	(頼春風)	(頼春水)	14.6×46.0	諸口紙	前欠	III-370-78
414	頼春風書簡(当所病人多ク病も流行之事)	状	1通	八月四日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×17.9	諸口紙	前欠	III-370-80
415	頼春風書簡(歳餅拝受, 嫂様へ御礼之事, 春閣へ之御状之事)	状	1通	二月八日	(頼春風)	(頼春水)	14.4×64.3	諸口紙	前後欠, 円形に切取りあり(襖の引手カ)	III-370-81
416	頼春風書簡(妙正寺詩卷之跋尊削被下有難奉存候事, 加藤先生江戸話之事)	状	1通	十二月十一日燈下	(頼春風)	(頼春水)	14.2×41.4	諸口紙	前欠	III-370-82
417	頼春風書簡(三千三麻上下之事, 古賀改名修理と申候由)	状	1通	八月九日	(頼春風)	(頼聿庵カ)	14.5×50.8	諸口紙	前欠	III-370-83
418	頼春風書簡(塩浜も当暮ハ入銀高すくなく候事)	状	1通	十二月廿四日	(頼春風)	(頼春水カ)	14.3×45.5	諸口紙	前欠, 左下部破損	III-370-85

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
419	[断簡]	状	1通	九月廿七日夜	(頼春風)		14.5×6.0	諸口紙	前欠	III-370-87
420	頼春風書簡(お十着物染調候故差上申候, 広瀬神辺に一宿之事)	状	1通	十二月十六日夜	(頼春風)	(頼春水)	14.3×23.9	諸口紙	前欠	III-370-88
421	頼春風書簡(御舟上ノ御用意につき御閣新築之事)	状	1通	十月十四日夜	(頼春風)	(頼春水)	14.1×44.9	諸口紙	前後欠	III-370-89
422	頼春風書簡(叔父様, 春以来の御気鬱の事, 佐一郎羽織之事)	状	1通	八月十八日	(頼春風)	(頼春水)	14.3×33.0	諸口紙	前欠	III-370-91
423	頼春風書簡(長崎ノ大変, 九州ノ不作, 米価など俄に上ケ申候事)	状	1通	八月晦日	(頼春風)	(頼春水)	14.6×35.2	諸口紙	前欠	III-370-92
424	頼春風書簡(此度私結構ノしらせに町役人へ差出候事)	状	1通		(頼春風)	(本家)	14.3×33.3	諸口紙	後欠	III-370-94
425	頼春風書簡(京邸返書之事)	状	1通		(頼春風)	(本家)	14.4×28.3	諸口紙	端裏書(頼春庵筆)「竹原春風先生」	III-370-96
426	頼春風書簡(茶器之儀につき, 七品御照収可被下候)	状	1通		惟彊 拝	(頼春水)	13.7×36.3	諸口紙	封上書「平安申上 惟彊 拝 スム」, 端裏書(頼春水筆)「批」, 後欠, 頼春水による返答書入(朱書)あり	III-370-97
427	頼春風書簡(京大坂江戸等への文通, 御気促の害に相成候につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.7×26.6	諸口紙	後欠カ	III-370-98
428	頼春風書簡(天野屋八兵衛御進上持参出府につき申上候)	状	1通		惟彊 拝具	(頼春水)	14.5×15.7	諸口紙	後欠	III-370-99
429	頼春風書簡(阿州紙之事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.3×23.6	諸口紙	封上書「阿州紙之事」, 後欠	III-370-100
430	頼春風書簡(江戸もとり殊外遅引につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×24.1	諸口紙	封上書「無異[]」, 後欠	III-370-102
431	頼春風書簡(本家祝物之事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.3×9.4	諸口紙	封上書「本家祝物之事」, 端裏書(頼春水筆)「○青玉帰便返書済」, 後欠	III-370-103
432	頼春風書簡(浜庄屋貞次郎此度出府につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.7×23.1	諸口紙	2枚に剥離	III-370-104
433	頼春風書簡(圭庵事, 瘍科方ハ眼之方むき申候儀につき)	状	1通		惟彊 拝具	家兄老大人侍右	14.5×34.5	諸口紙	封上書「家兄老大人 侍右 惟彊 拝具」, 後欠	III-370-105
434	頼春風書簡(圭庵兄弟罷越御世話をかけ候儀につき)	状	1通		惟彊 拝具	家兄老大人侍右	14.4×22.9	諸口紙	封上書「家兄老大人 侍右 惟彊 拝具」, 後欠	III-370-106
435	頼春風書簡(お直資装之儀・ひとへものお十へ叔父母君より被遣候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×16.3	諸口紙	前後欠	III-370-107
436	頼春風書簡(三宝屋主人不快につき, 見舞申度奉存候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.3×28.5	諸口紙	前後欠	III-370-108
437	頼春風書簡(婚儀用支度・助装之儀につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×30.6	諸口紙	前後欠	III-370-109
438	頼春風書簡(御納戸払御拝領, 御冥加之御事につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	15.2×38.3	楮紙	前後欠, 左上部破損	III-370-110
439	頼春風書簡(此水害に相成り輿馬之往来とまり候由)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×19.8	諸口紙	前後欠	III-370-111

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
440	頼春風書簡(木綿屋久三郎ハ町家には候へとも文雅のものにて候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.4×12.7	諸口紙	前欠	III-370-112
441	頼春風書簡(新居フ雙白楼と可号様尚平へ被付候由につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.1×13.0	諸口紙		III-370-114
442	頼春風書簡(叔父大人之所御老衰之御儀につき疲労之極に御座候事)	状	1通		惟彊 拝具	(頼春水)	14.6×94.3	諸口紙	封上書「申上 内々用書 平安 惟彊 拝具」, 端裏書(頼春水筆)「○ 七月二日とゞき 三日返事」, 後欠, 3枚に剥離(3枚目の内容が合致するも破損部が合わず)	III-370-115
443	頼春風書簡(檜崎碑文差上申候につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.0×28.0	諸口紙	前後欠, 左上部破損	III-370-116
444	頼春風書簡(千祺弟不快之儀につき)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×36.5	諸口紙	前後欠	III-370-117
445	頼春風書簡(諸口拂底之事, 三原檜崎石碑落成之由)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×33.6	諸口紙	前後欠	III-370-118
446	頼春風書簡(御供番の支度, 用意を仕かけ申候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.5×25.0	諸口紙	前後欠	III-370-119
447	頼春風書簡(塾生四人教授之事, 神辺への御状勝島へ出申候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×16.8	諸口紙	前後欠	III-370-120
448	頼春風書簡(神辺, 腫物ハ過半平癒・駒井私出府を相待との儀にて)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×32.8	諸口紙	前後欠	III-370-121
449	頼春風書簡(当所の困窮寺之儀につき, 正善坊辺へ御聞被下候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.4×36.0	諸口紙	前欠	III-370-122
450	頼春風書簡(叔大人御健飯其宅皆々無事之事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×12.6	諸口紙	後欠	III-370-125
451	頼春風書簡(柄狂生ハ半日之閑話, 狂談共承候事ほか)	状	1通		惟彊	(頼春水カ)	14.4×37.0	諸口紙	前後欠	III-370-129
452	頼春風書簡(伐蛟之説やうやく此節当所へ触参申候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	13.5×16.2	楮紙	下部切取り	III-370-130
453	頼春風書簡(狂生事, 長門神道衰微につき神学之学校之事やかましく申候)	状	1通		(頼春風)	(頼春水)	14.6×45.0	諸口紙	前後欠, 2枚に剥離	III-370-131
454	頼春風書簡(文十事, 御地にて周旋之所も無心元故, 差とめ申候事)	状	1通		(頼春風)	(頼春水カ)	14.5×26.8	諸口紙	前欠	III-370-134
455	[断簡]	状	1通		(頼春風)		14.1×2.6	楮紙		III-370-137
456	[断簡]	状	1通		惟彊 敬白		14.3×7.0	諸口紙	端裏書(頼春風筆)「無事拝稟 京郷同覽 惟彊 敬白」	III-370-138
457	頼春風書簡(郷老帰来大工平兵衛へ天井妙ノ由也)	状	1通		(頼春風)		14.1×6.7	諸口紙		III-370-139
458	[断簡]	状	1通		(頼春風)		14.5×12.0	楮紙	左上から右下へ斜めに切断	III-370-140
459	頼春風書簡(子善に締袍を贈ったが便りが無い事)	状	1通		(頼春風カ)		14.3×8.2	諸口紙		III-372-136
460	頼春風書簡(春水の東行, 築山家男児誕生ほか)	状	1通	(天明8年)晚秋念五日	惟柔拝	(頼春水)	14.2×59.1	楮紙	封上書「惟柔拝」, 端裏書(頼春水筆)「○九月廿五日出 十月十四日届 同十六日返事」, 3枚に剥離, 罫紙反故を使用	III-371-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
461	頼杏坪書簡(春水の江戸到着の事, 留守中の山陽の様子)	状	1通	(天明8年)十月十二日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×12.8/ 13.8×43.8	楮紙	3枚に切断, 第1・2紙の間に欠損あり, 前欠, 罫紙の反故紙使用	III-371-4
462	頼杏坪書簡(中井竹山などの動静)	状	1通	(天明8年ヵ)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×19.7	楮紙	前後欠	III-371-7
463	頼杏坪書簡(山陽築山に入門, 酒造三分一令の事)	状	1通	(天明8年)十月廿三日燈下	惟柔拝	(頼春水)	13.7×35.3/ 13.6×39.8	楮紙	封上書「上 惟柔拝具 内密」, 端裏書(頼春水筆)「廿五日返事 ○十月廿二三四日 十一月九日至」, 2枚に切断, 両紙間に欠損あり, 後欠, 罫紙反故を使用	III-371-8
464	頼杏坪書簡(当暮模相かけ銀の事, 山陽の剣術稽古の様子)	状	1通	(天明8年)十一月十二日	惟柔拝	(頼春水)	13.8×40.1/ 13.8×74.3	楮紙	封上書「内書ハうら書 惟柔拝」, 端裏書(頼春水筆)「[]十二日出 []七日来 []月二日返事」, 3枚に切断, 第1・2紙間に欠損あり, 罫紙反故を使用	III-371-10
465	頼杏坪書簡(山陽稽古怠慢の事)	状	1通	(天明8年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×15.5	諸口紙	前後欠	III-371-13
466	頼杏坪書簡(家計, お十乳母の儀につき)	状	1通	(寛政元年ヵ)	(頼杏坪)	(頼春水)	15.3×19.5	楮紙	後欠	III-366-1
467	頼杏坪書簡(春風館安産, 景讓出生の事)	状	1通	(寛政2年10月)	(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×28.0	楮紙	前後欠	III-371-14
468	頼杏坪書簡(お十の病状と乳母の事, 春水秋より来春又も江戸詰の事)	状	1通	(寛政2年)十月廿五日	惟柔拝具	(頼春水)	15.0×43.1/ 15.0×31.1	楮紙	封上書「上 惟柔拝具 平安書」, 端裏書(頼春水筆)「○三 十月廿五日出 十一月九日来 十三日返書」, 両紙間に欠損あり	III-371-15
469	頼杏坪書簡(山陽差出し書付一件につき)	状	1通	(寛政2年10月頃)	(頼杏坪)	(頼春水)	15.1×13.9	楮紙	前後欠	III-371-17
470	頼杏坪書簡(春水の江戸到着, 山陽の名の事)	状	1通	(寛政2年)十一月十一日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.9×43.7	楮紙		III-371-18
471	頼杏坪書簡(お十の乳母の事, 春風の病状)	状	1通	(寛政2年)	(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×15.8	楮紙	前後欠	III-371-19
472	頼杏坪書簡(御領分孝子伝の事)	状	1通	(寛政2年)十一月廿五日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×32.2	諸口紙		III-371-20
473	頼杏坪書簡(御法事相済み, 私も御寺詰番にて候事)	状	1通	(寛政2年)十一月廿六日	惟柔拝	(頼春水)	14.2×25.2	諸口紙	封上書「上 惟柔拝」, 端裏書(頼春水筆)「○ 十一月廿六日出 十二月十四日朝達」『即刻後二廿七日返事』, 後欠	III-371-21
474	頼杏坪書簡(竹原お律死去につき)	状	1通	(寛政2年)十二月八日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	14.0×31.6	諸口紙	封上書「[]平安本書 不肖弟惟柔拝具」	III-371-22
475	頼杏坪書簡(片山平紀宗の訃報, 山陽の勉学の様子)	状	1通	(寛政2年)十二月八日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×13.0	諸口紙	前欠	III-371-23
476	頼杏坪書簡(景讓無事の様子, 恭の臨月, 学舎の様子)	状	1通	(寛政2年)	(頼杏坪)	(頼春水)	15.1×42.8	諸口紙	前後欠	III-371-24
477	頼杏坪書簡(春水服薬之事, 久太郎治療につき竹原逗留の様子(ほか))	状	1通	亥(寛政3年)九月廿二日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	14.5×70.1	諸口紙	封上書「上座前 不肖弟惟柔拝具 平安書」, 端裏書(頼春水筆)「亥九月二日出 十月六日届」	III-112
478	頼杏坪書簡(恭, 加藤方にて越年)	状	1通	(寛政3年)正月三日	弟惟柔拝具	(頼春水)	13.9×17.8	諸口紙	封上書「上 弟惟柔拝具 平安書」, 端裏書(頼春水筆)「○八 正月四日出同十九日至 同廿七日返事 七之助凶変も申遣ス」	III-371-25
479	頼杏坪書簡(筑前学令示し候につき南溟派も御用無之事)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×15.3	諸口紙	前後欠	III-371-26
480	頼杏坪書簡(除目の事)	状	1通	(寛政3年1月)廿二日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×8.3	諸口紙	前後欠	III-371-27

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
481	頼杏坪書簡(久太郎の脇差, 年末支払いにつき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×17.5	諸口紙	後欠	III-371-28
482	頼杏坪書簡(采真出生につき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×44.0	諸口紙	2枚に切断, 前後欠	III-371-29
483	頼杏坪書簡(山陽の詩作, 七之介親大病の事)	状	1通	(寛政3年)二月十日	惟柔拝	(頼春水)	14.0×38.3	諸口紙	前欠	III-371-31
484	頼杏坪書簡(山陽の不食, 采真の七夜の祝い)	状	1通	(寛政3年)二月十日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×24.2	諸口紙	前欠	III-371-32
485	頼杏坪書簡(七之介病死, 驚入り候事)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×22.3	諸口紙		III-371-33
486	[断簡](山陽, 亀三郎の名付の事)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×4.0	諸口紙		III-371-34
487	頼杏坪書簡(山陽は褒に, 正次郎は熊吉の名になり候事)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×16.2	諸口紙	前欠	III-371-35
488	頼杏坪書簡(留守中の藩の様子, 久太郎の千字文手本の事)	状	1通	(寛政3年)二月廿三日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	14.0×29.1	諸口紙	封上書「上 不肖弟惟柔拝具 平安内密」, 端裏書(頼春水筆)「〇十一 二月廿三日出三月十一日至 三月廿二日返事」, 後欠	III-371-36
489	頼杏坪書簡(山陽の詩作, 赤崎海門神辺へ)	状	1通	(寛政3年)三月廿六日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×20.7	諸口紙	前欠	III-371-37
490	頼杏坪書簡(留守宅の山陽・お十・采真の無事)	状	1通	(寛政3年)三月廿七日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	13.9×19.1/ 13.9×3.4	諸口紙	封上書「上 不肖弟惟柔拝具 平安書」, 端裏書(頼春水筆)「〇十三 三月廿七日出四月十一日至 四月十四日両通共返事」, 2枚に切断, 両紙間に欠損あり	III-371-38
491	頼杏坪書簡(竹原綿屋の押込強盗)	状	1通	(寛政3年)四月十二日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×17.7	諸口紙	前欠	III-371-40
492	頼杏坪書簡(采真の初節句, 山陽の世話困難につき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×26.9	諸口紙	前後欠	III-371-41
493	頼杏坪書簡(亀三郎の名乗, 藩主御内意御達しの事ほか)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×42.7	諸口紙	後欠	III-371-42
494	頼杏坪書簡(久太郎竹原滞在の事, 直子帰坂の事)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×44.2	諸口紙	2枚に切断, 前後欠	III-371-43
495	[断簡](福井立助診察後の御体調につき)	状	1通	(寛政3年)廿六日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.4×8.0	諸口紙		III-371-45
496	頼杏坪書簡(留守宅無事, 上御丁祭滞りなく相済み候事)	状	1通	(寛政3年)七月十二日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	14.3×65.1/ 14.3×44.6	諸口紙	封上書「上 不肖弟惟柔拝具 平安書」, 端裏書(頼春水筆)「〇廿一 七月十二日出九月朔至 十二日返事」, 5紙に剥離・切断, 第3・4紙間に欠損あり, 後欠	III-371-46
497	頼杏坪書簡(沢の三男の入門, 学問所の盛況につき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×35.1	諸口紙	前後欠	III-371-51
498	頼杏坪書簡(御祭への音楽取入れにつき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	14.0×24.0	諸口紙	前後欠	III-371-52
499	頼杏坪書簡(久太郎竹原行, 梅園文平ら学問所出勤免ぜられ候事)	状	1通	(寛政3年)九月初八日	不肖弟惟柔拝具	(頼春水)	14.4×25.5/ 14.4×44.3	諸口紙	封上書「上 不肖弟惟柔拝具 無異」, 端裏書(頼春水筆)「〇廿四 九月八日出廿二日達 廿九日返事」, 4枚に剥離・切断, 第2・3紙間に欠損あり	III-371-53
500	[断簡](恭の乳が出ない事につき)	状	1通	(寛政3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×4.5	諸口紙	前後欠	III-371-57

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
501	頼杏坪書簡(久太郎刀の儀, 刀剣諸道具賞鑑の書物につき)	状	1通	(寛政3年ヵ)十八日	(頼杏坪)	(頼春水)	15.1×17.6	楮紙		Ⅲ-371-58
502	頼杏坪書簡(弁論の執筆に骨が折れる事)	状	1通	(寛政3年ヵ)八月三日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×16.4	諸口紙		Ⅲ-371-73
503	頼杏坪書簡(福山侯病氣にて帰国の事)	状	1通	(寛政3年ヵ)十月七日	(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×44.9	楮紙	2枚に剥離	Ⅲ-371-76
504	頼杏坪書簡(杏坪と山陽の江戸滞在の様子, 知友との交流, 暑さ厳しい事)	状	1通	(寛政9年)	(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×39.3	諸口紙	前後欠	Ⅲ-371-59
505	頼杏坪書簡(江戸屋敷の様子, 久太郎無事)	状	1通	(寛政9年)八月廿日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×38.5	諸口紙		Ⅲ-371-60
506	頼杏坪書簡(尾藤二洲全快, 寒泉の事, 肥後邸辛嶋方へ参会の事)	状	1通	(寛政9年)九月廿三日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×38.5/ 14.3×24.6	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「九月廿三四両日出 本書十月十二日至」, 2枚に切断, 両紙間に欠損あり, 端裏に補修紙貼付(昭和45年9月28日)	Ⅲ-371-61
507	頼杏坪書簡(茶山より大封書到来, 柴野・黒沢への御状届け候事)	状	1通	(寛政9年)十月	惟柔拝	(頼春水)	14.1×38.0	諸口紙	封上書「惟柔拝」, 端裏書(頼春水筆)「十月□□日出廿六日至」, 2枚に剥離, 後欠	Ⅲ-371-63
508	頼杏坪書簡(輝姫への進講, 青山の観楓宴につき)	状	1通	(寛政9年ヵ)	(頼杏坪)	(頼春水)	11.4×60.0	半紙	2枚に剥離, 後欠	Ⅲ-371-68
509	頼杏坪書簡(講学所之達, 并に御進講之事)	状	1通	(寛政9年)五月九日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×75.8	諸口紙	端裏書「五月廿五日至 内密用」, 『六』	Ⅲ-300-3-6
510	頼杏坪書簡(江戸藩邸の様子, 世子好学に御座候事)	状	1通	(寛政9年)六月十一日出	(頼杏坪)	(頼春水)	14.5×10.7	諸口紙	端裏書(頼春水筆)『六月十一日出 二十七日来』『七』, 前後欠	Ⅲ-300-3-7
511	頼杏坪書簡(江戸藩邸風邪流行, 古賀邸訪問, 聖堂の変革につき談話)	状	1通	(寛政10年)三月四日	不肖惟柔拝具	(頼春水)	14.1×55.5	諸口紙	封上書「上 本書無異 不肖惟柔拝具」, 端裏書(頼春水筆)「三月四日 廿八日至」, 3枚に切断・剥離	Ⅲ-371-65
512	頼杏坪書簡(同僚の帰国, 江戸藩邸での盗難始末)	状	1通	(寛政10年)三月十四日	惟柔拝具	(頼春水)	14.3×40.8	諸口紙	封上書「上 平安書 惟柔拝具」, 端裏書(頼春水筆)「四月七日藤田便」	Ⅲ-371-70
513	頼杏坪書簡(江田島の婦人の孝状書につき)	状	1通	享和三年辛亥二月	(頼杏坪)		12.1×34.7	半紙	前後欠	Ⅲ-372-68
514	頼杏坪書簡(黒瀬子孝の墓碑銘の事)	状	1通	(文化3年)八月四日	(頼杏坪)	(頼春水)	11.6×41.9	半紙	端裏書(頼春水筆)「八月四日」	Ⅲ-372-23
515	頼杏坪書簡(柴野栗山死去後の小祥, 形見分けの事)	状	1通	(文化5年)	(頼杏坪)	(頼春水)	11.6×40.0	半紙		Ⅲ-372-24
516	頼杏坪書簡(対馬朝鮮使御用の事, 久し振りに太田甫畝に逢申候事)	状	1通	(文化8年)正月廿九日出	(頼杏坪)	(頼春水)	11.8×28.8	色半紙	端裏書(頼春水筆)「正月廿九日出 二月十六日来」	Ⅲ-365-10
517	1)〔書簡〕(御謹慎御喪居被遊候由)	状	1通				12.0×8.5	半紙	Ⅲ-369-15-1~4まで貼継, 前後欠	Ⅲ-369-15-1
517	2) 頼杏坪書簡(れいうん院へハいつ頃か御出被遊候哉)	状	1通	(文化9年ヵ)十日	京筋カ	御本家様	12.1×11.5	半紙	封上書「御本家様 京筋カ」	Ⅲ-369-15-2
517	3) 頼春風書簡(春閣に養生・薬方等, 忠告に預り候事)	状	1通	六月廿四日	(頼春風)	(頼春水)	12.5×31.0	半紙	封上書「緋便之御答」	Ⅲ-369-15-3
517	4) 頼杏坪書簡(長崎流漂人之事につき御内願之事)	状	1通	(文化8年ヵ)二月廿六日	(頼杏坪カ)	(頼春水カ)	11.8×12.4	半紙	端裏書(頼春水筆カ)「二月廿六日出, 壬十三日日至」, 後欠	Ⅲ-369-15-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
518	頼杏坪書簡(達堂出生の祝い状)	状	1通	(文政12年)重陽	万四郎	餘一殿	14.7×41.6	諸口紙	封上書「餘一殿 万四郎 無事 よろこひ申進」, 端裏書「○慶書」	III-373-8
519	頼杏坪書簡(入湯願書出候事)	状	1通	(文政3年カ)十日	(頼杏坪)	(頼聿庵カ)	15.0×17.5	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「返事」	III-365-20
520	頼杏坪書簡(頼誠軒誕生につき帰広催促)	状	1通	(文政12年)九月三日	(頼杏坪)	(頼梅颯)	12.4×92.3	半紙	端裏書「三次御状 京江上ルひかへ」, 4枚に剥離	III-168-12
521	頼杏坪書簡(山陽死去後の心得など)	状	1通	(天保3年)十月三日夜	杏坪	承緒賢姪	12.2×66.9	半紙		III-373-31
522	頼杏坪書簡(月形鶴窠より久太郎一周忌之詩来候)	状	1通	(天保4年9月)十七日	愚杏	餘一殿	14.8×22.1	竹紙	封上書「餘一殿 愚杏」	III-161-3
523	頼杏坪書簡(質物米代其外等見合計候事)	状	1通	六月七日	たゝ柔	(頼春水カ)	14.3×38.1	諸口紙	封上書「松廬拝景 たゝ柔」, 端裏書「質物米代其外等見合計候事」	III-166-7
524	[包紙]	状	1通		(頼杏坪)	御本家様	24.0×16.6	半紙	封上書「御本家様 不急御内見物 此神辺之書ハ去夏江戸より帰りかけニ受取帰り申候」, 頼采真書簡包紙の反故紙を使用, 反故紙「頼万四郎様 頼佐一郎 無異要用」	III-349-9
525	頼杏坪書簡(詩作について)	状	1通		(頼杏坪)	(菅茶山カ)	11.9×6.8	半紙		II-1-31
526	頼杏坪書簡(式拾七匁もたせ候につきよろしく頼み上候)	状	1通	十一日	みなミ	本家	12.2×11.5	半紙	封上書「本家 ミなミ」	III-185-14
527	頼杏坪書簡(必正楼蔵書印につき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	15.7×11.0	杉原紙	校訂(墨)	III-290-87
528	[断簡]	状	1通		(頼杏坪カ)	(頼春水カ)	12.3×4.1	半紙	前欠	III-290-94
529	頼杏坪書簡(龍山寺隠居事, 楽山亭へ寓居仕度由)	状	1通		京橋筋	本家	14.1×20.2	諸口紙	封上書「本家 京橋筋 無事」, 後欠	III-294-5
530	頼杏坪書簡(太田へ可被仰付候哉, 存付も無御座候)	状	1通	三日	京橋筋	(頼春水)	14.1×25.1	諸口紙	封上書「御返事 京橋筋」, 紙背に春水の詩稿あり(墨抹)	III-294-6
531	頼杏坪書簡(三次より帰府した事)	状	1通		(頼杏坪カ)		13.5×24.7	楮紙		III-326-78
532	頼杏坪書簡(唐詩品彙か正聲, 借用いたし度候事)	状	1通	十月十四日	(頼杏坪)		12.0×14.4	半紙		III-365-17
533	頼杏坪書簡(権次郎事, 所替之療法妙と存候事)	状	1通	十七日	(頼杏坪)		14.4×11.6	諸口紙	封上書「返事 札銀少々 取寄有之候 明早ニても進し可申候」	III-365-19
534	頼杏坪書簡(御叢書之校合三十冊相済候事)	状	1通		(頼杏坪カ)	(頼春水カ)	15.3×17.4	三桎紙		III-365-24
535	頼杏坪書簡(公儀カ孝子奇特者帳面被出候様被仰出候につぎ)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	11.9×29.0	半紙		III-366-3
536	1) 頼杏坪書簡(追書 今日山本源之丞到着につぎ)	状	1通	廿七日夜	(頼杏坪)	(頼聿庵)	13.7×17.1	諸口紙	III-369-13-1~16まで貼継	III-369-13-1
536	2) 頼杏坪書簡(室屋へ入れ置払米, および利息の件につぎ)	状	1通	霜月廿五日夜	なこ	餘一殿	14.3×155.2	諸口紙	封上書「お返事 奥ニ内用書 なこ」	III-369-13-2
536	3) 頼杏坪書簡(鉢の氣之謳を先年俗語に致候事, 牛山園蔵板之罨紙の事)	状	1通	十月廿七日	愚杏	餘一殿	14.4×59.1	竹紙	封上書「餘一殿 愚杏 無事」	III-369-13-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
536	4) 頼杏坪書簡(菊花の薬効について)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.3×11.6	諸口紙		Ⅲ -369-13-4
536	5) 頼杏坪書簡(閣用墨を取寄セ置申度事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.3×10.0	諸口紙		Ⅲ -369-13-5
536	6) 頼杏坪書簡(小園三次来訪の事, 室屋方差紙代入不申事につき)	状	1通	十二月七日	惟柔	梅老大人, 餘一殿	14.3×136.4	諸口紙	封上書「奉覆 梅老大人 餘一殿 惟柔 無事」	Ⅲ -369-13-6
536	7) 頼杏坪書簡(田中藤七病氣, 藤七方へ登セ銀算用如何)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.5×7.8	竹紙		Ⅲ -369-13-7
536	8) 頼杏坪書簡(友田村方例年両度の出米之事につき)	状	1通	十月朔日	(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.7×57.5	諸口紙		Ⅲ -369-13-8
536	9) 頼杏坪書簡(友田米売払代銀の事, 町借押証文の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.3×22.2	諸口紙		Ⅲ -369-13-9
536	10) 頼杏坪書簡(出米売払代銀入用の他は此方へ差越可給候事)	状	1通	十一月九日	愚杏	餘一殿	13.8×62.0	諸口紙	封上書「餘一殿 愚杏 無事」	Ⅲ -369-13-10
536	11) 頼杏坪書簡(八木好右衛門病死の事, 三千三痛所の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.5×19.7	竹紙		Ⅲ -369-13-11
536	12) 頼杏坪書簡(嘉點小学受取, 一冊不足之事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼聿庵)	14.5×5.8	竹紙		Ⅲ -369-13-12
536	13) 頼杏坪書簡(山口怨介来訪の事, 米銀あら積り候事)	状	1通	十一月卅日	愚杏	餘一殿	14.4×57.1	竹紙	封上書「餘一殿 愚杏 無事」, 端裏書(頼聿庵筆)「六日届寺西より」『通栗原』	Ⅲ -369-13-13
536	14) 頼杏坪書簡(石井へ之返書の事)	状	1通		(頼杏坪)	餘一殿	14.3×7.6	諸口紙		Ⅲ -369-13-14
536	15) 頼杏坪書簡(京より丹醸送り来たる事, 神辺より来客の事)	状	1通	神無月七日	三次方	餘一殿	14.8×29.7	竹紙	封上書「餘一殿 三次方 無事」	Ⅲ -369-13-15
536	16) 頼聿庵書簡(芸苑名言売払の事, 絹地に何卒御一揮お願いの事)	状	1通	十一月五日	協	杏大人, 佐一郎様御同覽	12.3×97.2	半紙	封上書「無異申上に協」, 端裏書(頼杏坪筆)『朱批返事也』, 頼杏坪による返答書入(朱書)あり	Ⅲ -369-13-16
537	頼杏坪書簡(群書類従, 棚守に買せ申度候事ほか)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×12.1	竹紙		Ⅲ-370-135
538	〔断簡〕(七面寺之姦僧大獄事件の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	12.1×12.5	半紙		Ⅲ-371-71
539	〔断簡〕	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×7.7	諸口紙	前欠	Ⅲ-371-72
540	〔断簡〕(嫡長子以外は祠堂に告げない事)	状	1通	二月廿二日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×5.1	諸口紙		Ⅲ-371-74
541	〔断簡〕(家来召抱えの事, 火事の事)	状	1通	三月十一日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×5.6	諸口紙		Ⅲ-371-75
542	頼杏坪書簡(屋敷が調わず寒気がひどい事, 春風の病, 久太郎の懶慢な様子)	状	1通	十一月十二日朝	(頼杏坪)	(頼春水)	15.1×28.3	楮紙	前欠	Ⅲ-372-1
543	頼杏坪書簡(組足輕へ申渡の内容, 米備下落の事)	状	1通	十二月廿六日	(頼杏坪)	(頼春水)	15.1×10.6	楮紙	前欠	Ⅲ-372-2
544	〔断簡〕(培根の事, 屈相の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.4×8.9	諸口紙	前欠	Ⅲ-372-3
545	頼杏坪書簡(琉球人の軀津埋葬につき, 久太郎刀劍の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×29.2	楮紙	後欠, 前欠カ	Ⅲ-372-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
546	頼杏坪書簡(六論大意を添削した事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×22.7	諸口紙	後欠	III-372-5
547	頼杏坪書簡(儀式、丁祭に音楽を用いる事につき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.6×12.3	諸口紙	前後欠	III-372-6
548	頼杏坪書簡(東方学事々々承知候事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×10.1	諸口紙	後欠	III-372-7
549	頼杏坪書簡(丁祭の人手不足につき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×10.2	諸口紙	前欠	III-372-8
550	頼杏坪書簡(孝子伝の和文著述につき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	15.0×5.0	楮紙	前後欠	III-372-9
551	頼杏坪書簡(順庵の診察、塾童の様子、赤公子痘瘡順快)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.4×23.3	楮紙	前後欠	III-372-10
552	頼杏坪書簡(町年寄による町民への六論衍義読み聞かせにつき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.9×13.7	諸口紙	前後欠	III-372-11
553	頼杏坪書簡(久太郎の報告がこれ以上詳細にできない事、自分の病の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×12.2	楮紙	後欠	III-372-12
554	頼杏坪書簡(書物料の借米、役料との差引の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.4×9.0	諸口紙		III-372-13
555	頼杏坪書簡(久太郎、史記会でスラスラと読んだ事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	13.5×16.5	諸口紙	前後欠	III-372-14
556	頼杏坪書簡(正保遺事、公儀孝子伝の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.1×7.2	諸口紙	前後欠	III-372-15
557	頼杏坪書簡(藩主の入国時季について)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×12.4	諸口紙	前欠	III-372-16
558	頼杏坪書簡(采真の誕生につき)	状	1通	二月十日	惟柔	(頼春水)	14.0×8.4	諸口紙		III-372-17
559	頼杏坪書簡(江戸の春水の供の人選)	状	1通	三月十四日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×19.7	諸口紙	前欠	III-372-18
560	頼杏坪書簡(春水の帰国の事)	状	1通	三月十四日	惟柔拝	(頼春水)	13.9×18.3	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「四月十日 与一便至」	III-372-19
561	頼杏坪書簡(世子の引越、内婚の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	14.2×22.1	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「七月十一日至」	III-372-20
562	頼杏坪書簡(竹の丸様へ歌を献上したき事)	状	1通	九月五日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.8×10.1	諸口紙		III-372-21
563	頼杏坪書簡(御上、奥詰衆が学問をしない様子を伝え聞いた事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	11.6×42.1	半紙	前欠	III-372-22
564	頼杏坪書簡(希三父子帰国後、家来の借金の肩代わりの事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	11.6×30.4	半紙		III-372-26
565	頼杏坪書簡(宮島の火事の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	12.1×14.2	半紙		III-372-28
566	頼杏坪書簡(常児への贈り物の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	11.5×10.9	半紙	端裏書「是ハ除夕ニ認置申候」	III-372-29
567	頼杏坪書簡(大四郎倅が病身につき)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	11.8×13.0	半紙		III-372-30
568	頼杏坪書簡(支払いを盆後迄延してくれよう代りに伝えてほしい事)	状	1通	十四日	(頼杏坪カ)		12.2×53.7	三桎紙	端裏書「二 別紙之通にて相済吉事ニ候ハ、此手紙ハ無用之事不及御開」	III-372-31
569	頼杏坪書簡(飯米が毎日三升で決まった事)	状	1通	廿一日	(頼杏坪)	(頼春水)	13.7×21.0	諸口紙	封上書「内々用又々御返事」、後欠	III-372-32
570	頼杏坪書簡(進藤の借金の立替をして困っている事)	状	1通	三日	(頼杏坪)	(頼春水)	14.3×26.6	諸口紙		III-372-33

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
571	頼杏坪書簡(自分の草稿, 進藤への書類を同封した事)	状	1通	十九日	柔	春水老大人	13.9×15.0	楮紙	封上書「春水老大人 柔」	Ⅲ-372-34
572	頼杏坪書簡(草稿の浄写, 長崎の事)	状	1通	廿六日	(頼杏坪)	(頼春水)	11.6×16.0	色半紙		Ⅲ-372-35
573	頼杏坪書簡(三穂の出産に係る梅颯書簡につき)	状	1通 (2枚)	九月廿三日	(頼杏坪)	(頼春水)	15.3×30.4	楮紙(薄墨染)	2枚で一通, 内1枚は2枚に剥離	Ⅲ-372-36
574	頼杏坪書簡(乳児を連れて里帰りの事)	状	1通		(頼杏坪カ)		14.0×16.5	楮紙(薄墨染)	前後欠	Ⅲ-372-37
575	頼杏坪書簡(玲瓏の病状につき)	状	1通		万四郎	弥太郎様	14.8×24.9	諸口紙	封上書「弥太郎様 万四郎 内用不及御返事」	Ⅲ-372-38
576	頼杏坪書簡(春水へ来宅を願う事)	状	1通	十三日	万四郎	弥太郎様	14.0×19.8	諸口紙	封上書「弥太郎様 万四郎 内用」	Ⅲ-372-39
577	頼杏坪書簡(去年の上屋敷失火の際の家来の失態の事)	状	1通		(頼杏坪)	(頼春水)	12.2×71.9	半紙	封上書「間事御内見」	Ⅲ-372-40
578	頼杏坪書簡(広島酒が払底の事, 京都の子供に何か贈りたい事)	状	1通	九月廿六日	(頼杏坪)	本家	14.5×42.5	三桎紙	封上書「本家へ 無事」	Ⅲ-372-41
579	頼杏坪書簡(刃札への両替の事)	状	1通	十四日	ミナミ	本家	13.6×31.3	諸口紙	封上書「本家内用 ミナミ」, 紙帯にてⅢ-372-42~45まで一括	Ⅲ-372-42
580	頼杏坪書簡(薪代六ヶ月分の覚書)	状	1通		(頼杏坪)		13.9×13.8	諸口紙	端書「私方薪此間御噂申上候故書付上ヶ申候」	Ⅲ-372-43
581	頼杏坪書簡(盆払いの内訳につき)	状	1通	十三日	南	(頼聿庵カ)	13.7×20.7	諸口紙	封上書「御返事 南」	Ⅲ-372-44
582	頼杏坪書簡(かいふやに預けた利銀の事)	状	1通	七月十三日	頼杏坪	本家	13.7×19.8	楮紙	封上書「本家 五拾匁添 ミナミ」	Ⅲ-372-45
583	頼杏坪書簡(牛田山園での事につき)	状	1通	六日	(頼杏坪)		15.7×12.3	三桎紙	前欠	Ⅲ-372-47
584	[断簡](龍のことにつき)	状	1通		(頼杏坪カ)		15.6×6.2	楮紙	裏面(頼春水筆)『龍之事一向心付不申候, 是ハ至極よろしく御さ候, 龍へ御披陣可被遊候, 尤先日草稿之通情曲能と御披陣無御座候而ハ埒明申間敷哉と存候, 何分龍よろしく御座候得共, 先達而下方申出候趣ハ承知無之義も可有之存候』	Ⅲ-372-52
585	頼杏坪書簡(波平と申す者が奉公したいと頼んできた事)	状	1通		(頼杏坪カ)		14.2×42.8	諸口紙	後欠	Ⅲ-372-53
586	頼杏坪書簡(李忠定公全集の購入, 和歌山城下の様子)	状	1通		(頼杏坪カ)		11.8×34.4	半紙		Ⅲ-372-55
587	頼杏坪書簡(姫の縁組, 藩主の参勤交代の延引)	状	1通	閏三月六日	(頼杏坪)		12.0×22.7	半紙		Ⅲ-372-56
588	頼杏坪書簡(御祭札の書物を学館の御文庫に預ってほしい事)	状	1通		(頼杏坪)		11.5×31.5	半紙		Ⅲ-372-57
589	頼杏坪書簡(殿様の風邪の様子, 輝姫への進講日のこと)	状	1通		(頼杏坪)		11.7×12.3	半紙		Ⅲ-372-58
590	頼杏坪書簡	状	1通	三月十四日	南頼	近藤様	14.3×12.0	諸口紙	封上書「近藤様 南頼」	Ⅲ-372-59
591	頼杏坪書簡(石屋儀兵衛妻の兄弟の事, 京より帰国の時期)	状	1通	七月廿二日 燈下	(頼杏坪)		14.6×42.0	三桎紙	端裏書「中庸の誤 誤之、御尋申上事」『佐一郎江満田九郎左衛門山下同様ニ 心得とヤ達有之』	Ⅲ-372-61
592	頼杏坪書簡(大夫不審一件につき追書)	状	1通		(頼杏坪カ)		13.8×11.6	諸口紙		Ⅲ-372-62
593	頼杏坪書簡(雲州人から頼まれた書を認めた事)	状	1通		(頼杏坪)	三千三とのへ	14.8×8.1	諸口紙		Ⅲ-372-63
594	頼杏坪書簡(十六日の舟遊びの事)	状	1通	十四日	柔		11.8×19.3	半紙	封上書「□□ 無事 柔」	Ⅲ-372-64

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
595	頼杏坪書簡(大人の具合につき問合せ)	状	1通	廿六日	水明	三千三殿	14.3×9.5	三桎紙	封上書「三千三殿 水明」	III-372-65
596	頼杏坪書簡(銀杏が乳柑, 橙子に相当するか否かの事)	状	1通	十月廿八日	惟柔拝		14.4×17.3	三桎紙		III-372-66
597	頼杏坪書簡(書の礼状)	状	1通		(頼杏坪)		12.0×18.7	半紙	校訂(墨), 後欠	III-372-67
598	頼杏坪書簡(書付の発着確認)	状	1通		(頼杏坪)		15.5×9.8	楮紙		III-372-69
599	頼杏坪書簡(口上 訪問の礼, 明後日の招待につき)	状	1通	卅日	小姓町	本家	14.0×27.9	諸口紙	封上書「本家 小姓町 用事」	III-372-70
600	頼杏坪書簡(石摺千字文と古今集を晝庵が持っているか調べてほしい事)	状	1通		(頼杏坪)	餘一殿	14.5×9.4	三桎紙		III-372-72
601	頼杏坪書簡(下百姓, 特に老人に年貢が大変な事)	状	1通		(頼杏坪)		13.4×8.0	楮紙	破断紙片(13.5×1.0)「御返事申上」	III-372-74
602	頼杏坪書簡(西湖志の校合終了につき)	状	1通		(頼杏坪)		12.2×29.2	半紙		III-372-75
603	頼杏坪書簡(聖堂積奠後の厭食の事)	状	1通		(頼杏坪)		11.8×26.7	半紙		III-372-76
604	[断簡](子昂への扇面の数と金額)	状	1通		(頼杏坪)		15.4×3.1	楮紙		III-372-78
605	頼杏坪書簡(詩題につき)	状	1通	八月三日	頼万四郎	金子徳之助様, 坂井源三郎様, 加藤太郎三様	12.0×31.7	色半紙		III-372-79
606	[包紙]	状	1通		頼万四郎	山下十右衛門様	24.2×11.3	色半紙		III-372-80
607	頼杏坪書簡(春風の東遊に際し一家の様子を伝え聞いた事)	状	1通	四月十一日夜	(頼杏坪)		24.2×33.5	半紙		III-372-81
608	頼杏坪書簡(覚書 芸備孝義伝中の人名につき)	状	1通		(頼杏坪)		12.1×46.0	半紙		III-372-82
609	頼杏坪書簡(万波甚太郎につき)	状	1通		(頼杏坪カ)		14.1×24.9	諸口紙	後欠	III-372-84
610	頼杏坪書簡(漢文訓読につき)	状	1通	廿日	(頼杏坪カ)		14.0×26.0	諸口紙	注記(朱), 訓点(朱)	III-372-89
611	頼杏坪書簡(来訪と贈物の礼)	状	1通	臘月廿六日	(頼杏坪)		16.8×28.1	杉原紙		III-372-92
612	頼杏坪書簡(箱入角帯進上につき)	状	1通	九月十四日	(頼杏坪カ)		11.8×14.1	色半紙	前欠	III-372-96
613	頼杏坪書簡(江戸屋敷の類焼で家中へ御借米がされる事)	状	1通	二月	(頼杏坪)		14.1×9.3	諸口紙		III-372-99
614	頼杏坪書簡(小唄の歌詞と囃し)	状	1通		(頼杏坪)		14.4×7.9	楮紙(薄黄色)		III-372-101
615	頼杏坪書簡(口上 七百匁の支払いの依頼)	状	1通	七月十一	(頼杏坪)		14.2×8.5	楮紙(薄黄色)		III-372-102
616	[包紙]	状	1通				15.8×31.0	杉原紙	端裏書「此分長崎入用へ取欠候事」, 「進上 金二百疋」と墨書あり	III-372-104
617	[断簡](御休息所の事につき)	状	1通		(頼杏坪)		4.9×3.8	楮紙		III-372-105
618	[断簡](権次郎につき相談)	状	1通		(頼杏坪カ)		15.5×5.5	楮紙		III-372-107
619	[断簡](倫法師の御書拝見につき)	状	1通		(頼杏坪カ)		12.1×4.7	半紙	前欠カ	III-372-108
620	[断簡]	状	1通		(頼梅颯カ)		14.1×2.5	諸口紙	前後欠	III-372-109

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
621	〔断簡〕(この地は寒さが厳しく豊作の驗か)	状	1通		(頼梅颯カ)		16.2×3.6	楮紙	前後欠	Ⅲ-372-110
622	〔断簡〕(殿様の水痘の事)	状	1通		(頼杏坪)		14.3×5.0	諸口紙	後欠	Ⅲ-372-111
623	〔断簡〕(家塾の幼年生が増え、久太郎が読書を教えている事)	状	1通		(頼杏坪)		13.8×7.0	諸口紙		Ⅲ-372-112
624	〔断簡〕(江戸講学所での演説に感心した事)	状	1通	九月廿五日	(頼杏坪)		14.0×6.4	諸口紙	端裏書「御つのみ草々申上候以上 九月廿五日」, 後欠	Ⅲ-372-113
625	〔断簡〕(時候挨拶, 御多門に無沙汰の事)	状	1通		(頼杏坪)		13.8×8.3	諸口紙	後欠	Ⅲ-372-116
626	〔断簡〕(名乗御付を遣わされた礼)	状	1通		(頼杏坪)		14.1×6.8	諸口紙		Ⅲ-372-117
627	〔断簡〕(衣服が粗末で袴袴が無い事)	状	1通	八月廿四日	(頼杏坪)		13.6×7.1	諸口紙	前後欠	Ⅲ-372-118
628	〔断簡〕(お恭が無事に馴染んで暮らしている事)	状	1通		(頼杏坪)		13.2×9.1	楮紙	前後欠	Ⅲ-372-119
629	〔断簡〕(天野屋とお直の事)	状	1通		(頼杏坪)		14.4×6.7	諸口紙	前後欠	Ⅲ-372-120
630	〔断簡〕(山中が子の宮参りの際, 立寄りたいたいの事)	状	1通		(頼杏坪)		14.2×6.2	諸口紙	後欠	Ⅲ-372-121
631	〔断簡〕(駒井へ伝言依頼, 八兵衛船で夕方出帆の事)	状	1通	七月三日	(頼杏坪)		14.0×8.1	諸口紙	前欠	Ⅲ-372-122
632	〔断簡〕(紙の値段につき)	状	1通		(頼杏坪)		14.0×8.9	諸口紙	前欠	Ⅲ-372-123
633	〔断簡〕(紫鷹旗典の文字の来歴について)	状	1通		(頼杏坪)		14.4×4.2	諸口紙	前欠	Ⅲ-372-124
634	〔断簡〕(白神社の祭礼, 嫂の産後の様子)	状	1通		(頼杏坪)		14.9×5.0	楮紙	前後欠	Ⅲ-372-125
635	〔断簡〕	状	1通		(頼杏坪)		15.0×6.4	楮紙	前後欠	Ⅲ-372-126
636	〔断簡〕(江戸詰交替につき)	状	1通		(頼杏坪)		12.7×4.1	半紙	前後欠	Ⅲ-372-127
637	〔断簡〕(勘定所より受け取った熊肝の事)	状	1通	二月廿三日 認置	(頼杏坪)		13.8×5.3	諸口紙		Ⅲ-372-130
638	〔断簡〕(此間の諸作を一巻にしてはどうかの件)	状	1通	九月六日	(頼杏坪)	坂井孫三郎様	11.9×5.6	半紙		Ⅲ-372-131
639	〔断簡〕(和田濱という者より三封が届いた事)	状	1通		頼氏		17.0×8.2	楮紙		Ⅲ-372-133
640	〔断簡〕(篆刻の依頼, 文字の事)	状	1通		(頼杏坪)		14.7×7.6	楮紙(薄赤色)		Ⅲ-372-138
641	頼杏坪書簡(生理とは生活の理の意味である事)	状	1通		南愚	餘一殿	14.4×33.6	諸口紙	封上書「餘一殿 南愚」	Ⅲ-373-1
642	〔断簡〕	状	1通		万四郎	頼餘一殿	14.3×3.5	諸口紙	封上書「餘一殿 万四郎」	Ⅲ-373-2
643	頼杏坪書簡(服忌掛りの事)	状	1通	廿七日	(頼杏坪)	餘一殿	14.1×18.7	諸口紙	封上書「餘一殿 急キ」	Ⅲ-373-4
644	頼杏坪書簡(佐一郎の頭痛難儀の事)	状	1通	十九日	南叟	餘一殿	14.2×18.1	諸口紙	封上書「餘一殿 南叟 無事」	Ⅲ-373-5
645	頼杏坪書簡(若槻への薦包も山陽にま ず届けてほしい事)	状	1通		南	餘一殿	11.8×13.5	半紙	封上書「餘一殿 南」	Ⅲ-373-6

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
646	頼杏坪書簡(古賀・萬波への謝礼につき)	状	1通		南	餘一殿	14.1×8.3	諸口紙	封上書「餘一殿 南」	III-373-7
647	頼杏坪書簡(東児の健康状態につき)	状	1通		杏	餘一殿	14.8×38.0	諸口紙	封上書「餘一殿 杏」, 後欠	III-373-9
648	頼杏坪書簡(草稿の上への出し方)	状	1通		(頼杏坪)	餘一殿	14.4×12.7	諸口紙	端裏書(頼事庵筆)「南方来 刻料願試ひかへ也」	III-373-10
649	頼杏坪書簡(事庵後室, 阜の熱の事)	状	1通	廿一日	家叔	餘一殿	16.3×13.5	楮紙	封上書「餘一殿 家叔」, 端裏書「是ハ一昨日書置候」	III-373-11
650	頼杏坪書簡(今朝出仕で揮写できない事)	状	1通	六日	南叟	餘一殿	13.7×16.3	諸口紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-12
651	頼杏坪書簡(書二幅に印章を押すので転送して欲しい事)	状	1通	七日	南老	餘一殿	13.6×10.0	諸口紙	封上書「餘一殿 南老」	III-373-13
652	頼杏坪書簡(昨日の別紙内密書付一通を写してほしい事)	状	1通	十六日	南叟	餘一殿	16.1×10.0	楮紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-14
653	頼杏坪書簡(室屋へ十両ほど立替を頼む文例)	状	1通		南愚	餘一殿	14.9×27.6	楮紙	封上書「餘一殿 南愚 此十両ハいつれ江御預置被下候ヤ」, 端裏書「要用別ニひかへもアリ」	III-373-15
654	頼杏坪書簡(早く双鉤して寄越してほしい事)	状	1通	廿二日	南	餘一殿	14.2×20.6	諸口紙	封上書「餘一殿 南」	III-373-16
655	頼杏坪書簡(京都挙雄之賀, 辰蔵の出生の事)	状	1通	二日	南叟	餘一殿	14.3×16.2	諸口紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-17
656	頼杏坪書簡(御園宇村茂右衛門へ質物の事を聞いてほしい事)	状	1通		南老	餘一殿	11.7×16.1	半紙	封上書「餘一殿 南老 差向義」	III-373-18
657	頼杏坪書簡(誰からか分からない書状が届いた事)	状	1通		杏坪	餘一殿	12.0×7.2	半紙		III-373-19
658	頼杏坪書簡(小児少し不塩梅に見える事)	状	1通	四日夜	南叟	餘一殿	14.2×12.1	諸口紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-20
659	頼杏坪書簡(伊丹製の猪口を借りたき事)	状	1通	十七日	南叟	餘一殿	11.8×12.8	半紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-21
660	頼杏坪書簡(涿翁の賛の事)	状	1通	十四日	南	餘一殿	12.1×12.2	半紙	封上書「餘一殿 南」	III-373-22
661	頼杏坪書簡(春風の帰郷, 乳母の事)	状	1通	八日	杏坪	餘一殿	12.4×11.2	半紙	封上書「餘一殿 杏坪」	III-373-23
662	頼杏坪書簡(忠平衣服, 質物より受返し の事)	状	1通	十九日	南	餘一殿	13.8×16.7	諸口紙	封上書「餘一殿 南 内用」, 端裏書(異筆)「餘一郎, 定三郎, 山崎□一郎」	III-373-24
663	頼杏坪書簡(今晚水楼で知人と一遊する事)	状	1通	廿五日	杏	餘一殿	14.2×26.1	諸口紙	封上書「餘一殿 杏」	III-373-25
664	頼杏坪書簡(春水遺稿の標題)	状	1通	廿二日	南叟	餘一殿	14.2×14.6	諸口紙	封上書「餘一殿 南叟」	III-373-26
665	頼杏坪書簡(繳語の文例)	状	1通	廿六日	南	餘一殿	14.2×18.7	諸口紙	封上書「餘一殿 南」	III-373-27
666	頼杏坪書簡(忌中の際の書付差出し)	状	1通	十四日	(頼杏坪)	餘一殿	13.7×16.7	諸口紙	封上書「餘一殿 無事 急キ用事」	III-373-28
667	頼杏坪書簡(忌服につき紙面認替への事)	状	1通	十四日	(頼杏坪)	餘一殿	15.0×12.7	楮紙	封上書「餘一殿」	III-373-29
668	頼杏坪書簡(竹原の碑文の事)	状	1通	廿二日	南愚	餘一殿	15.0×10.1	楮紙	封上書「餘一殿 南愚 無事要用」	III-373-30

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
669	頼杏坪書簡(新刻書の京都への注文につき)	状	1通	卯月五日	なこ	梅大人	14.0×21.6	諸口紙	封上書「梅大人 無事 なこ」	Ⅲ-373-32
670	頼杏坪書簡(餘一が丁祭, 家政を務める事につき)	状	1通	二月六日	柔	梅嫂大人	13.7×66.9	諸口紙	封上書「梅嫂大人 柔 餘一同覧無事」, 端裏書「二月十日來書状」	Ⅲ-373-33
671	[断簡](自身の和歌を竹丸様が撰んだ事)	状	1通		たゝなこ	うめの大人	14.1×8.5	諸口紙	封上書「うめの大人 たゝなこ」, 後欠	Ⅲ-373-34
672	頼杏坪書簡(道香より短冊が届いた事)	状	1通	八日よ	なこ	うめの大人	14.7×17.7	諸口紙	封上書「うめの大人 なこ 不及御返事」	Ⅲ-373-35
673	頼杏坪書簡(昨夜の和歌を直したき事)	状	1通	六日	なこ	樗大人	14.7×12.0	諸口紙	封上書「樗大人 なこ」	Ⅲ-373-36
674	頼杏坪書簡(煩児事, 為替の事を京へ書き送る事)	状	1通	閏八月初六日	南	本家史記	15.7×17.1	楮紙	封上書「本家史記 南 為替 □」, 端裏書「追願書之事」	Ⅲ-373-37
675	頼杏坪書簡(山陽の広島逗留, 自身の湯治願など)	状	1通	二月廿五日	たゝなこ	梅老大人, 久太郎殿, 餘一殿, 佐一郎へ全覧	14.9×95.6	楮紙	封上書「本家へ 平安 三次方」	Ⅲ-373-38
676	頼杏坪書簡(尾張大根などを明日の御供へ加えたき事)	状	1通	廿七日	小姓町	本家	10.7×15.0	楮紙	封上書「本家 小姓町」	Ⅲ-373-49
677	頼杏坪書簡(朝より腹を下す事, 尼将軍後の文稿の事)	状	1通	廿九日	たゝなこ		12.2×24.8	半紙	封上書「御返事 たゝなこ」	Ⅲ-373-50
678	頼杏坪書簡(京より小児の祝いが来た事, 支払高の事)	状	1通	廿四日	隠居		14.7×33.6	諸口紙	封上書「御返事 隠居」	Ⅲ-373-51
679	頼杏坪書簡(和歌の掛詞の事)	状	1通		なこ		11.6×16.7	半紙	封上書「又申上 なこ」	Ⅲ-373-52
680	頼杏坪書簡(拾遺集の借用, 竹の丸様御用で皆詠歌を出す事)	状	1通	五月三日	なこ	本家大人	14.0×16.6	諸口紙	封上書「本家大人申上 なこ」	Ⅲ-373-53
681	頼杏坪書簡(柴田より別封内密書が来た事, 家人の病気)	状	1通	七月廿九日	柔	本家	16.1×17.5	楮紙(薄藍色)	封上書「本家 柔 無事」	Ⅲ-373-54
682	頼杏坪書簡(吉和塩田の事, 茶山の江戸の詩の事)	状	1通	七日	南	杉	11.9×14.6	半紙	封上書「杉 南 無事」	Ⅲ-373-55
683	頼杏坪書簡(和訓鑑一卷がそちらにないか調べてほしい事)	状	1通	廿五日	みなみ	御本家	14.0×16.0	諸口紙	封上書「御本家 みなみ 大用事 無事」	Ⅲ-373-56
684	頼杏坪書簡(忠平母の香典の事)	状	1通	卅日	南		12.2×17.7	半紙	封上書「御返事 南」	Ⅲ-373-57
685	頼杏坪書簡(御小払いの事)	状	1通	十月四日	みなみ		14.0×10.2	諸口紙	封上書「御返事 みなみ」	Ⅲ-373-58
686	頼杏坪書簡(覚 大盆などの諸道具の拝借の事)	状	1通	正月六日	南	本家	14.0×20.3	諸口紙	端裏書「御手次ニ御出し置被遣候ハ、又取ニ上り可申候以上」	Ⅲ-373-59
687	頼杏坪書簡(杉原紙・半紙の受取につき)	状	1通	十二月八日	みなみ	本家	11.7×27.1	半紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-60
688	頼杏坪書簡(疱瘡の子供ため長屏風を借りたき事)	状	1通	十一月廿三日	南	本家	11.7×21.4	半紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-61
689	頼杏坪書簡(和歌の制の用語集を見せてほしい事)	状	1通	八日	みなみ	本家	14.1×14.7	諸口紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-62

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
690	頼杏坪書簡(かいふ屋と室屋の証文の事)	状	1通		みなみ	本家	12.1×12.3	半紙	封上書「本家 内用 みなみ」	Ⅲ-373-63
691	頼杏坪書簡(口上 小石への返書を三樹三郎に頼みたき事)	状	1通		南		14.1×6.7	諸口紙		Ⅲ-373-64
692	頼杏坪書簡(銀蔵切手の事, 講を延引したき事)	状	1通	十四日	南	本家	14.7×10.5	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-65
693	頼杏坪書簡(御礼錢三人分の受取につき)	状	1通	廿九日	みなみ	本家	13.9×13.1	諸口紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-66
694	頼杏坪書簡(東郊延引の事, 拙詩稿の返却につき)	状	1通	廿五日	みなみ	本家	14.3×22.8	諸口紙	封上書「本家 みなみ 無事」	Ⅲ-373-67
695	頼杏坪書簡(徳太郎那須への返銀の事, 餘一の跡目相続の事)	状	1通	十三日	南	本家	14.0×16.6	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-68
696	頼杏坪書簡(涵青閣の拙詩返却につき)	状	1通	十二日	南	本家	12.0×10.4	半紙	封上書「本家 二通之内 南」	Ⅲ-373-69
697	頼杏坪書簡(村田からの人參・沈香代催促につき)	状	1通	朔日	南	本家	13.7×16.7	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-70
698	頼杏坪書簡(使用人の事, 景讓の大祥忌が近づいている事)	状	1通	十六日	みなみ	本家	13.9×13.4	諸口紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-71
699	頼杏坪書簡(ひさが男子を産んだ事)	状	1通	十一月三日	南	本家	13.4×14.2	楮紙	封上書「本家 安産 南」	Ⅲ-373-72
700	頼杏坪書簡(進藤家からの米を蔵へ納める事)	状	1通	十八日	みなみ	本家	13.8×17.1	諸口紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-73
701	頼杏坪書簡(室屋の預り切手の事)	状	1通	二月九日	南	本家	13.9×30.4	諸口紙	封上書「本家 内用 南」	Ⅲ-373-74
702	頼杏坪書簡(水楼の会の延期につき)	状	1通	十八日	みなみ	本家	14.6×18.2	諸口紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-75
703	頼杏坪書簡(忠平の借金申出につき一部用立したき事)	状	1通	三月十二日	南	本家	13.6×23.3	諸口紙	封上書「本家 内用 南」	Ⅲ-373-76
704	頼杏坪書簡(屏風の箱返却願ひ)	状	1通	廿六日	南	本家様	16.8×12.8	楮紙	封上書「本家様 南」	Ⅲ-373-77
705	頼杏坪書簡(紙面通り金額を認めれば, こちらから勘定奉行に遣わす事)	状	1通	廿八日	南	本家	13.6×7.2	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-78
706	頼杏坪書簡(忠平が帰宅と銀の事を申ししている事)	状	1通	三月六日	南	本家	13.7×10.7	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-79
707	頼杏坪書簡(札銀式百六拾匁をヘルヘトアン代に充てたき事)	状	1通	十三日	みなみ	本家	11.6×13.1	半紙	封上書「本家 みなみ」	Ⅲ-373-80
708	頼杏坪書簡(室屋にて俵数の間違いがあった事)	状	1通	廿五日	南	本家	11.7×18.3	半紙	封上書「本家 無事 南」	Ⅲ-373-81
709	頼杏坪書簡(かいふ屋への支払い, 多事困っている事)	状	1通	廿七日	みなみ	本家	14.4×23.3	諸口紙	封上書「本家 みなみ 御返事」	Ⅲ-373-82
710	頼杏坪書簡(臨時の入用がある時は佐一郎へ相談してほしい事)	状	1通	十六日	南	本家	14.3×8.0	諸口紙	封上書「本家 南」	Ⅲ-373-83
711	頼杏坪書簡(紀行文の批正依頼)	状	1通	二日	南	本家	13.7×13.8	諸口紙	封上書「本家 上ル 南」	Ⅲ-373-84

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
712	頼杏坪書簡(餘一に伝えて書物を貸してほしい事)	状	1通	廿九日	南	本家	12.2×26.5	半紙	封上書「本家 南」	III-373-85
713	頼杏坪書簡(甲斐殿より撥兎につき問合せ)	状	1通		南	本家	13.7×8.1	諸口紙	封上書「本家 南」, 後欠	III-373-86
714	頼杏坪書簡(茶の間の普請の事, 今年の入用の事)	状	1通	八日	南	本家	13.7×15.4	諸口紙	封上書「本家 ふし 南」	III-373-87
715	頼杏坪書簡(お三穂腹瀉の事)	状	1通		みなみ	本家	13.7×13.0	諸口紙	封上書「本家 みなみ 御返事申上」, 後欠	III-373-88
716	頼杏坪書簡(今朝の和歌の詞遣いにつき)	状	1通	十七日よ	みなみ	本家	13.9×16.4	諸口紙	封上書「本家 みなみ」, 二枚に剥離	III-373-89
717	頼杏坪書簡(茶山の遊芸日記が国郡志に必要なので貸してほしい事)	状	1通	八日	南	本家	13.9×6.7	諸口紙	封上書「本家 無事 南」, 端裏書(頼春水筆カ)『文章不宜候ものと覚へ申候所持無之候其外二も 先心当り無之候』	III-373-90
718	頼杏坪書簡(素読之下しらべにつき, 此方迄出かけ可被下候哉)	状	1通	廿二日	(頼杏坪)		12.3×10.6	半紙		III-378-1
719	頼惟清書簡(貴殿学者に成候事, 富士を見申したる事二つ相叶候事)	状	1通		(頼惟清)	(頼春水)	15.9×15.8	杉原紙	前後欠, 上部破損甚	III-196-12
720	頼支峰書簡(小生脚痛難儀歩行不相成療養の事)	状	1通	仲秋九日机燈而	復拝上	榎大人, 聿大人御同覧	15.7×92.3	楮紙		III-298-1
721	頼支峰書簡(御公儀表へ先君子之日本政記刊行願上ヶ申度につき)	状	1通	(十一月十五日頃)	弟復拝	兄様, 姉様御同覧	15.6×115.1	楮紙		III-298-2
722	頼支峰書簡(聿庵病気見舞・梅颯より支峰身分之事委敷申来候事)	状	1通	十月十二日認置	復頓首	大兄様侍史	16.4×71.7	楮紙	封筒(16.7×4.3)「大兄様 復二郎 拝啓 平安」, 同・裏「十月十二日 認置」	III-298-3
723	頼支峰書簡(通議御上木之義につき開板之振合など承度候事)	状	1通	四月十五日午認	又二郎拝上	餘一様御下	16.5×215.5	楮紙		III-298-4
724	頼支峰書簡(去冬霜月より公領越後水原にて小鬻建立に遭遇いたし候事)	状	1通	(嘉永5年)七月朔日	迂弟復拝	兄様, 姉様, 東三郎殿 御同覧	16.0×142.6	楮紙		III-298-5
725	頼支峰書簡(梨影死去につき供養の次第)	状	1通	(安政2年)霜月五日薄暮	又次郎再拝	大兄様, 東三郎殿 御同覧	16.5×95.6	楮紙		III-298-6
726	頼支峰書簡(大坂滞在の様子, 漢詩の批正依頼)	状	1通	六月六日	復拝	聿庵大人	16.5×108.2	楮紙	包紙(22.5×30.0, 三桎紙)「広島 頼餘一様 頼復二郎 平安 要用」, 同・裏「六月六日認 自大坂」	III-298-7
727	頼支峰書簡(外史につき色々心配こまり入候事, 通議校正の事)	状	1通	六月廿九日	又二郎拝上	兄様, 姉様, 東三郎との同覧	16.0×146.3	楮紙	封上書「兄様 又二郎 六月廿九日出」, 2枚に剥離	III-298-8
728	頼支峰書簡(山陽十三回忌の事, 御国元にて外史板刻裁許の事)	状	1通	(弘化元年)九月六日	復二郎拝	餘一様 御直披	16.0×88.5	楮紙	封上書「兄様 復二郎 拝上」	III-298-9
729	頼支峰書簡(新年挨拶, 通議板下出調仕候事)	状	1通	(弘化3年)正月廿八日	愚復拝	兄様	16.2×91.4	楮紙	封上書「兄様 又二郎拝」	III-298-10
730	頼支峰書簡(日本外史追々上木出調に相向申候)	状	1通	三月廿九日	復拝上	兄様侍史	15.6×136.4	楮紙	封上書「兄様 弟復拝啓 要用」	III-298-11

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
731	頼支峰書簡(亡大人御遺物御分配之事につき)	状	1通	三月廿日	復拝	聿庵大人玉梧下	15.2×79.5	楮紙	封上書「聿庵大人 復啓」	III-298-12
732	頼支峰書簡(関藤藤陰による野本萬春の訃報につき)	状	1通	六月四日	復拝上	兄様姉様 御同覧	15.7×116.7	楮紙	封上書「兄様 又次郎拝 平安」, 端裏書「明廿一日上発一書, 明便返事大坂託草々」	III-298-13
733	別啓用事(日本外史板刻御願, 御国元にて追々出来之由)	状	1通			(頼支峰カ)	16.3×23.3	楮紙	端裏に付紙(同筆)あり	III-298-14
734	頼支峰書簡(梨影七回忌の事, 諸国一統大豊作の事)	状	1通	(文久元年)九月五日	支峰	東三郎殿	16.0×116.3	三桎紙	端裏書「廣」	III-298-15
735	頼支峰書簡(蔵幅栗山先生遺墨拝借仕度事, 水戸藩浪士一橋候動静)	状	1通	十二月	頼又次郎, 四方	青賢足下 一読投火	16.5×195.0	楮紙	端裏書「杉巷」	III-298-16
736	誠軒書簡(口上 御恩借もの, 左之通御預ヶ申上候)	状	1通	六月六日	頼東三郎	頼又次郎様	14.8×35.2	杉原紙	封上書「富小路御池ル 頼又次郎様 頼東三郎 要用書風呂敷包添」, 頼支峰による返答書入(朱書)あり	III-298-17
737	御書下写(亡父襄, 尊王ノ志篤ク為祭資料金百円下賜候事)	状	1通	明治十四年三月廿一日	宮内省	京都平民 頼復二郎	15.7×20.1	杉原紙		III-298-18
738	頼支峰書簡(亡妹病中様子, 供物の礼)	状	1通	(弘化2年)	又二郎拝復	(頼聿庵)	15.9×44.2	楮紙	封上書「要用 又二郎拝復」, 後欠	III-299-6
739	頼支峰書簡(聿庵死去につき悔み状)	折紙	1通	(安政3年)九月十四日	又次郎	東三郎殿	17.6×49.0	杉原紙		III-317-56
740	頼支峰書簡(東三郎義, 学問出精するつもりなく, 京屋敷にてもふらふら致し困入候事)	状	1通	(安政5, 6年頃)七月九日	又次郎拝	御姉上様	15.8×131.3	三桎紙		III-299-60
741	頼支峰書簡(亡弟遺墨之事, 和宮御東行治定之事ほか)	状	1通	(文久元年)九月廿二日	復	東三郎殿	16.4×123.6	三桎紙		III-292-25
742	頼支峰書簡(外史一条御尋之件, 兄様御墓碣の件につき)	状	1通	(文久2年)五月九日	又次郎	東三郎殿	15.6×109.0	三桎紙		III-299-21
743	頼支峰書簡(昌平学教官一統免職など物議の事)	状	1通	(明治4年カ)二月十三日	(頼支峰)	姉様, 東三郎殿御同覧	15.9×115.3	三桎紙		III-299-26
744	頼支峰書簡(新年挨拶, 誠軒民事戸籍係拝命祝状)	状	1通	(明治5年)正月十四日夕	寡叔 復	東三郎賢姪研北	16.0×223.6	三桎紙		III-299-36
745	頼支峰書簡(春水大人師友志・在津紀事の版權許可相成候事)	状	1通	(明治9年カ)十月二日朝	又次郎	元啓殿	15.7×186.3	杉原紙	封筒(16.7×5.7)「芸州広島袋町 頼元啓殿 西京三本木上ノ丁 頼又次郎 至急要用平安」, 同・裏「十二月廿六日午前」, 端裏書(頼誠軒筆)「十一月五日達」	III-299-25
746	頼支峰書簡(西本証書写至急御郵送頼入候事)	状	1通	(明治10年頃)第一月十一日朝	又二郎	元啓殿	15.4×77.0	楮紙		III-291-6
747	封筒	状	1通	(明治11年)九月十日午後六時出発	頼又二郎	頼元啓殿	19.0×7.0	楮紙	表書「広島県下広島袋町 頼元啓殿 頼又二郎 大至急」, 同『書留』, 同・裏「九月十日午後六時出発 自 大坂中ノ島三丁目渡辺橋南詰花屋秀吉方」	III-299-111
748	頼支峰書簡(京都府より出庁の沙汰あり, 御褒調詞正大之事)	状	1通	(明治13年)四月六日夜	復	姉様, 元啓殿, お松との御同覧	15.7×123.6	杉原紙		III-299-39-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
749	頼支峰書簡(当府々立学校并小学校へ日本外史日本政記差出候段奇特につき賞状写)	状	1通	明治十三年八月廿七日	京都府	頼又二郎	24.5×34.2	半紙	端書「写」	Ⅲ-299-39-2
750	頼支峰書簡(北川猪太郎手紙にて本家借財驚愕いたし候事)	状	1通	(明治15年頃)正月十八日	又次郎	姉様, 元啓との, おまつとの	16.8×103.1	罨紙(竹紙)		Ⅲ-299-40
751	頼支峰書簡(宗家家屋修繕費の事, 弥次郎徴兵検査につき帰国申出の事)	状	1通	(明治17年)六月十六日夜認	復	誠軒主人	16.9×123.5	罨紙(竹紙)	封上書「杉巷行 復」	Ⅲ-299-51
752	頼支峰書簡(千春一周忌茶の子上封に御書認之義につき)	状	1通	(明治17年)三月三十一日	又次郎	元啓殿, おまつとの	15.2×146.2	杉原紙	封上書「元啓殿 又次郎」, 端裏書(頼誠軒筆)『四月一日出三日着』	Ⅲ-299-53
753	頼支峰書簡(弥次郎生年取消シ, 正敷生年申立仕度につき)	状	1通	(明治17年)三月十三日	又次郎	元啓との	17.0×82.2	竹紙		Ⅲ-299-54-1
754	頼支峰書簡(弥次郎生年届替之義につき愚意申進候)	状	1通	(明治17年3月13日)	寡叔	元啓殿	17.0×22.5	竹紙	Ⅲ-299-54-1の副書	Ⅲ-299-54-2
755	頼支峰書簡(達堂病死届之事, 弥二郎生年之事につき至急)	状	1通	(明治17年)六月十二日	復	元啓殿	15.9×112.0	竹紙	封筒(17.0×6.1)「広島県広島袋町 頼元啓殿 要用書」, 同・裏「六月十二日発 京都東三本木上之町頼又二郎」, 付紙(15.9×4.5, 同料紙)あり, 頼達堂養子履歴	Ⅲ-299-57
756	頼支峰書簡(徴兵検査につき弥次郎帰国の事, 家屋破損修履の事)	状	1通	(明治17年)七月廿四日夕	又次郎	元啓殿	15.4×82.7	杉原紙	封筒(17.0×6.6)にてⅢ-299-58-1~2を一括, 封筒「広島県広島袋町 頼元啓殿 平安大急」, 同・裏「七月廿四日夕 京都上京区三本木上之町壱番戸 頼又次郎」	Ⅲ-299-58-1
757	頼支峰書簡(世上不景気, 摺本稀少にて心細き事, 弥二郎産母病死の事)	状	1通	(明治時代)三月二日夜認	又次郎	姉様, 元啓殿, お松との御覧	16.5×213.0	三桎紙	端裏書「弍号」	Ⅲ-299-58-2
758	頼支峰書簡(誠軒病気見舞につき金十円さし送候事)	状	1通	(明治17年カ)三月十九日夕	又次郎	元啓殿	16.6×75.3	三桎紙		Ⅲ-299-73
759	頼支峰書簡(去ル十二月廿八日, 京都府庁にて宮内省より亡弟祭祀料下賜の事)	状	1通	(明治17年)正月	又次郎	姉様, 元啓殿, おまつとの御同覧	17.5×139.9	竹紙	封筒(17.5×6.7)「広島県下広島区袋町 頼元啓殿 京東三本木 頼又次郎 要件至急」, 同・裏「十七年三月十三日発ス」, 端書(頼誠軒筆)『同十六日返』	Ⅲ-299-77
760	頼支峰書簡(山田西本両氏より差戻候証書, 弥二郎名字につき)	状	1通	(明治18年頃)二月立春日	又次郎	元啓様	15.7×106.0	三桎紙(薄藍色)		Ⅲ-291-9
761	頼支峰書簡(西本一件につき貸借公訴の事, 竹原へ懇願肝要と存候事)	状	1通	(明治18年)二月廿四日	(頼支峰)	姉上様, 元啓殿	15.7×217.0	杉原紙		Ⅲ-299-28-1
762	書副肝要之事(西本氏一件ほか内外之利害得失之事につき)	状	1通	(明治18年2月24日)	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.8×90.4	杉原紙	Ⅲ-299-28-1の添書	Ⅲ-299-28-2
763	頼支峰書簡(誠軒療養の事, 弥次郎宮原の塾に通わせたき事)	状	1通	(明治18年)	支峰	元啓とのへ	16.8×123.6	罨紙(竹紙)	封上書「平信 支峰 元啓とのへ」, 2枚に切断	Ⅲ-299-37

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
764	頼支峰書簡(弥二郎徴兵被免大悦致候事, 元啓との建碑之事につき)	状	1通	(明治18年 カ)四月五日	又次郎	誠軒老姪, 弥二郎殿	16.6×81.8	雁皮紙	封筒(17.2×6.8)「広島県広島区袋町 頼元啓殿 頼又二郎 平安要用書」, 同・裏「京都東三本木上之丁 老番戸 四月六日発ス」	III-299-61
765	封筒	状	1通	(明治18年) 三月三十一日発	頼又二郎	頼元啓殿	17.3×6.2	楮紙	表書「芸州広島袋町 頼元啓殿 平安要用出」, (頼誠軒筆)『四月三日着』, 同・裏「三月三十一日発 京都三本木上ノ丁 頼又二郎」	III-299-108
766	封筒	状	1通	(明治19年) 九月廿二日 夕投函	頼又次郎	頼元啓殿	17.5×6.7	楮紙	封印「頼」1顆	III-349-1
767	頼支峰書簡(弥次郎義調兵惣調につき愚考申上る事)	状	1通	(明治)十九 年七月廿九 日夕	又次郎, 龍三	元啓との, 弥次郎との	15.4×134.4	杉原紙	封筒(16.5×6.4)にてIII-299-32-1~2を一括, 封筒「広島県広島区袋町 頼元啓殿 平安急用書」, 同・裏「三月廿二日夕発」『廿六日達』, 頼又次郎住所・氏名印あり, 包紙(22.9×12.5, 竹紙)「粗酒一杯 復 上」, 端裏書「元啓殿 寡叔方」	III-299-32-1
768	頼支峰書簡(暴風雨にて嶺松廬・松雨山房破損の事驚入候事)	状	1通	(明治19年) 九月廿二日	又次郎, 龍三	姉様, 元啓殿, おまつとの, 弥二郎との	17.1×77.8	竹紙	封筒(17.1×8.5)「広島県広島区袋町二百三拾二番邸 頼元啓殿 平安大急用」, 同・裏「七月三十日 京都上京区三本木上之町 一番戸 頼又次郎」	III-299-52
769	頼支峰書簡(弥二郎生年と徴兵制の事, 山陽・三樹三郎碑を長楽寺へ建立の事)	状	1通	(明治19年) 一月十三日 暁	又次郎	姉上様, 元啓殿, おまつとの御同らん	15.0×443.4	杉原紙	包紙(23.0×31.7, 三桎紙)「広島県広島袋町 頼元啓殿 平安要用書」, 同・裏「自京都東三本木上ノ丁 老番戸 頼又次郎 一月廿五日」, 端裏書「一」	III-299-93-1
770	頼支峰書簡(天子広島御巡幸の事, 弥次郎着丈の事)	状	1通	(明治19年) 正月十一日	又次郎ほか 4名	姉様, 元啓殿, お松とのへ	15.2×114.2	杉原紙	端裏書「二」, 付紙にて弥二郎の着物寸法の記述あり	III-299-93-2
771	頼支峰書簡(御地暴風雨人畜死傷多数につき見舞状)	状	1通	(明治19年) 九月十四日 午後	又次郎, 龍三	姉様, 元啓殿, おまつとの, 弥次郎殿同覧	15.2×67.6	杉原紙	封筒(17.2×6.7)「広島県広島区袋町百三拾二番邸 頼元啓殿 平安急用請乞回答」, 『九月十四日出 同十九日着』, 支峰住所・氏名印あり	III-299-96
772	封筒	状	1通	(明治)十九 年二月五日	頼又次郎	頼元啓殿	16.7×6.6	洋紙	表書「広島県広島袋町 頼元啓殿 平安要用書」, 同・裏「十九年二月五日」, 支峰住所・氏名印あり	III-299-113
773	頼支峰書簡(宗家家政救助の事, 貸地取除之義につき)	状	1通	丁亥(明治20 年)正月元日	支峰	姉様, 元啓殿, お松との, 弥二郎殿	23.4×32.3	罫紙(竹紙)		III-299-59
774	頼支峰書簡(邸内貸渡の事, 春風館と本家救助協議の事)	状	1通	(明治)第二 十年一月廿 日夕	又二郎	元啓殿, 弥次郎殿	15.2×73.6	楮紙		III-299-105
775	頼支峰書簡(弥次郎去月十五日, 仕官の志願ありて広島脱走につき)	状	1通	(明治)二十 一年六月八 日朝	又次郎	伯姉様, 元啓殿, お松とのへ	16.7×75.6	杉原紙	封筒(18.3×6.6)「広島袋町 頼元啓殿 頼又次郎 平信」, 同・裏「六月八日認 京師東三本木上之町」	III-299-82
776	封筒	状	1通	(明治22年) 一月廿八日 夕発	頼又次郎	頼元啓殿	17.5×6.2	洋紙	表書「広島県広島区袋町 頼元啓殿 一月廿八日夕発 平信」, (頼誠軒筆)『一月三十一日着』, 同・裏「京都三本木上ノ丁 頼又次郎」	III-299-109

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
777	〔包紙〕	状	1通	七月朔日認	頼又次郎	頼餘一様	24.8×33.5	半紙	朱文長方印「支峰」1顆、表書「芸州広島杉木小路 頼餘一様 頼又次郎 平安要用書」、同・裏「七月朔日認 自越後水原御陣屋内」	III-349-17
778	頼支峰書簡(葦汀兄清和韻之漢詩, 東京)	状	1通	(明治時代) 七月十六日夜即事	復	(頼誠軒)	17.1×23.1	竹紙		III-291-2
779	頼支峰書簡(当年北越滞留の事, 此茶右志之詠迄に呈上仕度候事)	状	1通	十一月廿四日燈下	復拝上	大兄様, 姉様, 東三郎との御同覧	16.4×99.4	楮紙		III-291-3
780	頼支峰書簡(口上 時候御見舞之しるし迄に進上仕候事)	状	1通	(明治時代) 九月十一日	又二郎	御姉様	15.3×23.2	楮紙		III-291-4
781	頼支峰書簡(杏坪・聿庵大人御病没年月日御調被下度事)	状	1通	(明治時代) 三月三十一日	復	元啓殿	15.2×94.2	杉原紙		III-291-5
782	頼支峰書簡(先般送籍, 御周旋につき礼状)	状	1通	(明治時代) 十二月廿日前一日	又次郎	姉様, 元啓殿, おつなどの御同覧	14.6×91.0	三桮紙(薄藍色)		III-291-8
783	頼支峰書簡(長滞留の礼, 竹原訪問の様子)	状	1通	(明治時代) 十一月四日夕方	又次郎	姉様, 元啓殿, お綱との御同覧	15.6×236.0	杉原紙		III-291-10-1
784	頼支峰書簡(副啓 兩人往来券ナルもの早く御越被下度事)	状	1通	(明治時代) 11月4日夕方	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.6×9.6	杉原紙		III-291-10-2
785	頼支峰書簡(牧・宮原へ御返書持参ほか帰京後の様子)	状	1通		(頼支峰か)	(頼聿庵)	15.2×23.3	楮紙		III-292-10
786	頼支峰書簡(市川仲之助の舎弟を娘婿とするにつき)	状	1通	(明治時代) 五月卅日	又次郎	元啓様, 彦七郎殿	15.8×140.6	三桮紙	端裏書「別件親展」	III-294-10
787	頼支峰書簡(大槻東陽訓蒙外史の事につき)	状	1通	(明治時代) 一月九日暁	復	元啓堅姪	26.9×38.0	雁皮紙		III-299-1
788	頼支峰書簡(両君御勉強・御詩作被下度事)	状	1通	明治時代	(頼支峰)	(頼誠軒)	23.4×9.2	罫紙(竹紙)		III-299-2
789	頼支峰書簡(古樸学事無怠致候事, 紅魚と梅花の礼ほか)	状	1通	(明治時代) 十二月十三日夜認	又次郎	姉様, 元啓殿, おまつとの	15.6×388.3	杉原紙	端裏書「第壹」	III-299-3-1
790	頼支峰書簡(弥次郎・万三郎衣類の事, 輔仁録目録写本の事)	状	1通	(明治時代) 12月13日	復	(頼誠軒ほか)	15.6×131.6	杉原紙	端裏書「第二」	III-299-3-2
791	追啓(先君御遺稿, 早々別擲にて差上候につき)	状	1通	霜月廿九日来	又二郎	兄様上	16.0×11.8	楮紙		III-299-5
792	頼支峰書簡(此方へ養子云々の義, 小著二冊上梓につき)	状	1通	(明治時代) 八月八日正午	軽復	彦七郎様, 元啓とのへ	16.8×126.3	三桮紙(薄赤・薄茶)	頭点(朱)	III-299-7

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
793	頼支峰書簡(古樸高木氏へ入塾の事, 此節外史校正につき, 写本一部措用仕度事)	状	1通	五月廿四日 暁	復	誠軒賢姪	16.5×151.3	三桎紙		III-299-9
794	別啓(藩幹譜摸写につき拝借仕度候事)	状	1通		(頼支峰)	(頼事庵)	16.0×16.7	楮紙		III-299-10
795	〔包紙〕	状	1通	八月十九日 発	頼又次郎	頼東三郎殿	30.6×39.6	楮紙	封上書「大坂広嶋御屋敷安井左源太様迄 広島杉木小路 頼東三郎殿 頼又次郎 要用平安」, 同・裏「八月十九日発 自京富小路押小路南 賃大坂迄済」	III-299-11
796	頼支峰書簡(古樸頗健康, 五百重君書中の西本愛次郎件甚以懸念也)	状	1通	(明治時代) 十一月廿七日 夜認	又次郎	五百重様, 御姉様, 元啓殿, お松との御同覧	15.5×311.7	杉原紙	封筒(17.1×5.8)「広島県広島区袋町 頼元啓殿 平安至急」, 同・裏「八月廿一日 京都新三本木上之町 頼又二郎」	III-299-12-1
797	頼支峰書簡(国産之半紙御分配頼入候事, 長州洋へ異船四艘参り戦争風説有之事)	状	1通		(頼支峰)	(頼誠軒)	15.4×53.0/ 15.4×51.4	竹紙	前後欠, 2枚に切断, 間に欠損部ありカ	III-299-13
798	頼支峰書簡(上京・熱海湯治の事, 交通申候ても御返事なきにつき)	状	1通	(明治時代) 七月三日 夜認	又次郎	御姉様, 元啓殿, お網との弥二郎との御同覧	15.7×159.4	楮紙	封筒(17.0×5.4)「芸州広島袋町 頼元啓殿 至急平安」, 端書(頼誠軒筆)『七月八日達』, 同・裏「七月四日発」, 頼又二郎の住所・氏名印あり	III-299-14
799	頼支峰書簡(妻死去後の様子, 一字の弔書もなく御存意承度事ほか)	状	1通	明治時代	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.7×116.0	竹紙	注記(朱), 後欠, 右端破損甚	III-299-15
800	頼支峰書簡(新年挨拶状, 受籍の件につき礼状ほか)	状	1通	(明治時代) 一月三日 夜燈下認	又次郎	姉様, 元啓殿, お網との, 弥次郎殿御同覧	15.9×161.1	三桎紙	封筒(17.5×6.0)「広島県下広島区袋町 頼元啓殿 平安要答」, 同・裏「一月四日午前発 京都新三本木上ノ町 頼又次郎」	III-299-16
801	頼支峰書簡(当方養子之義につき御尽力奉願上候事)	状	1通	(明治時代) 九月十日	又次郎	元啓殿	15.5×84.3	杉原紙		III-299-17
802	頼支峰書簡(蔵版事件, 原告と破談致し又々開戦の事)	状	1通	(明治時代) 四月初四日 午後	又次郎	元啓殿	16.7×115.6	三桎紙	封筒(17.5×6.0)「広島県下広島新川場町千二百三十番 頼元啓殿 無異要件貴酬」, 同・裏「四月四日午後発 京都東三本木上之町 頼又次郎」, 端書(頼誠軒筆)『七日達』	III-299-18
803	頼支峰書簡(送籍証之義につき礼状, 蔵版事件和済の事)	状	1通	(明治時代) 十一月一日	又次郎	元啓殿	15.4×93.0	杉原紙	「頼」1顆, 封上書「頼元啓殿 頼又次郎 受籍証相添」, 端裏書(頼誠軒筆)『十一月五日』	III-299-19-1
804	書添肝要御尋申度事(誠軒痲病の由につき)	状	1通	(明治時代) 11月1日)	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.4×21.3	杉原紙		III-299-19-2
805	頼支峰書簡(蔵版事件於大坂裁判所落着の事ほか)	状	1通	(明治時代) 正月十一日	又次郎	姉様, 元啓殿, おつなとの, 弥次郎との御同覧	15.9×192.1	雁皮紙		III-299-20
806	頼支峰書簡(蔵版事件裁判後も小生困却につき)	状	1通	(明治時代) 二月十五日 夜	又次郎	精軒賢姪	16.0×111.8	雁皮紙		III-299-22

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
807	頼支峰書簡(蔵版裁判中の事, 京都表に一家分立の義につき)	状	1通	(明治時代)十月五日	又次郎	元啓殿	15.6×87.5	竹紙(汽車の絵摺り)		Ⅲ-299-23
808	頼支峰書簡(蔵版判決延引の事, 当地虎列剌病流行の事)	状	1通	(明治時代)九月五日	又次郎	元啓殿研北	16.0×138.5	雁皮紙		Ⅲ-299-24
809	頼支峰書簡(大亦先生吐血病にて訃音到来の事ほか)	状	1通	十二月廿九日夕	又次郎	姉様, 元啓殿, おまつとの, 弥次郎殿	16.7×87.7	杉原紙		Ⅲ-299-27
810	頼支峰書簡(去秋私義も御国仕籍に列し候につき)	状	1通	(明治時代)正月九日	又次郎	東三郎殿	16.1×137.5	三桮紙		Ⅲ-299-29
811	頼支峰書簡(両脚麻痺いたし有馬へ湯治に出浮候事)	状	1通	(明治時代)十一月廿四日暁	又二郎	姉様, 元啓殿, お松との御同覧	15.8×192.1	杉原紙		Ⅲ-299-30
812	頼支峰書簡(誠軒奉職祝状, 聿庵墓碑面の事)	状	1通	(明治時代)八月十九日	又次郎	お姉様, 東三郎殿御同覧	15.9×66.3	三桮紙		Ⅲ-299-31
813	頼支峰書簡(聿庵法事の事, 京都の情勢)	状	1通	八月九日夜	復	頼誠賢姪	15.9×142.5	三桮紙		Ⅲ-299-33
814	頼支峰書簡(西本愛次郎一件につき, 竹原へ度々駈合候事)	状	1通	(明治時代)一月廿三日夜	復	松雨山房主人	15.4×140.6	杉原紙	注記(朱)	Ⅲ-299-34
815	頼支峰書簡(弥次郎養育の様子, 市川都賀夫老人より宗家貸借につき来書の事)	状	1通	(明治13年頃)第一月廿三日夜	又次郎	元啓殿	15.8×219.7	楮紙		Ⅲ-299-35
816	頼支峰書簡(頼宗家援助につき竹原へ小生依頼の事ほか)	状	1通	(明治時代)一月九日夜	又次郎	五百重様, 姉様, 元啓殿, おまつとの同覧	15.2×101.2	杉原紙	注記(付紙に墨)	Ⅲ-299-38
817	頼支峰書簡(怪我治療のため一軸売払い承知の事, 堺達堂小祥につき展墓の事)	状	1通	(明治時代)六月十四日	復	元啓殿	15.4×77.7	杉原紙	封筒(17.1×6.5)「芸州広島袋町 頼元啓殿 平安至急要酬」, 同・裏「十九年三月十九日発」, 端書(頼誠軒筆)『同二十三日達』, 支峰の住所・氏名印あり	Ⅲ-299-41
818	頼支峰書簡(誠軒頭瘡難渋につき見舞い状)	状	1通	八月六日初更前	頼又次郎	頼東三郎殿	15.8×41.5	三桮紙	紙袋(28.1×19.9)「支峰先生」, 封上書「頼東三郎殿 頼又次郎 貴答」	Ⅲ-299-42
819	頼支峰書簡(広島来書につき御咄仕度, 御出被下度候)	状	1通	七月四日	同又次郎	頼東三郎殿	16.2×34.2	楮紙	封上書「頼東三郎殿 同又次郎 要用」	Ⅲ-299-43
820	頼支峰書簡(龍三, 竹原出張人と万端御協議肝要と存候事)	状	1通	(明治時代)三月九日	又次郎	元啓殿	15.7×60.1	杉原紙	封筒(16.2×5.1)「元啓足下 復 親披」, 端裏書「杉巷」	Ⅲ-299-44
821	頼支峰書簡(弥次郎も流行麻疹無之事, 杏坪・聿庵大人没年の事)	状	1通	(明治時代)四月九日	復	元啓殿	15.1×73.4	杉原紙	封筒(17.0×6.2)「広島県広島袋町 頼元啓殿 至急要件 平安」, 同・裏「六月十五日発」, 端書(頼誠軒筆)『同十七日達』, 封印・支峰住所・氏名印あり, 端裏書「第一」	Ⅲ-299-45-1
822	頼支峰書簡(浅野学校県庁へ御引渡につき教員如何相成候哉)	状	1通	(明治時代)六月九日追書	寡叔方	元啓殿	15.3×46.0	杉原紙	端裏書「第二 元啓殿 寡叔方」	Ⅲ-299-45-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
823	頼支峰書簡(展墓の事につき何卒明日御操合御越可被下候)	状	1通	(明治時代) 九月廿四日 夜九時認	復	誠軒賢姪	14.4×44.0	楮紙	封上書「誠軒賢姪 復」	III-299-46
824	頼支峰書簡(家政方法書付一見, 虚飾ナキ様御示被下度候事)	状	1通	(明治時代) 二月十四日 夜	又次郎	元啓との	13.9×91.5	原稿罫紙(雁皮紙)	原稿用紙を横半切にし貼継, 尚々書は朱書	III-299-47
825	頼支峰書簡(御上せ一軸, 杏翁詩稿へ山陽翁評批のものにて金五円さし上候事)	状	1通	(明治時代) 六月廿五日 夕	又次郎	元啓との	15.4×44.1	杉原紙		III-299-48
826	頼支峰書簡(家事改革につき, 五條思案致候事)	状	1通	明治時代	(頼支峰)	(頼誠軒)	14.2×323.7	罫紙(三桎紙)	別紙(14.3×2.4, 三桎紙)「三老人の協議之上此書状御火中は祈禍根ヲ立候」	III-299-49
827	頼支峰書簡(誠軒加茂郡松木村出教の事, 家政を竹原より御助勢申出の事)	状	1通	(明治時代) 三月九日 暁	寡叔より	元啓賢姪	15.9×144.8	杉原紙		III-299-50
828	頼支峰書簡(小生送籍の事, 蔵版事件大坂裁判所にて吟味中の事)	状	1通	(明治時代) 十月廿一日	又次郎	元啓殿	15.6×112.4	竹紙(汽車絵摺)		III-299-55
829	[包紙]	状	1通	明治時代	頼又次郎	頼元啓殿	35.0×15.9	竹紙	封上書「頼元啓殿 頼又次郎 詩稿入」, 同・裏「秦君より御届方頼上候」	III-299-56
830	頼支峰書簡(宗家活計急逼之趣につき, 春水大人取輯本借用仕度事)	状	1通	(明治時代) 八月廿一日 夜認	又次郎	元啓殿	13.0×104.0	罫紙(三桎紙)	封上書「広嶋 頼元啓殿 西京 頼又次郎 要答平安 佐々木氏へ託寄ス」	III-299-62
831	頼支峰書簡(小子不快につき火事返礼の代参頼度候事)	状	1通	七月朔日 当賀	又二郎	東三郎殿	12.0×28.6	竹紙	封上書「東三郎殿 又二郎 要用」	III-299-63
832	頼支峰書簡(禦寒之為, 猪肉購被下て拙庵にて御同酔いたし度候事)	状	1通	十一月九日	頼又次郎	頼東三郎殿	16.4×32.8	三桎紙	封上書「筒井様ニ而 頼東三郎殿 頼又次郎 当用」	III-299-64
833	頼支峰書簡(老拙事, 不相変地誌編輯従事, 昨年末より国史編輯へも兼勤の事)	状	1通	明治時代カ	京	杉巷主人	16.0×27.5	罫紙(竹紙)	封上書「杉巷主人 京」, 後欠カ	III-299-65
834	頼支峰書簡(妻君御祝義, 伸児香奠を御贈申候事)	状	1通	(明治時代) 五月卅日 午前	支峰	誠軒賢姪	16.0×112.9	三桎紙	端裏書(頼誠軒筆)「六月二日 午後一字着」	III-299-66
835	頼支峰書簡(副啓 婦人は疑心深きにつき, 諸事打明候事)	状	1通	明治時代	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.7×38.5	楮紙		III-299-67
836	頼支峰書簡(脚気につき歩行六ヶ敷由, 案じ居候)	状	1通	七月十九日	頼又次郎	頼東三郎殿	15.8×31.9	三桎紙	封上書「頼東三郎殿 頼又次郎 奉復」	III-299-68
837	頼支峰書簡(御登セの麻上下, 外史稿本ほか落手仕候事)	状	1通	明治時代カ	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.7×71.5	楮紙	後欠	III-299-69
838	頼支峰書簡(神事前掃除もいたしたく御助力頼みたき事ほか)	状	1通	六月四日	頼又次郎	頼東三郎殿	15.6×22.1	杉原紙	封上書「頼東三郎殿 親目 頼又次郎」	III-299-70
839	頼支峰書簡(書副緊要之事, 地券抵当のことにつき)	状	1通	明治時代	(頼支峰)	(頼誠軒)	15.2×45.7	杉原紙	端書裏「火中々々」	III-299-71

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
840	頼支峰書簡(竹原来書の事, 西本一件・林次郎一件の事)	状	1通	(明治時代)十二月十六日夜認	又次郎	元啓とのへ, 猪太郎君, 五百重君	15.6×157.7	杉原紙	尚々書は朱書	III-299-72
841	頼支峰書簡(僕家養子一件, 送籍の義につき)	状	1通	(明治時代)九月廿二日午後	又次郎	誠軒賢姪侍書	15.5×88.3	杉原紙	封筒(16.7×6.0)「広島県下広島袋町 頼元啓殿 至急要件」, 同・裏「九月廿二日午後出発 廿六日着, 大坂中ノ嶋三丁目渡辺橋南詰, 花屋秀吉方止宿, 頼又二郎」	III-299-74
842	頼支峰書簡(西本愛次郎一件につき, 竹原の助補の事, 春水大人小学題辞摺本一部所望の事)	状	1通	(明治時代)十二月十七日夜四時三十分認	又次郎	五百重様, 元啓殿御同覧	15.6×129.9	杉原紙	尚々書は朱書	III-299-75
843	頼支峰書簡(廉次郎死去につき驚入候事)	状	1通	(明治時代)八月八日	復	元啓との	15.8×145.1	杉原紙	封筒(17.0×5.5)にてIII-299-76-1~3を一括, 封筒「広島県広島区袋町 頼元啓殿 平安要件」, 同・裏「八月九日 京都新三本木上ノ町 頼又二郎」	III-299-76-1
844	頼支峰書簡(五言絶句 姥懐老桜ほか二首)	状	1通	明治時代カ	復 未定草		22.5×28.0	竹紙	端裏書「別題」, III-299-76-3の要項に基づく作品, III-299-76-1「頼支峰書簡」との関連性は不明	III-299-76-2
845	奥山吟詠募輯要項	状	1通	明治十三年一月 日	松久芥舟謹識		17.9×35.0	竹紙		III-299-76-3
846	頼支峰書簡(西本愛次郎一件につき, 本家補助之事私が首を垂れて乞哀候義にて)	状	1通	(明治14年カ)十一月十五日認	又次郎	五百重様, 元啓殿御同覧	15.6×463.7	杉原紙	封上書「五百重様 元啓殿 御同覧後 丙口ニ付セ 又次郎」	III-299-78
847	頼支峰書簡(誠軒療養の事, 弥次郎学事の事)	状	1通	第一月廿四日夜	又次郎	元啓との	15.4×123.0	罨紙(竹紙)		III-299-79
848	頼支峰書簡(長々病気につき困難の事, 老円九十五銭進上仕候事)	状	1通	(明治時代)四月八日	又次郎	姉貴様, 元啓殿, おまつとの, 弥次郎との	16.8×150.9	杉原紙	封筒(18.5×6.5)「広島県広島区袋町 頼元啓殿 平信要件」, 同・裏「京都上京区二拾貳組 三本木上ノ町 頼又次郎 九月廿四日発」	III-299-80
849	封筒	状	1通	(明治時代)二月十六日出	頼又二郎	頼元啓殿	16.2×5.3	洋紙	表書「広島県広島袋町 頼元啓殿 要用至急」, 同・裏「二月十六日出 京都東三本木上ノ丁 頼又二郎」	III-299-81
850	頼支峰書簡(口上 東三郎罷帰不申につき, 御尋申上る書付控)	状	1通	閏月十七日	頼又次郎	筒井様御支配人衆中様	16.2×24.8	三桎紙	封上書「筒井様御支配人衆中様 頼又次郎 当用」	III-299-83
851	頼支峰書簡(口上 中西へ御出御催促可被下候事)	状	1通	九月廿九日	頼又次郎	頼東三郎殿	14.5×28.0	楮紙	封上書「東洞院四条下ル広島御屋敷 筒井様方ニ而 頼東三郎殿 頼又次郎」	III-299-84
852	頼支峰書簡(急用書遣し候につき桜井氏へ御手渡し被下度事)	状	1通	十月十三日	又次郎	東三郎殿	16.6×21.0	楮紙	封上書「東三郎殿 支峰」	III-299-85
853	頼支峰書簡(口上 礼服袴九品預りの事, 夷般の事)	状	1通	十二日	又次郎	東三郎との	15.9×17.9	杉原紙	封上書「東三郎との 又次郎」	III-299-86
854	頼支峰書簡(口上 座敷障子張替依頼, 渡辺氏広島発足の事)	状	1通		頼又次郎	頼東三郎殿	15.9×34.1	三桎紙	封上書「頼東三郎殿 頼又次郎 瑣用」, 同・裏「此含英一冊借遣し候間先頃遣置候へ共含英式冊此ものニ御こし可被下候」	III-299-87
855	頼支峰書簡(口上 今朝ハ早々 御出可被下候事)	状	1通	閏月五日	同又次郎	頼東三郎殿へ	16.2×22.3	三桎紙	封上書「頼東三郎殿へ 同又次郎 当用」	III-299-88

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
856	頼支峰書簡(口上 妻義, 更に病勢劇敷候につき御出可被下候)	状	1通	廿六日	頼又次郎	頼東三郎殿	15.7×23.6	杉原紙	封上書「頼東三郎殿 頼又次郎 貴答」	III-299-89
857	頼支峰書簡(昨廿日御差立電報の御申越につき)	状	1通	(明治時代) 二月廿一日	復	元啓殿	15.4×52.7	杉原紙		III-299-90
858	頼支峰書簡(京都旅籠屋周旋の事, 竹原来書の事)	状	1通	三月廿一日	同又次郎	頼東三郎殿	16.2×39.7	楮紙	封上書「頼東三郎殿 同又次郎 貴答」	III-299-91
859	頼支峰書簡(竹原より貴家へ女子を御預申候義につき)	状	1通	(明治時代) 十二月十五日夕認	復	元啓殿	14.9×103.7	竹紙		III-299-92
860	頼支峰書簡(蝶魚の礼, 弥二郎学事の事, 太政官改革の事)	状	1通	二月十三日夜認 殆十二時	又次郎	元啓殿机下	15.6×156.6	三桎紙(薄藍色)	端書裏「壹號」, 「三月三日出 同六日着」	III-299-94
861	頼支峰書簡(梅颯見舞状, 江都書状落手仕候事)	状	1通	七月卅日認	又二郎拜上	榎大人, 大兄様, あね様, 東三郎殿御同覽	13.2×213.2	楮紙	封上書「平安拜啓 復二郎」	III-299-95
862	頼支峰書簡(佐野氏へ代銀いまだ納無之由につき)	状	1通	六月廿二日	頼又次郎	頼東三郎殿	15.8×44.5	杉原紙	封上書「広島屋敷ニ而 頼東三郎殿 頼又次郎 急用」, 同・裏「修吉郎持参」	III-299-97
863	頼支峰書簡(貴地之用事にテ電報有之, 其趣意につき伺いたく候事)	状	1通	(明治時代) 二月廿七日夜五更認	支峰	精軒賢姪	15.6×77.6	杉原紙	未使用の一錢切手2枚同封	III-299-98
864	頼支峰書簡(六柳参り喫茶, 飲酒の事)	状	1通	(明治時代) 十月十七日	復	元啓殿	24.1×34.1	半紙		III-299-99
865	頼支峰書簡(外史補義の願書を筆工へ取りに御出可被下候)	状	1通	十七日	同又次郎	頼東三郎殿	16.2×25.5	三桎紙	封上書「頼東三郎殿 同又次郎 要用」	III-299-101
866	頼支峰書簡(金子三両漸々手に入り御用立申候事)	状	1通	臘念	又次郎	東三郎殿	16.2×38.4	三桎紙	封上書「東三郎殿 又次郎 金三両添」	III-299-102
867	頼支峰書簡(諸侯上京につき, 京地形勢の事)	状	1通		(頼支峰)	(頼誠軒カ)	15.6×53.4	三桎紙	前後欠カ	III-299-103
868	頼支峰書簡(竹原簾二郎の事, さてさて驚入候事ほか)	状	1通	明治時代	又次郎	姉様, 元啓との, お綱, 弥二郎との	24.9×32.5	半紙		III-299-104
869	頼支峰書簡(家政改革趣法の事, 西本借財高並に林二郎貸金高につき)	状	1通	(明治時代) 十二月廿六日夜認	又次郎	五百重様, 元啓殿	15.1×123.2	楮紙		III-299-106
870	頼支峰書簡(若殿様長州異船掃攘之事御応援被仰付候義につき)	状	1通	六月十九日 晡時渾汗而書	愚叔復	子明賢姪	15.8×169.3	三桎紙		III-299-107
871	封筒	状	1通	(明治時代) 六月廿九日 発	頼又次郎	頼元啓殿	16.9×6.0	機械漉紙	表書「広島県広島区袋町 頼元啓殿 平信急用」, 同・裏「六月廿九日発京都三本木上ノ丁 頼又次郎」, 同(頼誠軒筆)「七月五日達, □度ノ分六月十二日」	III-299-110

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
872	封筒	状	1通	(明治時代) 四月八日認	又次郎	元啓殿, 弥次郎殿	17.8×6.7	機械漉紙	表書「元啓殿・弥次郎殿 又次郎」, 同・裏「四月八日認」	III-299-112
873	副啓(中野氏舎弟東三郎親類と申御出被成候事)	状	1通	明治時代カ	(頼支峰カ)	(広島頼家)	16.5×27.5	楮紙	端裏書「三通之内」	III-312-14
874	頼誠軒書簡(私義御用につき御国江被差戻候事)	状	1通	(嘉永3年カ) 五月朔日	頼東三郎	頼又次郎様	12.3×45.6	半紙	封上書「新烏丸二条上ル 頼又次郎様 頼東三郎 内用書」	III-290-17
875	頼誠軒書簡(結構之御看, 愚父へ御恵被成下辱拝受仕候)	状	1通	十一月四日	(頼誠軒)		14.3×34.6	諸口紙	端裏書「十一月四日」, 校訂(墨)	III-243-21
876	頼誠軒書簡(今度妹儀, 御縁組御内約相済候につき)	状	1通	四月吉辰	頼東三郎	渡辺又三様	16.6×124.5	楮紙	封上書「渡辺又三様 頼東三郎 要用御答」	III-290-25
877	頼誠軒書簡(証紙今朝受取状相附差出候事)	状	1通	十月初六	頼東三郎	山本口兵衛様	14.0×86.4	諸口紙	封上書「山本口兵衛様 頼東三郎要用差向義」	III-290-28
878	頼誠軒書簡(御掛札書認義, 腰痛難義中につき不出来之事)	状	1通	二月三日	東三郎	盛登様	14.3×102.6	諸口紙	封上書「盛登様 東三郎 要用」	III-290-29-1
879	頼誠軒書簡(御掛札書認義, 腰痛難義中につき不出来之事)	状	1通	二月三日	東三郎	盛登様	14.3×54.1	諸口紙	封上書「盛登様 東三郎 要用」	III-290-29-2
880	子明書簡(要旨 智明様お亀殿 御上京相成候由につき書状控)	状	1通	(明治初期カ)	尽年雅友子明		16.6×37.0	竹紙(絵摺便箋)	校訂(墨)	III-290-60
881	頼誠軒書簡(別紙秘蔵之品にて借銀申込み)	折紙	1通	六月十六日	東三郎	達助様	15.9×44.5	中杉原紙	校訂(墨)	III-290-64
882	頼誠軒書簡(毎々乍気毒飯米致借用度候)	状	1通	端午前二日	頼誠軒	冷漪楼主人	24.8×34.2	半紙	封上書「冷漪楼主人 頼誠軒 内用差向義 親披」, 同・裏「略封 千恕」	III-299-100
883	頼誠軒書簡(昨秋叔母様死去の由, 驚入候事)	状	1通	明治時代カ	(頼誠軒)		16.1×24.8	三桮紙(黄染)	端裏書「津川縁組, 仲父, 下書」	III-299-136
884	頼景讓書簡(春水有馬入湯保養の事, 辛嶋塩井書状の事)	状	1通	(文化10年カ)	元鼎拝	家大人	14.4×41./ 14.4×22.5	諸口紙	封上書「家大人 元鼎拝 無事」, 2枚に切断, 間に欠損あり	III-184-1
885	頼景讓書簡(家翁和亭の御印の事, 御手刻奉頼候事)	状	1通		(頼景讓カ)		15.0×7.7	楮紙		III-366-17
886	頼達堂書簡(私義不埒重畳仕候につき詫状)	状	1通	(天保9年)	鉦口死呈	聿庵大人座下	14.4×45.3	諸口紙	「私当年廿四歳ニ相成」との記載あり	III-378-14
887	頼達堂書簡(江戸の様子, 再度大坂迄帰候積りの事)	状	1通	(天保14年カ) 四月十一日	三千三拝復	梅大人, 聿大人	11.9×60.6	半紙		III-378-15
888	頼達堂書簡(内密御親目, 士族の遺籍につき)	状	1通	(明治6年)五月卅一日	鉦	廉次郎様	16.7×130.2	楮紙	端裏書(頼葦汀筆)「癸酉六月八日栗忠便至」	III-185-4
889	頼達堂書簡(別啓 私遺籍, 士族より商に变じ候につき)	状	1通	(明治6年)五月卅一日六二日	鉦	廉次郎様	16.7×40.9	楮紙	端裏書(頼葦汀筆)「癸酉六月八日栗忠便至」	III-185-5
890	頼達堂書簡(士族の分籍平民となる訳を迅速に御返事可被下候)	状	1通	(明治6年)十一月一日	鉦	元啓様	16.2×43.4	楮紙	前欠カ	III-185-6

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
891	頼達堂書簡(遺籍の事, 春水・梅颯大人より拝領の品返上の事)	状	1通	(明治6年カ)五月廿八日	鉷	元啓様	16.4×48.0	三桎紙(薄藍色)		III-185-7
892	頼達堂書簡(聿庵二十五回忌法事の事, 茶の子の礼)	状	1通	(明治13年)十二月三日	鉷	元啓様	15.0×71.2	楮紙	端裏書「袋町」	III-185-8
893	頼達堂書簡(山陽翁之印影被送下御懇情難有永蔵仕候)	状	1通	(明治時代)二月一日	鉷	元啓様	15.2×87.2	三桎紙	封筒(18.0×6.3)「明治十七年六月十一日没 達堂君絶筆書簡」, 端裏書(頼誠軒筆)「明治十七年六月十一日没」	III-185-3
894	頼達堂書簡(万三郎なる人物, 頼家摘宗と詐称し路銀奪い去る事)	状	1通	(明治時代)七月一日午前十時	鉷	元啓様, 三郎様, 五百重様	16.3×92.9	楮紙		III-185-9
895	頼達堂書簡(送籍御面倒被下難有奉存候)	状	1通	(明治時代)十月廿九日	鉷	元啓様	24.2×18.8	罨紙(楮紙)	端書「界戸長ノ受取書ハ戸長方共御地戸長へ別段差出シ申候, 左様御承知可被下候」	III-293-7
896	頼達堂書簡(出島砂糖進上の事)	状	1通	七月廿一日	三千三	梅颯大人, 聿庵大人	15.6×39.0	三桎紙(薄藍色)	前欠	III-378-16
897	頼伝五郎書簡(お十殿も御無事に御肥立被成候由)	状	1通	(寛政元年)	頼伝五郎	本家御新造様	13.2×30.0	楮紙	封上書「本家 御新造様 頼伝五郎 人々御中」, 後欠	III-377-24
898	頼伝五郎書簡(産後見舞状, 江戸の春水より来書の事)	状	1通	(寛政元年)	(頼伝五郎)	(頼梅颯)	14.2×35.5	諸口紙	後欠, 2枚に剥離	III-377-45
899	頼伝五郎書簡(床次郎(景讓)無事肥立の事, 当年, 浜方大不景気の事)	状	1通	(寛政2年カ)	(頼伝五郎)	(頼杏坪カ)	14.5×30.8	諸口紙	後欠	III-377-46
900	頼伝五郎書簡(お直様へ御悦文, 御はなむけの印進上致候事)	状	1通	(寛政5年)	(頼伝五郎)	(頼梅颯)	13.8×42.5	諸口紙	2枚に剥離, 後欠	III-376-21
901	頼伝五郎書簡(当四日塩谷開講(竹原書院創設)の事)	状	1通	(寛政5年2月4日)	頼伝五郎	(頼春水)	13.4×19.1	楮紙	前欠	III-377-16
902	頼伝五郎書簡(大二郎様御無事御肥立被成候と存候)	状	1通	(寛政6年)閏霜月朔日調置	頼伝五郎	頼久太郎殿	13.7×36.6	諸口紙	封上書「頼久太郎殿 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 閏十一月四月出久八郎便」, 虫損大	III-377-8
903	頼伝五郎書簡(大二郎産後見舞状)	状	1通	(寛政6年)神無月十一日	伝五郎	頼お志津様	14.6×57.0	諸口紙	封上書「頼お志津様 伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 自竹原」	III-377-33
904	頼伝五郎書簡(久太郎竹原保養滞在の事)	状	1通	(寛政6年)九月[]	頼伝五郎	(頼春水)	13.5×43.8	諸口紙	後欠, 日付以降は欠損	III-377-42
905	頼伝五郎書簡(熊吉お唯無事, 米山寺春風館へ参候事)	状	1通	(寛政8年カ)五月十一日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.8×52.2	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 自竹原」	III-377-27
906	頼伝五郎書簡(大二郎殿痲瘡順快之由お十殿, 一郎殿も無事之由, 大慶存候)	状	1通	(寛政8年)五月十七日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	14.0×41.2	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 自竹原」	III-377-28
907	頼伝五郎書簡(大二郎殿痲瘡につき昼夜噂いたし居申候)	状	1通	(寛政8年)五月廿五日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.4×42.7	楮紙	2枚に剥離	III-377-29
908	頼伝五郎書簡(お十痲瘡かるく安心の事, 竹原大水にて橋落下の事)	状	1通	(寛政8年)六月七日夜九ツ時	頼伝五郎	頼弥太郎殿, 頼久太郎殿	13.3×30.5	楮紙	封上書「頼弥太郎殿 頼久太郎殿 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 自竹原」	III-377-32

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
909	頼伝五郎書簡(久太郎元服につき祝儀状)	折紙	1通	(寛政8年)二月三日	頼伝五郎	頼弥太郎殿、頼久太郎殿	14.6×44.6	諸口紙		III-377-37
910	頼伝五郎書簡(久太郎江戸遊学の事、春風妻出産の事)	状	1通	(寛政9年)水無月廿五日	頼伝五郎	本家頼御新造様	13.8×95.1	諸口紙		III-377-2
911	頼伝五郎書簡(江戸行途上、杏坪・山陽竹原滞在の事ほか)	状	1通	(寛政9年)四月十六日	頼伝五郎	本家頼御新造様	13.4×92.9	諸口紙	封上書「本家 頼御新造様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原方」	III-377-5
912	頼伝五郎書簡(江戸行途上、何卒此元へ御立寄下され候様御取斗可被下候)	状	1通	(寛政9年)二月六日	頼伝五郎	本家頼御新造様	14.4×60.2	諸口紙	封上書「本家 頼御新造様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「無異 自竹原」、端裏書(頼梅颯筆)「叔父大人御手書」	III-377-7
913	頼伝五郎書簡(久太郎江戸仕度につき単物手拭錢別に進上の事)	状	1通	(寛政9年)二月八日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	14.3×61.1	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 自竹原方 外こり一ツ添」	III-377-34
914	頼伝五郎書簡(梅颯産後見舞、杏坪江戸土産の礼)	状	1通	(寛政10年)	頼伝五郎	頼弥太郎殿	14.0×59.0	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 自竹原」、後欠	III-377-19
915	頼伝五郎書簡(久太郎殿無異御帰宅、大慶奉存候)	状	1通	(寛政10年カ)	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.0×24.7	楮紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 要用」、同・裏「平安 竹原」、端裏書「弥太郎殿 万四郎殿 伝五郎」	III-377-20
916	頼伝五郎書簡(熊吉、お唯丈夫の事お順殿病人親切に看護の事)	状	1通	(寛政8年カ)十月十一日	頼伝五郎	頼弥太郎殿、頼万四郎殿	13.7×65.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼万四郎殿 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原口」	III-377-35
917	頼伝五郎書簡(尚々 久太郎殿御新婦へよろ敷御心得被成候よし)	状	1通	(寛政11年)	頼伝五郎	本家頼御新造様	14.5×10.3	諸口紙	封上書「本家 頼御新造様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 自竹原」、尚々書と封上書のみ残っている	III-377-14
918	頼伝五郎書簡(お民事、安産いたし男子出生の事)	状	1通	(寛政12年)六月十五日	頼伝五郎	本家 奥方様	14.5×69.5	諸口紙	封上書「本家 奥方様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原方」	III-377-11
919	頼伝五郎書簡(夜前々千齡不快、吐瀉難儀の事)	状	1通	(寛政12年カ)四月十五日	頼伝五郎	頼万四郎殿	14.0×65.0	諸口紙		III-377-12
920	頼伝五郎書簡(山陽と久振りに対面の事、景讓病状の事)	状	1通	十月朔夜	伝五郎	権次様	13.8×56.3	諸口紙		III-294-2
921	頼伝五郎書簡(口上 京橋辺土手へ伊助殿御頼可被下候)	状	1通	七月廿六日	頼伝五郎	頼御新造様	13.7×24.1	諸口紙	封上書「本家 頼御新造様 頼伝五郎」、同・裏「平安 用事 白竹原」	III-377-1
922	頼伝五郎書簡(口上 尾藤奥様も御全快之由)	状	1通	八月十七日	頼伝五郎	本家御新造様	13.8×27.9	諸口紙	封上書「本家 御新造様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 自竹原」	III-377-3
923	頼伝五郎書簡(春風館子供の疱瘡軽き事、尾藤奥様追々御全快の事)	状	1通	十月廿五日	頼伝五郎	本家御新造様	14.5×62.0	諸口紙	封上書「本家御新造様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安竹原方」	III-377-4
924	頼伝五郎書簡(当五月御下り被成候由、御立寄相待居候)	状	1通	三月四日	頼伝五郎	頼弥太郎様	13.0×17.6	楮紙	封上書「頼弥太郎様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原方 三月四日出ス」	III-377-6
925	頼伝五郎書簡(寒中見舞状)	状	1通	十二月十五日	頼伝五郎	頼久太郎殿	13.6×35.1	諸口紙	封上書「頼久太郎殿 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原方」	III-377-9
926	頼伝五郎書簡(春水首尾宜敷御勤の事久太郎先に快方にて候事)	状	1通	五月廿七日	頼伝五郎	本家 御奥方様	14.5×66.1	諸口紙	封上書「本家 御奥方様 頼伝五郎 人々御中」、同・裏「平安 竹原方」	III-377-10
927	頼伝五郎書簡(残暑見舞状)	状	1通	七月廿一日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.3×19.4	楮紙	前欠	III-377-15
928	頼伝五郎書簡(春風館産後新子無事肥立の事)	状	1通	九月十三日九ツ時	頼伝五郎	弥太郎様	14.0×37.5	諸口紙	封上書「三原二而入手 頼弥太郎様 頼伝五郎 用言」、同・裏「平安 竹原方」	III-377-17

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
929	頼伝五郎書簡(当月十一日正次郎熊吉と改名の事)	状	1通	正月十五日	頼伝五郎	頼弥太郎様	14.4×12.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 頼伝五郎」, 同・裏「平安 自竹原」	III-377-18
930	頼伝五郎書簡(御法事□無滞相勤大慶に存候事, 伊助代参として竹原越しの事)	状	1通		頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.9×21.0	諸口紙	封上書「頼弥太郎殿 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 自竹原」, 後欠	III-377-21
931	[断簡]	状	1通	霜月廿一日	頼伝五郎	頼お志津様	13.5×15.0	諸口紙	封上書「頼お志津様 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 竹原方」, 前欠	III-377-22
932	[断簡]	状	1通	十月三日	頼伝五郎	頼万四郎様	13.4×21.0	楮紙	封上書「頼万四郎様 頼伝五郎 人々御中」, 端裏書(頼杏坪筆)「十月八日至」「平安 竹原方」, 前欠	III-377-23
933	頼伝五郎書簡(一昨晚床屋并惣兵衛帰帆の事)	状	1通	二月廿九日	頼伝五郎	頼弥太郎殿, 頼万四郎殿	13.6×39.9	諸口紙	前欠	III-377-25
934	頼伝五郎書簡(此度馬鹿者大変仕候事, □々残念成事につき)	状	1通	六月廿九日朝	頼伝五郎	頼弥太郎殿, 頼万四郎殿	13.4×126.9	楮紙	4枚に剥離, 切断	III-377-26
935	頼伝五郎書簡(久太郎・お十全快安心の事, 竹原両家病気の事)	状	1通	八月十七日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.3×53.8	楮紙		III-377-30
936	頼伝五郎書簡(久太郎追々全快, お十も丈夫肥立の由大慶奉存候)	状	1通	八月十七日晚	頼伝五郎	頼弥太郎殿	13.3×45.9	楮紙	2枚に剥離	III-377-31
937	頼伝五郎書簡(新年挨拶状, 年始御祝儀に鏡餅進上の事)	折紙	1通	正月七日	頼伝五郎	頼お志津様参る	13.7×45.0	諸口紙		III-377-36
938	頼伝五郎書簡(新年挨拶状, 明日鏡餅一重進上の事)	折紙	1通		頼伝五郎	(広島頼家)	14.1×23.0	諸口紙		III-377-38
939	頼伝五郎書簡(新年挨拶状, 年始御祝儀に鏡餅一重進上の事)	折紙	1通	正月七日	頼伝五郎	頼弥太郎殿	14.5×45.7	諸口紙		III-377-39
940	頼伝五郎書簡(竹原製塩の報告, 春水江戸詰延引の事)	状	1通	(天明7年)卯月八日	頼伝五郎	頼万四郎様	13.6×25.4	諸口紙	封上書「頼万四郎様」, 端裏書(頼杏坪筆)「未四月十四日至○」, 前欠	III-377-40
941	頼伝五郎書簡(追啓 嘉六出船春風館へ知らせ参候)	状	1通	十月廿日	頼伝五郎	頼万四郎様	13.5×26.3	諸口紙	封上書「頼万四郎様 頼伝五郎 人々御中」, 同・裏「平安 竹原方」, 外銀札相添」, 端裏書(頼杏坪筆)「○十一月四日至」, 前欠	III-377-41
942	頼伝五郎書簡(家内心配事, 諸口紙の礼)	状	1通	五月廿七日七ツ時認	頼伝五郎	頼弥太郎殿, 頼万四郎	14.6×45.5	諸口紙	前後欠	III-377-43
943	頼伝五郎書簡(病人久しぶりに久太郎殿にあい申し山々悦申候事)	状	1通		頼伝五郎	本家御新造様	13.2×62.0	楮紙	封上書「本家御新造様 頼傳五郎 人々御中」, 後欠	III-377-44
944	頼伝五郎書簡(新年挨拶状)	折紙	1通	正月十六日	頼伝五郎	頼お恭様	14.6×45.8	諸口紙		III-377-47
945	頼伝五郎書簡(久太郎様順々御快復被成候哉)	状	1通	初冬十二日	(頼伝五郎カ)	(頼梅颯カ)	14.4×22.9	諸口紙	前欠	III-378-8
946	頼養堂書簡(先月十六日, 春風妻順, 正次郎(景讓)出産の事)	状	1通	(寛政2年10月)	頼亀三郎	頼弥太郎様	14.2×29.1	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 頼亀三郎」, 後欠	III-181-1
947	頼養堂書簡(新年挨拶, 熊吉丈夫に肥立の事)	状	1通	(寛政3年)正月十五日	頼亀三郎拜具	頼弥太郎様	14.7×19.4	楮紙	封上書「江戸ニ而頼弥太郎様平安 自竹原頼亀三郎 拜具」	III-181-2
948	頼養堂書簡(大二郎丈夫に肥立の事, 久太郎竹原に滞留の事)	状	1通	(寛政6年)九月廿七日	進二郎拜	弥太郎様	14.5×57.2	諸口紙	封上書「弥太郎様 座前 進二郎拜」	III-181-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
949	頼養堂書簡(大二郎痘瘡見舞い状)	状	1通	(寛政8年)五月廿五日夜	進二郎	久太郎様	12.4×64.6	半紙	封上書「久太郎様, 進二郎」, 後欠	III-181-4
950	頼養堂書簡(御書絹地紙六幅拝受の事, 亀田鵬斎大病の事)	状	1通	五月十九日	頼千蔵	頼権二郎様	12.3×49.5	半紙	包紙(12.6×19.6, 半紙)「頼権二郎様 頼千蔵 無異要用」, 同・裏「自中山道 本庄驛」, 封上書「権二郎様 千蔵」	III-181-5
951	頼采真書簡(梅隠死去につき悔み状)	状	1通	(天保14年)臘月十六日	佐一郎	餘一様	16.5×63.5	三桎紙	端裏書(頼聿庵筆)「大坂吊書, 天王寺かふ慈姑 贈来 十二月十六日出 廿八日達」	III-193-1
952	頼采真書簡(伴読, 世子の書法如何御座候哉)	状	1通	十四日朝	佐一郎	餘一様	14.4×23.3	諸口紙	封上書「餘一様 佐一郎 差向義」	III-180-10
953	頼采真書簡(家翁先達而南鐮式両拝借につき)	状	1通	廿一日	燾	春水老大人	14.0×16.9	諸口紙	封上書「春水老大人 燾 座右内用」	III-180-12
954	頼采真書簡(酒注子彫入文字につき)	状	1通	六月廿一日	佐一郎	久太郎様	13.9×19.0	諸口紙		III-180-13
955	頼采真書簡(御飯米之事につき)	状	1通		白島	本家様	14.2×18.0	諸口紙	封上書「本家様 白島 内要用」, 後欠	III-180-16
956	頼采真書簡(久太郎様御帰省の事, 札銀百目御受取可被下候事)	状	1通	三日	白島	本家様	14.6×27.6	三桎紙	封上書「本家様 白島」	III-180-17
957	頼采真書簡(押証文御立替無之儀につき)	状	1通	十五日	佐一郎	餘一様	14.5×31.9	諸口紙	封上書「餘一様 佐一郎 内要用御答」	III-292-22
958	頼采真書簡(御母子様御肥立御祝之事 雲州大森へ出足之事)	状	1通	九月廿二日夜	佐一郎	餘一様	15.2×33.6	中杉原紙	封上書「餘一様 佐一郎 内々之用」, 端裏書(頼聿庵筆)「○明石便ニ返書出候」, 紙背墨書あり	III-317-9
959	頼采真書簡(明日の御供物の品が竹原からのものである事)	状	1通	廿三日	白島	本家様	14.4×32.0	楮紙	封上書「本家様 白嶋」	III-373-39
960	頼采真書簡(山陽の出船, 自身の白島逗留, 三千三の発熱)	状	1通	十一月四日	白島		14.3×37.4	諸口紙	封上書「御返事 白島」	III-373-40
961	頼采真書簡(訪問を待っている事)	状	1通	二日	白島	本家様	18.1×25.9	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-41
962	頼采真書簡(鮎の返礼に当家を訪問して欲しい事)	状	1通	一月十三日	白島	本家様	13.6×24.2	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-42
963	頼采真書簡(屋敷替え仰付につき)	状	1通	極月廿日	白島	本家様	14.3×24.7	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-43
964	頼采真書簡(石風呂一廻りの事, 盆を拝借したき事)	状	1通	廿一日	白島	本家様	14.0×21.6	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-44
965	頼采真書簡(来客のため外出できない事, 竹原よりの銀子)	状	1通	十月九日	白島	本家様	14.3×28.8	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-45
966	頼采真書簡(家翁も快方に向かいつつある事, 古米差上げる事)	状	1通	四日	白島	本家様	14.4×22.9	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-46
967	頼采真書簡(米を舟で駄送の事)	状	1通	五日	白島	本家様	12.7×23.7	半紙	封上書「本家様 白島 要用」	III-373-47
968	頼采真書簡(おかねの安産, 男子出生の事)	状	1通	十月廿六日	白島	本家様	14.1×20.3	楮紙	封上書「本家様 白島」	III-373-48
969	頼采真書簡(扇子箱壺箱不足之事)	状	1通	廿五日	采真	春嶂様	14.1×12.3	諸口紙	前欠	III-378-7
970	頼小園書簡(先君様小祥忌, 景讓様大祥忌につき)	状	1通	(文化14年)二月六日	尚平拝	餘一様	14.5×72.5	諸口紙	封上書「餘一様 尚平拝 無異」	III-178-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
971	頼小園書簡(新年挨拶状)	折紙	1通	(文政10年)人日	尚平拝	餘一様	14.5×45.8	諸口紙	端裏書(頼聿庵筆)「十八枚の内」, 変色甚	III-178-7
972	頼小園書簡(三千三腫痛の事, 三次で杏坪と対面の事)	状	1通	(文政11年)臘月十日	尚平	餘一様	15.0×108.2	鼠半切		III-178-8
973	頼小園書簡(京よりの来書中に大祥忌後, 転居之由承候事)	状	1通	(天保5年)十一月朔	尚平	餘一様	14.5×67.5	諸口紙	封上書「拝稟無異」	III-178-5
974	頼小園書簡(御小兒様近々御肥立の事ほか)	状	1通	(天保14年)五月十六日	尚平	餘一様	16.1×51.3	三桎紙	封上書「餘一様 尚平 無異内用」	III-178-2
975	頼小園書簡(梅颯死去につき悔み状)	状	1通	(天保14年)臘月十三日夜	尚平	餘一様	16.3×81.0	三桎紙	端裏書(頼聿庵筆)「竹原 吊書」	III-193-2
976	頼小園書簡(文整府君(春水)三十三回忌につき)	状	1通	(嘉永元年)二月十四日	尚平拝	餘一様	15.6×64.3	三桎紙	封上書「餘一様 尚平拝復」	III-178-4
977	頼小園書簡(江戸来書, 此間相届申候事)	状	1通	十月初二	尚平	餘一様	16.1×22.1	三桎紙	封上書「餘一様 尚平」	III-178-3
978	頼小園書簡(新婦土産之忒品進上仕候事)	状	1通	十一月十一日	尚平	餘一様	16.1×92.0	大杉原紙	端裏書(頼聿庵筆)『竹原 口』	III-178-6
979	頼小園書簡(三千三到着と借金払い方の事)	状	1通	臘月十二日五更燈下	(頼小園)カ	采真, 聿庵二兄	14.2×148.1	諸口紙	封上書「采真 聿庵二兄内密拝答」	III-292-11
980	頼小園書簡(題画詩への批正依頼)	状	1通	十一月廿八日	尚平	餘一様	14.2×22.6	諸口紙	注記(墨), 前欠	III-292-37
981	頼来洲書簡(新春挨拶, 金子之算用書付指上申候につき)	状	1通	正月廿一日	永禧	杉木尊大人様	15.3×224.1	杉原紙		III-338-13
982	頼葦汀書簡(頼達堂・堺遺籍の儀につき返書なく存外之至に候事)	状	1通	(明治時代)三月廿六日	廉次郎拝	元啓様	14.4×53.9	諸口紙		III-319-11
983	頼篁渚書簡(俊直帰館之上, 委曲協議仕細答可申上候)	状	1通	(明治13年)十一月廿三日投函	頼三郎	頼又次郎様	14.3×9.0	官製葉書	表書「西京新三本木上之町 頼又次郎様 芸州竹原 頼三郎」「平信至急要用」「十一月廿三日投函」, 端書(頼支峰筆)『十一月廿七日到来』	III-299-12-2
984	頼三郎・俊直書簡(亡兄小祥忌之節・珍物御恵備被下候につき礼状)	状	1通	(明治時代)八月七日	三郎, 俊直	元啓様侍右	15.6×106.5	竹紙	端裏書「楮紙」	III-294-9
985	頼篁渚・耕斎書簡(杉巷一件, 西本愛二郎逼迫致居候趣につき)	状	1通	(明治時代)一月十日	三郎, 俊直	支峰老兄侍史	15.8×156.4	杉原紙	端裏書(頼誠軒筆)『一月十一日出 同月廿日至』, 「副啓」(15.4×19.8, 杉原紙, 頼誠軒宛, 支峰の添状)貼付のうえ広島頼家へ転送したもの	III-299-4
986	頼篁渚書簡(俊直兄弟留学し, 横浜東京虎列刺病流行之由)	状	1通	(明治時代)八月四日	三郎拝	御叔母様, 元啓様 御同覧	15.8×63.1	杉原紙		III-319-12
987	頼俊直書簡(秋養育金別紙之通送候間, 御受取可被下候)	状	1通	明治時代	俊直	誠軒	15.8×62.2	三桎紙	封筒(18.0×7.1)「誠軒老大人方拜具 研北」, 同・裏「十二月十日」	III-293-11
988	三穂書簡(餘一の跡目相続願認可につき)	状	1通	(文化13年)カ	三穂		14.4×89.0	諸口紙		III-21-13

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
989	1) 三穂書簡(香の物札, 三千三見込参らす)	状	1通		進藤	すき頼様	11.9×82.6	半紙	Ⅲ-189-1～21まで貼継, 封上書「すき頼様 進藤 内用」	Ⅲ-189-1
989	2) 三穂書簡(彦介着物仕立の相談)	状	1通		三穂	御かもし様	12.0×90.5	半紙	封上書「頼様 進藤 用事」	Ⅲ-189-2
989	3) 三穂書簡(桃林見物の誘い)	状	1通		三穂方	御かもし様	12.1×64.3	半紙	封上書「御かもし様 三穂方 御申上」	Ⅲ-189-3
989	4) 三穂書簡(景譲院七廻忌の事, しおぶろへお供の事)	状	1通	(文政4年1月)	三穂	御かもし様	12.0×61.5	半紙	封上書「頼様 進藤 やうし」, 紙背に「三尺五寸」(頼梅颯筆)などの記載あり	Ⅲ-189-4
989	5) 三穂書簡(南御小児様死去の事)	状	1通	(文政2年12月)	(三穂)	(頼梅颯)	11.8×29.4	半紙		Ⅲ-189-5
989	6) 三穂書簡(東馬様大病の事)	状	1通		進藤	頼様	11.9×22.2	半紙	封上書「頼様 進藤 御返事申上」, 後欠	Ⅲ-189-6
989	7) 三穂書簡(山岡へ同道の誘いの断りの事)	状	1通		進藤	頼様	12.0×39.2	半紙	封上書「頼様 進藤 やうし」	Ⅲ-189-7
989	8) 三穂書簡(好物の品頂戴の礼, 湿に難儀の事)	状	1通		三穂	御かもし様	11.9×66.2	半紙	封上書「頼様 進藤 やうし」	Ⅲ-189-8
989	9) 三穂書簡(雨天見舞, 御貞様あんばいの事, 子は失い湿に困り候事)	状	1通	(文政4年カ)	三穂	御かもし様	12.2×94.2	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御返事申上」	Ⅲ-189-9
989	10) 三穂書簡(風邪見舞, 高価な菓の贈物・たみ父病気)	状	1通		三穂	御かもし様	12.3×71.3	半紙	封上書「御かもし様 三穂 やうし」	Ⅲ-189-10
989	11) 三穂書簡(干大根やうまき物をもらいたい事)	状	1通		進藤	頼様	12.1×35.4	半紙	封上書「頼様 進藤 やうし」	Ⅲ-189-11
989	12) 三穂書簡(口中痛み 食物に困り候事, おきぬ殿も帰られ候よし)	状	1通		三穂	御かもし様	12.1×64.7	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御返事申上」	Ⅲ-189-12
989	13) 三穂書簡(病が快方へ, 竹原へつるの礼)	状	1通		三穂	御かもし様	11.9×44.7	半紙	前欠	Ⅲ-189-13
989	14) 三穂書簡(干大根の礼, お越しの誘い)	状	1通		進藤	頼様	12.1×44.1	半紙	封上書「頼様 進藤」	Ⅲ-189-14
989	15) 三穂書簡(馳走の礼, 歌の書き様の相談)	状	1通		三保	御かもし様	12.2×56.1	半紙	封上書「御かもし様 三保」	Ⅲ-189-15
989	16) 三穂書簡(かんざし代支払の事, 十五日沖の事)	状	1通		三穂	御かもし様	12.3×66.0	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御申上」	Ⅲ-189-16
989	17) 三穂書簡(歌の清書, 下女二人風邪の事, 御時祭の日にちの事)	状	1通		三穂	御かもし様	12.2×35.1	半紙	封上書「頼様 進藤 御申上」	Ⅲ-189-17
989	18) 三穂書簡(よい着物頂戴のお礼)	状	1通		三穂	御かもし様	12.0×75.5	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御返事申上」	Ⅲ-189-18
989	19) 三穂書簡(着物のきれにつき相談, さらさに決め候事)	状	1通		三穂	御かもし様	12.2×51.9	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御返事申上」	Ⅲ-189-19
989	20) 三穂書簡(山陽へ内祝の礼を頼む事, きくに酷い出物の事)	状	1通	(文政3年カ)	三穂	御かもし様	11.9×61.6	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御返事申上」	Ⅲ-189-20
989	21) 三穂書簡(三上氏へ坂本弥平の祝儀につき聞合)	状	1通		三穂	御かもし様	12.5×57.6	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御申上」, 間に欠損あり	Ⅲ-189-21
990	三穂書簡(万世初節句につき, 毛氈拝借したく候事)	状	1通	(文政8年)	三穂	御かもし様	12.4×34.7	半紙	封上書「御かもし様 三穂 御申上」	Ⅲ-188-7

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
991	[断簡]	状	1通		三穂		13.9×11.1	諸口紙		III-21-14
992	[断簡](かきそへ, 里へ帰る事)	状	1通		三穂		14.3×14.2	諸口紙		III-21-15
993	[断簡](ほろの事)	状	1通		三穂		13.9×8.7	諸口紙		III-21-16
994	三穂書簡(臥せているため外出の供ができない事)	状	1通		三穂	御かもし様	13.7×49.4	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂方」	III-21-17
995	三穂書簡(酒の礼, 時祭の日どりの事)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×35.0	諸口紙	封上書「御かもし様 御返事申上候 三穂」	III-21-18
996	三穂書簡(着物の礼, 和歌の事)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×44.4	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-19
997	三穂書簡(馳走の礼, 祝いを送る事)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×48.2	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-20
998	三穂書簡(馳走の礼, 餘一快祝)	状	1通		三穂	御かもし様	14.3×51.2	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-21
999	三穂書簡(馳走・茶・浜焼の礼, 紬の所望)	状	1通		三穂	御かもし様	14.1×63.0	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂方」	III-21-22
1000	三穂書簡(咳も快方へ, 白無垢詠えの相談)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×84.0	諸口紙	封上書「御かもし様 御返事申上候 三穂」	III-21-23
1001	三穂書簡(体調の事で心配をかけた詫び)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×47.7	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-24
1002	三穂書簡(産着の礼, 咳が続くこと)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×78.7	諸口紙	封上書「御かもし様 御返事申上候 三穂」	III-21-25
1003	三穂書簡(産後二十日過ぎ, 宮参りの事)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×53.3	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂方」	III-21-26
1004	三穂書簡(珍しい食物の礼, 産後の様子)	状	1通		三穂	御かもし様	13.9×63.5	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-27
1005	三穂書簡(京よりの書状, 歌心もなくなっていること)	状	1通		三穂	御かもし様	14.4×116.4	諸口紙	封上書「御かもし様 御返事申上候 三穂」	III-21-29
1006	三穂書簡(和歌の事, 飯岡義斎の33回忌のこと)	状	1通	(文政5年ヵ)	三穂	御かもし様	14.4×53.6	諸口紙	封上書「御かもし様 御上候 三穂」	III-21-30
1007	三穂書簡(産後の体調の事, 鯉の黒焼きの礼)	状	1通		三穂	御かもし様	13.7×62.5	諸口紙	封上書「御かもし様 御返事申上候 三穂」	III-21-31
1008	三穂書簡(餘一より聞いた縁談のこと)	状	1通		三穂	御かもし様	14.2×95.8	諸口紙	封上書「御かもし様 御申上候 三穂」	III-21-32
1009	三穂書簡(をぢ様へ直に御頼に罷越候事)	状	1通		三穂方	御かもし様	11.8×68.6	半紙	封上書「御かもし様 三穂方御申上」, 端裏書「をぢ様へ直ニ御頼ニ罷越候事」	III-166-1
1010	三穂書簡(借財一ヶ月返済方を三百目急入用相談)	状	1通	十月二日	三穂	餘一とのへ	14.1×113.3	諸口紙	封上書「餘一とのへ 三穂 内用」	III-188-1
1011	三穂書簡(御うわさのかよひにつき御相談依頼)	状	1通	三日	三穂	餘一とのへ	11.9×34.0	半紙	封上書「餘一とのへ 三穂 内用」	III-188-2
1012	三穂書簡(寺川氏への御礼惨状延引報告)	状	1通	九日	三穂方	御かもし様	12.0×70.6	半紙	封上書「御かもし様 御申上 三穂方」, 端裏書(頼梅颯筆)「帖面ノコト」	III-188-3
1013	三穂書簡(三百目取かえにつき相談依頼)	状	1通	十月十三日	三保	餘一殿	12.0×37.5	半紙	封上書「餘一殿 三保 要用ニて」	III-188-4
1014	三穂書簡(おともじ様快方便への返信)	状	1通		三穂方	御かもし様	14.2×22.5	諸口紙	封上書「御かもし様 三穂方 御申上」	III-188-5

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1015	三穂書簡(中元御祝儀への御礼)	状	1通	七月十三日	三穂	御かもし様	12.1×58.3	半紙	封上書「御かもし様 三穂 内容申上」	III-188-6
1016	小田淳子書簡(夜も昼もそもしとの事のミ計りおもひくらし参らせ)	折紙	1通	十三日	母方	餘一殿御返事	14.5×45.0	諸口紙	包紙(24.3×22.1, 半紙, 頼事庵筆)「小田様御状数通」(戊子五月十九日改), 封上書「らい様 小田方 御返事」	III-237-1
1017	小田淳子書簡(いつぞや平兵衛御たのミ申候手本, いまた出来不申候哉)	状	1通	けふ	(小田淳子)	(頼事庵)	14.0×53.0	諸口紙	包紙(24.5×34.0, 半紙, 頼事庵筆)「小田母上様 御文」, 同・裏「丁亥六月七日□ 謹封」(「児協謹蔵」, 同・黒文方印1顆, 封上書「頼様 小田方 御もとへ参る」)	III-237-2
1018	小田淳子書簡(口上代)	状	1通	廿九日	(小田淳子)	(頼事庵)	13.9×43.3	諸口紙	封上書「餘一殿 小田方」	III-237-3
1019	小田淳子書簡(年始賀状)	折紙	1通	八日	おだ	(頼事庵)	14.5×45.0	諸口紙	差出・宛所の一部欠損	III-237-4
1020	小田淳子書簡(頼事庵の訪問につき)	状	1通	十六日	(小田淳子)	(頼事庵)	14.5×34.5	諸口紙	前欠	III-237-5
1021	梨影書簡(事庵の書状到着の事, 京にて疱瘡流行の事)	状	1通	(文政8年カ)	(梨影)	(頼梅颯)	15.4×28.5	楮紙	前後欠	III-376-28
1022	梨影書簡(山陽病状, 小石・新宮診察の事)	状	1通	(天保3年7月カ)	(梨影)	(頼梅颯)	16.2×103.8	楮紙	前後破損甚	III-376-26
1023	梨影書簡(復二郎こと, 事庵同道にて帰広につき, 宜しく願上候事)	状	1通	(天保4年)五月八日	里へ方	餘一様	15.7×46.5	楮紙		III-190-8
1024	梨影書簡(山陽七回忌につき, 志のしるしまでにお茶をお送り候事)	状	1通	(天保9年)九月二日	里へ方	餘一さま	15.5×99.4	三桎紙(薄藍色)	「同十七日入手 梅颯返しスル」と本紙末尾に書入(頼梅颯筆カ)あり	III-190-3
1025	梨影書簡(お陽病状の事, 新海苔いただき度候事)	状	1通	(天保13年カ)十一月十九日	里え方	母上様 おちえ様 御同らん	16.0×92.2	楮紙	端裏書(頼事庵筆)「霜月十九日認, 同廿九日至」	III-190-4
1026	梨影書簡(広島・京都大火の事, 復二郎脚気快方に向い候事)	状	1通	(天保13年11月19日認)	(梨影)	(頼事庵)	16.0×40.3	楮紙		III-190-5
1027	梨影書簡(梅颯へ見舞状, 支峰脚気療養の事)	状	1通	(天保13年)十月十三日	里え	餘一様	16.3×124.3	楮紙	封筒(21.0×8.5, 頼古楳筆)「梨影大人書状」	III-190-1
1028	梨影書簡(中元御祝儀差上候事, お陽昨年大病後の様子)	状	1通	(天保14年カ)文月廿日	里え	おちえ様	15.5×114.9	杉原紙	本紙末尾に千枝筆で「八月二日入手」と書入あり	III-190-2
1029	梨影書簡(東三郎殿御無事にて, 三樹三郎同道にて東山へ参り候事)	状	1通	(嘉永2年)十月十三日	里へ	おちえ様	13.6×160.5	竹紙	2枚に切断, 破損甚, 小片あり	III-190-7
1030	梨影書簡(誠軒, 十月八日京都着の事, 着替不足の事)	状	1通	(嘉永2年)十月十日	里え方	おちえ様	13.5×48.5	竹紙	右下欠損	III-190-9
1031	梨影書簡写(暑中見舞, 大丸のふそく金早便に御のほせ被下候事)	状	1通	(安政2年)六月十九日	梨枝	おち枝様御もとへ	18.0×119.0	雁皮紙	端書「右御真蹟は京都頼久一郎殿より依頼, 梨影夫人の御里江州夫人顕彰会方へ記念に寄附せり, この御書簡は絶筆也」, 頼古楳による梨影書簡写	III-190-13
1032	封筒	封筒	1点	(安政2年)水無月十九日	梨枝	おち枝様	17.6×4.5	杉原紙(草花摺)	封上書「おち枝様 御もとへ 梨枝」	III-190-14
1033	梨影書簡(先日十九日備物 差上候事, 竹原よりあなご届候事)	状	1通	二月十四日認	(梨影)	(頼事庵)	16.3×44.9	楮紙	端裏書(頼事庵筆)「二月十四日認, 三月十二日入手」, 後欠	III-190-6
1034	梨影書簡(松前よりもらいし塩子并にねりようかん 差上候事)	状	1通		(梨影)	(頼千枝)	13.2×37.6	竹紙	後欠	III-190-10
1035	梨影書簡(辰蔵衣服仕立の事)	状	1通		(梨影)	(頼梅颯)	15.7×55.5	楮紙	前後欠	III-376-27

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1036	梅月書簡(重陽節句祝儀状)	状	1通	(天明2年)菊月九日	なを	御あね様もとへ	16.3×48.8	楮紙	封上書「御あね様 なを」	III-375-1
1037	梅月書簡(どのやうな御入用にて候哉ちよと御たつね申上候)	状	1通	(天明2年)十一月二日夜	なを方	御あね様もとへ	15.2×49.6	楮紙	前欠	III-375-2
1038	〔断簡〕(仕立物御うけとりなされ度候事)	状	1通	(天明2年ヵ)	(梅月)	(頼梅颯)	16.0×17.6	楮紙	前欠	III-375-3
1039	梅月書簡(春よりいまた何かたへもさんじ不申候事)	状	1通	(天明2年ヵ)	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×24.1	楮紙	前後欠	III-375-4
1040	梅月書簡(御あに様方御頼遊し候きざみこんぶにつぎ)	状	1通	(天明2年ヵ)	(梅月)	(頼梅颯)	16.3×14.9	楮紙	後欠	III-375-5
1041	梅月書簡(久どのよほと口まはり候由、あいらしく候事と存候)	状	1通	(天明3年ヵ)	(梅月)	(頼梅颯)	16.6×55.0	楮紙	前後欠	III-375-6
1042	梅月書簡(惟清喪中之事、久どの書かれ候物御ちゝ様悦び入参セ候事)	状	1通	(天明3年)卯三月廿五日	なを	御あね様	16.5×50.0	楮紙	封上書「御あね様 皆々様へ なを」、端裏書(頼梅颯筆)「卯三月廿五日出、四月五日至竹原便」、後欠	III-375-7
1043	梅月書簡(惟地御出立の時書物御のこしの件、見当り不申候事)	状	1通	(天明4年ヵ)	(梅月)	万四郎様へ申上候	14.0×24.6	楮紙	後欠	III-375-8
1044	梅月書簡(亡き母あなた様の事、自慢・吹調の事、若殿様論語御終り被遊候由)	状	1通	(天明4年ヵ)	(梅月)	(頼春水)	15.4×9.9	楮紙	前後欠	III-375-9
1045	梅月書簡(春水江戸詰途中の着坂、かもし様小祥忌杏坪藩儒登用)	状	1通	(天明5年)八月廿七日ともし火のもと	なお方	御あね様もとへ	15.3×174.9	楮紙	封上書「御あね様もとへ なお方」、6枚に剥離	III-375-10
1046	梅月書簡(かもし様御墓石の事ほか)	状	1通	(天明6年)	(梅月)	(頼梅颯)	15.1×49.6	楮紙	前後欠	III-375-11
1047	梅月書簡(御詠草御殿より下り参らせ候事、御兄様御書被下候御手本の事)	状	1通	(天明6年)	(梅月)	(頼梅颯)	15.1×33.7	楮紙	前後欠	III-375-12
1048	梅月書簡(当地へ近年めつら敷大雪、御詠草おもしろく拝し候事)	状	1通	(天明6年)正月十一日ともし火本	なを方	御あね様	15.2×43.0/ 15.2×1.0	楮紙	封上書「御あね様 なお方」、2枚で一通、間に欠損ありカ	III-375-13
1049	梅月書簡(梅颯賀状への返事、久どのよみ初試筆いたされ候由ほか)	状	1通	(天明6年)正月十四日 いぬ初	なを御返事	御あね様	15.2×31.7/ 15.2×33.3	楮紙	2枚で一通、間に欠損ありカ	III-375-14
1050	梅月書簡(御江戸大火ござ候由、竹原様より年始御ふみ被下候事)	状	1通	丙午(天明6年)春二月一日	(梅月)	(頼梅颯)	15.2×55.7	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「丙午直下り前二出ス文、着後届」、2枚に剥離	III-375-15
1051	梅月書簡(鉄蔵、尾藤様方に居候事、久どのの書初殊の外見事につぎ)	状	1通	(天明6年ヵ)二月十七日	(梅月)	(頼梅颯)	15.6×66.0	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「〇お直 二月十七日 三月十八日」、後欠、2枚に剥離	III-375-16
1052	梅月書簡(六月朔出の御文尾藤氏より届き候事、ともじ事一向歩行も成がたき事)	状	1通	(天明6年)七月八日	(梅月)	(頼春水)	14.5×46.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「〇七月八日出、九月十五日届」、後欠	III-375-17
1053	梅月書簡(竹原様、御きのどくの事、江戸水害の事)	状	1通	(天明6年)九月七日 燈下	なを方 御返事申上	御兄上様	14.5×38.6	楮紙	前欠	III-375-18
1054	梅月書簡(久どのうた殊の外おもしろき事、おなみ様御肥立の由)	状	1通	(天明6年)八月十日	(梅月)	(頼梅颯)	14.6×18.1	楮紙	前欠	III-375-19

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1055	梅月書簡(万君御縁談の事, 米ことの外高直に御座候事)	状	1通	丙午八月十四日(天明6年)	(梅月)	(頼梅颯)	14.6×113.3	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「丙午八月十四日出, 古川 廿一日至」, 後欠, 4枚に剥離	III-375-20
1056	梅月書簡(江戸の高水の事, ことの外米直段上申候由)	状	1通	丙午(天明6年)葉月十一日 燈下	南峰	御姉上様	14.6×99.1	楮紙	封上書「御姉上様 拜啓 南峰」, 端裏書(頼梅颯筆)「丙午八月十四出, 古川やふね 同廿一日至」, 4枚に剥離	III-375-21
1057	梅月書簡(ともし様御病気少々よりしき方にむき候子事田沼退役致候よし)	状	1通	(天明6年)九月十日夜	なを方御返事	御あね様	15.1×71.4/ 15.1×78.2	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「九月十日方 十二日迄認 十月十二日至」, 4枚に剥離, 1・2枚目と3・4枚目接続, 2・3枚目間に欠損カ, 2枚目上部破損, 4枚目後欠	III-375-22
1058	梅月書簡(当地御停止にてひさしく琴はひけ不申候事)	状	1通	(天明6年)九月廿九日 うしひとつ	なを方御返事申上	御あね様	15.3×43.0	楮紙	前欠	III-375-23
1059	梅月書簡(杏坪来春婚礼の事, 米高直の事, 元孝との縁談の事)	状	1通	(天明6年)	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×87.8/ 14.5×44.8	楮紙	3枚で1通, 1・2枚目接続, 2・3枚目間に欠損カ, 3枚目後欠	III-375-24
1060	梅月書簡(ちりめん御仕立, 浅葱にあつらえよろしくと存じ候)	状	1通	丙午十月十日朝(天明6)	なを方	御あね様	14.5×33.5	楮紙	封上書「御あね様 皆御返事申上 なを方」, 端裏書(頼梅颯筆)「丙午 十月十日出 同廿九日至 古川屋 ふね」, 円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-375-25
1061	梅月書簡(あなた様折々癪気につき)	状	1通	(天明8年12月18日カ)	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×25.3	楮紙	前後欠	III-375-28
1062	梅月書簡(ともし様, おなかあしく, 服薬の事)	状	1通	(天明8年)九月廿八日夜	(梅月)	(頼梅颯)	15.2×50.0/ 15.2×21.0	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「九月廿八日出 古屋ふね, 十月十五日至○」, 後欠	III-375-31
1063	梅月書簡(ともし様, 御気みじかくしかられ通しの事染代の事)	状	1通	(天明8年)霜月三日夜	(梅月)	(頼梅颯)	15.2×75.5/ 15.2×107.0	楮紙	4枚で1通, 1・2枚目, 3・4枚目接続, 2・3枚目の間に欠損カ	III-375-32
1064	梅月書簡(あなた様, つわりか癪か落ちつき不申候由)	状	1通	(天明8年)	(梅月)	(頼梅颯)	15.2×17.2	楮紙	前後欠	III-375-33
1065	梅月書簡(久どの虫の悪さの事, あなた様歩行ご難儀の由ほか)	状	1通	(寛政元年)四月十八日夜認	なを	御あね様	16.5×59.3	楮紙	封上書「御あね様 御返事 なを」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十八日夜認 五月九日至」, 後欠	III-375-34
1066	梅月書簡(あなた様産前, 腰あしく候由, 徳庵行状の事)	状	1通	(寛政元年)四月十九日昼認	なを方	御あね様	16.5×112.5	楮紙	封上書「御あね様 御返事 なを方」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月十九日昼認 五月九日至」, 後欠	III-375-35
1067	梅月書簡(少々物なりとも徳公へ礼に御遣し下され度候事)	状	1通	(寛政元年)五月十二日夜	なを方	御あね様	16.5×58.9	楮紙	封上書「御あね様 御返事 なを方」, 前欠	III-375-36
1068	梅月書簡(あなた様御産後乳母おかかえ遊ばし候由)	状	1通	(寛政元年)七月廿二日出	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×46.2	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「七月廿二日出 八月六日至」, 後欠	III-375-37
1069	梅月書簡(祭見物の事)	状	1通	(寛政元年)七月廿二日発	なを方	御あね様	16.5×58.7	楮紙	封上書「御あね様 なを方」, 端裏書(頼梅颯筆)「七月廿二日発, 八月六日至」, 後欠	III-375-38

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1070	梅月書簡(あなた様血のはなとやら総身へ出来, 御難儀に候由)	状	1通	(寛政元年)	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×44.8	楮紙		III-375-39
1071	梅月書簡(布屋ほか諸支払算用書付)	状	1通	(寛政元年) 八月六日	(梅月)	(頼梅颯)	16.5×57.6	楮紙		III-375-40
1072	梅月書簡(正月になり候ゆへ忌明・法事もはやく仕舞ひ申度事)	状	1通	(寛政元年)	(梅月)	(頼梅颯)	14.5×44.2	楮紙	前後欠	III-375-41
1073	梅月書簡(御加増御祝儀, 扇二本差上申候事)	状	1通	(寛政2年)	(梅月)	(頼梅颯)	16.1×39.7	楮紙	裏面も別の書簡である	III-375-42
1074	梅月書簡(当秋江戸詰の事, 久太郎殿方詩作御見せ給り候事)	状	1通	(寛政2年)	なを方	御兄上様	16.2×42.8	楮紙	封上書「御兄上様 御返事申上 なを方」 端裏書(頼春水筆)「九月四日来」, 後欠	III-375-43
1075	梅月書簡(おなミ様, 上坂の事, 日和次第, 直同船にて来広の事)	状	1通	(寛政3年)卯月十七日	(梅月)	(頼梅颯)	14.4×45.0	楮紙	2枚に剥離	III-375-44
1076	梅月書簡(産の頃は, あたらしきものなくてあしきと綿入仕立申候事)	状	1通	(寛政6年)きく月廿二日八ツ頃	尾藤なほ	頼御姉様無事御返事	14.0×30.5	楮紙	封上書「頼御姉様 無事御返事 尾藤なほより」, 端裏書(頼梅颯筆)「十月十三日至」, 前欠	III-375-45
1077	梅月書簡(久太郎殿竹原逗留後, 持病もおこり不申候事)	状	1通	(寛政6年)閏月十五日夜	なほ方	御兄様 無事御返事	14.0×45.0	楮紙	封上書「御兄様 無事御返事 なほ方」, 端裏書(頼春水筆)「極月十日至」	III-375-46
1078	梅月書簡(久太郎殿へめもじ致し, ことの外成人よく似合候事)	状	1通	(寛政9年)卯月廿四日夜	なほ方	御あね様御返事	18.0×51.9/ 18.0×36.6	楮紙	封上書「御あね様 御返事 なほ方」, 端裏書(頼梅颯筆)「四月廿四日認 五月廿五日至 梶山便」, 3枚で1通, 1・2枚目は接続, 2・3枚目間に欠損あり	III-375-47
1079	梅月書簡(御地まだ大二郎様の御かはりお出来遊ばし候半や)	状	1通	(寛政9年カ)	(梅月)	(頼梅颯)	15.7×36.5/ 15.7×36.0	楮紙	後欠, 3枚で一通, 1・2枚目は剥離, 2・3枚目間に欠損あり	III-375-48
1080	梅月書簡(この地にても万四郎様, 久太郎殿にも御無事に加年の事)	状	1通	(寛政10年)	(梅月)	(頼梅颯)	14.2×58.5	楮紙	前後欠, 2枚に剥離	III-375-49
1081	梅月書簡(黒紬ほか着物の仕立につき)	状	1通		(梅月カ)	(梅颯カ)	15.5×17.2	楮紙	前後欠, 上部破損甚	III-292-29
1082	梅月書簡(徳庵不行状につき)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.1×40.9	楮紙	前後欠	III-375-26
1083	梅月書簡(緋ちりめんの事, 後藤内室の事)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.2×33.5	楮紙	前後欠	III-375-27
1084	[断簡]	状	1通	水無月九日夜	なを御返事	御あね様	14.5×17.4	楮紙	前欠	III-375-29
1085	梅月書簡(かんざし御打なおしの事, 流行の細工の事)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.8×36.3	楮紙	前後欠	III-375-30
1086	梅月書簡(おば様又々御病気にいらせられ)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.7×35.6	楮紙	前後欠	III-375-51-1
1087	梅月書簡(髪結いの事, 百ヶ日追善和歌詠める事)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.7×35.9	楮紙		III-375-51-2
1088	梅月書簡(銀かんざし并に銀子受取御落手遊ばし被下候)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.7×36.0	楮紙		III-375-51-3
1089	梅月書簡(お元書状の事, 平居行状の事)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.7×37.1	楮紙		III-375-51-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1090	梅月書簡(赤まつ御仰のこく埒の明ぬ事につき)	状	1通		(梅月)	(頼梅颯)	15.7×35.9	楮紙		Ⅲ-375-51-5
1091	梅月書簡(御地何もかも小袖類ことの外下直に相成候由)	状	1通	[]月二日	(梅月ヵ)	(頼梅颯ヵ)	14.3×21.3	楮紙	前後欠	Ⅲ-375-52
1092	順書簡(万四郎様, 御しんもじ様御迎被成御賑々敷事と存上候)	状	1通	(天明7年)	(順)	(頼梅颯)	17.2×24.0/ 17.1×34.4	大杉原紙	2枚に破断, 間に欠損部あり, 後欠	Ⅲ-376-18
1093	順書簡(大二郎ほうそう履患, 見舞状)	状	1通	(寛政8年)五月廿四日	なみ方	御あね様	14.3×65.5	諸口紙	封上書「御あね様 御もとへ参る なみ方」, 前欠	Ⅲ-376-23
1094	順書簡(大二郎様ほうそう, 一郎様はいまだ何事も御座なく候や)	状	1通	(寛政8年5月)	順方	お恭様	14.5×59.3	諸口紙	封上書「お恭様 御もとへ参る 順方」, 後欠ヵ	Ⅲ-376-24
1095	順書簡(普段着単衣もの, 此度進じ参らせ候)	状	1通	水無月五日ヵ	母方	権次郎殿参る	14.5×4.	諸口紙	封上書「権次郎殿参る 母方」, 後欠	Ⅲ-184-4
1096	順書簡(礼状の一部)	状	1通		なみ	御あね様	14.2×7.8	諸口紙	封上書「御あね様御もとへ参る なみ方」, 後欠	Ⅲ-372-114
1097	順書簡(寒中見舞状)	状	1通		(順)	(頼梅颯)	14.5×23.1	諸口紙	後欠	Ⅲ-376-19
1098	順書簡(あなご塩物正月にお使ひ被下度, お十様へぞうり一足参らせ候)	状	1通	十二月十五日	(順)	(頼梅颯)	14.3×61.8	諸口紙	前欠, 2枚に切断	Ⅲ-376-20
1099	唯書簡(新年挨拶状, 歳暮の礼, 三郎大病の事)	状	1通	正月十日	(頼唯ヵ)	(頼聿庵)	16.0×152.0	大杉原紙	虫損大	Ⅲ-294-32
1100	臯書簡(留守宅の様子ほか)	状	1通	(文政12年ヵ)八月十六日	さわ	御母上様	14.0×114.5	漉返し	封上書「御母上様 さわ方 無事申上」	Ⅲ-376-29
1101	頼久一郎書簡	状	1通	(昭和15年)二月十一日	久一郎	榎崖大人貴下	18.2×88.2	竹紙	封筒(20.4×7.7)付属	Ⅲ-190-12
1102	頼惇吾書簡	状	1通	(昭和27年)七月十七日	頼惇吾	頼惟勤様	16.6×72.7	楮紙	封筒付属	Ⅲ-387-40
1103	頼元春書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和27年)七月二十五日	頼元春	頼惟勤様	24.5×16.6	便箋	封筒付属	Ⅲ-387-44
1104	頼惟勤書簡	状 紙本ペン書	1通	昭和時代	頼惟勤	お茶の水女子大学教務課御中	14.1×9.0	郵便葉書	未投函, 宛名, 差出人名のみ記入	Ⅲ-387-7
1105	頼惟勤書簡	状 紙本ペン書	1通	昭和時代	頼惟勤	田中時郎様, 昭子様	14.1×9.0	郵便葉書	未投函, 宛名, 差出人名のみ記入	Ⅲ-387-8
1106	[袋]	袋	2点		頼古榎				書簡整理袋	Ⅲ-316
1107	頼惟新書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和27年)七月十七日	頼惟新	頼惟勤	14.0×9.1	郵便葉書		Ⅲ-387-43
1108	頼尚太郎書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和27年)七月廿五日	頼尚太郎	頼惟勤様	25.3×17.9	便箋	封筒付属	Ⅲ-387-45

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1109	たづ子書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和26年 カ)八月三十 日夜	たづ子	御姉上様	23.0×18.0	便箋	封筒(21.0×8.5)にてⅢ-387-1～11まで一括、封筒内に2紙片あり、「4779」「学ム課長高橋武氏」と書入れあり	Ⅲ-387-1
1110	〔書簡〕(歳暮之品穴子につき、正月用の干し方の事)	状	1 通	十一月初三	(竹原頼家カ)	(頼事庵カ)	16.2×62.7	三桎紙		Ⅲ-292-8
1111	〔書簡〕(新年挨拶状)	状	1 通	正月五日	頼[]	頼久太郎様	9.6×66.0	諸口紙	別の書状を貼りつぎ、下部切断、下貼等に使用カ	Ⅲ-292-26
1112	1) 飯岡義斎書簡(父より娘静へ示す文)	状	1 通	(天明2年)七 月十八日	父たゝ方	静子へ	16.0×79.5	楮紙	Ⅲ-196-1-1～21まで貼継、端裏書「娘静へ示す文 父たゝ」、梅颯により表紙(15.2×22.2、杉原紙)、「大坂父うへの文 文化十癸酉七月継ナリ」	Ⅲ-196-1-1
1112	2) 飯岡義斎書簡(小茶碗其方へ行有候や否ヲ聞斗)	状	1 通		(飯岡義斎)	(頼梅颯)	16.2×10.7	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「文化十年癸酉七月継ナリ静」	Ⅲ-196-1-2
1112	3) 飯岡義斎書簡(天明癸卯春の御製と奉和詩歌)	状	1 通	天明癸卯(3 年)春	(飯岡義斎)	(頼梅颯)	15.5×34.9	杉原紙		Ⅲ-196-1-3
1112	4) 飯岡義斎書簡(淫風大に行ハれし家中に何某の先生の徳、他に至りし事)	状	1 通	卯(天明3年) 五月日	集義斎記	(頼梅颯)	15.5×25.0	杉原紙		Ⅲ-196-1-4
1112	5) 飯岡義斎書簡(六月十九日の尾道よりの書状の後の消息を知りたき事)	状	1 通	(天明2年)七 月八日	いのおかおき な	柔静直殿へ	16.3×82.0	楮紙		Ⅲ-196-1-5
1112	6) 飯岡義斎書簡(程子の語を守とし、たしなみ養ひ得べき事)	状	1 通		ちゝ徳庵	お静殿へ	16.3×63.3	楮紙		Ⅲ-196-1-6
1112	7) 飯岡義斎書簡(弥太郎殿より卯月の事申来、夫を謀様のしかた、けからわしき事に候)	状	1 通	廿三日	ちゝ	おしつとの	15.9×46.3	楮紙	封上書「おしつとの ちゝ」	Ⅲ-196-1-7
1112	8) 飯岡義斎書簡(大祥忌肉食断につき、心得の事)	状	1 通	六月廿一日	ちゝ	お静殿へ	16.8×86.0	杉原紙	封上書「頼氏お静殿へ 飯岡爺翁カ」、端裏書(頼梅颯筆)「六月廿一日出 七月四日至」	Ⅲ-196-1-8
1112	9) 飯岡義斎書簡(拙者今年も浮腫軽く、しかし痢病まじり候事)	状	1 通	八月五日	ちゝ義斎	お静女郎	16.4×65.2	杉原紙	端裏書(頼梅颯筆)「八月十六日徳庵子便 八月十三日発」	Ⅲ-196-1-9
1112	10) 飯岡義斎書簡(鉄三こと読書出精の由嬉候事)	状	1 通	(天明3年)ミ つのへ卯	ちゝより	お静とのへ	16.6×53.2	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「父うへ手書、ミつのへ卯 四月五日至」	Ⅲ -196-1-10
1112	11) 飯岡義斎書簡(御舅君、死去につき悔み状)	状	1 通	(天明3年2 月)	義さい	お志津との	16.5×26.0	楮紙		Ⅲ -196-1-11
1112	12) 飯岡義斎書簡(万四郎、篤実にて実学を好まれ候由、めでたき御事に候)	状	1 通	天明癸卯(3 年)五月九日	ちゝカ	お志津との	15.6×131.0	楮紙	封上書「お静との ちゝカ」、端裏書(頼梅颯筆)「天明癸卯五月九日発 同廿一日 至」	Ⅲ -196-1-12
1112	13) 飯岡義斎書簡(母・直の帰路を案じ候事、久太郎・鉄蔵の様子知り度事)	状	1 通	七月十五日	いのをかちゝ	お静女郎	15.8×86.2	楮紙	封上書「おしつとの」、端裏書(頼梅颯筆)「七月十五日発 八月十一日至」	Ⅲ -196-1-13
1112	14) 飯岡義斎書簡(暑気にくたびれ、久太郎おなを鉄蔵かほるかほる夢に申事候)	状	1 通	(寛政元年) 閏月三日	いのをか義斎	お十殿、お志 つ殿、おなを 殿	16.3×46.5	楮紙	封上書「お志津との 口爺」	Ⅲ -196-1-14
1112	15) 飯岡義斎書簡(山口剛三ノ子綱太郎、江戸町寿松病死につき、文つかわされ可然候事)	状	1 通		(飯岡義斎)	(梅颯)	16.3×13.0	楮紙		Ⅲ -196-1-15

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1112	16) 飯岡義斎書簡(諸方損じおそろしき 天気のこと)	状	1通	(天明2年)七月十日	義斎	柔 静直 殿	16.3×34.1	楮紙		Ⅲ -196-1-16
1112	17) 飯岡義斎書簡(叱の字呵の字につ き)	状	1通		(飯岡義斎)	久ほん はゝ しやへ	15.2×14.5	楮紙		Ⅲ -196-1-17
1112	18) 飯岡義斎書簡(表書の書状賜り、 長々の消息より嬉しく打なかめ申候事)	状	1通	(天明8年カ)十一月十七日	いのをかぢゝ 方	久太郎とのへ	15.2×33.3	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「十一月十一日 御認 十二月廿二日至 久太郎状上書御答」	Ⅲ -196-1-18
1112	19) 飯岡義斎書簡(久太郎見たく、見舞 にくるを待入候事)	状	1通	(天明7年カ)十二月十九日	爺	お志図殿	15.2×41.5	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「十二月十九日出」	Ⅲ -196-1-19
1112	20) 飯岡義斎書簡(久太郎一行物おくら れ嬉しく、直の事頼み申度事)	状	1通	(天明6年)閏十月十一日	ちゝ義斎	お志津との	14.5×105.2	杉原紙	端裏書(頼梅颯筆)「丙午父病中御書 閏十月十二日発 十一月六日至」	Ⅲ -196-1-20
1112	21) 飯岡義斎書簡(新年賀状、お直、去 秋まで病中の事)	状	1通	(天明7年カ)正月七日	いのをか義斎	頼氏 お志津 との	17.5×96.0	杉原紙	1〜2枚目間に欠損ありカ	Ⅲ -196-1-21
1113	1) 飯岡義斎書簡(久兄帰りの後、さび しく心細く候事)	状	1通	(天明5年カ)六月二日至	義翁	賢婿机下	15.7×31.9	楮紙	Ⅲ-196-2-1〜4まで貼継、端裏書(頼春水筆)「六月二日至」	Ⅲ-196-2-1
1113	2) 飯岡義斎書簡(梅颯に示す、道歌 30 首)	状	1通	ミつのへ卯 (天明3年)四月五日至	(飯岡義斎)	(頼梅颯)	13.8×79.4	杉原紙	端書(頼梅颯筆)「ミつのへ卯四月五日至」	Ⅲ-196-2-2
1113	3) 飯岡義斎和歌(箕面の瀧を見侍りて 他)	状	1通		(飯岡義斎)		16.8×79.3	杉原紙		Ⅲ-196-2-3
1113	4) 飯岡義斎和歌(和歌 4 首)	状	1通		(飯岡義斎)		16.6×46.3	杉原紙		Ⅲ-196-2-4
1114	飯岡義斎書簡(婆女帰船之事、御勤学 術研究御励肝要之事)	状	1通	(天明2年)八月晦日	飯岡義斎	頼弥太郎様	16.4×38.7	楮紙	封上書「頼弥太郎様 御報 飯岡義斎」、封上書に合点あり	Ⅲ-196-4
1115	飯岡義斎書簡(新年賀状、当地瘡瘡流 行につき、予防薬之事)	状	1通	(天明6年)正月 日	飯岡義斎	お静子殿 参	15.9×44.8	杉原紙	端書(頼梅颯筆)「丙午」	Ⅲ-196-5
1116	飯岡義斎書簡(当秋御交代又々詰越に なられ候事、お直頼入り候事)	状	1通	(天明6年)八月十七日	飯岡義斎	頼弥太郎様	14.6×54.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「岳父大人 八月十七日書 九月十六日至 即日敬諭之返事」	Ⅲ-196-6-1
1117	飯岡義斎書簡(久太郎何角上達之事、 直事安堵致候事)	状	1通	(天明6年)閏十月十一日	飯岡義斎	頼弥太郎様	14.6×37.1	楮紙	包紙(24.4×17.2, 半紙, 頼春水筆)「寛政元年 己酉十一月 岳父大人絶筆之書状」、紙背「頼弥太郎様 篠田義斎」、端裏書(頼春水筆)「十一月廿六日至 即御返事」	Ⅲ-196-6-2
1118	飯岡滄浪書簡(伊助到着せず、直子の 婚礼につき御手判願之事)	状	1通	(寛政5年)三月十八日出	飯岡滄浪	(頼梅颯)	14.4×35.9	諸口紙	端裏書(頼梅颯筆カ)「三月十八日出 []至」、後欠	Ⅱ-22-1
1119	手島伊助書簡(覚 従広島江戸迄諸入 用)	折紙	1通	(寛政5年)	伊助	(頼春水)	12.3×34.0	半紙	Ⅱ-22-1と関連、梅月が江戸へ嫁ぐ際の諸費用書付	Ⅱ-22-2
1120	飯岡滄浪書簡(中井七郎入来、竹山学 校再建之願之一件につき)	状	1通	(寛政5年)七月八日	篠田徳庵	頼弥太郎様	15.9×67.0/ 15.9×28.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○志の田 学校再建之趣 七月八日出 廿四日届 八月八日」、3枚で1通、1・2枚目は剥離、2枚目と3枚目の間に欠損あり	Ⅲ-196-7
1121	飯岡滄浪書簡(お直江戸への路銀之 事)	状	1通	(寛政5年)卯月二日	篠田徳庵	頼弥太郎様	15.3×35.2	楮紙	前欠	Ⅲ-196-8

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1122	飯岡滄浪書簡(梅颯の大二郎出産・お直妊娠祝状)	状	1通	(寛政6年)八月十七日出	(飯岡滄浪)	(頼梅颯)	16.0×38.8	楮紙	端裏書(頼梅颯筆)「八月十七日出 同廿八日至 しのた」, 後欠	III-376-7
1123	飯岡滄浪書簡(当地風邪疫病勢も斬衰候事)	状	1通	三月十九日	篠田徳庵	頼弥太郎様	15.9×31.4	楮紙	前欠, 円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-196-9
1124	[袋](飯岡義齋書簡入れ)	袋	1点	江戸後期	(頼春水)		26.2×18.1	楮紙	表書「岳父飯岡先生 書札」, 包紙反故使用, 反故紙「広島御家中 頼弥太郎様 飯岡義齋」	III-196-15
1125	吹田屋妙政書簡(梅颯大坂より帰国, 春水九月より江戸詰, 飯岡義齋病気の事)	状	1通	(天明8年カ)はき月廿五日	吹たや妙政	頼御おもし様	16.2×33.3/ 16.2×34.1	杉原紙	前欠, 2枚に破断, 間に欠損あり	III-376-12
1126	[書簡](家の普請未だ埒明不申候事, 繰綿代金の事)	状	1通	(寛政9年カ)		(頼梅颯カ)	16.0×73.0	杉原紙	前後欠, 2枚に切断, III-376-1から4は一連の書状カ	III-376-1
1127	[書簡](去年は篠田にも存じよらぬ御事につき)	状	1通	(寛政9年)		(頼梅颯)	15.5×50.2	楮紙	前後欠, 2枚に切断	III-376-2
1128	[書簡](家の普請・道具の売払につき)	状	1通	(寛政9年カ)		(頼梅颯)	15.6×54.7	楮紙	前後欠, 2枚に切断, 一部欠損	III-376-3
1129	[書簡](平庄七五三と不仲につき)	状	1通	(寛政9年カ)		(頼梅颯)	15.6×58.6	楮紙	前後欠, 2枚に切断	III-376-4
1130	[書簡](お十様御成人と存じ, 御たのしみなされ候事)	状	1通			(頼梅颯)	15.7×27.3	楮紙	前後欠	III-376-5
1131	[書簡](子をなくしわたくも随分気丈につとめ居申候事)	状	1通				14.2×33.0	諸口紙	前後欠	III-376-6
1132	[書簡](御わすれも御座候はんかと此度文参らせ申候)	状	1通			(頼梅颯)	14.5×47.7	諸口紙	前後欠, 2枚に剥離	III-376-8
1133	[書簡](昨日半六ふねに大坂よりのものかれこれ参申候)	状	1通	二月朔日		(頼梅颯)	16.0×43.2	楮紙	前後欠	III-376-9
1134	[書簡](寒中見舞状)	状	1通			(頼梅颯)	15.2×33.4	楮紙	後欠	III-376-10
1135	[書簡](江戸表にて御主人様定めし御機嫌よくあらせ候はん事)	状	1通			(頼梅颯)	16.1×26.0	杉原紙	前後欠	III-376-11
1136	[書簡](此間は美しき御かんざし送り被下, 嬉敷存し上候)	状	1通			(頼梅颯カ)	16.4×72.0	杉原紙	後欠, 2枚に剥離	III-376-13
1137	[書簡](伊助かたへも御頼ミ被成候由, 難有存参らせ候)	状	1通	廿三日		(頼梅颯)	14.2×21.7	諸口紙	前欠	III-376-14
1138	[断簡]	状	1通			(頼家)	12.5×3.6	半紙		III-376-15
1139	[書簡](いっぞや段々御もてなし, かたじけなく存じ参らせ候事)	状	1通			(頼家)	14.5×20.1	諸口紙	後欠	III-376-16
1140	[書簡](出船之儀, 今日はこの天気にては致し申間敷候事)	状	1通			(頼梅颯カ)	15.4×77.0	楮紙	前後欠, 2枚に剥離	III-376-17
1141	[書簡](明石浦の大変につき, 御陸路御帰あそはし候様と奉存候)	状	1通				13.7×89.0	諸口紙	前後欠, 2枚に剥離	III-376-22
1142	江どやひて書簡(久太郎様御あやかりまし候やうに存候事)	状	1通	十月廿五日	江どやひて	御おは様	16.9×33.5	大杉原紙	前欠	III-376-25

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1143	進藤吉之助書簡(具足質入之事)	状	1通	六月五日	吉之助	万四郎様	11.7×92.8	半紙	封上書「万四郎様 吉之助 御内密用」, 端裏書(頼杏坪筆)「具足質入之事」	III-166-2
1144	進藤吉之助書簡(具足持運之事)	状	1通	六月十一日	進藤吉之助	頼弥太郎様	14.5×91.4	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 進藤吉之助 内々要事拝答」, 端裏書(頼春水筆)「具足持運之事」, 二枚に剥離	III-166-3
1145	進藤吉之助書簡(銀三拾目ほど拝借致度候事)	状	1通	七月十三日	吉之助	弥太郎様	14.5×46.2	諸口紙	封上書「弥太郎様 吉之助 内用書」, 端裏書(頼春水筆)「己盆前三拾匁」	III-166-14
1146	進藤吉之助書簡(質物通ひ書付等しらへ候所無之との事)	状	1通	六月五日	吉之助	弥太郎様	11.7×74.0	半紙	封上書「弥太郎様 吉之助 内用」, 端裏書(頼春水筆)「質物通ひ書付等しらへ候所無之との事」	III-166-15
1147	進藤吉之助書簡(質物通ひ之事)	状	1通	六月四日	吉之助	弥太郎様	11.6×45.5	半紙	封上書「弥太郎様 吉之助 内用」, 端裏書(頼春水筆)「質物通ひ之事」	III-166-16
1148	進藤吉之助書簡(村方に借用筋無之との事)	状	1通	五月望日	進藤吉之助	頼弥太郎様	11.7×50.3	半紙	封上書「頼弥太郎様 進藤吉之助 内用」, 端裏書(頼春水筆)「村方ニ借用筋無之との事」	III-166-17
1149	進藤吉之助書簡(兼々願置候一件につき明夕晩之内参上仕度事)	状	1通	五月廿一日	進藤吉之助	弥太郎様	11.6×57.6	半紙	封上書「弥太郎様 進藤吉之助 内用」, 端裏書(頼春水筆)「京橋筋へ罷越候所留守之由之事」	III-166-18
1150	進藤家書簡(小重箱一組拝借したい事)	状	1通		進藤	頼様	13.9×35.5	諸口紙	封上書「頼様 内々申候 進藤」	III-21-28
1151	進藤家書簡(毛氈借用願)	状	1通		進藤	頼様	12.2×43.2	半紙	封上書「ゞ杉 頼様 御用 進藤」	III-325-1
1152	菅茶山書簡(西国学士との交遊なく寂寥のこと)	折紙	1通	(安永4年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.5×44.5	杉原紙		II-4-13
1153	菅茶山書簡(岡山姫井貞吉と申す家中に一宿のこと)	折紙	1通	(安永5年)六月廿六日 八月二日薄暮	菅晋帥百拝	頼春水哲兄絳帳下	14.0×43.0	杉原紙	端書(頼春水筆)「八月廿四日神辺福山五蔵便」	II-1-64
1154	1) 菅茶山書簡(西山拙斎死去とその葬儀の模様)	状	1通	(寛政9年)十一月廿日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.0×58.5	楮紙	II-1-32-1~5まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「茶山 ○ 十一月廿一日出 十二月九日至 廿四日」	II-1-32-1
1154	2) 菅茶山書簡(西山祭文の礼, 母の墓銘の依頼, 山陽の婚礼の祝)	状	1通	(寛政10年)正月二十一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	18.5×82.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 正月二十一日出 三月廿二日至」	II-1-32-2
1154	3) 菅茶山書簡(母の墓銘の事)	状	1通	(寛政10年)三月八日	太中晋帥	弥太郎様	18.5×19.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 三月八日出十四日至」	II-1-32-3
1154	4) 菅茶山書簡(姪の死去, 山陽婚礼祝)	状	1通	(寛政11年カ)上巳	菅太中晋帥	頼弥太郎様	18.5×34.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○茶山 ○上巳出 三月廿二日至」	II-1-32-4
1154	5) 菅恥庵書簡(京都での移宅, 近況, 書の所望, 詩の斧正依頼)	状	1通	(寛政11年カ)正月廿二日	菅圭二葆拝	春水先生函丈	15.8×66.7	杉原紙	端書「四月廿四日至京人」	II-1-32-5
1155	菅茶山書簡(大都壯観さだめて久太郎積気も直り可申候)	状	1通	(寛政9年)九月十七日	菅太中晋帥	頼万四郎様	15.1×48.1	杉原紙	端裏書(頼杏坪筆カ)「十月九日至」	II-4-12
1156	1) 菅茶山書簡(茶山長府侯に招かれるも断る)	状	1通	(享和元年)五月廿二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×108.2	楮紙	II-1-17-1~6まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「茶山 五月廿二日 六月廿日至」	II-1-17-1
1156	2) 菅茶山書簡(甲山村の酒株を買う)	状	1通	(享和元年)六月十七日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.8×47.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)「六月十七日出」	II-1-17-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1156	3) 菅茶山書簡(貴藩大臣近隣一宿のこと)	状	1通	(享和元年)七月四日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×33.0	奉書紙(唐草文摺)	端裏書(頼春水筆)「〇七月七日 茶山三度之書 返事すミ」	II-1-17-3
1156	4) 菅茶山書簡(茶山儒者格に)	状	1通	(享和元年)八月九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様、万四郎様	15.0×115.9	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山九日出 八月十四日届 〇廿四日之返事」	II-1-17-4
1156	5) 菅茶山書簡(恥庵一周忌につき)	状	1通	(享和元年)九月四日	太中晋帥	弥太郎様、万四郎様	16.4×35.7	奉書紙(黄葉絵摺)	端裏書(頼春水筆)「九月九日至 十一日返事」	II-1-17-5
1156	6) 菅茶山書簡(聖堂の事につき)	状	1通	(享和元年)八月十八日よ	菅太中晋帥	頼弥太郎様、万四郎様	15.0×90.9	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 〇八月廿二日至廿四日之返事」	II-1-17-6
1157	1) 菅茶山書簡(拙斎の墓碑につき)	状	1通	(享和2年)三月八日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.5×91.5	楮紙, 奉書紙	II-1-105-1~7まで貼継, 端裏書(頼春水筆)『茶山』「〇 三月十九日至」	II-1-105-1
1157	2) 菅茶山書簡(芭蕉蝸牛図二絶)	状	1通	(享和2年)三月十一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.5×38.7	楮紙		II-1-105-2
1157	3) 菅茶山書簡(茶山儒者格出勤)	状	1通	(享和2年)三月十四日	太中追書	弥太郎様	15.5×101.2	楮紙		II-1-105-3
1157	4) 五言律詩(送中山典客応召赴東都邸)	状	1通	(享和元年カ)時十二月二十八日	太中	弥太郎様	16.2×46.6	奉書紙・楮紙		II-1-105-4
1157	5) 菅茶山書簡(竹山より歳旦摺物到来)	状	1通	(享和2年)三月廿三日追書	晋帥		15.5×23.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「三月十三日 廿三日 四月三日 四月十六日至」	II-1-105-5
1157	6) 菅茶山書簡(春水東行供延引, 竹山逸史写本の事)	状	1通	(享和2年)四月三日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.3×66.6	楮紙		II-1-105-6
1157	7) 菅茶山書簡(古松軒, 姫井の動静)	状	1通	(享和2年)四月九日	太中晋帥	弥太郎様	16.3×51.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 四月九日出 十二日至」	II-1-105-7
1158	菅茶山書簡(和歌二首, 七絶一首を示す)	状	1通	(享和3年)閏正月十一日	晋帥		17.0×29.3	杉原紙		II-1-80
1159	菅茶山書簡(知友の動静, 屏風貼交ぜの書の依頼)	状	1通	(享和3年)閏正月朔	晋帥		15.8×37.0/ 12.6×41.8	杉原紙	第3紙目上部切取あり	II-1-123
1160	菅茶山書簡(江戸滞在中の詩につき)	状	1通	(文化元年)臘月廿五日	菅太中	頼弥太郎様	16.2×46.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 十二月廿一日廿五日出 〇廿八日来」	II-1-111
1161	菅茶山書簡(近況, 府志草稿十巻お目にかかけ候事ほか)	状	1通	(文化2年)五月十三日	菅太中	頼弥太郎様	16.3×79.8	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山東順 五月二十三日出 〇十七日来」	II-1-1
1162	菅茶山書簡(景讓詩書大いに宜しき事)	状	1通	(文化2年)二月十一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.3×47.7	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「〇」	II-1-4
1163	菅茶山書簡(西山碑文, 松前公子之書につき)	状	1通	(文化2年)	(菅茶山)		16.1×42.2	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 十月十三日出 十月廿八日至 〇」, 後欠	II-1-61
1164	菅茶山書簡(岡山にて姫井などと談じ候事)	状	1通	(文化2年)	(菅茶山)		16.3×37.7	三桮紙		II-1-62

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1165	菅茶山書簡(大槻二人来訪の事)	状	1通	(文化2年)四月十八日	菅太中	頼弥太郎様	16.4×50.2	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 四月廿日至 ○」	II-1-65
1166	菅茶山書簡(年始状)	状	1通	(文化2年)正月二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.5×45.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 年始状正月十二日至」	II-1-75
1167	菅茶山書簡(追記 聿庵五才、姪の子喜太郎出生の事)	状	1通	(文化2年)	(菅茶山)		16.4×27.2	三桮紙		II-1-76
1168	菅茶山書簡(東行帰後、墨田舟遊など)	状	1通	(文化元年)十二月廿一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.3×76.8	三桮紙		II-1-77
1169	菅茶山書簡(常陸日記見あき候ハ、御返し可被下候)	状	1通	(文化2年)正月廿六日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.5×44.5	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山○」	II-1-114
1170	菅茶山書簡(常陸日記物産鑑、江戸話つきぬ事)	状	1通	(文化2年)	(菅茶山)		16.4×49.5	三桮紙		II-1-126
1171	菅茶山書簡(岡山・倉敷一宿の事)	状	1通	(文化2年)三月十二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×47.3	三桮紙		II-1-129-1
1172	菅茶山書簡(フロシヤの事につき)	状	1通	(文化2年)	(菅茶山)		16.2×16.0	楮紙		II-1-129-2
1173	菅茶山書簡(杏坪の帰国、兩大槻の事につき)	状	1通	(文化2年)五月一日	菅太中	頼弥太郎様	16.4×51.0	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 五月一日出 三日至」	II-1-135
1174	菅茶山書簡(春水帰国後、安否伺い)	状	1通	(文化2年)十一月廿二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×61.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山二書之内 十二月十日自竹原 ○」	II-1-146
1175	菅茶山書簡(阿部正倫侯薨去につき)	状	1通	(文化2年)壬八月九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.3×42.2	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「壬八月九日出 十一月廿九日至」	II-2-7
1176	菅茶山書簡(山陽の文章への褒辞)	状	1通	(文化3年)七月十一日カ	(菅茶山)	(頼春水)	15.7×81.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 七月十一ノ書 廿四日至 ○」	II-1-36
1177	菅茶山書簡(捕り物の事、安芸丸山へ登山の事)	状	1通	(文化3年)九月十四日	(菅茶山)	(頼春水)	15.7×76.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 九月十四日出 十月四日至」	II-1-38
1178	菅茶山書簡(備後一面風邪流行の事)	状	1通	(文化3年)十一月廿五日認	(菅茶山)	(頼春水)	16.8×26.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶 十一月廿五日認十二月十九日出 卯正月廿三日至」, 後欠	II-1-49
1179	菅茶山書簡(丸亀の医者 尾池左膳の事)	状	1通	(文化3年)	(菅茶山)		15.7×33.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 七月六日至 即日返事」, 後欠	II-1-151
1180	菅茶山詩箋(漢詩二首、新摺詩箋の事)	状	1通	(文化3年)	晋帥		18.0×46.4	杉原紙(備後国名勝箋)	端裏書(頼春水筆)「茶山詩」	II-7
1181	菅茶山書簡(神辺大火後の近況)	状	1通	(文化4年)二月廿六日よ	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.7×73.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 三月八日至」	II-1-43
1182	菅茶山書簡(古松軒老衰、白河侯御歌につき)	状	1通	(文化4年)	(菅茶山)		11.5×34.0	半紙		II-1-52
1183	菅茶山書簡(辞安長崎滞在中、母死去の事)	状	1通	(文化4年)	(菅茶山)		15.9×45.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「二月十七日来」, 後欠	II-1-71

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1184	菅茶山書簡(柴野栗山の但馬入湯につき)	状	1通	(文化4年)四月十日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.0×63.5	楮紙	前欠	II-1-72
1185	菅茶山書簡(春風長崎行のこと)	状	1通	(文化4年)四月廿七日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×46.0	楮紙		II-1-73
1186	菅茶山書簡(丸岡の学者来訪につき)	状	1通	(文化4年)四月十日	(菅茶山)	(頼春水)	16.2×32.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 四月十日出 廿四日来○」, 後欠	II-1-74
1187	菅茶山書簡(赤壁賦につき所感)	状	1通	(文化4年)十一月廿二日 よ燈下書	晋帥	久太郎様	12.5×36.2	半紙		II-1-79
1188	菅茶山書簡(追記 礼状)	状	1通	(文化4年)十一月十三日 以後	晋帥	久太郎様	16.0×13.7	楮紙		II-1-83
1189	菅茶山書簡(府誌執筆が進まぬ事)	状	1通	(文化4年)正月十九日	菅太中晋帥	弥太郎様	16.8×28.2	杉原紙		II-1-90
1190	菅茶山書簡(神辺大火, 私宅類焼の様子)	状	1通	(文化4年)二月廿六日	菅太中晋帥	頼千齡様	15.7×89.0	楮紙	端裏書(頼春風筆)「菅」	II-1-92
1191	菅茶山書簡(柴野栗山入湯後腫物の事, 山陽書状の礼)	状	1通	(文化4年)嘉平廿五日よ	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.9×53.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山」	II-1-109
1192	菅茶山書簡(樺太でのロシア人の乱につき)	状	1通	(文化4年)六月廿五日	晋帥	頼老兄臺	16.8×45.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○七月三日至」	II-1-110
1193	菅茶山書簡(添削の礼, 江戸永代橋の崩落の事)	状	1通	(文化4年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.2×21.2	楮紙		II-1-122
1194	菅茶山書簡(三年之艾につき)	状	1通	(文化5年)	晋帥	久太郎様	15.5×20.0	杉原紙		II-1-127
1195	菅茶山書簡(神辺大火の状況)	状	1通	(文化4年)二月廿一日	菅太中	頼弥太郎様	14.5×74.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○廿一日出 二月廿三日至 失火事」	II-2-1
1196	菅茶山書簡(廉塾都講, 後任につき)	状	1通	(文化4年)七月廿二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×83.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○ 太吉取帰」	II-2-5
1197	菅茶山書簡(裂帛里正死去, 府志男文字女文字の件)	状	1通	(文化5年)四月十一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.5×89.2	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 四月十三日出 ○十七日来」	II-1-9
1198	菅茶山書簡(西山孝恂来宅につき)	状	1通	(文化5年)十一月廿九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.9×28.2	杉原紙		II-1-10
1199	菅茶山書簡(養介の子, 菅二郎出生)	状	1通	(文化5年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.8×11.7	楮紙		II-1-25
1200	菅茶山書簡(府誌半分浄写, 江戸便にて松前の動静につき)	状	1通	(文化5年)十一月十一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.8×61.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○十一月十二日同十七日至」	II-1-84-1
1201	菅茶山書簡(闇斎先生の書につき)	状	1通	(文化5年)	(菅茶山)		14.8×10.4	楮紙		II-1-84-2
1202	菅茶山書簡(隣村での大筒試, 柴野栗山物故, 漂流民書付につき)	状	1通	(文化5年)五月廿五日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.9×120.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○」	II-1-137
1203	菅茶山書簡(尾路翼々斎死去, ロシア人, 奥州の漂流民の事)	状	1通	(文化5年)	(菅茶山)		14.8×24.3	楮紙		II-1-145

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1204	菅茶山書簡(春水娘の婚儀祝状)	状	1通	(文化5年)六月十六	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.7×70.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶 ○」	Ⅱ-2-4
1205	菅茶山書簡(福山侯の触れにつき)	状	1通	(文化6年)	晋帥		15.8×15.1	小高檀紙		Ⅱ-1-53
1206	菅茶山書簡(松前藩とプロシヤ内通の風聞につき)	状	1通	(文化6年)	(菅茶山)		16.2×40.0	楮紙		Ⅱ-1-67
1207	菅茶山書簡(阿部侯在城一百年の詩につき)	状	1通	(文化6年)	(菅茶山)		15.0×18.2	楮紙		Ⅱ-1-119
1208	菅茶山書簡(養介の改称, 府史の完成)	状	1通	(文化6年)四月朔	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.5×89.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 四月朔日出 ○四日至即時返事」	Ⅱ-2-2
1209	菅茶山書簡(弊弟遺稿の評の依頼, 山陽在塾の行状につき)	状	1通	(文化7年)屋嶋の戦の日の夜	菅太中晋帥	頼弥五郎様	15.0×67.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○」	Ⅱ-1-19
1210	菅茶山書簡(年始祝儀の品々の礼, 山陽教授の様子につき)	状	1通	(文化7年)正月廿二日よ	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.0×50.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 正月廿六日来」	Ⅱ-1-23
1211	菅茶山書簡(山陽の縁談につき)	状	1通	(文化7年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×17.1	楮紙	端裏書(菅茶山筆)「秘」	Ⅱ-1-40
1212	菅茶山書簡(西山拙斎十三回忌, 山陽の横笛稽古)	状	1通	(文化7年)	(菅茶山)		15.0×24.5	楮紙		Ⅱ-1-94
1213	菅茶山書簡(春水夫妻が山陽に仕官と結婚を説得すべき事)	状	1通	(文化7年)十月八日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.0×51.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○八日出 十月十一日至」	Ⅱ-1-101-1
1214	菅茶山書簡(千蔵の身の振り方につき)	状	1通	(文化7年)	(菅茶山)		15.0×2.8	楮紙		Ⅱ-1-101-2
1215	[断簡](黒沢文稿の事につき)	状	1通	(文化7年)	(菅茶山)		15.0×8.2	楮紙		Ⅱ-1-101-3
1216	[断簡](七言絶句)	状	1通	(文化7年)	茶山		15.5×6.5	杉原紙	前欠	Ⅱ-1-107
1217	菅茶山書簡(御揮写之物につき)	状	1通	(文化7年ヵ)	晋帥		15.0×9.4	杉原紙(萌黄色草花摺)		Ⅱ-1-112
1218	菅茶山書簡(日本外史全篇二十巻を一覧, 高妙なる物に候)	状	1通	(文化7年)九月六日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×57.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○ 九月十七日至即時返事」	Ⅱ-1-152-1
1219	菅茶山書簡(水戸の庄五郎の詩, 湖月亭の詩につき)	状	1通	(文化7年)	(菅茶山)		15.0×16.2	楮紙		Ⅱ-1-152-2
1220	菅茶山書簡(春水竹原帰着の祝)	状	1通	(文化8年)十月十六日午前	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	17.1×47.4	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「一 茶山 ○十六日出 十月廿一日来」	Ⅱ-1-3
1221	菅茶山書簡(竹原行断念, 来客の韻に続き七言絶句)	状	1通	(文化8年)十一月十六日夜	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×101.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○ 茶山 十一月十六日出十九日至」	Ⅱ-1-7
1222	[断簡](藤井土晦の父の碑銘につき)	状	1通	(文化8年ヵ)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×7.7	楮紙		Ⅱ-1-14
1223	菅茶山書簡(口上 月形七介より来書につき)	状	1通	(文化8年)十月十四日認七ッ時	菅太中	頼弥太郎様	17.8×36.0	三椏紙		Ⅱ-1-21
1224	菅茶山書簡(台湾への漂流人, 女画史親子三人の事につき)	状	1通	(文化八年)中元前日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.0×72.9	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山十四日出 七月廿日来」	Ⅱ-1-33

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1225	菅茶山書簡(春風江戸行, 在津紀事渴望仕候事)	状	1通	(文化8年)	晋帥	(頼春水)	15.0×51.5	楮紙		II-1-41
1226	菅茶山書簡(亀井侯止宿, 土晦養子の事につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)		15.0×46.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○ 七月廿日来」	II-1-57
1227	菅茶山書簡(拙集東様と批評された事につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)		15.9×41.7	楮紙		II-1-68
1228	菅茶山書簡(杏坪茶山宅へ一泊, 対州行の二儒者につき)	状	1通	(文化8年) 七夕	菅太中晋帥	頼万四郎様	15.0×55.4	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「礼卿来書」	II-1-69
1229	[断簡](紫岩上人死去のこと)	状	1通	(文化8年カ)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×9.0	楮紙		II-1-86
1230	菅茶山書簡(林祭酒, 古賀精里の通行につき)	状	1通	(文化8年) 三月十九日	太中	弥太郎様	15.0×21.9	楮紙		II-1-87
1231	菅茶山書簡(古賀精里大役の処体調不良につき)	状	1通	(文化8年) 四月廿一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.0×58.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「神辺 四月廿一日之書 廿三日ニ届 ○」	II-1-89
1232	菅茶山書簡(間宮林蔵紀行文, 韓人筆談の事につき)	状	1通	(文化8年) 十月十九日	晋帥	弥太郎様	15.0×61.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「三 茶山 十月廿三日届」	II-1-102
1233	菅茶山書簡(令郎改名, 塾後継者の事につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)		15.0×45.4	楮紙		II-1-103
1234	菅茶山書簡(高田屋嘉兵衛の拉致の話, 岡寿卿墓銘完成の事)	状	1通	(文化8年) 十月十五日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.8×47.4	楮紙(萌黄色松林風景摺)	端裏書(頼春水筆)「茶山 十月十五日出廿一日自三原達」	II-1-131
1235	菅茶山書簡(竹原御滞在につき)	状	1通	(文化8年) 十月卅日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×39.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○ 茶山 十月卅日出 十一月十日ニ至」	II-2-8
1236	菅茶山書簡(古賀精里送詩, 知友の動静につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×33.0	楮紙		II-2-11
1237	菅茶山書簡(覚 山陽の養子の件につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.9×57.5	楮紙	2枚に剥離	II-3-1
1238	菅茶山書簡(山陽の神辺出立後の心境)	状	1通	(文化8年) 閏二月廿九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.0×116.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 三月十九日ニ発し来 廿二日来 文化辛未五月迄 広 一」	II-3-3
1239	菅茶山書簡(城中落雷, 北斗七星近くの妖星の事)	状	1通	(文化8年)	晋帥		16.4×62.9	楮紙(黄染)	端裏書(頼春水筆)『礼卿』, 端書(頼春水筆)「文化八年未年」	II-3-4
1240	菅茶山書簡(生口島の漂流民の事)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×39.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)『礼卿 文化八年辛未之冬』	II-3-5
1241	菅茶山書簡(石原よりの金子一封につき)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×19.2	楮紙		II-4-4
1242	菅茶山書簡(覚 山陽の在塾中の行状につき)	状	1通	(文化8年) 五月望	菅太中晋帥	頼万四郎様	14.8×331.2	楮紙	封筒(20.5×8.0, 頼古楳筆)「茶山翁贈杏坪翁 秘書」	II-6-1
1243	菅茶山書簡(令郎一事)	状	1通	(文化8年)	(菅茶山)	(頼杏坪)	14.8×77.2	楮紙		II-6-2
1244	菅茶山書簡(内々 長作死後の借銀, 妻子のことにつき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×33.2	楮紙	端裏書「三」	II-1-8
1245	1) 菅茶山書簡(去年大厄後の近況につき)	状	1通	(文化9年) 十一月一日	晋帥	(頼春水)	15.0×56.3	楮紙	II-1-44-1~8まで仮綴	II-1-44-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1245	2) 菅茶山書簡(書籍の貸借, 対馬函の礼)	状	1通	(文化9年)十一月九ッ過呈	晋帥	(頼春水)	15.0×118.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 太沖数次郎 正月十五日持帰 ○」	II-1-44-2
1245	3) 菅茶山書簡(書籍の貸借覚)	状	1通	(文化9年)	太中	(頼春水カ)	15.4×22.5	杉原紙		II-1-44-3
1245	4) 菅茶山書簡(鞆での茶山・山陽の偽書出回り候事につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.1×24.3	楮紙		II-1-44-4
1245	5) 菅茶山書簡(備中の雁皮紙三套進上の事)	状	1通	(文化9年)	晋帥	(頼春水)	15.0×11.7	楮紙		II-1-44-5
1245	6) 菅茶山書簡(福山周辺の地誌・古器物につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×17.3	楮紙		II-1-44-6
1245	7) 菅茶山書簡(伊能忠敬測量にて神辺泊)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.7×13.2	楮紙		II-1-44-7
1245	8) 菅茶山書簡(令孫餘一君御名につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.3×22.3	杉原紙		II-1-44-8
1246	1) 菅茶山書簡(蝦夷画卷一度見たく候事)	状	1通	(文化9年)上巳後二日	晋帥	(頼春水)	15.0×52.4	楮紙	II-1-51-1~20まで仮綴	II-1-51-1
1246	2) 菅茶山書簡(素読は懇ろにすべき事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.9×14.5	楮紙		II-1-51-2
1246	3) 菅茶山書簡(在津紀事名家跋など出来候由)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.1×28.0	楮紙		II-1-51-3
1246	4) 菅茶山書簡(三宅の聖人説妙甚につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×10.0	楮紙		II-1-51-4
1246	5) 菅茶山書簡(春水蔵書「講学論」に手前の印を押し候につき詫び)	状	1通	(文化9年)上巳後一日	晋帥	(頼春水)	16.8×21.3	杉原紙		II-1-51-5
1246	6) [断簡](令郎改名につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×9.7	楮紙		II-1-51-6
1246	7) 菅茶山書簡(波塘紀文の礼, 江海の説につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×25.3	楮紙		II-1-51-7
1246	8) 菅茶山書簡(塾生人数, 岡寿卿墓銘につき)	状	1通	(文化9年)二月廿一日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.2×48.0	楮紙		II-1-51-8
1246	9) 菅茶山書簡(詩作語彙につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×38.5	楮紙		II-1-51-9
1246	10) 菅茶山書簡(鞆在住菅良平の事, 北条霞亭詩の序につき添削依頼)	状	1通	(文化9年)二月廿六日	晋帥	(頼春水)	15.2×42.0	楮紙		II-1-51-10
1246	11) 菅茶山書簡(備中は私の評判あしく候につき)	状	1通	(文化9年)	晋帥	(頼春水)	15.1×22.0	楮紙		II-1-51-11
1246	12) 菅茶山書簡(村塾で使用する印につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×14.0	楮紙		II-1-51-12
1246	13) 菅茶山書簡(伊能忠敬土産樺太・満州函につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.3×35.3	楮紙		II-1-51-13
1246	14) 菅茶山書簡(吹田屋の娘によませられ候百人一首につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.1×9.6	楮紙		II-1-51-14
1246	15) 菅茶山書簡(江海の定義につき諸説)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.2×45.0	楮紙		II-1-51-15

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1246	16) 菅茶山書簡(内密 山陽陰口を茶山申したる噂につき)	状	1通	(文化9年)	晋帥	(頼春水)	15.1×47.5	楮紙		II-1-51-16
1246	17) 菅茶山書簡(金谷太仲, 履軒弟子・宮本評判につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.2×17.4	楮紙		II-1-51-17
1246	18) 菅茶山書簡(江海の説につき所感, 頼家忌之歌会妙なる事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.9×22.0	楮紙		II-1-51-18
1246	19) [断簡](北条の詩序文添削早く奉願上候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×7.7	楮紙		II-1-51-19
1246	20) [断簡](万年額の札につき保命酒転送の事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×7.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○三月十二日返事」	II-1-51-20
1247	1) 菅茶山書簡(北地朱学, 海防見分の事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	17.7×47.0	楮紙	II-1-55-1～7まで仮綴	II-1-55-1
1247	2) 菅茶山書簡(出雲清主という人和学高名の事)	状	1通	(文化9年)	晋帥	(頼春水)	17.8×16.4	楮紙		II-1-55-2
1247	3) [断簡](岡寿卿兄弟行状につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×7.0	杉原紙	端書(頼春水)『此事不解候』『姫井より参候注文ハ江戸へ幸便ニ遣し可申候 留置申候』	II-1-55-3
1247	4) [断簡](国泰寺への届物早々もたせ遣候につき)	状	1通	(文化9年)	(頼春水カ)	(菅茶山)	16.4×4.2	楮紙(萌黄色)	茶山による返答書入あり	II-1-55-4
1247	5) [断簡](光師入京後消息につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	17.7×4.5	楮紙		II-1-55-5
1247	6) [断簡](三省館の記見たく候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	17.6×7.2	楮紙		II-1-55-6
1247	7) 菅茶山書簡(履軒弟子・宮本敬齋行状につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	17.8×13.2	三桮紙		II-1-55-7
1248	1) 菅茶山書簡(佐一郎殿縁談につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.9×14.0	三桮紙(萌黄色)	II-1-88-1～17まで仮綴	II-1-88-1
1248	2) 菅茶山書簡(老子の題にて七言絶句)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×20.5	杉原紙(龍文摺)		II-1-88-2
1248	3) 菅茶山書簡(讃州画帖いまだ来たらず候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×8.5	三桮紙(黄染)		II-1-88-3
1248	4) 菅茶山書簡(大舎という人より書来たり候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×11.0	三桮紙(黄染)		II-1-88-4
1248	5) 菅茶山書簡(道光師笠岡に御草稿携え行き候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×10.0	杉原紙(龍文摺)		II-1-88-5
1248	6) [断簡](佐一郎殿縁談御目出度奉存候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×3.9	杉原紙(龍文摺)		II-1-88-6
1248	7) [断簡](京都も無難, 詩など段々参候事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×4.5	杉原紙(龍文摺)		II-1-88-7
1248	8) [断簡](歳暮挨拶)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.5×7.0	杉原紙(龍文摺)		II-1-88-8
1248	9) 福山某書簡(頼春水先生額字依頼につき)	状	1通	(文化9年)	(福山某土人)	(頼春水)	15.0×9.3	楮紙		II-1-88-9
1248	10) 菅茶山書簡(岡山藩儒姫井・斎藤につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×18.2	三桮紙		II-1-88-10

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1248	11) 菅茶山書簡(丸川二子, 長作亡き後の養子につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×22.4	三桮紙(薄藍色)		II-1-88-11
1248	12) 菅茶山書簡(内密 土晦性質事につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.9×16.0	三桮紙		II-1-88-12
1248	13) 菅茶山書簡(福山某士人額一つ御願いのこと)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.8×9.0	三桮紙(薄赤色)	「其状そへて懸御目申候」とあり	II-1-88-13
1248	14) 菅茶山書簡(仙台の柴田につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×7.7	三桮紙(薄藍色)		II-1-88-14
1248	15) [断簡](冬日和歌)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×5.3	三桮紙(薄藍色)		II-1-88-15
1248	16) 菅茶山書簡(書状封の宛先・差出地の書式につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×15.1	三桮紙(薄藍色)		II-1-88-16
1248	17) 菅茶山書簡(ロシア情勢, 亡弟十三回忌につき)	状	1通	(文化9年)十二月廿日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.0×58.2	三桮紙(薄藍色)	端裏書(頼春水筆)「茶山 十二月廿日出 正月十日自竹原 ○癸酉」	II-1-88-17
1249	1) 菅茶山書簡(岡元齡墓銘, 道光師の滞留の事)	状	1通	(文化9年)端午	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×56.1	楮紙	II-1-93-1~6まで仮綴	II-1-93-1
1249	2) 菅茶山書簡(像賛左行読みの是非, 広瀬より湖月亭の五絶到来)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×46.7	楮紙		II-1-93-2
1249	3) 菅茶山書簡(中津騒動につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×22.6	楮紙		II-1-93-3
1249	4) 菅茶山書簡(去年妖星以来の天候不順・地震につき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×15.2	楮紙		II-1-93-4
1249	5) [断簡](此書端午後に福山便にて到来の事)	状	1通	(文化9年)竹酔日	晋帥	(頼春水)	15.0×3.5	楮紙		II-1-93-5
1249	6) 菅茶山書簡(村田順迪老私宅に一宿につき)	状	1通	(文化9年)端午竹酔日	晋帥	万四郎様	16.5×24.0	杉原紙	端裏書(頼杏坪筆)「神辺 端午竹酔日出 ○廿七日自竹原」	II-1-93-6
1250	菅茶山書簡(長作死後の負債, 善蔵の漂流談につき)	状	1通	(文化9年)十月十八日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×56.5	楮紙(黄染)	端裏書(頼春水筆)「二 茶山十八日出 十月廿二日来」	II-1-130-1
1251	菅茶山書簡(伊勢北讓四郎より詩集の序の依頼につき)	状	1通	(文化9年)10月18日	(菅茶山)	(頼春水)	16.2×8.0	楮紙(黄染)	端裏書(頼春水筆)「四 茶山」	II-1-130-2
1252	菅茶山書簡(内書 去年は御書御文通も今暫延引との仰せにつき)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春風)	15.0×51.5	楮紙	包紙(24.0×34.5, 半紙)「頼千齡様 菅太中御返書」, II-3-7~3-11まで一括	II-3-7
1253	菅茶山書簡(追啓 山陽上京時に預けた金子につき)	状	1通	(文化9年)正月十二日	菅太中	頼千齡様	15.0×23.4	楮紙		II-3-8
1254	菅茶山書簡(内密 京の山陽より書状到来, 福山儒官伊藤文佐と親密の事)	状	1通	(文化9年)	(菅茶山)	(頼春風)	15.0×36.6	楮紙		II-3-9
1255	1) 頼春風書簡(茶山より送られた金子につき)	状	1通	(文化9年)正月十四日	(頼春風)	(頼杏坪カ)	14.6×46.5	諸口紙	II-3-10-1~2まで貼継, 端裏書「御内談」, II-3-9に関連	II-3-10-2
1255	2) 頼杏坪書簡(茶山十分立腹の様子につき)	状	1通	(文化9年)	(頼杏坪)	(頼春水カ)	11.9×30.0	半紙	春風書簡(II-3-10-1)に添えたもの	II-3-10-1
1256	頼杏坪書簡(千蔵江戸留学の追願につき)	状	1通	(文化9年)	(頼杏坪)	(頼事庵カ)	11.8×10.0	半紙	II-3-9, II-3-10-1に関連カ	II-3-11

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1257	1) 菅茶山書簡(御香恵贈の礼, 吉川武介来宅, 江戸の近状承り候事)	状	1通	(文化10年)五月廿二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.0×70.7	楮紙	Ⅱ-1-2-1~6まで仮綴, 端裏書(頼春水筆)「茶山 ○五月廿二日出 六月十一日至自三原」	Ⅱ-1-2-1
1257	2) [断簡](韓客筆談姫井へ遣し候事, 尾路女画史入賀の事)	状	1通	(文化10年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×12.8	楮紙		Ⅱ-1-2-2
1257	3) [断簡]	状	1通	(文化10年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×6.0	楮紙		Ⅱ-1-2-3
1257	4) [断簡](離堂宴散の詩につき)	状	1通	(文化10年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×6.3	楮紙		Ⅱ-1-2-4
1257	5) [断簡](竹原の御作妙甚につき)	状	1通	(文化10年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×7.0	楮紙		Ⅱ-1-2-5
1257	6) [断簡](かのチウジンにつき)	状	1通	(文化10年)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×9.7	楮紙		Ⅱ-1-2-6
1258	菅茶山書簡(年始状の礼, 江戸大地震大火と申す事につき)	状	1通	(文化10年)二月六日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.9×121.4	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○ 二月六日出 十五日来」	Ⅱ-1-5
1259	1) 菅茶山書簡(春水訪問の礼, センレン紙, 白川月影紙進上につき)	状	1通	(文化10年)五月七日認	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	15.9×62.0	楮紙	Ⅱ-1-18-1~6まで仮綴, 端裏書(頼春水筆)「茶山 五月七日出十五日披見 ○」	Ⅱ-1-18-1
1259	2) 菅茶山書簡(姫井も対州筆談見たく申候事ほか)	状	1通	(文化10年)五月	(菅茶山)	(頼春水)	15.9×53.7	楮紙		Ⅱ-1-18-2
1259	3) 菅茶山書簡(今度京都御対顔の事, 安心仕候)	状	1通	(文化10年)五月	(菅茶山)	(頼春水)	15.9×30.5	楮紙		Ⅱ-1-18-3
1259	4) [断簡](道光上人広島滞留につき)	状	1通	(文化10年)五月	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×8.9	楮紙		Ⅱ-1-18-4
1259	5) [断簡](餘一殿時々御出下され度事)	状	1通	(文化10年)五月	(菅茶山)	(頼春水)	15.9×9.9	楮紙		Ⅱ-1-18-5
1259	6) 菅茶山書簡(帰路聞子規賦呈竹田子豊前韻二絶)	状	1通	(文化10年)五月	(菅茶山)	(頼春水)	14.0×40.8	楮紙	「此紙加賀之製也」とあり	Ⅱ-1-18-6
1260	菅茶山書簡(次牧百穀兄訪韻七律)	状	1通	(文化10年)	晋帥	(頼春水)	16.0×27.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)『讃州牧野藤兵衛名驥字百穀癸酉年来』, 同「御書差越仕候」	Ⅱ-4-14
1261	菅茶山書簡(円成院詩会得古賀博士及諸子賦分得江字七律)	状	1通	(文化11年)	晋帥	(頼春水)	20.5×26.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山」	Ⅱ-1-113
1262	菅茶山書簡(千蔵広島居住の事)	状	1通	(文化11年末カ)	(菅茶山)	(頼春水)	15.0×6.8	楮紙		Ⅱ-4-3
1263	菅茶山書簡(追 藝州・奥州の漂流民言上書珍しく候につき)	状	1通	(文化12年)	(菅茶山)	(頼春水)	14.8×57.2	杉原紙		Ⅱ-1-133
1264	菅茶山書簡(江戸土産話ほか)	状	1通	(文化12年10月カ)	(菅茶山)	(頼春水)	15.2×35.7	楮紙		Ⅱ-4-8
1265	菅茶山書簡(御行状, 外一冊進上の事, 神辺洪水につき)	状	1通	(文化13, 14年頃)五月廿五日午前	菅太中晋帥	頼千齡様, 頼餘一様	16.0×51.0	楮紙		Ⅱ-1-35
1266	菅茶山書簡(餘一へ諸事頼み事につき)	状	1通	(文化13年カ)五月十日	太中	餘一様	15.0×20.7	楮紙		Ⅱ-1-58

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1267	菅茶山書簡(春水遺稿序の批正依頼, 神辺大早魁につき)	状	1通	(文政元年カ)八月十九日	菅太中晋帥	頼万四郎様	16.5×68.1	杉原紙		II-1-91
1268	菅茶山書簡(詩作の同字母につき)	状	1通		太中晋帥	弥太郎様, 萬四郎様, 久太郎様	14.8×38.6	楮紙		II-1-6
1269	菅茶山書簡(木村斎, 神辺に着)	状	1通		晋帥敬白	(頼春水)	15.0×12.9	楮紙		II-1-11
1270	菅茶山書簡(万四郎兄へ書の催促につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×14.6	楮紙		II-1-12
1271	[断簡](尾藤二洲の書につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×5.2	楮紙		II-1-15
1272	[断簡](磨崖碑いまだ施主なきことにつき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	16.5×3.3	杉原紙(帆船絵摺)		II-1-16
1273	菅茶山書簡(特筆 近藤重蔵様御書中の趣につき)	状	1通		晋帥再白	(頼春水)	15.0×31.6	楮紙		II-1-20
1274	菅茶山書簡(杏坪神辺訪問につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	16.0×22.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 十三日出 三月廿七日至」	II-1-22
1275	菅茶山書簡(長門侯は秋交代御願の由につき)	状	1通	十一日追書	晋帥	(頼春水)	15.0×10.5	楮紙		II-1-24
1276	菅茶山書簡(西山門生少なき事情)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	16.5×14.7	杉原紙	後欠カ	II-1-26
1277	[断簡](旅程控)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.5×4.0	漉返紙		II-1-27
1278	[断簡](豊後小倉の古賀弟子, 私方へ参り候につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.7×7.6	楮紙		II-1-28
1279	[断簡](石原より届きものにつき)	状	1通	八月廿五日	晋帥	(頼春水)	15.9×8.7	楮紙		II-1-29
1280	[断簡](三宅文輔は土晦姪につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.8×6.1	楮紙		II-1-30
1281	菅茶山書簡(藤井土晦此頃遠謀密策をいたし候につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.9×45.6	杉原紙		II-1-34
1282	菅茶山書簡(春水東行安否, 午菴画につき)	状	1通	八月四日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	13.5×53.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 八月十五日至」	II-1-37
1283	菅茶山書簡(多次米村大風にて人家損傷につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.9×24.5	楮紙		II-1-39
1284	菅茶山書簡(詩評依頼, 二見の浜の筆草につき)	状	1通	十一月九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	16.0×71.0	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 十一月九日 ○十四日筑人持参」	II-1-42-1
1285	菅茶山書簡(京升屋書簡紛失につき)	状	1通	(11月9日)	(菅茶山)	(頼春水)	16.0×14.0	三桮紙		II-1-42-2
1286	菅茶山書簡(盆前和歌狂歌差上げ候につき)	状	1通	七月十六日	菅太中晋帥	頼万四郎様侍史	16.7×43.5	三桮紙(薄茶色)		II-1-45
1287	菅茶山書簡(此間照蓮新隠居みえ候につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.2×23.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○」, 後欠	II-1-46
1288	1) 菅茶山書簡(福善寺に納め候摺物につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×29.7	楮紙	II-1-48-1~5まで仮綴	II-1-48-1
1288	2) 菅茶山書簡(絹二幅につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×5.5	楮紙		II-1-48-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1288	3) 菅茶山書簡(春月思昔につき)	状	1通		晋帥	(頼春水)	15.0×10.0	楮紙		II-1-48-3
1288	4) 菅茶山書簡(伊豫国柳條布礼につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×12.2	楮紙		II-1-48-4
1288	5) 菅茶山書簡(良平, 霞亭, 竹田各一卷来着につき)	状	1通	六月十二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×57.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 六月十二日出 廿一日来○」	II-1-48-5
1289	菅茶山書簡(鴨方, 長尾, 備中宮内, 岡山の宿泊につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.0×13.5	楮紙		II-1-50
1290	菅茶山書簡(景福寺小僧の奇病につき)	状	1通	八月十日認置し書	(菅茶山)		15.7×32.0	楮紙	端裏書「八月十日認置し書」	II-1-54
1291	菅茶山書簡(金毘羅の醸造家依頼草稿につき)	状	1通		(菅茶山)		15.2×21.2	楮紙		II-1-56
1292	菅茶山書簡(拙集出来につき御祝儀痛入候事)	状	1通		晋帥		15.5×10.5	楮紙		II-1-59
1293	菅茶山書簡(狂歌和歌よみ候につき)	状	1通		(菅茶山)		16.1×41.5	楮紙		II-1-60
1294	菅茶山書簡(拙集もとかく誤字多く候事)	状	1通	十一月十九日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.0×46.1	三桎紙(薄藍色)		II-1-63
1295	菅茶山書簡(肥後より春川釣魚図の詩参り候につき)	状	1通	八月廿二日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	17.8×73.4	三桎紙(薄藍色)	端裏書(頼春水筆)「○ 茶山 八月廿二日出 九月六日夜至自竹原」	II-1-66
1296	菅茶山書簡(題画五言絶句三首)	状	1通		晋帥		15.0×29.0	楮紙		II-1-70
1297	菅茶山書簡(京の夜潮堂という画工につき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×34.1	楮紙		II-1-78
1298	菅茶山書簡(岡元齡より返礼の糯米にて赤飯いたし候事)	状	1通	(五月朔)	(菅茶山)		16.0×17.0	楮紙	「今日五月朔」と記述あり	II-1-81
1299	菅茶山書簡(養介湯治の事)	状	1通		(菅茶山)		16.5×7.3	杉原紙(海浜絵摺)		II-1-82
1300	菅茶山書簡(柴野の盃の趣向につき)	状	1通		太中晋帥	弥太郎様, 万四郎様	16.0×19.7	楮紙		II-1-85
1301	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		17.7×6.0	楮紙		II-1-95-1
1302	[断簡](服部蘇門博覧多識につき)	状	1通		(菅茶山)		17.7×4.5	楮紙		II-1-95-2
1303	菅茶山書簡(大割吟味役と申すものにつき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×26.2	楮紙		II-1-96
1304	菅茶山書簡(蝦夷へロシア船来航の事)	状	1通		(菅茶山)		16.5×24.5	楮紙		II-1-97
1305	菅茶山書簡(追 万四郎兄三月御発程につき)	状	1通	正月十七日	太中晋帥	弥太郎様	16.5×23.2	杉原紙		II-1-98
1306	[断簡](南北講和も段々相調い候につき)	状	1通		(菅茶山)		16.5×4.0	楮紙		II-1-99
1307	菅茶山書簡(福山にて尊筆売る人あるにつき)	状	1通	八月廿七日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	14.8×52.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「八月廿七日出 九月十二日来」	II-1-100-1
1308	[断簡](木村君貴字を失念につき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×10.2	楮紙		II-1-100-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1309	菅茶山書簡(特筆 博多へ帰し候者へ染筆依頼)	状	1通		晋帥		16.0×14.0	三桮紙		II-1-104
1310	菅茶山書簡(春風へ新年の挨拶状)	折紙	1通	正月十一日	菅太中晋帥	頼千齡様侍史	14.9×42.5	杉原紙		II-1-106
1311	菅茶山書簡(月前萩ほか和歌三首)	状	1通		晋帥		14.2×14.5	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「神辺より参り申候」, 和歌三首「草花留客」「野女郎花」「月前萩」	II-1-108
1312	菅茶山書簡(今年少雨にて涸れ井戸あり候事, 岡山吟社の事)	状	1通	十二月廿五	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.9×47.4	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「茶山 ○十二月廿九日至」	II-1-115
1313	菅茶山書簡(筑前にて製し紙お目にかへ候事)	状	1通		晋帥	千秋様	15.0×10.0	楮紙		II-1-116
1314	[断簡](墓銘の礼)	状	1通		(菅茶山)		15.0×9.5	楮紙		II-1-117
1315	菅茶山書簡(安道庄介の事)	状	1通		(菅茶山)		15.7×11.2	楮紙		II-1-118
1316	菅茶山書簡(矢掛のはやり大師の事)	状	1通		(菅茶山)		18.8×20.0	三桮紙		II-1-120
1317	菅茶山書簡(二印の礼)	状	1通		(菅茶山)		15.0×18.8	楮紙		II-1-121
1318	1) 菅茶山書簡(山口凹港の茶山への依頼)	状	1通		(菅茶山)		16.0×27.5	杉原紙	II-1-125-1~2まで仮綴	II-1-125-1
1318	2) 菅茶山書簡(岡上学抜いよいよ行われなき事)	状	1通		(菅茶山)		15.5×15.6	杉原紙		II-1-125-2
1319	菅茶山書簡(覚 贈答諸品)	状	1通		晋帥拜具		15.0×11.5	楮紙		II-1-128-1
1320	菅茶山書簡(土晦あしらいの事につき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×9.5	楮紙		II-1-128-2
1321	菅茶山書簡(先達への相談につきお返事催促の事)	状	1通		(菅茶山)		15.0×22.5	楮紙		II-1-132
1322	菅茶山書簡(和歌弊習一洗の事)	状	1通		(菅茶山カ)		18.2×34.1	奉書紙		II-1-134
1323	菅茶山書簡(一家中麻疹の事, 柴野栗山の碑と行状の事)	状	1通	五月廿八日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	14.7×50.7	杉原紙(藤花絵摺)	端裏書(頼春水筆)「○」	II-1-136
1324	菅茶山書簡(府志の出来映えを賞され候事)	状	1通		(菅茶山)		15.7×16.0	楮紙		II-1-138
1325	菅茶山書簡(追 土晦父の墓銘依頼)	状	1通	五月十九日	(菅茶山)		15.0×20.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)「五月十九日出脚夫之便 廿一日至り批答之餘」	II-1-139
1326	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		14.7×4.9	楮紙		II-1-140
1327	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		15.0×5.2	楮紙		II-1-141
1328	菅茶山書簡(不二の御作, 小沢の歌集参り候につき)	状	1通		(菅茶山)		17.7×58.5	三桮紙		II-1-142
1329	菅茶山書簡(中秋ほか和歌四首)	状	1通		(菅茶山)		15.0×12.8	楮紙		II-1-143
1330	菅茶山書簡(千蔵事につき)	状	1通		(菅茶山)		15.9×9.6	三桮紙(薄赤色)		II-1-144
1331	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		13.4×8.4	楮紙		II-1-147
1332	菅茶山書簡(光蓮寺の門徒僧の不埒の事)	状	1通		(菅茶山)		15.7×20.0	楮紙		II-1-148
1333	菅茶山書簡(いしのこという瓜につき)	状	1通		(菅茶山)		14.5×17.8	楮紙		II-1-149
1334	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		13.4×8.5	楮紙		II-1-150

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1335	菅茶山書簡(福山笠岡周辺麻疹と疫病の流行につき)	状	1通	六月十二日	菅太中晋帥	弥太郎様	14.7×24.7	杉原紙(藤花絵摺)		II-2-3
1336	菅茶山書簡(良備後製雁皮紙進上の事, 藤井墓銘の事)	状	1通	八月十日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.1×92.6	奉書紙(紗綾形型押)	端裏書(頼春水筆)「茶山 八月十日出 ○廿五日来」, 2枚に剥離	II-2-6
1337	菅茶山書簡(春水へ文稿進上, 令郎返礼の事)	状	1通	十一月三十日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	16.2×50.2	楮紙		II-2-9
1338	菅茶山書簡(追 料介, 土晦の人物につき)	状	1通		(菅茶山)		15.1×49.3	楮紙		II-2-10
1339	菅茶山書簡(金毘羅での殺人, 備中井原の親殺しにつき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×20.2	楮紙		II-2-12
1340	菅茶山書簡(道之記の浄書につき)	状	1通		(菅茶山)		15.5×12.8	楮紙		II-2-13
1341	菅茶山書簡(杏坪の江戸詩社の交友につき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×19.3	楮紙		II-2-14
1342	菅茶山書簡(茶山上下格仰付の事)	状	1通		(菅茶山)		15.6×15.0	楮紙		II-4-1
1343	菅茶山書簡(大原画会の事)	状	1通		(菅茶山)		14.9×14.0	楮紙		II-4-2
1344	菅茶山書簡(西山孝恂の消息につき問合せ)	状	1通		(菅茶山)		15.1×13.9	楮紙		II-4-5
1345	菅茶山書簡(内藤大夫父子の訪問につき)	状	1通		(菅茶山)		15.8×25.5	楮紙		II-4-6
1346	菅茶山書簡(矢代太郎という人示し候歌につき)	状	1通		(菅茶山)		16.4×23.3	楮紙	前欠カ	II-4-7
1347	菅茶山書簡(墓銘御願につき)	状	1通		(菅茶山)		14.9×35.5	楮紙	端裏書(菅茶山筆)「大頼」	II-4-10
1348	[断簡]	状	1通		(菅茶山)		14.8×9.0	楮紙		II-4-11
1349	菅茶山書簡(権門より春水へ書の依頼につき)	状	1通		(菅茶山)		15.0×23.0	楮紙		II-4-15
1350	[断簡](修理艱難のことにつき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水カ)	15.0×4.3	楮紙		III-251-15
1351	菅茶山書簡(西山拙斎孫の病につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.8×10.8	楮紙		III-292-24
1352	[断簡](封後に思えば由来如今なるべし)	状	1通		(菅茶山カ)	(頼家)	17.2×3.1	杉原紙		III-317-37
1353	[断簡]	状	1通		(菅茶山カ)		14.9×6.4	楮紙		III-326-24
1354	[断簡]	状	1通		(菅茶山カ)		17.2×5.5	楮紙	前後欠	III-326-27
1355	菅茶山書簡(筆伯の事につき)	状	1通		(菅茶山カ)		14.0×12.0	楮紙		III-326-44
1356	菅茶山書簡(潤筆の事につき)	状	1通		(菅茶山カ)		15.0×11.3	楮紙		III-326-75
1357	菅茶山書簡(磨崖碑の事につき)	状	1通		(菅茶山)		14.7×13.5	楮紙		III-326-88
1358	菅茶山書簡(新しく漉かしてみた紙につき)	状	1通		(菅茶山カ)		14.4×15.2	楮紙		III-326-90
1359	菅茶山書簡(書画の解説につき)	状	1通		(菅茶山)		14.4×17.4	楮紙		III-326-91

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1360	菅茶山書簡(南北義草の作者相尋申候処、荻野庄右衛門の著述の由)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.2×18.6	楮紙		Ⅲ-370-133-1
1361	菅茶山書簡(荻野庄右衛門著作松村家へ遺し贈るとの事につき)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.2×30.5	楮紙		Ⅲ-370-133-2
1362	菅茶山書簡(子成令郎近状いか候哉)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	14.6×6.6	楮紙		Ⅲ-370-136
1363	[断簡](竹原の書につき)	状	1通		(菅茶山カ)		15.9×9.2	楮紙		Ⅲ-372-50
1364	菅茶山書簡(訃 小野という家へ参候処十二月十六日相果て候由)	状	1通		(菅茶山)	(頼春水)	15.2×16.5	楮紙		Ⅲ-378-2
1365	菅恥庵書簡(曆尊・曆書の事、衣笠山人、福井源助事ほか)	状	1通	六月初六	菅晋葆 拜	春水先生 函丈	15.5×199.6	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「圭二 六月十日至」	Ⅲ-314-10
1366	菅良平書簡(京都より又次郎様御連御帰被成候事ほか)	状	1通	(天保4年)嘉平月五日	菅良平	頼餘一様 侍史	16.1×115.4	三桎紙		Ⅲ-306-19
1367	菅良平書簡(御馳走忝奉存候、長座仕恐入申候事)	状	1通	七月十八日	良平拜	餘一様	14.0×41.0	楮紙	封上書「餘一様 良平拜 内用御直被」	Ⅲ-306-20
1368	菅良平書簡(山陽先生、仙酔楼即事之御作へ寄題之詩御頼申上候事)	状	1通	六月十日	菅良平 拜	頼餘一様 侍史	16.0×113.8	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「菅良平」	Ⅲ-306-21
	二十三師友連卷								Ⅲ-77-1～23まで貼継	Ⅲ-77
1369	1) 西依墨山書簡(新年挨拶状)	状	1通	二月廿五日	西依丹左衛門(花押)	頼弥太郎様 君酬	15.4×82.6	杉原紙		Ⅲ-77-1
1369	2) 若槻幾斎書簡(芝山家御頼之事、内裏の様子)	状	1通	(文化6年)六月十八日	若槻幾斎(花押)	頼弥太郎様	16.5×106.3	雁皮紙(薄藍色)	端裏書(頼春水筆)「若 ○ 六月十八日出 七月廿一日至」	Ⅲ-77-2
1369	3) 黒沢雪堂書簡(平井直蔵、寒泉ほか諸氏動静)	状	1通	(文化5年)正月八日	惟直拜	弥太郎様侍史	18.0×275.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)「黒沢正助殿来書 人日出 二月廿九日 上役衆方届 ○」	Ⅲ-77-3
1369	4) 頼杏坪書簡(西山拙斎碑文之義につき)	状	1通	五月十八日	頼万四郎、柴野栗山	栗山老先生、頼万四郎様	17.0×64.0	大杉原紙	封上書「栗山老先生侍史 頼万四郎」「下栗山 上頼万四郎様 期為拜」、柴野栗山による返答書入(朱書)あり	Ⅲ-77-4
1369	5) 尾藤二洲書簡(聖堂御通抜と号し御見分御座候事ほか)	状	1通	十月廿二日	約頓首	拙老兄	14.1×40.1	楮紙	封上書「拙老兄 約頓首」、端裏書(頼春水筆)「○ 十一月十九日至」	Ⅲ-77-5
1369	6) 飯岡義斎書簡(春水より梅颯へ説諭されたき事)	状	1通	(天明7年カ)七月廿三日	篠田義斎	頼弥太郎様	15.2×70.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「七月廿三日 八月三日至」	Ⅲ-77-6
1369	7) 篠崎三島書簡(体調不良の事ほか)	状	1通	(文化10年)七月廿六日	篠崎長兵衛(花押)	春水頼儒家参人	15.9×95.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「安道七月廿六日出 八月十三日来」「十月晦日病死 是絶筆也」	Ⅲ-77-7
1369	8) 中井竹山書簡(草茅危言之義は一本写呈仕候事ほか)	状	1通	十月廿一日	中井善太積(花押)	頼弥太郎様	17.9×271.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 十月廿四日出 十一月廿八日至 ○ 無之事」	Ⅲ-77-8
1369	9) 中井蕉園書簡(新居帖大に延引仕候事)	状	1通	五月廿九日	曾弘	春水先生	16.3×80.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「中井淵蔵 七月 朔日達」	Ⅲ-77-9
1369	10) 姫井桃源書簡(児嶋郡船頭の漂流記につき)	状	1通	(文化12年)二月十日	姫井元喆	春水頼翁書燈下	16.0×128.8	三桎紙(萌黄・薄藍色、黄染)	封上書「弥太郎様 貞吉」、端裏書(頼春水筆)「○ 二月廿八日 岡一水一封」	Ⅲ-77-10
1369	11) 西山拙斎書簡(古賀精里に始而拜謁の事ほか)	状	1通	仲秋十三日	西山正拜具	頼華軒先生高梧下	18.0×161.4	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「九月三日至」	Ⅲ-77-11

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1369	12) 岡元齡書簡(銅印御届申上度事ほか)	状	1 通	九月廿二日 認置	岡惣左衛門 (花押)	頼弥太郎様下 玉案	16.5×93.5	雁皮紙(薄茶色)	端裏書(頼春水筆)「くらしき ○ 九月廿二日出 十月十一日来」	III-77-12
1369	13) 岡延年書簡(草書いたし置候もの御削添下され度事)	状	1 通	十一月廿日	岡文兵衛	頼弥太郎様高 梧下	15.7×72.0	三桎紙(萌黄, 薄 墨, 黄)	端裏書(頼春水筆)「延年 ○」	III-77-13
1369	14) 菅茶山書簡(岡寿卿, 西山拙斎の様子, 詩作の事)	状	1 通	八月二十日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍 史	14.8×63.6	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「神辺 八月廿日出 廿日来 三永便」	III-77-14
1369	15) 岡田寧処書簡(中井竹山, 白川侯御旅館へ御呼出しの事)	状	1 通	(天明6年カ) 六月十日	岡田善次(花 押)	頼弥太郎様侍 側	15.5×185.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「君章 八月廿七日 達」	III-77-15
1369	16) [書簡](病につき退役願を出した事ほか)	状	1 通	(文化5年)十 一月廿五日	翼拝	春水老先生大 人侍史玉下	16.5×279.7	三桎紙(萌黄色)	端裏書(頼春水筆)「○ □□ 十二月廿五日 出 巳正月十三日至」	III-77-16
1369	17) 箕浦立斎書簡(専ハ臨終, 死去の様子)	状	1 通	(文化10年) 十二月二十 七日	箕浦右源次	頼弥太郎様奉 復玉案下	17.3×215.6	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「土州箕浦家返書 甲戌四月廿日至自江戸」	III-77-17
1369	18) 箕浦貞吉書簡(弊屋学塾の扁額の文字を所望の事ほか)	状	1 通	十月廿六日	箕浦貞吉(花 押)	頼弥太郎様	15.1×180.6	奉書紙	端裏書(頼春水筆)「ミのうら 十月廿六日出 十二月廿八日至 ○」	III-77-18
1369	19) 亀井南溟書簡(近頃の大坂文芸の様子, 諸子動静)	状	1 通	(安永8年)正 月廿一日	亀井主水(花 押)	頼弥太郎様	15.8×203.4	三桎紙(薄茶色)	端裏書(頼春水筆)「己亥二月廿六日 筑狂南冥暉出来致返書すミ」	III-77-19
1369	20) 月形鶴窠書簡(杏坪老兄格別に御拔擢につき祝状)	状	1 通	(文化8年)十 二月望月	月形七助 質 (花押)	春水先生侍口	15.5×147.7	楮紙	端裏書(頼春水筆)「月形 十二月望出 申 二月十二日 自大坂来」	III-77-20
1369	21) 倉成龍渚書簡(古賀精里明二月に対州へ下り候事ほか)	状	1 通	(文化7年カ) 十二月朔日	倉至	春水頼先生侍 史	15.8×183.3	楮紙	端裏書(頼春水筆)「倉成 十二月朔日出 廿七日来」	III-77-21
1369	22) 石川一介書簡(若槻より写本二冊収手仕候事ほか)	状	1 通	(文化8年カ) 四月廿五日	石川一介口押	春水頼先生緯 帷下	15.8×191.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「小倉石川 四月廿五日出 五月廿三日来」	III-77-22
1369	23) 辛島塩井書簡(春風西遊, 長崎訪問の事ほか)	状	1 通	(文化4年)十 月廿一日 認 置	辛嶋才蔵	頼弥太郎様侍 史前	15.6×270.9	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「辛島 十月出辰二月廿四日至 ○」	III-77-23
1370	中井竹山書簡(弊校土木につき, 堀田相模守厚くお世話の事)	状	1 通	(寛政6年)十 二月廿一日	中井善太	頼弥太郎様	16.5×236.3	美濃紙(赤茶・薄 藍・薄黄・丹・薄 赤色)	端裏書(頼春水筆)「○二月十一日 竹山 去臘廿一日出 正月廿五日至」	III-126-13
1371	中井竹山書簡(篠田家の凶報につき令室御心勞奉察候, 学校再建土木追々片付引移り候事)	状	1 通	(寛政8年)六 月廿四日	中井善太	頼弥太郎様	17.7×197.0	奉書紙(藍色龍 文摺)	端裏書(頼春水筆)「○丙辰 竹山 七月廿四日 一併来致御勘定所便八月廿九日」	III-126-7
1372	中井竹山書簡(副啓 兼葭主人の近況につき)	状	1 通	(寛政8年6月 24日)	(中井竹山)	(頼春水)	17.7×23.4	奉書紙(藍色龍 文摺)		III-126-8
1373	中井竹山書簡(御地水変をムクリコクリの妄談や蛟害と称し事, 菅太仲文字の相談につき)	状	1 通	(寛政8年)十 二月廿五日	中井善太	頼弥太郎様	16.4×218.0	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 ○二月三日 十二月廿五日 正月廿二日至」	III-126-14
1374	中井竹山書簡(草芽危言五卷呈上につき, 緩々御留覧されたき事)	状	1 通	(寛政9年)正 月廿一日	中井善太	頼弥太郎様	16.2×171.4	美濃紙	袋(26.5×21.5, 楮紙, 頼春水筆)「竹山来書幽人一通付」, 端裏書(頼春水筆)「竹山 ○正月廿一日出 二月廿四日至 三月五日」	III-126-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1375	中井竹山書簡(ムクリコクリの事につき, 草芽危言御藩邸差出につき)	状	1通	(寛政9年)二月廿九日	中井善太	千秋道兄呈下	17.6×192.9	奉書紙(茶龍文摺)		III-126-2
1376	中井竹山書簡(逸史成就, 山中より献上相済むにつき)	状	1通	(寛政9年)七月十一日	中井濞翁	千秋道兄執事	18.2×235.7	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 閏七月十一日出 廿七日至 ○」	III-126-6
1377	中井竹山書簡(追啓 逸史蔵梓の義につき)	状	1通	(寛政9年)七月廿五日	濞翁	千秋道兄	16.3×119.7	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 七月廿六日出 八月十三日至」	III-126-9
1378	中井竹山書簡(新名雪翁の義につき)	状	1通	(寛政10年)三月四日	濞翁	千秋尊兄	17.8×223.2	美濃紙	封上書「千秋様 雪翁」, 端裏書(頼春水筆)「○廿一日上巳出 三月廿日至」	III-126-3
1379	中井竹山書簡(草芽危言全部五冊慥かに入手, 令郎御婚礼調い大慶につき)	状	1通	(寛政11年)四月五日	中井濞翁	頼弥太郎様	16.1×156.8	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 ○四月十五日至」	III-126-4
1380	中井竹山書簡(耳疾にて応酬不快の事, 逸史御伝写の義につき)	状	1通	(寛政12年)閏月十八日	中井濞翁	頼弥太郎様	17.2×267.4	杉原紙(藍龍文摺)	端裏書(頼春水筆)「竹山 庚申 閏四月十八日出 五月十六日至 ○六月廿四日」	III-126-5
1381	中井竹山書簡(逸史の義写手貧少のため取懸かりがたし, 国学御講席お務めなられるにつきお喜び)	状	1通	(寛政13年)十一月十五日	中井濞翁	頼弥太郎様	16.4×104.3	美濃紙		III-126-12
1382	中井竹山書簡(亡息一事, 名跡の儀七郎相続につき)	状	1通	(享和3年)	濞翁	頼弥太郎様	16.2×231.2	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 十月九日出 十一月四日至」	III-126-11
1383	中井竹山書簡(孫児は当夏夭折, 此地城壕へ陥ら溺れ多く候由御聞につき)	状	1通	九月十三日	中井濞翁	頼弥太郎様	17.2×201.5	竹紙(花卉下草文摺)	端裏書(頼春水筆)「○竹山 九月十三日出 十月十日來」	III-126-10
1384	中井竹山書簡(令郎御術業定めて成就と推察, 越侯ご病気の風聞につき)	状	1通		(中井竹山)	(頼春水)	18.0×125.3	美濃紙		III-126-15
1385	中井竹山書簡(危言一書御伝写相済み尊世子閣下御尊覧につき)	状	1通		(中井竹山)	(頼春水)	16.5×28.7	美濃紙		III-126-16
1386	中井竹山書簡(先日延引候一篇追掛進呈につき)	状	1通	六日	積善白	千秋道兄	15.5×14.5	杉原紙		III-126-17
1387	中井竹山書簡(最早窮陰当年も棒に振申すにつき)	状	1通	十二月十三日	濞翁	千秋道兄	16.4×19.5	美濃紙		III-126-23
1388	中井竹山書簡(去年の妄作につき千祺君より批正につき礼状)	状	1通	廿二日	雪翁	千秋道兄	16.4×23.2	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「万四郎殿 弥太郎」	III-126-24
1389	中井蕉園書簡(南転録の事につき, 小印章呈上にき, 履軒墨痕の事につき)	状	1通	三月三日	洵蔵	(頼春水)	15.5×108.0	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「洵蔵」	III-126-19
1390	中井蕉園書簡(当方土木過半出来, 講堂学舎は冬中出来につき)	折紙	1通	十二月朔日	中井洵蔵曾弘	頼弥太郎様	15.6×45.0	杉原紙		III-126-20
1391	中井蕉園書簡(往来多病私事, 去年初夏より快調につき)	折紙	1通	正月三日	中井遠蔵曾弘	千秋頼先生函丈	15.6×45.0	杉原紙		III-126-21
1392	中井蕉園書簡(毎々受命の雕蟲大いに延引, 春來不快につき)	折紙	1通	六月廿五日	中井遠蔵	春水頼先生函丈	18.3×50.0	杉原紙(薄茶色)		III-126-22
1393	中井蕉園書簡(料紙一箱持参, 一枚二行くらいに草書にて千文を認めされたきにつき)	状	1通	四月十一日	中井洵蔵	春水頼先生函丈	18.3×86.2	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「竹山 ○五朔日出」	III-126-25

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1394	[包紙]	状	1通		中井淵藏	尾藤良佐様	23.5×28.6	楮紙	封上書「尾藤良佐様 中井淵藏」, 紙背墨書「[]礼生書上ケ」	III-349-20
1395	[包紙] (平安書籍三冊并書状在中)	状	1通	江戸後期	浪華隠者 大塩平八郎	芸州御家中 頼興市様	32.0×44.6	楮紙	朱文長方印「山河□□」9顆, 白文方印「洗心藏」3顆, 2枚重ね, 裏に「六月五日 御藏屋敷 長田屋保兵衛〇届」と記載あり	III-97
1396	1) 長田屋藤三郎書簡(山陽上京につき国許への届出の件)	状	1通	(文化8年) 三月十八日	長田屋藤三郎	弥助様	14.1×121.7	楮紙	II-3-14-1~2まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「三月廿日夜届」	II-3-14-1
1396	2) 長田屋藤三郎書簡(別記, 京都の山陽の届出の事)	状	1通	(文化8年) 十八日	長田屋藤三郎	弥助様	14.1×36.9	楮紙		II-3-14-2
1397	いづみや清兵衛書簡(浅葱表紙の見積書)	状	1通	(文政2年カ) 四月廿四日	いづみや清兵衛	田中藤七様	16.3×18.0	楮紙		III-322-2-1
1398	[包紙]	状	1枚	六月十五日	田中藤七	頼万四郎様	24.0×33.9	半紙	「自大坂 広島国泰寺裏門前 頼万四郎様 田中藤七 表紙八百枚相添 六月十五日封」	III-322-1-1
1399	金蔵書簡(覚 荷の納品書)	状	1通	六月廿八日	金蔵	頼様	14.3×17.9	楮紙		III-322-1-2
1400	いづみや清兵衛書簡(覚 田中藤七宛の紙の納品書)	状	1通	六月十一日	いづみや清兵衛	田中藤七様	16.1×23.1	楮紙		III-322-1-3
1401	田中藤七書簡(浅黄表紙を納品したこと, 薄染の詫び)	状	1通	六月十五日	田中藤七	頼万四郎様	14.0×62.6	楮紙		III-322-1-4
1402	阿部保次郎書簡(師匠病氣ノ義ハ追而衰弱ヲ加ヘ言語通セス候事)	状	1通	(明治時代) 五月卅一日	頼鉉門人 阿部保次郎拝	頼三郎先生 玉机下	16.5×65.2	楮紙		III-319-13
1403	芦渚書簡(愚詠三首, 紀行一冊後便あけ可申候)	状	1通		芦渚	頼様	16.6×44.0	小高檀紙		III-338-10
1404	安原三吾書簡(尊名之御一字出所并帰納之義につき)	状	1通	十二月十八日	安原三吾	頼弥太郎様	17.9×40.9	楮紙	封上書「頼弥太郎様 安原三吾」	III-312-29
1405	安良書簡(豚犬(息子) 毎々御世話被下, 御示教偏奉希候)	状	1通	十月九日	安良 拝	春水大先生	14.3×41.1	諸口紙	封上書「春水大先生 安良拝」	III-313-6
1406	安良書簡(倅へ御手本多く被遣雀踊仕候事)	状	1通		安良拝	春水先生	14.3×45.8	諸口紙	封上書「春水先生 安良拝 内用書」, 端裏書「○」, 後欠	III-332-4
1407	井口晋平書簡(支峰弊宅滞在, まもなく帰坂・帰京のこと)	状	1通	十月廿八日	井口晋平	頼東三郎様	16.5×63.2	美濃紙カ		III-334-29
1408	井口晋平書簡(愚稿何卒一日モ早く御作拝見仕度につき)	状	1通	十二月十六日	井口晋平	頼支峰様侍史	16.3×79.9	楮紙		III-318-2
1409	井口晋平書簡(拝借之珍書ハ三樹君迄返壁仕候)	状	1通	十一月十五日	井口晋平	頼東三郎様侍史	16.5×37.6	楮紙	封筒(16.8×4.8, 楮紙)「京新島二条上ル 頼又次郎様迄 頼東三郎様 大坂高槻上人町 井口晋平 要用賃済」, 同・裏「十一月十五日 出」	III-319-2
1410	井澤喜右衛門書簡(享帚集之儀, 御細當之趣奉承知候)	状	1通	十月三日	井澤喜右衛門	頼弥太郎様	15.6×153.7	楮紙	封上書「頼弥太郎様 井澤喜右衛門」, 端裏書(頼春水筆)「返事ナシ」	III-314-5
1411	井澤蘭軒書簡(河野恕齋遺稿の序文執筆依頼)	状	1通	(寛政4年) 仲春念一日	井澤甚口右衛門	頼弥太郎様 玉案下	17.7×188.1	奉書紙	端裏書(頼春水筆)「○井澤 二月十五日 出 閏十七日至」	III-334-27
1412	宇都宮真名介書簡(山陽先生贈位一件につき)	状	1通	(昭和6年) 三月念一	宇都宮真名介	頼東三郎様, 彌次郎様	27.9×44.6	楮紙	封筒(31.8×11.6, 柿渋染) 付属	III-359-6

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1413	雲華上人書簡(拙画御題辭ノ事, 当夏長崎へ滞留申候事)	状	1通	十月廿二日	大含	春水先生侍史	15.7×125.1	楮紙(薄桃色)	端裏書(頼春水筆)「大含来書」	III-313-10
1414	雲華上人書簡(老拙事, 昨年九月より越後へ参候事)	状	1通	四月三日	雲華院大含	頼家御後室様	16.7×166.9	三桮紙(白砂青松図刷)		III-338-9
1415	永田大助・栄蔵書簡(御用達所詰になつた報告)	状	1通	十二月廿三日	永田大助, 栄蔵	弥太郎様	13.5×20.9	楮紙		III-326-55
1416	越達太郎書簡(梅颯死去につき悔み状)	折紙	1通	(天保14年)十二月廿五日	越達太郎舉響	頼餘一様参人々に御中	17.6×47.7	杉原紙		III-192-2
1417	塩谷温書簡	状	1通	(昭和27年)七月十八日	塩谷温	頼惟勤様	19.5×50.7	三桮紙	封筒付属	III-387-41
1418	奥村書簡(染筆依頼)	状	1通	十月廿七日	奥村		16.5×29.8	杉原紙	前欠, 破断紙片あり, 箕浦書簡一部が奥に貼継, 端裏書(頼春水筆)「箕浦 壬二月三日 出 三月十三日六郎持参」	III-325-93
1419	岡一水書簡(年始の挨拶)	状	1通	正月五日	岡一水	頼万四郎様	16.7×27.3	楮紙(浅葱色)		III-322-25
1420	岡延年書簡(拙文所々御加筆御礼之事, 久太郎様去年方神辺へ御出被成候事)	状	1通	(文化7年カ)六月十七日	岡文兵衛	頼弥太郎様高梧下	16.6×89.0	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「延年 六月十七日出 七月三日来」	III-305-7
1421	岡延年書簡(拙画黒龍, 先差上申候事)	状	1通	(文化7年)十一月十七日認	岡文兵衛	頼弥太郎様高梧下	16.5×55.1	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「岡延年 庚午十一月出 正月廿日来 雲龍至 辛未四月 没是為絶筆」	III-305-8
1422	岡元齡書簡(聖堂御再建につき, 其節修行ノ心得)	状	1通	戊年(寛政10)	(土州箕浦)	(頼春水)	15.5×54.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「戊午江戸聖堂御再建ニ付船越候よりの書の写し, 土州箕浦より来」	III-304-27
1423	岡元齡書簡(亡母行状の事, 君侯が竹原春風宅へ御越の事)	状	1通	(文化3年)	惣左衛門 白		14.8×71.7	楮紙	前欠	III-339-11
1424	岡元齡書簡(古松軒疫にて危篤, 当月十日没候由につき)	状	1通	(文化4年)十一月大尽晦夜燈下	岡惣左衛門	頼弥太郎様再答	16.6×49.3	三桮紙(福寿草絵摺)	端裏書(頼春水筆)「くらしき〇」	III-305-9
1425	岡元齡書簡(拙文手直しの礼)	状	1通	(文化7年)三月七日	岡寿卿	春水先生	13.1×66.1	楮紙(白茶・茶染)		II-2-15
1426	岡元齡書簡(新年賀状, 丸川二子の事ほか)	状	1通	(文化8年)正月五日	岡惣左衛門寿卿, 同義之助	頼弥太郎様令御中	14.3×41.9	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 令御中」, 端裏書(頼春水筆)「辛未正月廿四日至 神辺より 〇 同十八日没是多筆ナリ」	III-304-15
1427	岡元齡書簡(新年挨拶状)	状	1通	正月三日	岡惣左衛門, 同文兵衛, 同万之助	頼弥太郎様, 同久太郎様	14.3×77.7	杉原紙	封筒・麻紐にてIII-304-1~28まで一括, 封筒「岡壽卿」, 紙帯(4.0×4.9, 楮紙)付属, 反故紙使用, 端裏書(頼春水筆)「元齡 〇正月十三日至」	III-304-1
1428	岡元齡書簡(新年挨拶状, 茶山漢詩「春川釣魚図」につき)	状	1通	正月廿三日認	銭屋惣左衛門寿卿	頼弥太郎様令御中	16.3×90.1	奉書	端裏書(頼春水筆)「岡元齡 〇正月廿九日至」	III-304-2
1429	岡元齡書簡(当廿県令〇私共兄弟に孝行につき御称誉下され候事)	状	1通	十一月廿八日	惣左衛門	頼弥太郎様	16.7×45.5	雁皮紙(黄染, 薄桃色)	封筒(17.0×5.2, 楮紙)「広島御家中 頼弥太郎様 倉敷 岡惣左衛門 緊用書」, 端書(頼春水筆)「四月朔日至」, 封筒裏「三月廿一日尾道へ出ス 状賃尾道〇〇」, 朱文方印[]1顆	III-304-3
1430	岡元齡書簡(東図并書簡軸二卷槩に入手仕候事)	状	1通	三月廿九日	せにや惣左衛門	頼弥太郎様貴答	16.3×104.2	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「くらしき 三月廿九日出 四月廿八日来 〇」	III-304-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1431	岡元齡書簡(当年ノ暑にハ大に困疲仕候につき)	状	1通	八月二日	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様座下	16.1×43.4	楮紙(薄茶染)		III-304-5
1432	岡元齡書簡(拙夫腕ノいたミ兎角直り不申候につき)	状	1通	六月望日認	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様座下	15.3×53.1	杉原紙		III-304-6
1433	岡元齡書簡(神辺口圭に遺稿二卷参り候事ほか)	状	1通	八月十四日認置	岡寿卿拜	頼春水先生再答	15.7×59.6	楮紙(薄茶染)	端裏書(頼春水筆)「元齡 ○」	III-304-7
1434	岡元齡書簡(蘭船長崎入津、餘袋字驚入奉存候事ほか)	状	1通	九月廿日	岡寿卿再拜	上頼文学絳帳下 再復	16.6×69.8	雁皮紙(薄茶染)	端裏書(頼春水筆)「元齡 ○九月廿日出 十月十三日至」	III-304-8
1435	岡元齡書簡(久太郎君返書・詩に歓歎の事、岡山齋藤氏ノ詩ノ事につき)	状	1通	三月十九日認	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様貴答	16.5×61.8	雁皮紙(薄茶染)	端裏書(頼春水筆)「くらしき 三月十九日出 四月六日至」, 右下部破損あり	III-304-9
1436	岡元齡書簡(廣島城下大火の事、令孫ノ御書跡驚入奉在候事)	状	1通	五月十三日	岡惣左衛門、同 文兵衛、同 義之助	頼弥太郎様座下	16.4×55.3	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「くらしき 五月廿日至○」	III-304-10
1437	岡元齡書簡(文兵衛癩の事、老母行状、神辺へ御出し被下候由につき)	状	1通	七月十七日認	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様貴答	16.6×71.8	雁皮紙(薄茶染)		III-304-11
1438	岡元齡書簡(御息女様佳婿ヲ被得候事、子琴後追悼御作の事)	状	1通	(端裏より閏六月八日)	(岡元齡)	(頼春水)	16.2×54.0	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「くらしき、閏六月八日出、八月十九日来、○」、後欠カ	III-304-12
1439	岡元齡書簡(老母事、来年九十二滴申候につき寿詩歌無心中度事)	状	1通	十月七日認	岡惣左衛門、同義之助拜答	頼弥太郎様	16.7×74.1	奉書	封上書「頼弥太郎様 岡惣左衛門 同義之助 拜答」、端裏書(頼春水筆)「十一月一日至」	III-304-13
1440	岡元齡書簡(引翼二大字横幅一箱被贈下忝拜受仕候)	状	1通	九月三日認置	岡惣左衛門寿卿、同分文兵衛 延年	頼弥太郎様拜復	16.1×117.2	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「くらしき 九月三日出 十一月八日来 ○」	III-304-14
1441	岡元齡書簡(二大字横幅に御とのへ被下候ハ、忝可奉在候)	状	1通	十月三日	寿卿	春水先生	16.0×32.7	杉原紙		III-304-16
1442	岡元齡書簡(湯治之御望御座候由につき)	状	1通	十月朔日	せにや惣左衛門 寿卿	頼弥太郎様拜答	16.6×81.9	雁皮紙(薄茶染)		III-304-17
1443	岡元齡書簡(老母九十寿詩一首被下千万忝奉存候)	状	1通	十二月廿五日夜	岡惣左衛門、同文兵衛	頼弥太郎様拜復	16.6×59.7	雁皮紙(黄染、薄桃色)	端裏書(頼春水筆)「元齡 十二月二十五日出 二十九日未」	III-304-18
1444	岡元齡書簡(亡母行状御直し忝く拝見の事、御息女様御縁組目出度奉賀候)	状	1通	六月二日	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様令御中	16.2×41.0	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「岡惣左 六月二日出 神辺便 ○廿二日至」	III-304-19
1445	岡元齡書簡(菅茶山らの来訪、二大字横幅之謝辞指出し申候事)	状	1通	十一月廿日認置	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様再答	14.4×127.1	楮・三桎混合漉紙	端裏書(頼春水筆)「元齡 十一月廿日出 十二月六日来」	III-304-20
1446	岡元齡書簡(御頭取いまた去不申候由、令弟岡山御通行之事)	状	1通	五月二日	せにや惣左衛門	頼弥太郎様拜答	14.6×78.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)「元齡 四月廿一日 五月二日 五月十五日至」	III-304-21
1447	岡元齡書簡(那須書画好キ之事、令郎に御書題御願可被下候事)	状	1通	十月十八日	岡寿卿 拜	頼春水先生坐下	14.4×69.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「アキ」	III-304-22
1448	岡元齡書簡(尾藩儒官塚田多門風聞、貴君御東行之由)	状	1通	五月六日夜灯下	岡惣左衛門	頼弥太郎様机下	14.5×107.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「六月廿五日 ○」	III-304-23
1449	岡元齡書簡(春水の安否伺い、拙老いまだ暮中に罷在候事)	状	1通	九月二日	岡惣左衛門	頼弥太郎様座下	15.8×36.2	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「元齡 ○」	III-304-24

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1450	岡元齡書簡(賀状, 米価引立ノ為, 買置米被仰付候事)	折紙	1通	正月八日	岡惣左衛門寿卿	頼弥太郎様 令御中	15.5×41.8	杉原紙	紙縫にてⅢ-304-25～26を一括, 封上書「頼弥太郎様令御中」, 端裏書(頼春水筆)「○二月十四日来」	Ⅲ-304-25
1451	岡元齡書簡(老母近況, フロシヤ舟入津ノ風聞)	状	1通	十一月廿八日	岡惣左衛門	頼弥太郎様 奉復	16.7×69.0	三桮紙(浅葱・薄藍色), 雁皮紙(黄染)	封筒(17.0×5.0, 楮紙)「広島御家中 頼弥太郎様 錢屋惣左衛門再答」, 端書(頼春水筆)「○十二月十九日返書」, 封筒裏「仲冬廿八日託八濱備中倉敷」, 封筒裏に朱文方印1顆	Ⅲ-304-26
1452	岡元齡書簡(御寿詞御改書被成下御礼申上候事ほか)	状	1通	二月二日書	錢や 惣左衛門	頼弥太郎様 貴答	16.1×99.1	楮紙		Ⅲ-312-11
1453	岡元齡書簡(追書 此和尚ノ書真偽難分いかかと存候につき)	状	1通		寿郷白		14.1×34.7	楮紙		Ⅲ-312-12
1454	岡元齡書簡	状	1通	六月十八日	岡惣左衛門	頼久太郎様	15.7×18.8	楮紙		Ⅲ-323-1-1
1455	[断簡]	状	1通				11.5×4.4	半紙		Ⅲ-323-1-2
1456	岡田寧處書簡(柴野慶次郎西遊につき, 関公之図五岳へ相頼候事)	状	1通	(寛政7年)正月十八日	岡田善次(花押)	頼弥太郎様 侍傍	15.0×140.2	楮紙(漉返し)	端裏書(頼春水筆)「君章 二月十七日至 ○五月望」	Ⅲ-312-9
1457	岡文兵衛書簡(口上 此度扇子老箱御祝儀に進上仕候事)	状	1通	三月十九日	岡文兵衛	頼弥太郎様 参人々御中	15.8×21.6	三桮紙		Ⅲ-312-10
1458	岡田寧處書簡(今度, 長谷川関碩と申す医員尊兄謁見仕度候につき)	状	1通	三月十一日	岡田善次(花押)	頼弥太郎様 侍史	15.9×38.4	楮紙		Ⅲ-309-3
1459	加藤定斎書簡(令郎君御縁談之御問合につき, 御園氏之事)	状	1通	(寛政10年)十一月廿九日	加藤三平	頼弥太郎様	14.1×29.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 加藤三平」, 2枚に剥離, 料紙右側切断	Ⅲ-312-7
1460	加藤定斎書簡(御息女様にも全ク御快復珍重之御儀奉存候)	状	1通	正月十五日	加藤三平德基	頼弥太郎様	14.3×17.1	諸口紙		Ⅲ-312-6
1461	河原翠城書簡(頼家訪問の礼, 染筆依頼)	状	1通	二月廿七日	河原駱之助拜	聿庵頼先生 下	17.0×81.1	杉原紙	紙背に墨書あり	Ⅲ-317-42
1462	河内屋儀助書簡(山陽御先生様之御著述詩文稿下拙方へ御以口之程奉希上候)	状	1通	十二月廿一日	河内屋儀助	頼御先生様, 御役人御衆中	16.5×66.9	大杉原紙		Ⅲ-167-2
1463	芥川貞松書簡(脚気を病むこと)	状	1通		(芥川貞松)		14.0×37.4	楮紙	端裏書「貞松 テイショウ」	Ⅲ-325-12
1464	芥川貞松書簡(芝居見物の事)	状	1通	十四日	(芥川貞松)		14.2×50.0	楮紙		Ⅲ-325-50
1465	梶山茂作書簡(三次町新市立之義につき)	状	1通	六月六日	梶山茂作	万四郎様, 佐一郎様	14.8×69.5	中杉原紙	包紙(24.5×17.2, 色半紙)「頼万四郎様 梶山茂作 内寄」, 包紙は反故紙を使用, 反故紙「梶山茂作様 藤田春蔵」	Ⅲ-164-6
1466	梶山与一書簡(尾藤様, 御新造様に対面仕り候事, 薩州候御発駕の事)	状	1通	四月廿二日	梶山与一	大先生様 拜呈	14.7×27.1	楮紙		Ⅲ-306-18
1467	勘十郎書簡(杏坪の書類・扣を読み感じ入った事)	状	1通	五月廿五日	勘十郎也/實教園 拜	杏坪先生様	14.7×57.7	楮紙	封上書「杏坪先生様 勘十郎也 御内密御直披 實教園拜」	Ⅲ-322-4
1468	間重富書簡(杏坪の天象に関する質問への返答)	状	1通	(寛政10年)正月廿日	間 五郎兵衛	頼万四郎様	15.7×96.5	杉原紙	封上書「頼万四郎様 間五郎兵衛 貴復」	Ⅲ-322-30
1469	関碩書簡(小筆を進上する事)	状	1通	六月廿日	関碩	頼権次郎様	14.3×46.1	楮紙	封上書「関碩」	Ⅲ-324-5

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1470	関蔵人書簡(御当家様之御事, 君之御失誤にては無之, 皆小子か罪にて候事)	状	1通	(寛政12年カ)申十二月十一日出	関蔵人	頼弥太郎様	14.3×104.1	諸口紙	包紙(24.3×17.0, 半紙)「頼弥太郎様 関蔵人 御内用答御直披」, 端書(頼春水筆)「申十二月十一日出 同廿四日至」	Ⅲ-177-46
1471	関蔵人書簡(昨夜の訪問の礼, 詩作と詩会の事)	状	1通		蔵人	弥太郎様	13.8×35.5	楮紙	封上書「弥太郎様 蔵人 内用」	Ⅲ-325-29
1472	関蔵人書簡(徳の事, 托された品の事)	状	1通	二月廿三日	関蔵人	頼弥太郎様	13.5×23.0	楮紙	封上書「頼弥太郎様 関蔵人 内用之事」	Ⅲ-326-103
1473	関藤蔭書簡(広島頼家訪問の礼, 式十両大供屋へ預け手形を三樹へ渡レ候事)	状	1通(4枚)	(天保4年)九月九日	石川関五郎	頼餘一様	14.6×142.4	楮紙	4枚で1通, 貼継ぎ跡なし	Ⅲ-317-19
1474	丸川一郎書簡(鳩巢事とかくしかと相分不申候事)	状	1通	仲冬初九	丸川一郎茂	頼弥太郎様 参人々御中	16.0×118.3	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「丸川 霜月九日出 廿日至」	Ⅲ-313-2
1475	丸川松隠書簡(拙作御高覧御礼, 鳩巢事追尋答の事)	状	1通	二月十九日	丸川一郎(花押)	頼弥太郎様	16.2×83.0	楮紙(薄藍色)	端裏書「四月廿日」	Ⅲ-332-2
1476	丸川松隠書簡(元齡病氣回復の事, 別紙丙条につき御開示御願申度事)	状	1通	九月念六	丸川一郎(花押)	頼弥太郎御侍史	16.5×49.6	三桮紙(黄染・竹葉絵摺)	端裏書「丸川○九月之書 十一月九日来」	Ⅲ-332-3-1
1477	丸川松隠書簡(副啓 藩中教化之小冊子削正願ほか)	状	1通	(9月26日)	丸川茂延拝呈 拝	(頼春水)	16.5×54.8	三桮紙(黄染, 竹葉絵摺)		Ⅲ-332-3-2
1478	丸茂文陽書簡(霊前江備もの被成下, 難有仕合奉存候)	状	1通	霜月二日	文陽	頼先生 御報	14.4×62.1	諸口紙	封上書「頼先生 御報 文陽」	Ⅲ-308-11
1479	丸茂文陽書簡(豫州表方 只今帰着仕候事)	状	1通	霜月朔日	丸茂文陽	頼先生	15.0×44.1	楮紙	封上書「頼先生 丸茂文陽 差向内用書」	Ⅲ-308-15
1480	岸彦十郎書簡(令郎御揮毫感佩の事, 尾藤氏の事)	状	1通	七月十三日	岸 彦十郎	頼弥太郎様	15.7×883.0	杉原紙	端裏書「岸 ○七月十三日出 八月廿三日至」	Ⅲ-332-5
1481	岩戸直次書簡(私儀去る八日(江戸より)帰着仕候事)	状	1通	七月廿四日	岩戸直次	弥太郎様 拝上	14.3×29.3	諸口紙		Ⅲ-312-19
1482	岩瀬華沼書簡(拙詩削正願候事, 公監絲揮の摺本の事)	状	1通	初冬初三	岩瀬勘平	頼弥太郎様机下	17.9×40.6	楮紙	封上書「頼弥太郎様 机下 岩瀬勘平」, 本書簡を包紙として使用	Ⅲ-309-1
1483	1)〔書簡〕(来ル六日昌平坂御帰路御出之儀につき)	状	1通	二月四日		(頼春水)	16.0×41.3	楮紙(萌黄色)	Ⅲ-309-2-1~2まで貼継, 端裏書「他人往復口 并詩文紛雜」	Ⅲ-309-2-1
1483	2)岩瀬華沼書簡(拙作一著相認奉呈仕候事)	状	1通	二月十日	岩瀬勘平	頼弥太郎様	16.2×56.3	三桮紙	封上書「頼弥太郎様 岩瀬勘平」	Ⅲ-309-2-2
1484	岩瀬藤四郎書簡(亡夫門人共其外打寄石碑建申度につき)	状	1通	六月十五日	岩瀬藤四郎 雅言(花押)	頼万四郎様 参人々御中	17.9×88.0	美濃紙	端裏書(頼杏坪筆)「○癸酉七月至 岩瀬藤四郎書」	Ⅲ-315-12
1485	〔包紙〕	状	1枚		筒井極人	頼万四郎様	18.0×4.5	楮紙	「頼万四郎様 筒井極人 御直披」	Ⅲ-322-12-1
1486	季寛書簡(扇面の礼に鱈の事)	状	1通	臘月十二日	季寛	杏坪先生侍史	13.7×30.7	楮紙	封上書「杏坪先生 侍史 季寛 拝」	Ⅲ-322-12-2
1487	〔書簡〕(御借り蔵敷銀差引の事につき)	状	1通				13.7×20.5	楮紙		Ⅲ-322-12-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1488	[書簡] (副書: 俵の改良に努めた結果, 塩と米の出荷の評判が良い事)	状	1通	十二月十五日			13.7×65.3	楮紙		Ⅲ-322-12-4
1489	吉川於菟次郎書簡(中元挨拶状)	状	1通	七月十三日	吉川於菟次郎	頼餘一様	16.0×40.2	楮紙	封上書「頼餘一様 吉川於菟次郎 内用書拜上」	Ⅲ-317-12
1490	吉川武助書簡(集古十種之事, 杏坪長崎行之事)	状	1通	(文化12年) 二月望	吉川武助	春水老先生函丈	12.1×28.0	半紙		Ⅲ-306-14
1491	吉川武助書簡(上杉候御隠居御願之通り之事ほか風聞)	状	1通	九月十一日朝	吉川武助	弥太郎様 函丈	11.6×33.4	半紙	前後欠	Ⅲ-306-12
1492	吉川武助書簡(暑中御機嫌伺状)	状	1通	六月廿七日	吉川武助 思(花押)	弥太郎様 拜上	14.1×21.3	諸口紙		Ⅲ-306-13
1493	吉川武助書簡(寛斎の詩の返却の事)	状	1通	八月尽	吉川武助		17.3×26.0	楮紙(緑線)		Ⅲ-325-36
1494	吉川武助書簡(年始状)	状	1通	正月二ヶ日	吉川武助	頼餘一様	12.0×20.5	半紙		Ⅲ-326-108
1495	吉川武助書簡(帰城前のご機嫌伺い)	状	1通	五月初三日	吉川武助	弥太郎様	14.0×24.0	楮紙		Ⅲ-326-109
1496	吉村仁兵衛書簡(御多門に居申候茂助につき御障モ無御座者に候哉)	状	1通	閏二月廿日	吉村仁兵衛	頼弥太郎様 御支配人中様	14.2×29.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 御支配人中様 伊藤吉六内 吉村仁兵衛」	Ⅲ-312-31
1497	吉村孫三郎書簡(弟を代官へ推挙して欲しい事)	状	1通	十二月廿二日	吉村孫三郎	頼万四郎様	14.3×105.4	楮紙		Ⅲ-322-19
1498	久波直蔵書簡(印肉出来候につき御越可被下候事)	状	1通	十二月九日	久波直蔵拜	頼三千三様侍史	14.3×45.1	諸口紙	包紙(19.9×13.6, 小半紙)「頼三千三様 久波直蔵 差向義」	Ⅲ-185-12
1499	宮原節庵書簡(梅颯死去につき悔み状)	折紙	1通	(天保14年) 臘月十九日	宮原謙蔵	頼餘一様, 復次郎様喪次	17.7×48.7	杉原紙	端裏書(頼事庵筆)「○謙蔵返書済」, 封筒(22.5×7.6)にてⅢ-194-1~4を一括, 頼古樸筆「諸家予書」	Ⅲ-194-1
1500	宮原節庵書簡(事庵死去につき悔み状)	状	1通	(安政3年) 九月十四日	宮原兼蔵	頼東三郎様	16.0×57.0	奉書紙(上部飾り線)		Ⅲ-317-57
1501	宮原節庵書簡(晶平書生橘爪助二郎御地へ罷越候につき)	状	1通	七月廿日	宮原龍	[]先生研北	16.0×72.0	楮紙		Ⅲ-317-54-1
1502	宮原節庵書簡(大紺屋兄弟につき極密の事)	状	1通		(宮原節庵)	(頼事庵)	16.0×34.4	三桎紙		Ⅲ-317-54-2
1503	宮沢裕妻書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和27年7月17日消印)	宮沢裕内	頼いと子様	14.0×9.1	郵便葉書		Ⅲ-387-42
1504	教学院役観書簡(御揮筆二片御贈被下感戴仕候)	状	1通(2枚)	六月十日	辱弟 役観 拜	春水頼先生 玉案下	16.7×45.1	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「教学院 六月十日出 廿日来」	Ⅲ-314-17
1505	金山道續書簡(上京してきた山陽の様子, 帯刀の事)	状	1通	(文化8年) 三月十四日	金山道續	春水老師尊下	16.3×382.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)『京金山 三月十四日之書 文化八年』, ○に三の書込みあり	Ⅱ-3-12-1
1506	金子霜山書簡(江戸遊学中の三千三, 学費出精の様子)	状	1通	十月朔日	□民	事庵君梧右	12.5×61.4	半紙	端裏書「金子書 十月朔出 同十九日達」	Ⅲ-317-58
1507	金子徳之助書簡(妻縁の口上書)	状	1通	六月廿八日	金子徳之助	頼権次郎様	14.8×15.0	楮紙	封上書「頼権次郎様 金子徳之助」	Ⅲ-324-6
1508	駒井数馬書簡(春水一周忌への供え物の添え状)	状	1通	(文化14年) 二月十八日カ	駒井数馬	頼餘一様	14.2×29.5	楮紙	封上書「頼餘一様 駒井数馬」	Ⅲ-325-14

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1509	駒井数馬書簡(絹地拝領御札につき、此鳥差上申度候)	状	1通	三月尽	駒井数馬	頼先生	14.4×40.3	諸口紙	封上書「頼先生 駒井数馬 差向内用」	III-317-20
1510	栗原道味書簡(銀札表封の御札の口上)	状	1通	七月十四日	栗原	頼様	12.5×16.9	半紙		III-326-37
1511	恵美三白書簡(古賀仲安口額字御揮亮之事御願申上候につき)	状	1通	八月五日	恵美三白	頼弥太郎様	16.7×43.5	杉原紙(上下朱線)	封上書「頼弥太郎様 恵美三白 要用」	III-313-11
1512	恵美三白書簡(過日御願申上候文字御調被下候様 御頼申上候事)	状	1通	六月廿日	恵美三白	頼弥太郎様	12.1×59.8	半紙	封上書「頼君」, 端裏書(頼春水筆)「恵美 九月廿二日至」	III-313-12
1513	月形鶴窠書簡(山陽君小祥御忌不堪感念拙句一首呈上候事)	状	1通	(天保4年)九月四日	月形鶴栖	頼杏坪様 帳下	16.5×106.6	雁皮紙	包紙(24.0×32.2 半紙)「広島御城下二而 頼杏坪様 従筑前赤間駅 月形鶴栖 別一封添 安信要緊書」, 同・裏「緘 九月四日発」	III-161-1
1514	月形鶴窠書簡(七言絶句「山陽故頼君小祥忌辰将至愴然有感賦以奉慰」)	状	1通	(天保4年)癸巳九月	辱友 月形質 拝稿	杏坪先生	21.0×40.6	竹紙	白文長方印「鶴窠」1顆, 白文方印「月形質」1顆, 朱文方印「君璞」1顆	III-161-2
1515	月形鶴窠書簡(杏坪君全部共に御從駕御帰国千万奉賀候)	状	1通	(寛政10年)四月廿日	月形質 再拝	春水先生 付側	16.3×62.8	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「筑前 月島七助〇 四月廿日出 五月廿一日至」	III-315-16
1516	月形鶴窠書簡(尊兄春風先生中風之御病症に而御仙逝被成候由)	状	1通	(文政10年)五月	(月形鶴窠)	(頼杏坪)	15.8×103.2	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「丁亥五月至 月形来書」	III-315-17
1517	月形鶴窠書簡(精里博士对州韓便迎接相済との趣)	状	1通	(文化8年)七月廿三日	月形七助 質(花押)	頼万四郎様 侍史	15.8×175.6	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「〇 月形」	III-315-18
1518	月形鶴窠書簡(原稿の度々の斧正の礼, 食禄箴と諭俗要言の事)	状	1通	五月三日	月形鶴栖 質(花押)	頼万四郎様 侍史	15.7×153.3	楮紙		III-322-23
1519	月形鶴窠書簡(新年挨拶状, 尾藤二洲講説の事, 水戸藩岡野の事)	状	1通	正月廿八日	月形七助(花押)	春水先生侍側	13.8×92.0	楮紙	端裏書「月形 正月, 三月十三日来」	III-332-6
1520	[包紙]	状	1枚	正月廿七日	宇和島 桑折桂園	頼万四郎様	25.0×34.5	楮紙	朱文長方印[]1顆, 封上書「広島御家中 頼万四郎様 宇和島 桑折桂園」, 端裏書(頼杏筆)「正月廿七日 〇返事済竹簀巻副」	III-322-9-1
1521	謙口書簡(佐一郎の事, 諭俗要言)	状	1通	正月廿七日	謙口	杏坪老先生大人	15.5×156.2	楮紙(白茶・萌黄色)		III-322-9-2
1522	[書簡](杏坪長崎行の三十首の揮毫の依頼)	状	1通				15.5×50.1	楮紙(萌黄色)		III-322-9-3
1523	原田篤郎書簡	状 紙本 ペン書	1通	(昭和34年)十月廿三日	原田篤郎	頼惟勤様	17.6×25.2	便箋	現金書留封筒付属	III-387-17
1524	玄綱書簡(菅茶山の様子, 再会を願うこと)	状	1通	四月廿八日	玄綱	頼万四郎様	16.0×70.1	楮紙(朱線)		III-322-21
1525	古賀口口書簡	状	1通	二月十一日	古賀口口	頼杏坪先生	17.1×92.1	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「古賀一左衛門書」	III-322-14
1526	古賀穀堂書簡(亀井父子事, 学術文教之義につき)	状	1通	葭月廿九日	燾口口 拝	春水老醒 侍史	15.5×239.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)「小个 十二月十一日至」	III-314-14
1527	戸嶋大助書簡(口上 私儀於御前新組御者頭被仰付候事)	状	1通	十月八日	戸嶋大助	頼弥太郎様	14.5×15.3	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 戸嶋大助」	III-312-30
1528	股野玉川書簡(愚老ハ最早出府之望ハ絶申候間, 諸君御令聚之事共存し候事)	状	1通	(寛政7年)十一月望	俣野才助 充美(花押)	頼弥太郎様 机下	15.8×47.4	杉原紙	端書(頼春水筆)『丙辰三月六日至』	III-312-24

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1529	後藤松陰書簡(梅颯死去につき悔み状)	状	1通	(天保14年)十二月十七日	後藤春蔵	頼餘一執事	16.3×45.5	奉書紙		III-194-4
1530	広瀬蒙斎書簡(嶺松之詠之事)	状	1通	(文化10年)九月廿一日	広瀬基八	霞崖先生侍史	16.0×90.4	三桮紙	包紙(28.0×37.7, 頼春水筆)「文化十年癸酉九月癸 同十一年甲戌正月着 白河 広瀬基八書状」, 紙背は広瀬から春水宛書簡包紙, 端裏書「広瀬 九月廿一日出 戌二月十六日来 ○」	II-25
1531	江戸屋新三郎書簡(御役替江戸表より申参候, 御所司代など役替)	状	1通	七月五日	江戸屋新三郎		15.9×16.6	三桮紙		III-312-39
1532	江川常山書簡(先日御願申上候額文字につき)	状	1通	三月七日	江川常山	頼弥太郎様	15.0×37.7	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 江川常山」	III-314-2
1533	江木鱒水書簡(山陽先師行状につき)	状	1通	八月十二日	江木繁太郎	頼東三郎様几下	16.1×44.4	三桮紙	封上書「頼東三郎様几下 江木繁太郎」, 端裏書「文選字引ニテモ何ニ而モ字の平仄之知候本一冊拝借イロハ競ナレハ別而も宜敷候也」	III-319-1
1534	江木鱒水書簡(古松軒之図拝借願上候)	状	1通	九月十一日	江木繁太郎	頼東三郎様	16.1×26.8	三桮紙	封上書「頼東三郎様几下 江木繁太郎」	III-319-5
1535	江木鱒水書簡(長州より人沢山入込候故, 廿日市行は如何に候哉)	状	1通	八月十日	江木繁太郎	頼東三郎殿	15.8×41.0	三桮紙	封上書「頼東三郎様 梧右 江木繁太郎」	III-319-8
1536	江木鱒水書簡(何卒御同伴申度, 木原と同行につき)	状	1通	八月望	江木繁太郎	頼東三郎様	15.8×22.6	三桮紙	封上書「頼東三郎様 几下 差上置 江木繁太郎」	III-319-9
1537	荒木田鼎湖書簡(白川翁も白山詩稿上木にて)	状	1通	霜月十六日	荒木田董卿	(頼春水)	16.4×137.5	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「荒木田 霜月十六日出 極月九日来○」	III-314-3
1538	荒木李谿書簡(東雅補遺・自山集につき)	状	1通		荒木善右衛門	頼弥太郎様玉几下	17.3×56.7	楮紙	封上書「頼弥太郎様玉几下 荒木善右衛門」	III-309-5
1539	香川景樹書簡(弥明日御発駕の御事とさつし上候)	状	1通		(香川景樹)		16.0×45.4	杉原紙(裏打ち)	後欠, 裏打ちあり	III-338-11
1540	香川景樹書簡(芳野釣瓶すし御裾分有かたく早々拝味いたし候)	状	1通(2枚)	八月廿二日	景樹拝復	頼先生 玉几下	15.7×42.9	杉原紙(裏打ち)	裏打ちあり	III-338-12
1541	香川長兵衛書簡(過日は段々御馳走被仰付難有奉存候事ほか)	状	1通	四月十二日	龍山 九拝	頼様 尊前	14.5×62.0	諸口紙	包紙(24.5×17.3, 半紙)「頼様 尊前 香川長兵衛」	III-308-13
1542	高須松斎書簡(春水の体調, 山陽の京都での様子)	状	1通	(文化8年ヵ)四月十三日	高須松斎	頼権次郎様	17.8×83.0	楮紙	封上書「大須松斎」	III-324-2
1543	高荘二郎書簡(春水の仕官の事, 明石人麻呂奉納和歌之事ほか)	状	1通	(天明2年)	高荘口郎	頼弥太郎様	16.0×47.2	楮紙	封上書「頼弥太郎様 高荘(二)郎 用答」, 後欠	III-306-7
1544	高梁書簡(碧翁文稿暫時拝借奉願候)	状	1通(2枚)	三月廿一日	高梁拝	聿庵先生座右	17.4×93.6	三桮紙(薄赤色, 砂子散)		III-317-49
1545	国島筈齋書簡(当夏口大蔵謙輔先生被参候につき)	状	1通	十二月二日	国島伝右衛門宏(花押)	杏坪頼先生函丈	16.5×95.7	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「国島伝右衛門 出 ○」	III-313-7
1546	黒瀬子孝書簡(斎賢様, 御学事につき, 御家弟様へも厚御吞込せ可下候)	状	1通	(寛政9年)正月廿二日	南思魯斎	千秋先生閣下	14.4×37.4	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「御学事, 丁巳二月十一日達 子孝内密書」, 『二』	III-300-3-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1547	黒瀬登内書簡(倅の体調, 春水の東行の件)	状	1通	四月廿六日	黒瀬登内	頼弥太郎様/ 同萬四郎様/ 同久太郎様	13.7×45.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○」	III-325-91
1548	黒瀬登内書簡(大坂之御客明日御着之事ほか)	状	1通	四月廿日	黒瀬登内	頼弥太郎様	13.9×87.5	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 黒瀬登内 差向内用」, 使者変更につき添状(13.8×21.0, 諸口紙)あり	III-301-1
1549	黒瀬登内書簡(内願書 御上御学事并御家中学事につき)	状	1通	七月	(黒瀬登内)		13.8×64.8	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「此内ニ細々秘書有之, 七月廿九日至」, 同(黒瀬登内筆)「七月八日仙石殿江極内々差出レ置候写」	III-301-2
1550	黒瀬登内書簡(六月十二日論語御会読始報告)	状	1通	六月廿日	(黒瀬登内)	(頼春水)	14.1×36.6	諸口紙		III-301-3
1551	黒瀬登内書簡(柴野殿之御書調物之事につき)	状	1通	十一月廿一日	黒瀬登内	頼弥太郎様, 頼万四郎様	12.4×41.6	半紙		III-301-4
1552	黒瀬登内遺筆(和歌写し)	状	1通	文化丁卯(4年)十一月五日封	黒瀬子孝		24.9×34.4	半紙	包紙(24.7×34.2, 半紙, 頼春水筆)「黒瀬子孝遺筆文化丁卯十一月五日封」	III-301-5
1553	黒瀬登内書簡(度々出勤之事, 若殿様御せがみ有之, 難有仕合奉存候事)	状	1通		(黒瀬登内)		14.1×17.3	諸口紙		III-301-6
1554	黒瀬登内書簡(若殿様御会読の件, 御向屋敷御普請につき)	状	1通	五月廿日	黒瀬登内	頼弥太郎様 貴下	13.9×98.8	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「子孝 五月廿日出 六月七日至」, 3枚に剥離	III-301-7
1555	黒瀬登内書簡(新年挨拶状, 私家児孫近況)	状	1通	正月廿日	黒瀬登内 祖 (花押)	頼弥太郎様 貴下	12.5×49.0	半紙		III-301-8
1556	黒瀬登内書簡(新年挨拶状)	状	1通	正月廿二日	黒瀬登内 祖 (花押)	頼弥太郎様 貴下	14.4×23.8	諸口紙	後欠	III-301-9
1557	黒瀬登内書簡(江戸藩雷, 若殿様学事, 森蘭澤著「星図」巻巻につき)	状	1通	六月廿日	黒瀬登内(花押)	頼弥太郎様 貴下	14.1×62.4	諸口紙	前欠, 円形に切り取りあり	III-301-10
1558	黒澤東蒙書簡(去々其御地方罷下候後眼疾足痛之事)	状	1通	正月十七日	黒澤東蒙	頼弥太郎様	15.5×179.1	杉原紙	封上書「弥太郎様 東蒙山人」, 端裏書(頼春水筆)「六月廿日至」, 「代筆」との記載あり	III-315-20
1559	佐田修平書簡(広島より雲州・因州・但州・越州・加州などを経て京都へ入り候事)	状	1通	臘月廿九日	佐田修平	頼餘一様	16.0×143.1	三桎紙	端裏書「頼君」, 『佐田修平』	III-334-10
1560	佐藤一斎書簡(臨川集について)	状	1通	四月三日	佐藤捨藏	頼万四郎様	16.0×58.5	楮紙	封上書「頼万四郎様 佐藤捨藏」	III-322-13
1561	砂本屋孫右衛門書簡(酒樽の進上の事, 染筆の依頼)	状	1通	霜月十六日	(砂本屋孫右衛門)		14.3×65.3	楮紙		III-325-56
	坂井虎山・宮原節庵・牧百峯・関藤藤陰書簡巻		1巻						III-320-1~4まで貼継, III-320-5は剥離カ	III-320
1562	1)坂井虎山書簡(途中腹痛難義仕而罷帰候につき)	状	1通	六月五日	臥虎山人拜具	聿庵先醒	17.2×46.2	杉原紙(朱で文様摺)	封上書「聿庵先醒 臥虎山人拜具」	III-320-1
1562	2)宮原節庵書簡(先達而願上候惣社亀山峯次郎石碑御揮亮につき)	状	1通	八月十六日	潜拜	聿庵先生	15.5×124.4	竹紙	裏打ちあり	III-320-2
1562	3)牧百峰書簡(此度彼地におひて日本政紀昨板出来之事につき)	状	1通	八月十四日	輓拜	聿庵口侍史	16.8×120.5	奉書紙(文様摺)	裏打ちあり	III-320-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1562	4) 関藤藤陰書簡(故先生御著述上木の事につき)	状	1通	(天保4年)六月十日午前認	石川章拜	聿庵先生侍史	16.3×394.0	楮紙		III-320-4
1562	5) 関藤藤陰書簡(副啓 先生御引取後の書画会様子につき)	状	1通	(天保4年6月)十日	(関藤藤陰)	(頼聿庵)	16.4×47.5	楮紙	III-320-4の別啓	III-320-5
1563	坂井百太郎書簡(私義御加増拝領につき口上)	状	1通	十二月廿六日	坂井百太郎	頼餘一様	14.4×15.1	諸口紙		III-317-15
1564	坂井百太郎書簡(酒白一尊進上につき口上)	状	1通	極月廿九日	坂井百太郎	頼餘一様	24.1×33.1	半紙	封上書「頼餘一様 坂井百太郎 略封御免可被下候」	III-317-16
1565	桜井維温書簡(中風之御気味之由手巾(鰻)奉呈上候事ほか)	状	1通	(文化2年)八月晦	桜井維温頓首再拜	春水頼先生玉案下	15.3×106.8	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「桜井良蔵 ○八月卅日出 壬十八日至」	III-315-4
1566	桜井維温書簡(小子門下生, 井上数二郎此度西遊浴盛徳申度旨につき)	状	1通	九月十一日	桜井良蔵	頼弥太郎様	17.7×54.1	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「○桜井 九月十一日出 廿五日来 二子ニ托」	III-315-5
1567	桜井与四郎書簡(口上 病相募につき, 御来話延引願上候)	状	1通	九月廿四日	桜井与四郎	頼東三郎様	16.6×28.0	雁皮紙	封上書「頼東三郎様 桜井与四郎 不及貴答」	III-319-6
1568	山口剛斎書簡(滄浪満身痛・吐血にて重態之事)	状	1通	(寛政8年)六月十六日	剛蔵	頼御姑妹様	14.4×57.3	楮紙	封上書「頼御おは様 剛蔵」, 端裏書(頼梅颯筆)「七月二日至 四日御返事」, 2枚に剥離	III-196-10
1569	山口重山書簡(金三郎借金之義につき, 手元有合せ金子を御返進候事)	状	1通	十二月廿日	山口重山	頼餘一様	16.1×113.2	楮紙	別紙(16.0×7.5)あり, 「金子式歩遣ニ相渡申候」という返済書	III-244-13
1570	山口清水書簡(今度重三郎遊学之御願につき)	状	1通	二月廿二日	山口吾一(花押)	頼先生 机下	16.8×65.6	奉書紙	端裏書(頼春水筆)「山口清水 山口清水 要用書 二月廿一二日出 廿九日至」	III-313-14
1571	山上藤一郎書簡(篆刻人へ御印被仰付度の旨承知仕候)	状	1通	(享和3年)閏正月廿四日	山上藤一郎	頼弥太郎様執事	16.3×39.5	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 執事 山上藤一郎 拝復」	III-309-7
1572	山田俊為書簡(御秘書再覧につき, 弥増感心致候事)	状	1通	十一月十一日	山田俊為	千秋先生机下	16.0×52.0	三桎紙(黄染・白茶)	封上書「千秋先生 机下 山田俊為」	III-177-44
1573	山田凶書書簡(万四郎殿御父子共御壮健の事)	状	1通	(文化5年)五月六日調置	山田凶書	頼弥太郎様	12.0×58.4	半紙	端裏書(頼春水筆)「山田大夫 戊辰 江戸方書状」, 本紙下部虫損大	III-177-40-2
1574	山田凶書書簡(兼而御頼申置候雅楽師, 神主服明キにつき)	状	1通	(文化5年カ)三月十一日	凶書	弥太郎様	14.0×45.0	諸口紙	封上書「弥太郎様 凶書 内用」	III-177-41
1575	山田凶書書簡(養子兵馬儀, 実名遣し申度につき御考被下度事)	状	1通	(文化5年)二月十六日	凶書	弥太郎様	13.8×32.2	諸口紙	封上書「弥太郎様 凶書 内用」	III-177-42
1576	山田凶書書簡(倅実名御考被下候につき礼状)	状	1通	三月廿日	山田凶書	頼弥太郎	13.8×53.1	諸口紙	封上書「頼弥太郎様, 山田凶書 内用差置」	III-177-43
1577	山田有益書簡(愚息儀定名御付被遣候由につき)	状	1通	三月廿七日	山田友益	頼久太郎様	14.5×71.5	諸口紙		III-162
1578	山縣寿菴書簡(訪問の礼)	状	1通		山縣寿菴	頼春水先生	18.0×11.9	楮紙	封上書「頼春水先生 山縣寿菴」	III-326-11
1579	[書簡](出立前に品を贈りたい事)	状	1通		(市川文徴カ)		16.4×31.0	楮紙(薄藍・薄赤色)		III-372-93
1580	照蓮寺獅絃書簡(久太郎殿近来御不快につき見舞状)	状	1通	六月十七日	獅絃堂	頼弥太郎様貴下	15.7×58.0	楮紙		III-306-1

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1581	照蓮寺獅絃書簡(筆代銀子春風館へ差上候につき御落手可被下事)	状	1通	七月廿四日	照蓮寺	権次郎様 貴下	15.5×56.6	杉原紙		III-306-2
1582	照蓮寺獅絃書簡(五言律詩「右送頼君権次郎帰広島予亦帰省故山」)	状	1通		釋宏道 拜		19.6×68.6	竹紙(芭蕉葉絵摺)	葉柄に印刷文字「滌園清詠」カ	III-306-3
1583	照蓮寺獅絃書簡(当春御出被成候節留守につき詫状)	状	1通	六月十二日	獅絃堂	頼弥太郎様 貴下	15.1×48.5	楮紙	円形に切り取りあり(襖の引手カ)	III-312-2
1584	寺西直人書簡(原川筋之出水, 永雨にて麻諸作心痛之事ほか)	状	1通	六月十九日 調	寺西直人	頼万四郎様	14.5×91.6	諸口紙	包紙(25.2×17.0, 半紙)「頼万四郎様 寺西直人 要用」, 端書(頼杏坪筆)「六月廿一日至 三国屋カ」	III-164-5
1585	室屋与八郎書簡(鑑定依頼)	状	1通	七月五日	室屋与八郎	手島三吾	17.3×26.0	楮紙		III-325-35
1586	室子華書簡(去ル卯年極内々申上承候社倉之事につき)	状	1通	三月十日	室 秀実 拜	千秋 頼先生 足下	14.1×154.0	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「○ 室子華 三月十日出, 四月八日届 四月十八日返事」	III-313-15
1587	篠崎三島書簡(浪華風雅之事明年中に発行仕度につき)	状	1通	(寛政元年) 八月廿八日	篠崎長兵衛	頼弥太郎様	16.9×179.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「酉, 安道 八月廿九日 戌三月十三日来 古林某より」	III-305-5
1588	篠崎小竹書簡(春水死去につき悔み状)	状	1通	(文化13年) 四月二日	篠崎長左衛門	頼徳太郎, 同 餘一様	16.1×43.9	杉原紙		III-191-1
1589	柴田群助書簡(斎賢様御学事につき, 差函承度奉存候)	状	1通	(寛政8年12月) 廿六日	(柴田群助)	(頼春水)	14.0×62.2	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「丁巳 正月十二日達 柴田群助 内密書 御学事」, 『一』, 同(柴田群助筆)「極内用書」	III-300-3-1
1590	柴田群助書簡(斎賢様御学事につき, 真答附言書一々感心仕候)	状	1通	(寛政9年) 四月四日	(柴田群助)	(頼春水)	14.3×51.4	諸口紙	端裏書(頼春水筆)『四月四日出 廿日届 廿七日再答』『五』	III-300-3-5
1591	柴野栗山書簡(此度御左番, 久振にて可得拝顔大慶仕候事)	状	1通	(享和2年) 九月廿七日	柴野彦助	頼弥太郎様	16.3×88.0	楮紙	封上書「頼弥太郎様 柴野彦助」	III-315-7
1592	柴野栗山書簡(草芽危言一閱仕候処失忘仕候)	状	1通	二月十二日	彦助	弥太郎様	16.2×65.9	美濃紙	封上書「弥太郎様 彦助」	III-315-8
1593	柴野栗山書簡(御約束仕候拙作為持上候事)	状	1通	十一月十日	柴野彦助	頼弥太郎様	16.0×30.2	美濃紙(薄黄色)		III-315-9
1594	若槻幾齋書簡(権次郎様御字之儀につき)	状	1通	(享和3年) 三月廿二日	若槻幾齋(花押)	頼弥太郎様	17.7×64.1	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「若 幾齋至 字之義」	III-309-8
1595	若槻幾齋書簡(新年賀状, 御即位大礼につき風聞)	状	1通	(文政元年カ) 正月卅日	若槻幾齋	頼万四郎様 玉梧下	18.1×48.5	杉原紙	包紙(24.0×34.0, 半紙)にてIII-310-2-1~2を一括, 包紙「頼万四郎様 平安若槻幾齋」, 同・裏に朱文長方印[]1顆	III-310-2-1
1596	開口詞(仁孝天皇御即位御祝御能開口詞)	状	1通	(文政元年カ, 正月卅日)	若槻 敬		18.3×24.0	杉原紙	添状1通(18.3×15.9, 杉原紙)あり, 自作との記述あり	III-310-2-2
1597	若槻幾齋書簡(「伊珥志辺乃跡斯本弓安美乃記」に感服仕候事)	状	1通	癸未(文政6) 四月廿五日	若槻幾齋	頼万四郎様	17.7×49.1	杉原紙	包紙(24.5×34.4, 半紙)「頼万四郎様 若槻幾齋」, 端書(頼杏坪筆)「○癸未六月四日至」, 随筆板刻につき副啓(15.0×6.3, 楮紙)	III-160-2
1598	若槻幾齋書簡(傷寒論の事)	状	1通		敬	春水賢基梧下	16.2×26.5	楮紙		II-1-124
1599	若槻幾齋書簡(新年賀状・鯛之糟漬の礼)	状	1通	正月廿一日	若槻幾齋	頼万四郎様 玉梧下	16.2×58.6	杉原紙	包紙(24.2×33.5, 半紙)「頼万四郎様 若槻幾齋」	III-160-1
1600	若槻幾齋書簡(此度御入京被為止候事, 来春朝鮮人対州へ被越候風聞)	状	1通	九月十三日	若槻幾齋	頼杏坪先生几下	16.1×135.2	杉原紙		III-160-3

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1601	若槻幾齋書簡(本少々出来仕候につき五冊差上申候事)	状	1通	七月十一日	若槻幾齋(花押)	頼万四郎様	18.4×49.5	杉原紙		Ⅲ-160-4
1602	若槻幾齋書簡(当夏諸方旱涸之様子ほか)	状	1通	七月廿五日	若槻幾齋	頼万四郎様侍史	18.0×61.1	杉原紙	包紙(24.0×33.7, 半紙)「芸州広島頼万四郎様 拜酬 若槻幾齋」, 同・裏「自京聖護院村」, 同・裏に朱文長方印[]1顆	Ⅲ-160-5
1603	若槻幾齋書簡(御地志後編集之儀并に原古編六卷四冊拝見仕候事)	折紙	1通	四月十三日	若槻菊太郎, 若槻幾齋(花押)	頼万四郎様, 頼佐一郎様参人々御中	18.0×49.3	杉原紙	包紙(22.1×31.0, 楮紙)にてⅢ-160-6-1～2を一括, 包紙「芸州広島 頼万四郎様 若槻幾齋 要用答 安善」, 同・裏「四月十三日認出 従京聖護院村」, 同・裏に朱文長方印「誦」1顆	Ⅲ-160-6-1
1604	若槻幾齋書簡(先達而被仰越候額字いまだ出来不申候事)	状	1通	四月十五日	若槻菊太郎, 若槻幾齋	塩屋三省様	16.0×37.0	楮紙	後補包紙(24.5×34.0, 半紙), 包紙(22.2×31.1楮紙)「芸州竹原塩屋三省様 若槻幾齋 用答」, 付紙(16.5×3.4, 雁皮紙)「此一封以早便之節御届裾下候様奉頼候以上 杏坪君 幾齋」	Ⅲ-160-6-2
1605	若槻幾齋書簡(新年賀状, 佐一郎様旧年結構被蒙御寵命候につき)	折紙 紙本	1通	二月廿八日	若槻菊太郎(花押), 若槻幾齋(花押)	頼万四郎様, 頼佐一郎様参人々御中	18.1×49.8	杉原紙	包紙(24.1×33.9, 半紙)「頼万四郎様 頼佐一郎様 若槻幾齋 若槻菊太郎」	Ⅲ-160-7
1606	若槻幾齋書簡(旧獵被蒙御寵命目出度御儀奉存候)	折紙	1通	二月五日	若槻菊太郎(花押), 若槻幾齋(花押)	頼万四郎様□下	18.4×48.8	杉原紙	包紙(24.0×33.0, 半紙)「頼万四郎様 若槻幾齋 若槻菊太郎」	Ⅲ-160-8-1
1607	若槻幾齋書簡(四書翼残り四冊の板刻遅滞仕候事, 御疔積御疼痛御難儀につき見舞状)	状	1通	二月五日	若槻 敬 頓首拜	杏坪盟臺君玉梧下	18.4×42.1	杉原紙		Ⅲ-160-8-2
1608	若槻幾齋書簡(漢方薬処方箋)	状	1通	二月五日	(若槻幾齋)	(頼杏坪)	18.4×37.6	杉原紙		Ⅲ-160-8-3
1609	若槻幾齋書簡(新年賀状)	折紙	1通	正月八日	若槻菊太郎 皷 若槻幾齋 敬	頼万四郎様, 頼佐一郎様参人々御中	18.5×49.0	杉原紙	包紙(24.0×33.4, 半紙)「芸州広島 頼万四郎様・頼佐一郎様 若槻幾齋・若槻菊太郎」, 同・裏「自京聖護院村」	Ⅲ-310-1
1610	若槻幾齋書簡(副啓 京地震にて鳴動強由, 大風雨・水災につき)	状	1通	文化四年丁卯	(若槻幾齋カ)	(頼春水)	16.0×58.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「文化四年丁卯文通」	Ⅲ-312-15
1611	若槻幾齋書簡(孫子集注校本の件)	状	1通	十二月十日	敬		16.0×33.1	楮紙		Ⅲ-325-72
1612	宗像久男書簡	状	1通	昭和二十六年十二月二十六日	白神社宮司宗像久男	頼惟勤様	24.5×33.6	楮紙	朱文方印「白神社宮司印」, 封筒付属	Ⅲ-387-18
1613	宗之書簡(山陽先生詩文御払いの儀につき御諫言申上度候)	状	1通	七月六日認	宗之拜	聿庵頼先生函丈	15.8×350.6	杉原紙	封上書「聿庵老先生 侍史 要用答 轍蔵」, 校訂(墨)	Ⅲ-317-51
1614	春雄書簡(書の礼状, 梅颯・聿庵の上京を待ちわびている事)	状	1通	(天保8年)八月廿六日	みやこのはる雄	梅颯老雅君, 聿庵先生	17.1×203.0	楮紙(薄茶・薄赤・萌黄色)		Ⅲ-321
1615	緒方惟貞書簡(一昨年御願申上置候, 春水先生屏風掛物之儀につき)	状	1通	十月廿四日	緒方與治兵衛惟貞(花押)	頼餘一様	17.1×216.5	杉原紙	2枚に剝離, 変色虫損大	Ⅲ-317-46
1616	緒方源右衛門書簡(借受御用立につき, 御證跡并に引当之品御越被下候様奉願上候事)	状	1通	霜月廿二日	緒方源右衛門	頼先生 尊下	14.7×124.5	諸口紙	「二行物并ニ澤様へ御願被下候書画」と記載あり	Ⅲ-334-8
1617	緒方源右衛門書簡(聿庵先生への御伝言忝仕合奉拜謝候事)	状	1通	陽月十日	□拜	霞章先生	15.8×64.4	楮紙	包紙(21.1×29.5, 小半紙)「中西松之助様 緒方源右衛門 貴答」	Ⅲ-334-11

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1618	助六書簡(誠軒無事上京の祝辞, 御家御一新の事)	状	1通	十一月五日	助六拜	東三郎先醒	12.2×110.4	半紙	封上書「東三郎様 助六拜」, 「編次之次第」につき別紙(12.4×24.8, 白半紙)	III-319-3
1619	勝島慶助書簡(三韓紀略御返し被下樋に落手仕候事)	状	1通	三月十八日 認置	勝島慶助	頼弥太郎様 梧有	13.6×36.6	楮紙	端裏書(頼春水筆)「三月廿七日至 ○五月 出」	III-314-13
1620	勝島翼斎書簡(小冊子御覧被下, 御書入被下候様奉願上候事)	状	1通	十月廿五日	勝島慶助惟恭	頼弥太郎様	15.6×15.0/ 15.3×14.0	楮紙		III-306-4
1621	勝島翼斎書簡(古跡志全部浄写相整候事, 臥病保養仕居申候事)	状	1通	三月尽認	勝島敬輔 惟恭	頼春水先生 絳帳下	14.7×123.7	楮紙		III-306-5
1622	勝島翼斎書簡(君侯に御陪遊之賀島之記につき)	状	1通	五月念五	勝島敬輔惟恭	頼万四郎様 絳帳下	14.6×43.4	楮紙		III-306-6
1623	小山助右衛門書簡(書の所望, 上京した山陽の事)	状	1通	(文化8年)四月廿日	小山	頼様	14.0×72.0	楮紙	封上書「頼先生様 小山 □」, 端裏書(頼春水筆)「文化八年 四月廿日出 ○五月朔日届久太郎事有之」	II-3-13
1624	小寺官五書簡(岡田氏相頼候詩句御覧被下候様, 御頼申上候)	状	1通	(寛政7年)四月五日	小寺官五(花押)	千秋頼先生侍 右	16.5×66.9	楮紙	端裏書(頼春水筆)「大坂御堂筋瓦町河内屋五兵衛 ○四月十九日阿州富五郎持参也」, 2枚に剥離	III-315-2
1625	小寺官五書簡(新年挨拶, 去年秋冬両度差出拙書につき)	状	1通	正月廿日 薄暮認	小寺	(頼春水)	16.2×39.7	杉原紙(上下朱線)	端裏書(頼春水筆)「小寺 正月廿日出 ○廿九日来」	III-315-3
1626	小寺監物清之書簡(蒙下問候数條別紙敬稟仕候, 聴松庵弊地にて越年ノ事)	状	1通	(文政7年)臘月十二日	小寺監物清之 拝復	杏坪先生 侍 者中	16.4×70.0	美濃紙(萌黄色)	封筒(17.1×5.3, 竹紙)「杏坪先生 侍者中 小寺清之 拝復」	III-163-1-1
1627	敬稟(三次郎地名考, 聖靈考, 四所客人明神考)	状	1通	臘月	清之	(頼杏坪)	16.4×40.2	美濃紙(萌黄色)	III-163-1-1の別紙	III-163-1-2
1628	小寺監物清之書簡(和文)	状	1通 (2枚)	文政七とせ 霜月(文政7年)	小寺の清之長 棟の屋にてし るす	頼万四郎様	27.8×20.4	美濃紙	封筒(21.0×7.4, 楮紙)「芸州御家中 頼万四郎様 侍史 小寺監物 拝復」, 封筒裏「自備中笠岡」	III-163-2
1629	小石元瑞書簡(山陽の喪中の事, 贈答品礼状)	状	1通	(天保4年)三月六日	元瑞改称 小石拙翁	頼餘一様	15.6×27.3	三桎紙		III-306-22
1630	小石元瑞書簡(梅颯死去につき悔み状)	折紙	1通	(天保14年)十二月十九日	小石元瑞	頼餘一様, 同復二郎様	18.0×47.6	杉原紙	端裏書(頼春庵筆)「○小石 返書済」	III-194-3
1631	小石中蔵書簡(梅颯死去につき悔み状)	折紙	1通	(天保14年)十二月十九日	小石紹	頼餘一, 頼復二郎様	17.5×47.5	杉原紙	端裏書(頼春庵筆)「○小石息返書済」	III-192-1
1632	小野田小一郎書簡(風気流行の事, 咯血歌之儀につき)	状	1通	十一月朔日	小野田小一郎	頼餘一様	15.9×55.1	三桎紙(清流に鮎の摺絵)	封筒(18.0×4.7, 楮紙)「頼餘一様 小野田小一郎」, 端書「貴酬」	III-317-52-1
1633	小野田小一郎書簡(家君手書写御遣し被下大いに安心仕候)	状	1通	七月廿日	小野田小一郎	頼餘一様	16.1×50.0	杉原紙	封筒(18.0×5.0, 草花絵摺)「頼餘一様 小野田小一郎」	III-317-52-2
1634	松谷寅次郎書簡	状	1通	(昭和27年10月30日消印)	松谷寅次郎	頼様	24.8×17.5	便箋	封筒付属	III-387-19
1635	松田思斎書簡(去年御恵被下候御丁祭之御高作につき)	状	1通	二月朔日	松田覚助(花押)	春水頼老先生 玉几下	15.0×87.8	三桎紙	端裏書(頼春水筆)「覚助 二月朔日出 四月廿六日至 ○」, 2枚に剥離	III-315-21

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
	上杉侯・白河侯俗牘	文書							Ⅲ-335-1～2まで貼継, 簡易表紙(17.5×16.1, 雁皮紙), 外題直書「上杉侯白河侯俗牘 二篇」, 朱文方印「金琴堂記」1顆	Ⅲ-335
1636	1) 上杉鷹山書簡写(神保甲作諸国遊歴につき御教諭並びに安野氏へ周旋願い)	状	1通	二月十七日	上杉越前守治憲(花押)	平洲紀先生玉机下	15.7×176.9	楮紙	端裏書「上杉侯書翰写」, 書簡写の後に安野形助による筆写との記載あり	Ⅲ-335-1
1636	2) 松平定信書簡写(頼弥太郎方文章被越, 感心いたし候)	状	1通	十二月廿一日	越中守	右仲殿	17.6×118.2	杉原紙	封上書「右仲殿 越中守」, 端裏書「白川侯直書ノ写 杉原紙 字形コノ通, 田安家ヨリ附之儒士」, 書簡写の後に黒澤右仲による筆写との記載あり	Ⅲ-335-2
1637	上阪新助書簡(残暑見舞い, 当冬帰国の際に訪問したい事)	状	1通	七月十日	上阪新助	頼弥太郎様	13.8×38.3	楮紙		Ⅲ-325-27
1638	上柴次郎書簡(御舎弟様縁組の祝い)	状	1通	正月三日	上柴次郎	頼弥太郎様	14.5×16.0	楮紙		Ⅲ-326-107
1639	上野保二書簡(茶山への書の依頼)	状	1通	五月廿八日	上野保二	菅茶山老先生	15.5×48.2	楮紙	前欠カ	Ⅱ-4-17
1640	1) 植田太郎一書簡(小子歯痛, 平快仕, 明朝格別に早々出勤仕候事)	状	1通	四月十六日	植田太郎一	頼弥太郎様 奉復	12.3×24.6	半紙	Ⅲ-312-8-1～2まで貼継, 封上書「頼弥太郎様 植田太郎一 奉復」	Ⅲ-312-8-1
1640	2) 加藤定斎書簡(御多門作事之儀, 御出入大工へ被仰付候事)	状	1通	四月十六日	加藤三平	頼弥太郎様 拝答	12.1×21.2	半紙	封上書「頼弥太郎様 加藤三平 拝答」	Ⅲ-312-8-2
1641	新山茂書簡(昨日ハ大日本史無滞御納御安心被成候由)	状	1通	(安永9年カ) 七月九日	新山茂	弥太郎様	13.4×39.0	楮紙	封上書「弥太郎様 御内々 新山茂」, 上部切断	Ⅲ-312-27
1642	新島書簡(尾藤に面会, 松平定信による江戸市中の取締りの事)	状	1通		新島		11.5×20.4	半紙	端裏書(頼春水筆)「○新島 知承返事 六月廿一日出 七月至」	Ⅲ-326-115
1643	辛島塩井書簡(江都御詰内にて駿台昌平坂先生方御一同陪遊ぶにつき)	状	1通	(文化元年) 三月十七日	辛島才蔵(花押)	頼弥太郎様	15.9×161.7	美濃紙	端裏書(頼春水筆)「辛島 三月十七日出 五月廿七日至○」	Ⅲ-126-18
1644	辛島塩井書簡(会津仙台等学風純正に相成候由, 公儀昌平学之御風作にて候)	状	1通	廿九日	憲 拝	(頼春水)	15.5×88.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「辛島才蔵」	Ⅲ-315-14
1645	辛島塩井書簡(私儀去秋敵鬢ノ助教に相相当分拝晤も出来兼申候)	状	1通	二月三日	辛島才蔵	頼弥太郎様 侍史下	15.3×175.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「辛島 二月三日出 十四日届」	Ⅲ-315-15
1646	進藤・駒井・加藤書簡(竹原より書状到来につき)	状	1通	正月廿九日	進藤, 駒井, 加藤		13.8×6.8	諸口紙		Ⅲ-372-129
1647	吹田屋妙政書簡(挨拶状, 久太郎様御成人遊し候半と存上候事)	状	1通		吹田屋妙政		16.2×20.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「吹田屋妙政書 ○」, 後欠	Ⅲ-306-9
1648	翠邦書簡(藤田を見限った事)	状	1通		翠邦		15.9×20.7	楮紙		Ⅲ-326-76
1649	菅沼斐雄書簡(景讓死去につき悔み状)	折紙	1通	(文化12年) 文月廿八日	菅沼此面	頼餘一様玉案下	14.0×48.0	奉書紙		Ⅲ-194-2
1650	菅沼斐雄書簡(御賢息権二郎殿御早世驚入候次第につき)	折紙	1通(2枚)	(文化12年) 文月廿八日	菅沼此面斐雄(花押)	春水大人 王座下	18.0×49.2	奉書紙		Ⅲ-338-7
1651	菅沼斐雄書簡(新年挨拶状)	折紙	1通	正月九日	菅沼此面(花押)	頼餘一様玉座下	16.7×35.0	奉書紙		Ⅲ-317-59
1652	菅沼斐雄書簡(歌清書いたし候様との事, 料紙もつくして一両日のち認上候)	折紙	1通	十九日	斐を	梅しの君の御もとへ	16.9×47.7	奉書		Ⅲ-338-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1653	菅沼斐雄書簡(五ツの題字左にしるし侍)	状	1通		斐雄	梅颯の君, 三徳子の君ほか	18.3×139.5	奉書紙		III-338-5
1654	菅沼斐雄書簡(御詠草三穂子様短冊とも返しまいらせ候)	状	1通	十六日	斐雄	梅颯様	15.8×44.7	杉原紙		III-338-6
1655	正善坊書簡(懇意の者に書の手本と指南を依頼したい事)	状	1通	(文化10年カ)六月八日	宗端	頼権次郎様	15.8×34.5	楮紙	封上書「頼権次郎様 梧下 宗端 拜」	III-324-3
1656	正直書簡(追啓 帰国する事)	状	1通	九月四日	正直口	頼弥太郎様	14.1×17.3	楮紙		III-326-61
1657	清水慎蔵書簡(重三郎儀御教育御許容被成下辱奉存候事)	状	1通	二月廿一日	清水慎蔵 宗(花押)	春水頼先生 緩帳	16.0×58.4	楮紙		III-313-13
1658	西山拙斎書簡(野芹写本之事, 中井翁播州龍野親類へ之書帖写之事ほか)	状	1通	(天明8年)孟夏十日	西山拙斎 正拝具	華軒頼先生高梧下	16.5×98.6	杉原紙	端裏書(頼杏坪筆)「西山 小河貞庵便」	III-311-1
1659	西山拙斎書簡(土佐侯尊邸へ御来駕之事, 播州備後備前水災之事)	状	1通	(寛政元年)孟秋十八日	西山拙斎 正拝具	革軒頼先生絳帳下	16.5×151.9	杉原紙		III-159-4
1660	西山拙斎書簡(副啓 古川平次兵衛蝦夷辺迄ノ地図作り候事ほか)	状	1通	(寛政元年)孟夏念三日	(西山拙斎カ)	(頼杏坪)	16.5×71.1	楮紙	校訂(墨)	III-312-16
1661	西山拙斎書簡(学政近来維新行れ候御様子, 風聞も有之候事ほか)	折紙	1通	(寛政3年)六月十三日	西山拙斎 正拝具	革軒頼先生絳紗帳下	16.0×45.7	杉原紙	封上書「六月十三日 奉呈革軒頼先生 絳紗帳下 西山拙斎拝具」	III-159-3-1
1662	西山拙斎書簡(関の秋風と申一本写帛, 白川候御旧作の由)	状	1通	(寛政3年)季夏十三日	(西山拙斎)	(頼杏坪)	16.1×45.5	杉原紙	「別幅申上候」との記載あり, III-159-3-1と日付・料紙・虫穴は一致, またIII-159-1の包紙と虫穴が一致	III-159-3-2
1663	西山拙斎書簡(禁中より頂いた品の事)	状	1通	(寛政4年カ)	(西山拙斎カ)	頼万四郎様	15.3×19.0	楮紙	端書「奉呈 頼万四郎様」	III-326-86
1664	[包紙]	状	1通	戊午(寛政10年)六月十三日 発託	西山拙斎	頼万四郎様	28.4×38.0	楮紙	朱文封印1顆, 封上書「奉呈 頼万四郎様 高寝下 西山拙斎拝具」, 封裏書「従備中州鴨方村 謹封」	III-349-10
1665	西山拙斎書簡(前月之御枉駕, 柴博士カ所示候拝摺図につき)	状	1通	季夏十三日	西山拙斎 正拝具	奉呈杏坪頼先生絳帳下	17.6×76.4	杉原紙(あざみ花繪摺)	包紙(24.0×35.0, 半紙)「奉呈 頼万四郎様 西山拙斎拝具絳帳下」	III-159-1
1666	西山拙斎書簡(うち捨置候草稿, 御刪潤被下度奉希候事)	状	1通		正拝具	革軒先生 高梧下	15.8×32.5	杉原紙	端裏書「草軒先生 正拝具 高梧下」	III-159-2
1667	西山拙斎書簡(敝友中藤又三郎, 貴地留宿中大兄へ拝謁仕度由につき托一書候事)	状	1通	仲春十一日	西山拙斎 正拝具	頼春水先生絳帳下	16.0×41.3	杉原紙	左部分破損甚, 料紙茶褐色に変色	III-311-2
1668	西山廉蔵 陽書簡(西山拙斎の遺稿集の序文の礼, 近況)	状	1通	(文政8年)秋カ	西山廉蔵 陽 拝具	頼佐一郎様各高机下/杏坪老先生	16.5×112.2	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「西山廉蔵来書」	III-322-7
1669	西村多仲書簡(覚 頼春水よりの書状受取)	状	1通	二月廿二日	西村玄関		14.6×21.4	楮紙	黒文楯円印1顆	III-304-28
1670	青盛数馬書簡(来宅の礼状)	状	1通	(昭和時代カ)十月十九日	青盛数馬	頼奥様	14.0×37.8	楮紙	茶封筒(宛名「頼和太郎様」)	III-358-1
1671	封筒		1点	大正九年五月廿四日	弁護士 高田 似壘	頼古煤先生	21.7×8.1	洋紙	茶封筒(宛名「頼和太郎様」)	III-358-2

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1672	青木雲閑書簡(春水十三回忌につき、挨拶状)	状	1通	(文政11年)二月十八日	青木雲閑	頼餘様	12.1×58.5	半紙	包紙(24.9×34.3, 半紙)にてⅢ-317-1-1~2を一括、頼事庵筆「続書懐中ニ有之候辛卯のとしのもの也」『雲閑老人書面巻通入』, 封上書「頼餘様 青木雲閑 内用」, 端裏書(頼事庵筆)『先嚴十三回忌ノ節来ル』	Ⅲ-317-1-1
1673	続書(頼事庵同居以外の親族一覧)	状	1通	辛卯(天保2年)	(頼事庵)		11.9×52.8	半紙	端裏書「続書之試」 端書『桑松へ遣候もの』	Ⅲ-317-1-2
1674	青木弥大夫書簡(御代詠昨日御短冊に相認差進候事)	状	1通	四月二日	関蔵人	青木弥大夫様	13.9×41.4	諸口紙	封上書「青木弥大夫様 関蔵人」	Ⅲ-177-47
1675	青野小太郎書簡(右京様孟子御会読の事)	状	1通	廿五日	青野小太郎	頼弥太郎様	11.9×15.4	色半紙	封上書「頼弥太郎様 青野小太郎」	Ⅲ-326-57
1676	石井豊洲書簡(写本を借りた礼と返却の事)	状	1通	廿一日	儀卿	権二郎様	14.0×12.0	楮紙	封上書「権二郎様 儀卿」	Ⅲ-324-4
1677	石原柳庵書簡(当月上旬角島へ朝鮮人漂着にて接筆話候事)	状	1通	臘月廿八日	石原柳庵	春水老先生 貴下	14.0×163.4	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「柳庵 朝鮮漂流人咄有之 極月廿八日出 正月十八日来 ○」	Ⅲ-314-7
1678	石川玄瑞書簡(三樹翁参診之節披相見へ心配之事)	状	1通	九月十九日	竜頓首	頼斎兄	16.2×50.1	楮紙(萌黄・薄赤色)	封上書「頼斎兄 龍頓首」, 端裏書「九月十九日之書, 同廿七日至」	Ⅲ-292-21
1679	石津書簡(昨宵ハ大酔失礼仕候事)	状	1通		石津	船越様	14.4×136.4	楮紙	封上書「船越様 石津 内用拝復」	Ⅲ-307-3
1680	石津蔵六書簡(直蔵改心の事, 御蔵解取の事)	状	1通	二月廿六日	蔵六	徳三郎様	14.5×57.7	諸口紙	染み汚れ甚	Ⅲ-299-125
1681	赤松書簡	状	1通	四月廿一日	森侯邸舎 赤松	頼君千祺足下	17.0×36.0	楮紙	封上書「藝州侯甲第邸舎 頼君千祺足下 森侯邸舎 赤松拝首」	Ⅲ-322-3
1682	赤松密道書簡	状	1通	(昭和)廿七年七月十八日	赤松密道	頼惟勤様侍史	25.2×17.7	便箋	封筒付属	Ⅲ-387-39
1683	千家清主書簡(拝顔が叶わなかった事, 今後交誼を望む事)	状	1通	七月七夕	千家清主 俊位(花押)	頼万四郎様 人々御中	14.7×50.7	楮紙	包紙(26.2×36.5, 楮紙)「頼万四郎様用書 千家清主」	Ⅲ-322-18-2
1684	千家清主書簡(詩文の礼, 一行ものの所望)	状	1通		(千家清主)	(頼杏坪)	14.7×11.8	楮紙		Ⅲ-322-18-3
1685	川十左衛門・南部彦右衛門書簡(甚蔵の孝行の行状書)	状	1通	申三月	坂戸武平次 野村仁平次 申出之書取/御代官寺川十左衛門 南部彦右衛門		13.7×34.6	楮紙		Ⅲ-372-94
1686	川上文和書簡(久太郎様御病情御全快の事, 水筆一箱差上候事)	状	1通	十一月十八日	川上文和 拝	奉呈 春水先生 几下	15.9×78.2	楮紙(萌黄)	端裏書(頼春水筆)「文和 十二月十二日至」	Ⅲ-314-16
1687	浅野長懋書簡(唐にて作り候日本の風土記につき)	状	1通	正月初二	白杏子	春水老翁	16.1×42.5	三桎紙(薄墨染)		Ⅲ-312-1
1688	船越洋之助書簡(前公へ建言仕候得共御採用無之愁歎仕居候事)	状	1通	(安政5年頃)六月一日	船越洋之助	頼先生	18.2×237.2	竹紙		Ⅲ-308-18

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1689	船越洋之助書簡(御願置候山陽先生御真筆御入手につき)	状	1通	(明治時代)二月廿五日	洋之助	頼先生御侍史	14.4×87.0	楮紙	封筒(17.0×4.6)「頼東三郎先生 侍史 船越洋之助」	III-299-139
1690	倉橋島千兵衛書簡(御機嫌伺いの日程につき)	状	1通	四月十日	倉橋島千兵衛	頼様御内御支配人中様	14.9×35.5	楮紙	封上書「頼様御内御支配人中様尊下 倉橋島 千兵衛拜」	III-325-69
1691	村井書簡(過日御頼申上候藩穂集表題につき)	状	1通	七月晦日	松井雪翁	頼餘一様	15.7×53.9	杉原紙	封上書「頼餘一様 松井雪翁 内用不及御直答」	III-317-30
1692	村瀬マサ子書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和26年12月25日消印)	村瀬マサ子	頼惟勤様	14.0×9.0	郵便葉書		III-387-33
1693	村瀬藤城書簡(山陽死去につき悔み状)	折紙	1通	(天保3年閏十一月十八日)	村瀬平次郎(花押)	頼餘一様 侍史中	15.5×42.0	杉原紙		III-317-14
1694	太田孫平書簡(新年年賀状)	状	1通	正月十五日	太田孫平 静(花押)	弥太郎様 函丈	14.0×23.2	諸口紙		III-312-20
1695	大久保茂親書簡(御内談之覚 諸用達方, 句読師の人選につき)	折紙	1通	寛政六年甲寅二月廿五日	大久保茂親	先生様	14.5×45.7	諸口紙	封上書「先生様 拜上 大久保茂親」, 端裏書(頼春水筆)「寛政六年甲寅二月の事 学政 □□」	III-308-10
1696	大賢和尚書簡(被相托候一山之碑, 無之につき)	状	1通	戊七月廿六日	前輪王寺 大賢	頼春水君足下	16.0×87.2	美濃紙(墨染, 薄桃色)	端裏書(頼春水筆)「仙臺輪王寺隠居大賢和尚 ○七月廿七日出九月十七日来」	III-313-16
1697	大原左金吾書簡	状	1通	二月八日	大原左金吾	頼万四郎様	15.8×79.5	楮紙	封上書「松平安藝守様 御向やしきにて 頼万四郎様 大原左金吾」	III-322-17
1698	大野木勝守書簡(明晩御用談集会欠席のこと)	状	1通	十月十八日	大野木 勝守	頼餘一様	13.9×26.4	諸口紙	封上書「頼餘一様 大野木勝守 内用差置」	III-317-11
1699	瀧原宋閑書簡(短冊一枚為持上候につき染筆御頼申上候)	状	1通	九月朔日当賀	宋閑	梅颯君	17.4×46.1	杉原紙(海景図刷)		III-338-8
1700	瀧有山書簡(私名有山と相改剃髪も仕候事)	状	1通	五月十四日	瀧有山	頼弥太郎様	14.1×39.9	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 瀧有山」	III-312-17
1701	卓趣書簡(世情嘆かわしい事)	状	1通	(天保14年ヵ)閏九月九日	卓趣		14.5×52.3	楮紙		III-325-26
1702	達助書簡(当年ハ大祥忌御相当被遊, 御備物も仕度につき)	状	1通	(弘化2年)十月十二日	達助	聿庵大人, 東三郎様	15.5×39.6	杉原紙	梅颯の大祥忌ヵ	III-317-41
1703	達助書簡(金貳両さし送申候につき)	状	1通	九月十七日認置	達助	東三郎様	14.5×35.6	諸口紙	封上書「東三郎様 達助」	III-319-4
1704	丹羽書簡(口上 此小肴中元之印迄為持差出候につき)	状	1通	七月廿日	丹羽	頼様	14.3×29.1	諸口紙	封上書「頼様 丹羽 申上」	III-308-16
1705	丹霞書簡(広島を発し, 隠戸, 御手洗を經て又二郎を大坂へ送り届け候事)	状	1通	四月廿七日	丹霞	聿庵先生	27.5×39.4	楮紙		III-336-48

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1706	築山嘉平書簡(口上 先生之御病氣ハ学之興廢にモかゝり申候間御自愛專一奉存候事)	状	1通	十二月五日	嘉平	弥太郎様	14.4×82.4	諸口紙	封上書「弥太郎様 嘉平 □内用」	III-313-3
1707	築山嘉平書簡(希趙の二字の事)	状	1通		嘉平	弥太郎様	14.2×34.2	楮紙	封上書「弥太郎様 嘉平 内用差置候」	III-325-38
1708	築山嘉平書簡(自陳の事)	状	1通		嘉平	弥太郎様	14.0×23.5	楮紙	封上書「弥太郎様 嘉平 御内用」	III-326-102
1709	竹腰孫十郎書簡(景讓様死去につき悔み状)	状	1通	(文化12年 か)六月六日	竹腰孫十郎	頼弥太郎様	12.0×41.4	半紙	包紙(24.5×16.1, 半紙)「頼弥太郎様 竹腰孫十郎 御用」	III-177-39
1710	竹腰隼人書簡(紙二三枚に御序に御執筆相希申候)	状	1通	三月七日	隼人	弥太郎様	13.9×53.8	諸口紙	封上書「弥太郎様 隼人 内用」, 端裏書(頼春水筆)「三月七日来」, 別紙(13.9×4.5, 諸口紙), 紙帯(2.0×5.6)「供ニ 十八通」付属	III-177-48
1711	竹田半助書簡(中元挨拶状)	状	1通	七月十三日	竹田半助	頼餘一様尊下	14.2×23.0	諸口紙	封上書「頼餘一様 竹田半助 申上」, 裏面に墨書あり	III-317-26
1712	中原和助書簡(頼先生より書生居所につき依頼)	状	1通		(中原和助)	(菅茶山カ)	17.1×16.0	楮紙	端裏書(菅茶山筆)「中原和助」	II-1-47
1713	中川好古書簡(国郡誌編纂につき, 杏坪の地名に関する質問への答え)	状	1通	同日	好古	杏坪先生 函丈	16.0×120.8	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「○ 中川清左衛門来書 編志用」	III-322-11
1714	中川清左衛門好古書簡(山陽と赤間関で会った事, 新田塩浜開発の事)	状	1通	三月廿八日	中川清左衛門好古	杏坪頼先生玉几下	16.5×125.7	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「○ 寅年五月返事 越好古来書」	III-322-10
1715	中村元亮書簡(景讓の病状の説明, 薬の副作用の事)	状	1通	中秋三日	中村元亮	頼権次郎様	14.2×54.0	楮紙	封上書「頼権次郎様 中村元亮 内用被直披」	III-324-1
1716	忠僚書簡(三次に杏坪を訪ねた時の和歌)	状	1通		忠僚 拝		14.5×24.8	楮紙		III-322-26
1717	猪之助書簡(紙相調, 御使者御渡奉申上候事)	状	1通	三月五日	猪之助	杉木御屋敷様	14.5×23.2	諸口紙	封上書	III-308-2
1718	猪之助書簡(此分紙廿枚相調申候事)	状	1通	三月五日	猪之助	杉木御屋敷様	14.5×22.9	諸口紙	封上書「杉木御屋敷様 猪之助」	III-308-3
1719	長久保赤水書簡(旧年竹山子不幸之事御しらせに御坐候, 北堂之変とか承候)	状	1通	四月四日	長久保源五兵衛	頼弥太郎様	16.7×191.8	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 長久保源五兵衛」, 「桜井彦之允と書生, 当年廿二ニ成候, 拙者門人分ニ御坐候」, 「高橋又市郎, 藤田熊之介, 当春御扶持致頂戴候」との記載あり	III-315-11
1720	長池まさ書簡(残り銀之義につき, 御無心申上候事)	状	1通	六月六日	長池まさ□	広島東向しま かいふ屋和吉様	15.8×84.7	三桎紙	封上書「広島東向しま かいふ屋和吉様 長池まさ□ 用事入」, 封裏書「六月六日出 従明石」	III-307-2
1721	長尾書簡(御考えを問合せたい旨)	状	1通		長尾	頼様	12.3×33.4	半紙		III-325-13
1722	長尾新八書簡(江戸表の様子, 御世話被成下候銀につき御礼)	状	1通	十月十四日	新八	餘一様	12.3×80.0	半紙	封上書「頼様」	III-317-43
1723	直温書簡(帰島前, 御印章済みの書につき, 後刻参仕候)	状	1通	七月十日	直温敬拜	聿庵大先生侍史	14.2×66.2	諸口紙		III-317-48
1724	津川年子書簡(春のうちの御出をまち入り候事)	状	1通		登志方	御兄様	14.2×45.5	諸口紙	封上書「御兄様 登志方 御申上候」, 封裏書「竹原」	III-190-15
1725	鉄屋彦兵衛書簡(御大小板之義漸出来候につきほか)	状	1通	九月廿九日	鉄屋彦兵衛	頼弥太郎様	15.8×145.9	楮紙		III-312-22

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1726	天竺長成書簡(此度海音禪尼と豫州にて対面仕候事)	状	1通	六月七日	はせを堂中長成	夢南尊雅几下	18.3×52.8	杉原紙	封筒(18.5×5.2, 杉原紙, 竹絵摺)「江戸上模町河岸油屋裏 一具庵夢南様 天竺長成」, 同・裏「六月七日 於豫州西条」	III-307-1
1727	田為典書簡(政記, 通議之校正につき)	状	1通	二月二日	田為典拜	餘一君	17.3×62.0	杉原紙(萌黄色, 雲母引き)	封上書「餘一君 文几下 田為典拜」	III-317-36
1728	田上健人書簡(塗替えた物の納品の口上)	状	1通		田上健人	頼弥太郎様	14.0×25.0	楮紙	封上書「頼弥太郎様 田上健人」	III-326-79
1729	田中惣兵衛書簡(弥太郎殿江戸へ御着国之よし, 久太郎殿もほうそう以後息才につき)	状	1通	(天明8年)六月二日	田中惣兵衛	頼万四郎様	14.5×60.1	諸口紙	包紙(26.3×19.6, 楮紙)「頼万四郎様 田中惣兵衛 無事貴答」, 同・裏「介田駅方」	III-164-2
1730	田中惣兵衛書簡(おしつ殿妊娠之由, 珍重之御義に御座候)	状	1通	(寛政元年)三月廿八日	田中惣兵衛	頼万四郎様	13.3×75.6	楮紙	包紙(24.8×17.2, 半紙)「頼万四郎様 田中惣兵衛 無事御儀」, 同・裏「自本郷 三月廿八日出ス」	III-164-1
1731	田中惣兵衛書簡(万四郎殿方安産, 男子出生につき祝状)	折紙	1通	(寛政3年)二月廿五日	田中惣兵衛	頼久太郎殿	14.4×46.0	諸口紙	包紙(24.5×17.0, 半紙)にてIII-377-13-1~2を一括, 頼春水筆「田中惣兵衛様御遺書」	III-377-13-1
1732	田中惣兵衛書簡(土産として何より之品下され, 忝受納仕候事)	状	1通	九月十三日	田中惣兵衛	頼久太郎	14.4×24.2	諸口紙		III-377-13-2
1733	田中藤七書簡(孝義伝表紙の事)	状	1通	(文政2年カ)四月廿四日	田中藤七	万四郎様	15.3×68.0	楮紙	端裏書(頼杏坪筆)「田中藤七来書 後四月五日至」	III-322-2-2
1734	田中芳樹書簡(当藩政事改正大はやりの事似茶も六七年己前より流行の事)	状	1通	十二月十五日	芳樹	(頼幸庵)	16.7×202.0	三桎紙(薄赤色)	端裏書「田中書状 寅正月廿日当着」, 2枚に剥離	III-317-13
1735	土屋七郎書簡(上杉邸への書の礼, 倉成の江戸行)	状	1通	六月二日	土屋七郎	杏坪頼先生函丈	16.4×58.2	楮紙(黄染)	端裏書(頼杏坪筆)「〇丙八月十二日返事 土屋七郎書」	III-322-27
1736	土屋七郎書簡(知友の事, 詩文の近作を乞う事)	状	1通		七郎又白		16.4×17.5	楮紙(黄染)		III-322-28
1737	土屋七郎書簡(草場佩川の仙台藩御抱えの事)	状	1通	四月廿日	土屋七郎	頼権次郎様	16.4×43.3	楮紙		III-324-8
1738	[包紙]	状	1通		島村正八	頼権次郎様	18.2×13.2	楮紙	封上書「頼権次郎様 島村正八 差向内用書平安」	III-349-15
1739	藤井景次郎書簡(生涯帯刀になった知らせ)	状	1通	十月八日	藤井景次郎	頼弥太郎様	14.3×21.0	楮紙	封上書「頼弥太郎様 御支配人様 藤井景次郎」	III-326-81
1740	藤井澄月書簡(御さかな料金子百疋御送被下, 幾久く愛納いたし候)	状	1通	(文化10年)神無月廿五日	ふち井澄月	頼弥太郎様口	17.5×107.0	奉書(雲絵摺)	端裏書(頼春水筆)「文化十年癸酉十一月大坂藤井淳平祖母来書 最初抜上坂節 虫損染有之もの」	III-313-1
1741	藤井暮庵書簡(福山志人物之部に亡父外祖父之詩歌入不申候事)	状	1通	三月十日	藤井料助 公顯拜	春水頼老先生様 絳帳下	15.5×155.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「〇料助 一. 三月十日出 五月十八日至」	III-315-13
1742	藤青徳書簡(鹿末之品御座候得共奉進上候)	状	1通	九月十四日	藤 青徳 拜上	頼東三郎様尊下	14.4×63.7	諸口紙		III-319-14
1743	藤田次敬書簡(尾藤二洲と沢大夫の様子)	状	1通	六月廿一日	藤田次敬	先生/御支配中様	11.6×24.7	半紙		III-326-41
1744	藤田次敬書簡(追書 流行の風邪で勘行政進が大病の事)	状	1通	四月八日	藤田次敬	先生/御支配中様	14.4×25.3	楮紙		III-326-42

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1745	藤田雄佐書簡(中嶋殿御帰府につき、此地之楊枝、味噌進献仕の事)	状	1通	九月十一日	藤田雄助	春水老大先生	14.3×36.6	諸口紙	端裏書(頼春水筆)「新斎 ○中しま便 九月十日出 十月十三日至」	III-306-15
1746	藤田雄佐書簡(尾藤様・白川の御受取につき、そのほか)	状	1通	九月十三日	藤田雄佐	春水老大先生	14.5×21.4	諸口紙		III-306-16
1747	藤田雄佐書簡(新年挨拶状、春水の秋の江戸話の事)	状	1通	正月五日	藤田雄佐	杏坪老大先生、佐一郎様	11.9×23.5	半紙		III-306-17
1748	藤田良蔵書簡(年始の挨拶)	状	1通	正月七日	藤田良蔵	杏坪老大先生	11.6×23.6	半紙		III-322-5
1749	那須閑斎書簡(万四郎様先達而ハ御屋敷御拝領被成候事)	状	1通	(文化7年)仲秋念一	那須閑斎 惟(花押), 同音五郎 資(花押)	春水先生様 函丈	15.9×105.4	楮紙		III-314-11
1750	那須閑斎書簡(小箋絹へ御染筆被成下候事)	状	1通	五月十六日	那須閑斎	頼久太郎様 台下	16.5×46.1	杉原紙	端裏書(頼山陽筆)「那須来書」	III-314-12-1
1751	那須閑斎書簡(副啓・巖島奉納物之事につき)	状	1通	五月十六日	閑斎	久太郎様	16.5×30.3	杉原紙		III-314-12-2
1752	南部積善堂書簡(御宿疾の事、御嗜之石摺事につき)	状	1通	八月二日	南部伯民 押上(花押)	頼春水老先生 函丈	16.1×102.0	楮紙(薄桃、萌黄色)	端裏書(頼春水筆)「南部 八月二日 出 廿五日来 ○」	III-314-9
1753	日野資愛書簡(先夜の訪問の際の礼、猶十六夜入来待入候事)	状	1通	(文政12年)四月九日	資愛	山陽子成氏賢昇文几	15.7×60.5	杉原紙	封上書「山陽子成氏賢昇文几 資愛」	III-339-22
1754	日野資愛書簡(先夜の馳走の礼、梅颯との初面会、和歌を贈ること)	状	1通	(文政12年)五月十三日	資愛	山陽賢昇	25.6×59.0	竹紙		III-339-23
1755	梅園文平書簡(天野兵衛の学問所入門の事)	状	1通	(享和3年)二月十四日	梅園文平	頼万四郎様	14.4×25.2	楮紙	封上書「頼万四郎様 梅園文平」、端裏書(頼杏坪筆)「癸亥」	III-322-8
1756	白市屋弥藤太書簡(画賛、絹地、石碑文章の礼状)	状	1通	六月廿一日	白市屋弥藤太	頼権次郎様	16.8×59.0	楮紙(朱線)	端裏書(頼景讓筆)「元口へ他人之書通 真反古二候へ共先留置」「忠海白市屋」	III-324-7
1757	白龍寿書簡(東海墓聯先頃参り、後便に石摺テ差上可申候)	状	1通	仲冬九日	白龍寿 敬	春水頼老先生 玉案下	16.9×58.3	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「白龍 仲冬九日出 廿四日来」	III-314-8
1758	白龍書簡(見舞の礼、詩の依頼)	状	1通	仲春二日	白龍	頼万四郎様	16.8×43.0	楮紙	封上書「頼万四郎様 文机下 白龍」	III-322-16
1759	薄田八郎書簡(祖母事、御尋の上、御品御恵投の段、御礼状)	状	1通	□日	薄田八郎	頼餘様	14.3×41.8	諸口紙	封上書「頼餘様 薄田八郎 拝腹」	III-317-17
1760	八木寛書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和26年)12月18日消印)	八木寛	頼惟勤様	26.1×17.9	便箋	封筒内に領収書あり	III-387-23-1
1761	多聞院書簡	状 紙本写	1通	(昭和28年)9月16日消印)	多聞院	頼惟勤様	18.2×25.2	洋紙	封筒付属、返信用封筒と未記入の墓籍簿1枚同封	III-387-22-1
1762	八木寛書簡	状 紙本ペン書	1通	(昭和26年)十二月十二日	八木寛	頼惟勤様	25.3×17.9	便箋	封筒付属	III-387-24

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1763	八木寛書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和26年12月)二十五日	八木寛	頼惟勤様	25.0×18.0	便箋	封筒付属	III-387-25
1764	八木寛書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和27年)五月十一日夜	八木寛	頼惟勤様	25.3×18.1	便箋	封筒にてIII-387-13-1~4を一括	III-387-13-1
1765	八木寛書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和27年)五月十一日夜	尾道短期大学 長事務取扱八木寛	頼惟勤様	22.9×17.9	便箋	封筒2枚にてIII-387-16-1~3を一括	III-387-16-1
1766	八木寛書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和27年)5月17日消印)	八木寛	頼惟勤様	14.0×9.0	郵便葉書		III-387-16-2
1767	電報	状 紙 本 ペ ン書	1 通	昭和27年5月25日	ヤギ	ライツトム	18.1×12.7	洋紙	日付印あり	III-387-16-3
1768	八木寛書簡	状 紙 本 ペ ン書	1 通	(昭和28年)二月七日	八木寛	頼惟勤様	25.2×18.0	便箋	封筒付属	III-387-26
1769	八木繁二郎書簡(御名御字御号一寸御書附奉願上候事)	状	1 通	八月十七日	八木繁二郎	頼様	15.8×19.9	三桎紙	封上書「頼様 八木繁二郎」	III-308-12
1770	樋口平蔵書簡(先年於対州出会候韓人より寄贈の浄文、内密に受取置申候事)	状	1 通	臘月十日	樋口平蔵	春水先生侍史	16.1×27.4	三桎紙		III-312-18
1771	尾藤水竹書簡(御伯母様御様子の事、江戸の様子ほか)	状	1 通	(天保14年)五月十二日	積高再拜	春嶂先生侍右	15.2×136.8	竹紙(上部飾線)	封上書(貼紙)「春嶂先生 侍右 積高再拜」	III-303-1
1772	尾藤水竹書簡(別啓 恩借仕候儀につき)	状	1 通	四月九日	高蔵	餘一様	14.3×40.3	楮紙		III-303-2
1773	尾藤水竹書簡(尊兄先頃大雅画御入手の事)	状	1 通	十月廿六日	高蔵	餘一様	12.6×33.8	半紙	封上書「餘一様 梧右無事 高蔵」、端裏書「○」	III-303-3
1774	尾藤二洲書簡(副 此度老兄の疾につき弟が愚考申上候)	状	1 通		(尾藤二洲)カ)	(頼春水)	17.9×80.6	楮紙		III-312-13
1775	尾藤二洲書簡(お直産期も近き事、古川古松軒関東の地図持参の事)	状	1 通	(寛政6年)十一月廿三日	節頓首	拙巢老兄	13.7×21.8	楮紙	封上書「拙巢老兄 節頓首」、端裏書(頼春水筆)「○後十一月十四日至」、2枚に剥離	III-302-1
1776	尾藤二洲書簡(今朝卯の下刻、お直女子安産致候事)	状	1 通	(寛政6年)十二月三日辰刻認	尾藤良佐	頼弥太郎様	15.6×20.0	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 尾藤良佐」	III-302-2
1777	尾藤二洲書簡(お直事、母子共無事、学生試相済候事)	状	1 通	(寛政6年)十二月八日	約拜復	拙老兄	15.8×25.4	杉原紙	封上書「拙老兄 約拜復」、円形に切り取り(襖引手カ)	III-302-3
1778	尾藤二洲書簡(梅月甚だ健やかかの事、柴野栗山妻死去の事)	状	1 通	(寛政6年)十月九日	節頓首	拙老兄	13.7×24.0	楮紙	封上書「拙老兄 拙頓首」、端裏書(頼春水筆)「十月九日十日出廿八日至」、2枚に剥離	III-302-6

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1779	尾藤二洲書簡(山陽学事の事, 岡田寒泉治政の事)	状	1通	(寛政7年)七月九日	二洲	(頼春水)	13.9×40.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「二洲, 七月廿八日至」	III-302-7
1780	尾藤二洲書簡(別紙: 剛蔵一件)	状	1通	(寛政7年7月9日)	(尾藤二洲)	(頼春水)	13.6×19.8	楮紙	端裏書(頼春水筆)「剛蔵一件」	III-302-8
1781	尾藤二洲書簡(令弟御加禄, 老兄にも御進格の事, 奉賀候)	状	1通	(寛政8年)初夏八日	約頓首	拙老兄	16.5×17.6	楮紙	封上書「拙老兄 約頓首」, 端裏書(頼春水筆)「○」	III-302-11
1782	尾藤二洲書簡(山陽御全快の由, 篠崎・中井縁組・好古十集の事)	状	1通	(寛政10年)九月十七日	約頓首	拙老兄	13.9×40.8	楮紙	封上書「拙老兄 役頓首」, 端裏書(頼春水筆)「十月十四日入手」	III-302-4
1783	尾藤二洲書簡(江戸の疹の流行, 知友の動静, 竹山の苦境)	状	1通	(享和3年)十二月四日	(尾藤二洲)		18.0×45.5	楮紙	前欠	II-4-9
1784	尾藤二洲書簡(江戸, 学中風邪流行につき, 学生試延引の事)	状	1通	孟夏初五	約頓首	拙老兄	14.3×14.5	楮紙	封上書「拙老兄, 約頓首」	III-302-5
1785	尾藤二洲書簡(遠からず拝面, 相楽申候事, 只今会読中の事)	状	1通	九月廿五日	尾藤良佐	頼弥太郎様	16.6×43.6	杉原紙	封上書「頼弥太郎様 尾藤良佐 貴答」	III-302-9
1786	尾藤二洲書簡(長久保返書参候事, 昌平覺風邪流行の事(まか))	状	1通	四月廿日	約頓首	拙老兄	14.3×40.7	楮紙	封上書「拙老兄 約頓首 内密」, 端裏書「二洲五月廿二日」「五月廿二日至」	III-302-10
1787	彦十郎書簡(自作和歌短冊の呈上, 書の依頼)	状	1通	十九日	彦十郎拜	杏坪老先生様御侍史	17.0×39.8	楮紙(茶地, 鍋と臥龍松の摺)		III-322-24
1788	菱川岡山書簡(不図会南博士, 大慶仕候)	状	1通	二月念一日	菱川宇門	頼弥太郎様	16.4×28.6	三桮紙	封上書「頼弥太郎様 菱川宇門」	III-315-1
1789	1) 姫井桃源書簡(質問 養嗣とするにつき御示教可被下候)	状	1通		詰拜具	春水三下	16.0×28.8	三桮紙	III-305-6-1~10まで仮綴	III-305-6-1
1789	2) 姫井桃源書簡(読礼通考ノ内に劉敞之説有之候よしにつき)	状	1通	廿六日	(姫井桃源)	(頼春水)	16.5×4.9	三桮紙(薄桃色)		III-305-6-2
1789	3) 頼春水書簡(仲弟千齡カ子ヲ取テ嫡子トスにつき, 先年シラベタルコトアリ)	状	1通		(頼春水)	(姫井桃源)	16.0×16.0	三桮紙		III-305-6-3
1789	4) 姫井桃源書簡(内用答)	状	1通		(姫井桃源)	(頼春水)	16.0×39.7	三桮紙		III-305-6-4
1789	5) 姫井桃源書簡(曾鞏ノ説如何にや附便仕候)	状	1通	五月十四日	桃源詰	春水老兄三下	16.5×16.5	三桮紙(薄桃色)		III-305-6-5
1789	6) 姫井桃源書簡(学校講堂に太公直筆額ヲ掲候事(まか))	状	1通		(姫井桃源)	(頼春水)	16.0×21.4	三桮紙		III-305-6-6
1789	7) 姫井桃源書簡(積奠私儀ノコト初而承り申候につき)	状	1通		(姫井桃源)	(頼春水)	16.0×13.2	三桮紙		III-305-6-7
1789	8) 姫井桃源書簡(水田事, 以来同人へ逢不申候につき)	状	1通		(姫井桃源)	(頼春水)	16.0×5.6	三桮紙		III-305-6-8
1789	9) 姫井桃源書簡(柏原山池寄題之事承知, 証文三冊落手仕候事)	状	1通		詰拜	和亭老兄	16.0×20.9	三桮紙		III-305-6-9
1789	10) 姫井桃源書簡(千祺君御郡府御役に御榮遷, 令長子ハ礼卿へ御托被成につき)	状	1通	(文化9年)四月廿五日	桃源詰拜	春水頼賢兄三下	16.0×103.8	三桮紙	封上書「頼弥太郎様 姫井貞吉」, 端裏書(頼春水筆)「姫 ○四月廿五日出 五月廿八日至」	III-305-6-10

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1790	姫井桃源書簡(新年挨拶状)	状	1通	正月四日	姫井貞吉(花押)	頼弥太郎様	15.6×17.3	楮紙		III-302-12
1791	武銀次郎書簡(南郭・春臺・芳洲の詩箋, 唐本の問合せ)	状	1通	八月廿九日	武 銀次郎	弥太郎様	14.4×31.0	楮紙	封上書「藩御番 御奥詰中様 上 頼弥太郎様」	III-325-90
1792	服部善蔵書簡	状	1通	二十八日	服部善蔵	頼万四郎様	15.3×18.3	楮紙	封上書「頼万四郎様 服部善蔵」	III-322-15
1793	福井敬斎書簡(豚兒貴門に日々函丈請益候事を悦喜仕居候)	状	1通	(寛政11年)六月廿四日	福井巖助(花押)	頼弥太郎様 虎皮座下	15.2×137.2	竹紙	端裏書(頼春水筆)「衣笠 六月廿四日出 七月十四日至 ○ 八月十二日」, 頼惟勤氏推定「寛政十一年」	III-314-6
1794	福井敬斎書簡(豚兒懦弱懶惰者につき, 詫状)	状	1通	九月十日	福井巖助 軌(花押)	頼彌太郎様 虎皮前	17.8×180.4	楮紙	端裏書(頼春水筆)「福井翁 九月十日出 廿日をミ口便て来」○廿八日返書 景山へ托ス	III-313-8
1795	平賀中南書簡(字典御取よせ被下候由致承候事ほか)	状	1通	極月廿八日	土生若狭介	頼弥太郎様	15.8×82.9	杉原紙	封上書「千秋三下」	III-315-6
1796	[包紙]	状	1通		立原大之助	頼弥太郎様 尊下	24.5×34.3	半紙	封上書「頼弥太郎様 尊下 立原大之助」	III-349-3
1797	[包紙]	状	1通	八月三日	若槻源三郎	頼弥太郎様	23.7×33.5	半紙	封上書「芸州広島 頼弥太郎様 奉復 若槻源三郎」, 封裏書「八月三日」, 端裏書「土徳書」	III-349-4
1798	[包紙]	状	1通	□月朔日至	手島三吾/八木好右衛門	八木好右衛門様/手島三吾様	24.1×16.7	半紙	封上書「頼様御内 手島三吾様 八木好右衛門 御披露」, 端書「□月朔日至」, 紙背墨書「八木好右衛門様 手嶋三吾 御□□事」	III-349-6
1799	宝小兵衛書簡(質物取組無之内三貫五百匁餘急に入用申遣候返事)	状	1通	五月十七日	宝小兵衛	春水様	14.0×20.1	諸口紙	封上書「春水様 宝小兵衛 拝復」, 端裏書(頼春水筆)「質物取組無之内三匁餘急に入用申遣候返事」	III-166-6
1800	北川書簡(誠軒君御夫婦来訪の節申上候件につき)	状	1通	明治時代	(北川)	(頼支峰)	15.2×97.8	楮紙	端裏書「北川氏書簡四月二日到来 第壹号」, 端書「伝言切り取ル」, 付紙(頼支峰筆)「到底難行コトと推考仕候」, 後半部切取り	III-386-78
1801	北村庄助書簡(孝義伝廿編, 御国半紙摺仕立候事ほか)	状	1通	十一月十九日	北村庄助(花押)	弥太郎様	18.0×96.5	楮紙	端裏書(頼春水筆)「北村 十一月十九日 十二月廿一日来」	III-312-26
1802	牧百峰書簡(梅颯死去につき悔み状)	状	1通	(天保14年)十二月十九日	牧善輔輓(花押)	頼餘一様, 頼又三郎様	18.3×63.9	竹紙	端裏書「○牧返書済」	III-317-44
1803	堀江典膳書簡(松前迄の事情具に承知仕り, 大に心得に相成候事)	状	1通	二月廿二日	典膳	弥太郎様	13.7×102.2	諸口紙	封上書「弥太郎様 典膳 御内用 奉復」	III-177-45
1804	堀大弥書簡(打碑の事, 病人看病の为上京の事)	状	1通	七月廿一日	堀大弥	頼弥太郎様へ	13.9×32.4	楮紙	端書「万端ヲ奉祈候」	III-325-39
1805	堀大弥書簡(寒中見舞い状)	状	1通	十一月廿一日	堀大弥	頼弥太郎様	15.9×19.7	杉原紙	前欠	III-378-10
1806	又三書簡(願書御出し被成候由承知, 私ともも明日差出心得にて候)	状	1通	五月十三日	又三	東三郎様	16.7×73.4	三桎紙	封上書「東三郎様 又三 □否」	III-299-156
1807	又三書簡(お松逗留仕, 御世話と奉存候)	状	1通	六月三日	又三	東三郎様	16.7×59.5	三桎紙	封上書「東三郎様 又三 方」	III-299-157
1808	味木平八書簡(御留守御状無間違相届候哉)	状	1通	六月九日	味木平八	頼弥太郎様	14.4×23.5	諸口紙	前欠, 破損甚	III-312-25

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1809	箕浦秦川書簡(松田覚助儀, 尊藩御学堂へ罷出候様思召につき)	状	1通	三月廿八日	箕浦専八行直	頼弥太郎様 机下	17.5×395.1	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「三月廿八日出 四月十六日 松田持参 ○」	III-305-4
1810	箕浦立斎書簡(大坂中井濙翁先生御没世之由驚駭仕候)	状	1通	(文化元年)五月十一日	箕浦右源次直彝, 箕浦乙三郎, 貞吉, 箕浦悦次頭口, 箕浦幸吉香橘	頼弥太郎様 尊酬	16.0×129.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「ミのうら 五月三日 十一日 七月十四日古屋船便至 しのたふ ○」	III-305-1
1811	箕浦立斎書簡(年内梅・歳暮祝・壬申の歳暮に)	状	1通	(文化9年)壬申の歳暮に	立斎		17.5×49.2	三桮紙	端裏書(頼春水筆)「箕浦右源次 乙三郎 悦次 甲吉 詩歌 土州 箕浦 右源次 八十三」	III-315-10
1812	箕浦立斎書簡(貝原益軒-百年忌春水詩文に寄する文)	状	1通	(文化10年)十二月二十七日	箕浦右源太	頼弥太郎様	18.0×88.0	楮紙	紙帯にてIII-332-8-1~5まで一括, 紙帯墨書「箕浦」「箕浦詩歌」	III-332-8-1
1813	箕浦耕雨書簡(貝原先生-百年忌に賦す詩)	状	1通	(文化10年)	箕浦橘	(頼春水)	17.6×54.7	楮紙		III-332-8-2
1814	箕浦立斎書簡(癸酉十二月十九日寡君臨教授館賀贈詩)	状	1通	(文化10年)十二月廿七日	右源太	弥太郎様	15.6×76.6	竹紙カ		III-332-8-3
1815	箕浦立斎書簡(益軒先生-百年月形氏之報書に賦す詩)	状	1通	文化癸酉十二月二十七日	立斎再拜謹言	(頼春水)	15.5×42.3	竹紙カ		III-332-8-4
1816	〔書簡〕(七言律詩 六魚, 七虞ほか 3首)	状	1通	十二月廿一日~廿五日	(丸川松隠カ)	(頼春水)	16.5×67.7	三桮紙(黄染, 竹葉絵摺)	校訂(墨)	III-332-8-5
1817	箕浦立斎書簡(尊藩御隠居様(重晟公)御遠逝被遊候につき)	状	1通	(文化11年)七月廿六日	(箕浦江南)	(頼春水)	17.4×152.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「土州」	III-305-3
1818	箕浦立斎書簡(春水の説を乞う)	状	1通	七月七日	右源次	弥太郎様	16.4×28.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「土州箕浦中庸ノ説」	II-2-16
1819	箕浦立斎書簡(副啓 烏藤杖ノ事)	状	1通	七月七日	右源次	弥太郎様玉案下	17.0×352.1	三桮紙(薄藍・薄桃, 黄・墨染)	端裏書(頼春水筆)「土州」	III-305-2
1820	箕浦立斎書簡(養生訓感嘆の事, 佐賀弘道館学制の事)	状	1通	三月廿六日	箕浦右源太立斎	頼弥太郎様	18.3×175.9	杉原紙	端裏書「○」	III-331
1821	孟雄書簡(杏坪の功績を称える)	状	1通		孟雄		19.0×17.2	楮紙(萌黄桜花摺)		III-322-29
1822	木村兼葭堂書簡(御令弟, 御令息来訪之事, 諸国之相識も追々物故之事ほか)	状	1通	(寛政10年)八月念八日	木村多吉郎	頼弥太郎様 拝復	16.7×107.7	漉返紙(黄染)	端裏書(頼春水筆)「巽斎 八月廿四日出 九月十一日至」, 破損甚	III-312-23
1823	木坂文左衛門書簡(御取替につき, 御返済御願申上候)	状	1通	三月四日	木坂文左衛門	頼御旦那様	16.4×62.0	三桮紙	端裏書「木坂」	III-317-47
1824	野村平兵衛書簡(先達而御願申上候書画帖につき)	状	1通	五月七日	野村平兵衛	頼弥太郎様 玉机下	16.3×109.4	杉原紙(上下に朱線)	端裏書(頼春水筆)「野村平兵衛 五月七日出, 十一日来」	III-314-15
1825	野本第二郎書簡(通議格別の品にて御預り不安心につき, 宮原へ持参致候事)	状	1通	四月九日	野本第二郎	餘一様	16.4×58.0	三桮紙	封上書「餘一様 野本第二郎」	III-317-31
1826	養和書簡(新年挨拶状, 生田殿より額字催促之事)	状	1通	新春初九	養和	聿庵先生	15.2×84.8	中杉原紙	封上書「聿庵先生養和 侍史拝呈口」, 端裏書(頼聿庵筆)「○孔明出師表中語可検」	III-317-7

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1827	落合敬助書簡(口上 大坂方金子入書状到来につき)	状	1通	三月十九日	落合敬助	春水老師台侍史	14.2×28.6	諸口紙	黒文円印1顆	III-312-32
1828	理嶋登大夫書簡(勘定所への示談の事)	状	1通	十一月廿六日	理嶋登大夫		14.0×26.7	楮紙		III-326-43
1829	里村玄碩書簡(鯉之画御賛御新作御認被下忝奉存候)	状	1通	十一月十五日	里村玄碩	春水大先生梧右	16.3×61.6	楮と三桎の混漉(薄茶, 薄桃, 黄染)	端裏書(頼春水筆)「里村之文」	III-314-1
1830	立原翠軒書簡(此方にモ菅翁珍ら敷預御訪而初懸御目候)	状	1通	(文化元年)九月十一日	甚五郎事 立原翠軒万(花押)	頼弥太郎様机下	16.0×117.0	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「立原 正月十八日至 ○」	III-315-19
1831	立原翠軒書簡(二月三日夜中彰考館出火いたし候につき)	状	1通	三月二日	立原甚五郎	頼弥太郎様	15.8×73.5	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「三月初二, 同十三日達 ○ 四月廿五日」	III-312-3
1832	立原翠軒書簡(国史の事御書記之物一冊御見せ被下奉謝候(ほか))	状	1通	三月十九日	立原甚五郎	頼弥太郎様	15.8×49.9	杉原紙	端裏書(頼春水筆)「立原」	III-312-4
1833	立原翠軒書簡(蝦夷志図・皇朝史略・服忌之事(ほか))	状	1通	十二月廿四日	立原甚五郎	頼弥太郎様	15.5×126.1	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○立原 極月廿四日出 二月十四日届 二月十六日返事」	III-312-5
1834	立野屋猪三次書簡(頼杏坪留守中の挨拶状)	状	1通	三月十八日	立野屋猪三次	頼万四郎様御内 多賀新次様, 金子熊蔵様	13.7×43.2	楮紙		III-322-20
1835	龍神武左衛門書簡(自分が明朝出勤する事)	状	1通		龍神武左衛門		14.4×27.0	楮紙	封上書「[]様 龍神武左衛門」	III-326-53
1836	冷然書簡(貴藩孝子伝御編集之よし盛拳奉欽羨候)	状	1通	(寛政7年)七月二日	冷然 和尚	春水先生 梧右	18.0×328.6	杉原紙	封上書「彌太郎様」, 端裏書(頼春水筆)「乙卯七月二日書 丙辰三月十二日達 小野市允便」	III-313-9
1837	冷然上人書簡(敵嶋函紙本松葉筏につき)	状	1通	(寛政12年)閏四月廿日	冷然	霞崖先生	18.6×18.9	竹紙	封上書「霞崖先生 冷然 本復」	III-332-1
1838	鈴木白藤書簡(昨日は御拝領物御頂戴大慶奉賀候事)	状	1通	四月七日	鈴木岩次郎	頼弥太郎様	16.2×32.9	三桎紙	封上書「頼弥太郎様 貴復 鈴木岩次郎」	III-312-21
1839	廉蔵書簡(陽の病状の事, 御揮毫奉希候事)	状	1通	八月廿日	廉蔵	頼佐一郎	16.4×50.6	楮紙		III-180-14
1840	老梧書簡(御書藏之事, 菅先生御登被成候成)	状	1通	卯月十一日	老梧	春水君	13.5×59.8	杉原紙	封上書「春水君 密用 老梧」	III-312-28
1841	澤三石書簡(書画の詠えの事)	状	1通		澤喬		14.0×8.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「○ 澤喬」, 後欠	III-326-31
1842	澤子宏書簡(岩国へも渡り度候につき御安意可被下候)	状	1通	十月六日夕	澤子宏	頼承緒先生	25.1×34.6	半紙	封筒(17.6×4.7, 杉原紙)「広しま杉ノ木町 宮旅館方 頼承緒先生 澤子宏拜」, 同・裏「十月六日夕」	III-317-8
1843	澤村次兵衛・森助次郎書簡(牛山園の荒れている事, 篠崎安道の様子)	状	1通	七月廿九日	澤村次兵衛, 森助次郎	頼弥太郎様	11.6×30.7	楮紙(白茶・薄桃色)	封上書「頼弥太郎様 澤村次兵衛 森助次郎」, 端裏書(頼春水筆)「[]七月廿九日」	III-372-25
1844	澤茂大夫書簡(御持せ越之御書付も致落手申候事)	状	1通	六月廿五日	澤茂大夫	頼弥太郎様	13.9×27.4	諸口紙	封上書「弥太郎様 澤茂大夫 内用不及貴復」	III-313-4

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1845	澤茂大夫書簡(過日被差出候御別紙御書試御一帖につき)	状	1通	五月六日	澤茂大夫	頼弥太郎様	14.3×29.8	諸口紙	封上書「頼弥太郎様 澤茂大夫」	III-313-5
1846	趙陶齋手簡	卷子装	1卷	江戸中期	(趙陶齋)		15.4×189.1	不明	渋紙表紙, 外題直書「趙陶齋先生手簡」, 本紙の変質・表面剥離甚	III-355
1847	昂敬書簡(書状と漢詩の書の礼)	状	1通	十一月廿二日	昂敬	春水老先生	16.2×18.5	楮紙	封上書「奉改 春水老先生 昂敬拝 高塘下」, 端裏書(頼春水筆)「十一月廿二日出 極月十日至」, 後欠	III-326-111
1848	〔書簡〕(権次郎様御不快の由, 症状・治療法につき)	状	1通	(文化11年)九月十日	□□寅拝	春風先生梧下	16.2×95.9	楮紙		III-294-36
1849	〔書簡〕(頼聿庵室, 臯死去の弔状)	状	1通	(天保5年)七月十二日	□□	聿庵老兄	15.9×56.6	杉原紙(薄赤色)		III-330-9-1
1850	〔書簡〕(頼杏坪死去の弔状)	状	1通	(天保5年)十一月三日	□□	聿庵老兄	15.9×102.8	杉原紙(薄赤色)		III-330-9-2
1851	〔書簡〕(千齡様も御道中御障りなく御帰り被成候につき)	状	1通	水無月朔日	照蓮寺内	頼御新もし様	14.4×77.0	諸口紙	前欠, 2枚に切断	III-125-5
1852	〔書簡〕(富永君御来賀被下候につき)	状	1通	九月廿五日認	春□拝上	聿庵老先生函丈	14.5×153.8	諸口紙	端裏書「内密他見無用書」	III-133-13
1853	〔書簡〕(三貫四百八拾五匁九分, 山崎屋へ渡し候書付)	状	1通	六月十三日	宝屋	頼様	14.0×34.3	諸口紙	封上書「頼様 宝屋 御内用」, 端裏書(頼春水筆)「三貫四百八拾五匁九分, 山崎屋へ渡し候書付」	III-166-5
1854	〔書簡〕(兼而先生御揮毫相願置候, 最早数年相成候事)	状	1通	仲春十三日	□拝	聿庵先生侍史	16.7×112.3	三桮紙(薄藍染, 波絵摺)	2枚に剥離	III-334-32
1855	□齋書簡(病人の儀につき)	状	1通	卯月一日	□齋	餘一殿	14.8×14.2	三桮紙		III-168-5
1856	辻勘三郎書簡(貴書拝読につき)	状	1通		辻勘三郎	頼餘一様貴答	14.1×36.7	諸口紙	封上書「頼餘一様貴答 辻勘三郎」, 後欠	III-168-8
1857	□□桂書簡(天下泰平題字依頼)	状	1通	二月十五日	□□桂拝	頼襄先生尊下	14.0×99.3	諸口紙	端裏書「頼襄先生尊下 □□桂拝」, 「先生何卒此度御逗留中奉頼上候」との記載あり, 2枚に剥離	III-168-13
1858	〔書簡〕(当春内々御咄上申候家格之義につき)	状	1通	(九月初三)	積拝上	両尊大人座下, 東三郎様御同覧	16.1×52.7	三桮紙	端裏書「内密拝啓」	III-292-12
1859	〔書簡〕(今日雨天ゆへ御参詣延引被成候につき)	状	1通		□山		16.5×36.2	杉原紙	端書「貴酬□山」	III-308-5
1860	〔書簡〕(御差紙の儀につき)	状	1通		□□	頼様	16.2×31.7	楮紙	封上書「頼様 上 □□拝」	III-308-14
1861	〔書簡〕(此節之御重体につき, 日々罷出申候にハ不及候事)	状	1通	十月廿六日	宮□□		14.5×18.8	諸口紙		III-308-19
1862	愛蔵書簡(呉町三穂屋弥次郎周旋之義につき)	状	1通	三月五日	愛蔵	宗二様	14.4×66.4	諸口紙	端裏書「内密」	III-308-25
1863	〔書簡〕(折角の催なれども栗山翁差支有之につき, 残念に存候)	状	1通	二月念九	木□拝	霞崖先生帳下	16.5×71.5	雁皮紙(薄赤・萌葱色)	封上書「奉復 霞崖先生 帳下 木□拝」	III-309-6
1864	〔書簡〕(御禁物, 御餌食, 相しらへ別紙差出申候事)	状	1通	七月初五	恵 拝復	春水老先生	14.5×22.3	諸口紙	封上書「春水老先生 恵拝復」, 2枚に剥離	III-312-33
1865	〔書簡〕(此一紙, 字置候由にて郷校之許状と申様に見へ候)	状	1通		□温	春水老夫子	12.4×15.9	半紙	書簡に別紙(24.8×15.4, 半紙)貼付	III-312-38

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1866	〔書簡〕(異国船退帆の事, 御屋敷内武芸大流行)	状	1通	七月朔日	進	餘一様	12.1×87.6	半紙	封上書「頼様」	III-317-3
1867	〔書簡〕(来ル廿二日展観別業にて相催候事)	状	1通	孟春十八日	磊	聿庵先生□下	16.2×36.4	楮紙	封上書「聿庵先生 □下 磊」	III-317-10
1868	〔書簡〕(世話人今般御城下へ被来候につき)	状	1通	七月十八日	□□	頼餘一様上	15.6×20.1	楮紙	封上書「頼餘一様上 □□」	III-317-22
1869	□□屋四郎兵衛書簡(芳我様より金子之義御届ヶ申上につき)	状	1通	卯二月廿六日	□□屋四郎兵衛	来餘一様	16.1×37.5	楮紙	包紙(24.9×17.3, 半紙)「広島 来餘一様尊下用書 □□屋四郎兵衛」, 同・裏「自大洲」	III-317-45
1870	〔書簡〕(御訪被下候所, 小生不在にて失敬仕候)	状	1通	廿一日	嶺□夫	支峰頼先生玉案下	14.5×42.5	漉返し(墨染)	封上書「支峰頼先生 玉案下 嶺□夫」	III-318-1
1871	〔書簡〕(近頃ハ脚氣之御気味に御難儀之由につき)	状	1通	八月廿六日	正□	東三郎様	12.1×85.2	半紙	端裏書「内用無異」	III-319-15
1872	〔書簡〕(海音尼の事)	状	1通	壱月カ	茂権		15.1×24.9	楮紙		III-326-66
1873	〔書簡〕(梅颯の出産見舞, 久太郎の保養のすすめ)	状	1通	(寛政元年)夏頃			13.3×61.9	楮紙		III-325-64
1874	〔書簡〕(熊吉の引越の祝い状)	状	1通	(享和3年)八月廿二日			14.4×40.7	楮紙	端裏書[]	III-325-43
1875	〔書簡〕(当春君候御遊猟之次御立寄有之欣然之至奉存候事)	状	1通	(文化5年)七月十三日		(頼春水)	15.7×14.3	杉原紙	「御令弟様(中略)君候御遊猟之次御立寄有之」との記載あり	III-308-17
1876	〔書簡〕(詩会延引の事)	状	1通	(文化11年カ)			15.8×70.1	楮紙		III-325-70
1877	〔書簡〕(嫡孫承祖之御唱へ御心得違ひにてハ無御座候哉)	状	1通	(文化12年)			24.7×21.7	半紙		III-157-5
1878	〔書簡〕(景讓三回忌につき)	状	1通	(文化14年カ)正月廿六日			14.1×24.5	楮紙		III-326-82
1879	〔書簡〕(詩の斧正の依頼)	状	1通	(文政元年カ)戌寅埭夜作			11.8×26.5	半紙		III-325-61
1880	〔断簡〕(近況伺いにつき)	状	1通				13.5×34.5	楮紙	前後欠, 「弥太郎殿手跡御覧可為遊大悦至極存候」「久太郎殿随分□悪よし」「昨日仁かや船大坂参申候」「万四郎殿病気いか、御座候哉」との記載あり	III-125-6
1881	〔書簡〕(御倚頼仕候品につき)	状	1通	十二月廿四日			15.8×35.5	楮紙	端裏書「急件」	III-389
1882	〔断簡〕(尚々, 権次郎様御病気儀如何被成候哉)	状	1通				14.5×8.5	諸口紙		III-166-11
1883	〔書簡〕(梅崎流ノ剣, 種田流ノ槍, 今天下に比類ナキ流義に御座候事)	状	1通				15.0×63.2	杉原紙		III-334-19
1884	〔書簡〕(埴路大坂にて諸詩の家で招飲の事)	状	1通			(頼家)	23.4×12.7	竹紙		III-336-22

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1885	〔書簡〕(揮毫依頼)	状	1通			(頼事庵カ)	24.6×33.6	半紙	紙背朱書『事庵大人御書牘』	III-349-16
1886	〔書簡〕(鳥越烟村の来遊・西進につき紹介状)	状	1通	四月十二日	芸州[]		14.3×59.0	諸口紙	「此梅氏、烟村、仮称仙蔵、備前之産ニて詩画も出来、近年弊邑へ来遊、頗名号ニ似候人ニて御座候」、ほかに長府・筑前・福岡・佐賀・長崎・久留米・熊本・豊後・防州大道村・下関・上関・長州の文人名の記載あり	III-168-16
1887	〔書簡〕(今夕罷出候儀につき)	状	1通	極月			14.4×37.0	諸口紙	奥・地を切断	III-168-17
1888	〔書簡〕(例時方御来駕奉希候)	状	1通	八月十二日			14.6×13.3	諸口紙	前欠、端裏に付紙あり(墨書なし)	III-168-18
1889	〔断簡〕	状	1通				14.0×2.8	諸口紙		III-251-12
1890	〔断簡〕(世説の一の巻、辛酉詩巻の事につき)	状	1通				12.4×4.0	半紙		III-251-17
1891	〔書簡〕(大人江宜敷御致意御頼候事)	状	1通				12.1×20.0	半紙	前後欠	III-251-21
1892	〔断簡〕(春水宛)	状	1通			春水老先生御門弟中様	16.5×3.6	楮紙	「御令弟」との記載あり	III-290-109
1893	〔断簡〕	状	1通				15.7×5.4	杉原紙		III-290-110
1894	〔書簡〕(御令息様御入門につき酒肴拝受仕候)	状	1通	正月十六日		(頼事庵)	14.1×31.5	諸口紙		III-292-7
1895	〔断簡〕	状	1通				14.2×10.5	諸口紙	前後欠	III-292-30
1896	〔断簡〕(牧善助へ私上京知れ候てはよろしく無御座候)	状	1通				12.1×4.6	半紙		III-292-31
1897	〔断簡〕(二階之額に仕度につき御考に字御書被下度候)	状	1通				14.5×12.7	諸口紙		III-292-35
1898	〔書簡〕(若旦那様御用御出精、万四郎様御快方の御儀につき)	状	1通			(頼春水)	14.3×25.8	諸口紙	後欠、2枚に切断	III-293-6
1899	〔書簡〕(御老人様先又々御不快之由につき)	状	1通	七月既望		(頼事庵)	16.2×131.0	三桮紙	III-294-34～36まで紙帯にて一括、「七月十八日至」、「用所便兵五也」	III-294-34
1900	〔断簡〕	状	1通				7.2×1.9	楮紙		III-295-2
1901	〔断簡〕	状	1通				3.3×0.5	楮紙		III-295-3
1902	〔書簡〕(御小児様御夭折被成候由につき見舞状)	状	1通	端午前一日		(頼事庵カ)	14.5×105.6	諸口紙	2枚に切断、前欠カ	III-308-1
1903	〔断簡〕(野上屋江遣レ候書状につき)	状	1通				13.0×7.2	楮紙		III-308-8
1904	〔断簡〕(鯉老尾御内君様御菓餌に可被成下候事)	状	1通				13.0×11.5	楮紙	裏面に墨書「○」	III-308-9
1905	〔書簡〕(佐伯某之事につき)	状	1通	十月十二日			16.1×28.1	竹紙		III-308-20
1906	〔書簡〕(長尾脇差の事につき)	状	1通				13.9×82.8	諸口紙		III-308-21
1907	〔書簡〕(先日持参ノ酒ハ無之、此酒御試可被下候事)	状	1通	十一月廿八日			16.1×73.5	三桮紙	端裏書「拝答」	III-308-23
1908	〔書簡〕(竹原へ御墓参御願も相済、近々御出可被成候につき)	状	1通	十月十四日		(頼春水)	14.0×44.2	諸口紙	端裏書「御内用拝答」	III-308-24

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1909	〔書簡〕(内密書 縁女ノ儀, 今以良縁行 当り不申候につき)	状	1通	九月初二			16.0×63.6	三桎紙	端裏書「内密御投火」	III-308-26
1910	〔書簡〕(段々新政在来, 諸侯倉屋敷江 戸へ引候事ほか)	状	1通	六月廿四日		(頼家)	16.1×48.6	三桎紙	封上書「無異拝答」	III-308-27
1911	〔書簡〕(今午後芥家へ会晤候様, 同家 より申来候につき)	状	1通	五月初九		(頼家)	13.9×29.2	楮紙		III-308-28
1912	〔書簡〕(此紙包, 新保彦兵衛江早々御 頼可被下候事)	状	1通	十一日		(頼家)	13.0×47.0	楮紙		III-308-29
1913	〔書簡〕(時候挨拶状)	状	1通				15.7×47.7	杉原紙	後欠	III-312-34
1914	〔書簡〕(御差紙の儀につき)	状	1通	十二月十一 日		(頼家)	14.2×26.3	諸口紙		III-317-4
1915	〔書簡〕(郷賢祭出會人名)	状	1通				14.5×38.7	楮紙		III-322-22
1916	〔包紙〕(先君哭詩十通 附大舎僧吊書)	状	1枚				32.5×25.0	楮紙		III-323-4
1917	〔書簡〕(尾藤よりの紙包の事)	状	1通				11.6×32.3	半紙	前欠	III-325-2
1918	〔書簡〕(進郷不埒の事)	状	1通				13.9×39.5	楮紙	前後欠カ	III-325-3
1919	〔書簡〕(向屋敷への引越, 白川侯御病 気の事)	状	1通				14.0×40.7	楮紙		III-325-4
1920	〔書簡〕(寿之助様・姫様方への御進講)	状	1通				13.9×39.7	楮紙		III-325-5
1921	〔書簡〕(宮島の案内, 仁賀村争訟の事)	状	1通	六月十二日			14.1×28.5	楮紙		III-325-6
1922	〔書簡〕(支払い済の件につき)	状	1通				14.2×28.0	楮紙		III-325-7
1923	〔書簡〕(絹本と絹屏風の誂えにつき)	状	1通				14.0×39.0	楮紙	前欠	III-325-8
1924	〔書簡〕(殿様御帰国の事)	状	1通				13.9×37.1	楮紙		III-325-9
1925	〔書簡〕(春水への祝儀状)	状	1通	八月七日			14.4×39.5	楮紙		III-325-10
1926	〔書簡〕(婚礼道具の仕度につき)	状	1通				13.0×33.8	楮紙		III-325-11
1927	〔書簡〕(示談の礼状)	状	1通	四月廿八日			12.0×44.2	半紙	封上書「御内用書」	III-325-15
1928	〔書簡〕(稽古と今晝の夢の和歌の事)	状	1通				14.5×40.6	楮紙		III-325-16
1929	〔書簡〕(生肴贈答の礼状)	状	1通	八朔			13.9×33.0	楮紙		III-325-17
1930	〔書簡〕(家督相続と入国祝儀の儀式の 日取り)	状	1通	十月九日			11.8×32.2	半紙		III-325-18
1931	〔書簡〕(諸道具の受け渡しの事)	状	1通				12.2×33.5	半紙		III-325-19
1932	〔書簡〕(稽古定日延引の件)	状	1通	三月八日			14.0×44.6	楮紙		III-325-20
1933	〔書簡〕(大坂の浪人三百人の狼藉の事)	状	1通				13.9×37.2	楮紙	後欠	III-325-21
1934	〔書簡〕(御場所の絵図面の事)	状	1通				14.4×30.7	楮紙		III-325-22
1935	〔書簡〕(時候挨拶状)	状	1通				13.9×85.7	楮紙		III-325-23
1936	〔書簡〕(書の所望の取次)	状	1通	十一月廿五 日			14.0×97.1	楮紙		III-325-24

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1937	〔書簡〕(宿泊の手配の事, 追啓 千蔵改名の事)	状	1通	二月廿四日			14.5×43.5	楮紙		Ⅲ-325-25
1938	〔書簡〕(尾藤・古賀両氏の屋敷に伺った事)	状	1通				13.8×44.8	楮紙	前後欠	Ⅲ-325-28
1939	〔書簡〕(書の所望)	状	1通				14.3×39.9	楮紙	後欠	Ⅲ-325-30
1940	〔書簡〕(時候挨拶状)	状	1通				14.4×35.3	楮紙		Ⅲ-325-31
1941	〔書簡〕(広島へ帰着後, 杏坪と山陽に面会したこと)	状	1通				11.8×32.8	半紙	前後欠	Ⅲ-325-32
1942	〔書簡〕(新酒を進上する事)	状	1通				14.3×29.0	楮紙		Ⅲ-325-33
1943	〔書簡〕(対山口書の百疋分と請取書を差上げる事)	状	1通				13.8×29.7	楮紙		Ⅲ-325-34
1944	〔書簡〕(与一の取り扱いにつき)	状	1通	四月五日			14.1×33.0	楮紙	封上書「内用」	Ⅲ-325-37
1945	〔書簡〕	状	1通				14.0×35.1	楮紙	前後欠	Ⅲ-325-40
1946	〔書簡〕(江戸の知友, 江戸藩邸での流感の様子)	状	1通				14.4×36.7	楮紙		Ⅲ-325-41
1947	〔書簡〕(贈答の添え書)	状	1通				14.5×30.1	楮紙		Ⅲ-325-42
1948	〔書簡〕(借用金の返済の件)	状	1通	十一月廿五日			12.0×64.6	半紙		Ⅲ-325-44
1949	〔書簡〕(昨夜の馳走の礼状)	状	1通	十二月十六日			11.5×32.3	半紙		Ⅲ-325-45
1950	〔書簡〕(丸太受け取りの一件)	状	1通	二月廿二日			13.0×32.1	漉返紙		Ⅲ-325-46
1951	〔書簡〕(拝借の行幸図の事)	状	1通	十月十六			14.3×37.3	楮紙(墨染)		Ⅲ-325-47
1952	〔書簡〕(草鞋銭の件)	状	1通	極月十五日			15.0×44.5	楮紙		Ⅲ-325-48
1953	〔書簡〕(依頼した書の礼状)	状	1通	九月十三日			14.0×40.6	楮紙		Ⅲ-325-49
1954	〔書簡〕(集会の日時の確認の事)	状	1通	八月十二日			14.0×31.2	楮紙		Ⅲ-325-51
1955	〔書簡〕(祭礼の事, 詩会の延引の相談)	状	1通	廿一日			11.5×34.7	半紙		Ⅲ-325-52
1956	〔書簡〕(聖堂普請奉行の人事)	状	1通				13.4×35.7	楮紙	後欠	Ⅲ-325-53
1957	〔書簡〕(経済的援助の依頼)	状	1通				13.9×57.7	楮紙		Ⅲ-325-54
1958	〔書簡〕(明日の梅林見物の延期)	状	1通				13.9×28.5	楮紙		Ⅲ-325-55
1959	〔書簡〕(諸品支払いの件)	状	1通	三日			13.5×76.7	楮紙		Ⅲ-325-57
1960	〔書簡〕(惣兵衛から胡屋才助へ借り替えの件)	状	1通				14.3×113.4	楮紙	封上書「頼様 御支配方様 竹 正蔵 内用御直披」	Ⅲ-325-58
1961	〔書簡〕(詩作につき)	状	1通	丁未嘉平月			15.0×43.4	楮紙		Ⅲ-325-62
1962	〔書簡〕(出兵・御用柄の出費の件)	状	1通	十月廿六日	高橋石	頼碩徳大夫子	15.5×95.6	楮紙		Ⅲ-325-65
1963	〔書簡〕(春風館での饗応, 風早大津屋の審丸之碑の件)	状	1通				16.2×45.9	楮紙		Ⅲ-325-66
1964	〔書簡〕(古賀精里, 橘南谿両氏の動静)	状	1通	十一月廿二日			16.1×28.0	楮紙		Ⅲ-325-67

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1965	〔書簡〕(歳旦詩帖完成につき)	状	1通				15.9×44.4	楮紙		III-325-68
1966	〔書簡〕(時候挨拶状)	状	1通				15.0×48.0	楮紙	端裏書「頼春水筆カ」『九月三日仁甚船便ニ来ル』	III-325-71
1967	〔書簡〕(藤架の詩に仮名を付して送ってほしい事)	状	1通				15.8×37.8	楮紙	端裏書「四郎藤架之詩之事」	III-325-73
1968	〔書簡〕(病気見舞状)	状	1通	二月十八日			16.5×45.5	楮紙	端裏書「那須 二月十八日出 三月七日至 ○」	III-325-74
1969	〔書簡〕(印面雙鈎依頼, 那波手翰につき)	状	1通			春水先生函丈	15.6×38.5	楮紙	封上書「春水先生函丈 □再行」	III-325-75
1970	〔書簡〕(春水の東行延引について)	状	1通				16.4×37.2	楮紙		III-325-76
1971	〔書簡〕(先君の書の真偽につき)	状	1通				16.0×40.7	漉返し紙カ		III-325-77
1972	〔書簡〕(依頼した絹本の返却につき)	状	1通	五日			15.8×29.9	楮紙	「貫名泰一郎」のほか, 京都の略図あり	III-325-78
1973	〔書簡〕(養子縁組の件につき)	状	1通				16.1×35.4	楮紙		III-325-79
1974	〔書簡〕(出立準備の指示)	状	1通				16.4×31.0	楮紙		III-325-80
1975	〔書簡〕(帰宅後の御様子につき)	状	1通				17.2×45.6	楮紙	前欠	III-325-81
1976	〔書簡〕(依頼した題額の件)	状	1通	八月廿一日			17.0×41.7	楮紙		III-325-82
1977	〔書簡〕(弔歌の事につき)	状	1通	五月二日	もり□□□	海音上人	16.4×45.7	楮紙		III-325-83
1978	〔書簡〕(江戸へ持参する書物の事)	状	1通	八月七日			15.7×71.5	楮紙	端裏書「江戸へ持参御書物の事 差向用答」	III-325-84
1979	〔書簡〕(詩稿)	状	1通				15.8×91.8	楮紙	端裏書「梅田夢岳所録来 先師詩書与梅田夢岳書之写し」	III-325-85
1980	〔書簡〕(詠史和歌二十首につき)	状	1通				16.3×142.1	楮紙	首題「玉銚百首の内」, 端裏書「状かさニ進候」	III-325-86
1981	〔書簡〕(橋本家の金子の利息につき)	状	1通				15.8×122.0	楮紙	後欠	III-325-87
1982	〔書簡〕(書き手女性の近況につき)	状	1通				19.4×44.5	楮紙	後欠カ	III-325-88
1983	〔書簡〕(画賛につき)	状	1通				12.1×37.3	半紙		III-325-89
1984	〔書簡〕(春水の祝儀に鯛進上につき)	状	1通	八月四日			13.8×36.9	楮紙		III-325-92
1985	〔書簡〕(口上 井上半五郎娘葬儀につき)	状	1通	六月廿一日	江屋敷	頼餘一様	13.9×10.7	楮紙	封上書「頼餘一様 江屋敷」	III-326-1
1986	〔書簡〕(公儀に刑を申し伝えた件)	状	1通				14.2×13.4	楮紙		III-326-2
1987	〔断簡〕	状	1通				14.6×7.4	楮紙		III-326-3
1988	〔断簡〕	状	1通				14.2×1.8	楮紙		III-326-4
1989	〔断簡〕	状	1通	九月廿日			14.5×5.9	楮紙		III-326-5
1990	〔断簡〕(川・海など地形上の定義)	状	1通				14.8×5.6	楮紙		III-326-6
1991	〔断簡〕(神辺翁のうたにつき)	状	1通				13.6×5.5	楮紙		III-326-7
1992	〔断簡〕(和歌一首)	状	1通				14.2×7.7	楮紙		III-326-8
1993	〔断簡〕	状	1通	十一月廿六日			14.5×2.3	楮紙	前欠	III-326-9
1994	〔断簡〕	状	1通				13.7×10.0	楮紙		III-326-10
1995	〔書簡〕(縁組御調いにつき祝儀状)	状	1通			頼万四郎カ	14.4×20.0	楮紙		III-326-12
1996	〔断簡〕(府中へ御歩行の件につき)	状	1通				16.7×9.8	楮紙	前欠, 紙背墨書あり(漢詩の一部カ)	III-326-13

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
1997	〔断簡〕(自作一首につき批正依頼)	状	1通	八月十三日			14.5×9.9	楮紙	裏面に歌カ	Ⅲ-326-14
1998	〔断簡〕(旧臘の書状の返信)	状	1通				14.0×9.9	楮紙	端裏書(頼春水筆カ)「二月九日至」	Ⅲ-326-15
1999	〔断簡〕(薨散に温泉を勧める事)	状	1通	十月十二日			14.4×8.6	楮紙	前欠	Ⅲ-326-16
2000	〔書簡〕(口上 塩焼鯛進上につき)	状	1通				14.5×13.3	楮紙	封上書「頼先生 直十郎事 よそむやとて」	Ⅲ-326-17
2001	〔断簡〕(銀子の受取の事)	状	1通				15.6×7.5	楮紙		Ⅲ-326-18
2002	〔断簡〕	状	1通				14.4×9.2	楮紙		Ⅲ-326-19
2003	〔断簡〕	状	1通				14.0×9.0	楮紙		Ⅲ-326-20
2004	〔書簡〕(武芸・学問につき)	状	1通	七月			13.8×11.2	楮紙	端裏書(頼春水筆)「御直書并添書き写」	Ⅲ-326-21
2005	〔断簡〕	状	1通				14.2×6.6	楮紙		Ⅲ-326-22
2006	〔断簡〕	状	1通				14.0×8.6	楮紙(墨染)		Ⅲ-326-23
2007	〔断簡〕(元日に太刀馬代差出しにつき)	状	1通				14.2×9.5	楮紙		Ⅲ-326-25
2008	〔断簡〕	状	1通	七月十日			11.8×4.7	半紙		Ⅲ-326-26
2009	〔断簡〕	状	1通				14.0×3.5	楮紙		Ⅲ-326-28
2010	〔断簡〕	状	1通	二月朔日出			13.8×7.3	楮紙	端裏書(頼春水筆カ)「二月朔日出同廿七日至 即日返事 お直らハ付紙之返事 御早道便」, 後欠	Ⅲ-326-29
2011	〔書簡〕(進上した土佐侯の書, 江戸の動静につき)	状	1通				14.0×11.3	楮紙		Ⅲ-326-30
2012	〔断簡〕(書付三通の返事の延引の事)	状	1通				14.0×6.0	楮紙		Ⅲ-326-32
2013	〔書簡〕(夏病にて無沙汰につき)	状	1通				13.7×10.5	楮紙		Ⅲ-326-33
2014	〔書簡〕(尾藤二洲の通行につき)	状	1通				15.0×8.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「〇」, 後欠	Ⅲ-326-34
2015	〔断簡〕	状	1通				19.6×10.8	楮紙		Ⅲ-326-35
2016	〔書簡〕(藤翁の事につき)	状	1通	丑年五月カ			13.1×13.9	楮紙		Ⅲ-326-36
2017	〔書簡〕(書物の貸借について)	状	1通				14.3×22.3	楮紙		Ⅲ-326-38
2018	〔書簡〕(額の御礼と詩の斧正の依頼)	状	1通				14.3×12.6	楮紙		Ⅲ-326-39
2019	〔書簡〕(赤坂大津平長屋での刃傷事)	状	1通				14.0×21.0	楮紙		Ⅲ-326-40
2020	〔書簡〕(扇面に書の依頼)	状	1通				17.3×24.0	楮紙		Ⅲ-326-45
2021	〔書簡〕(京へ送った詩の事)	状	1通	八月廿一日			16.1×19.1	楮紙		Ⅲ-326-46
2022	〔書簡〕(長七, 井園添書の事)	状	1通	十月十三日			14.3×15.7	楮紙		Ⅲ-326-47
2023	〔書簡〕	状	1通				16.0×25.4	楮紙		Ⅲ-326-48
2024	〔書簡〕	状	1通	十月廿三日			14.2×18.2	楮紙		Ⅲ-326-49
2025	〔書簡〕(詩稿の件につき)	状	1通	八月十七日			14.3×24.8	楮紙		Ⅲ-326-50
2026	〔書簡〕(病気の際の気遣いの礼)	状	1通	九月廿二日		頼弥太郎様	13.9×22.9	楮紙		Ⅲ-326-51
2027	〔書簡〕(彦二郎死去の事)	状	1通				17.0×25.1	楮紙		Ⅲ-326-52
2028	〔書簡〕(御側詰同格につき祝い状)	状	1通	八月四日			14.3×26.5	楮紙		Ⅲ-326-54
2029	〔書簡〕(御経済向懸考書の事)	状	1通				14.1×18.7	楮紙	封上書「御内密」	Ⅲ-326-56
2030	〔書簡〕	状	1通	六月廿九日			14.4×25.7	楮紙		Ⅲ-326-58

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
2031	〔書簡〕(祝儀状)	状	1通	十二月廿九日			14.5×17.7	楮紙		III-326-59
2032	〔書簡〕	状	1通				16.5×15.3	楮紙		III-326-60
2033	〔書簡〕(借りている書物の事)	状	1通	十月廿一日			14.0×25.7	楮紙		III-326-62
2034	〔書簡〕(年賀の歌の事)	状	1通				14.6×23.8	楮紙		III-326-63
2035	〔書簡〕(明日は学問所へ出勤の事)	状	1通	六月六日			14.8×13.7	楮紙		III-326-64
2036	〔書簡〕(月形鶴窠の動静, 朱子の尺牘の事)	状	1通				12.8×13.8	半紙		III-326-65
2037	〔書簡〕(水害・火災の防災の事)	状	1通	八月			16.0×15.3	楮紙		III-326-67
2038	〔書簡〕	状	1通	七月六日			14.6×17.0	楮紙		III-326-68
2039	〔書簡〕(屏風の事, 大学・小学の事)	状	1通				13.8×19.1	楮紙		III-326-69
2040	〔書簡〕(腹痛にて出勤しない事)	状	1通	七月廿日			14.4×20.9	楮紙		III-326-70
2041	〔書簡〕	状	1通	式月ヵ			14.4×15.6	楮紙		III-326-71
2042	〔書簡〕(古賀よりの詩を筆写した事)	状	1通				15.4×18.8	楮紙		III-326-72
2043	〔書簡〕(水戸藩の會澤の著述の事, 外国船の事)	状	1通	二月七日			16.0×23.8	楮紙		III-326-73
2044	〔書簡〕(辛嶋よりの贈答品の事, 出席日数の事)	状	1通				16.8×17.0	楮紙		III-326-74
2045	〔書簡〕(加増の口上書)	状	1通	八月十日		頼弥太郎様	13.7×22.0	楮紙	封上書「頼弥太郎様 井上九十郎」	III-326-77
2046	〔書簡〕(杏坪の情質の事, 別居の勧め)	状	1通				13.2×20.5	楮紙		III-326-80
2047	〔書簡〕(杏坪が重用されている事)	状	1通				13.9×16.0	楮紙	端裏書(頼春水筆)「五月十五日返事 左京殿之事ゆへ申遣ス」	III-326-83
2048	〔書簡〕(神辺の様子, 茶山と頼津周辺にて遊んだ事)	状	1通	(寛政7年ヵ)			16.2×19.4	楮紙		III-326-84
2049	〔書簡〕(所望していた三幅対の礼)	状	1通				15.2×19.5	楮紙		III-326-85
2050	〔書簡〕(禅師が書を贈りたい事)	状	1通	九月七日			14.5×22.8	楮紙		III-326-87
2051	〔書簡〕	状	1通				16.5×13.7	楮紙(黄染)		III-326-89
2052	〔書簡〕(詩歌の書の蒐集の事)	状	1通	十二月初二			15.5×15.0	楮紙		III-326-92
2053	〔書簡〕(出勤しないので他へ頼んでほしい事)	状	1通	八月十日			14.5×24.0	楮紙		III-326-93
2054	〔書簡〕(頼先生の二帖内覧の事)	状	1通				14.0×13.5	楮紙	端裏書「□紙御答 □□」	III-326-95
2055	〔書簡〕(代料を受け取った事)	状	1通	極月廿九日			15.5×26.0	楮紙(墨染)		III-326-96
2056	〔書簡〕(栄名の再嫁の事)	状	1通	十一日			14.0×18.0	楮紙		III-326-97
2057	〔書簡〕(両親の気の毒な事)	状	1通				16.0×19.5	楮紙		III-326-98
2058	〔書簡〕(原稿の代銀を払った事)	状	1通	廿三日			15.5×17.5	楮紙(薄藍色)		III-326-99
2059	〔書簡〕(硯の事)	状	1通				14.5×17.0	楮紙		III-326-100
2060	〔書簡〕(巨蘿蔔三根を贈られた礼)	状	1通				16.5×22.0	楮紙		III-326-101

書状類

番号	名称	形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	備考	管理番号
2061	〔書簡〕(用談の集会の日程の事)	状	1通				13.5×23.0	楮紙		Ⅲ-326-104
2062	〔書簡〕	状	1通				16.0×21.0	楮紙		Ⅲ-326-105
2063	〔書簡〕(御参詣の事)	状	1通	五月廿日			14.0×16.0	楮紙		Ⅲ-326-106
2064	〔書簡〕(尾藤の素餐録, 茶山の冬の日かげの事)	状	1通				27.2×23.8	楮紙		Ⅲ-326-110
2065	〔書簡〕(扁字揮毫の礼状)	状	1通				14.0×20.4	楮紙	後欠	Ⅲ-326-112
2066	〔書簡〕(年始状)	状	1通				27.6×22.6	楮紙		Ⅲ-326-113
2067	〔書簡〕(伏見, 草津への道中の宿の事)	状	1通				15.0×27.0	楮紙		Ⅲ-326-114
2068	〔書簡〕(礼として鯉節を進上する事)	状	1通	正月十二日			17.7×19.0	楮紙		Ⅲ-326-116
2069	〔書簡〕(一家で流感に罹患した事)	状	1通				11.7×26.4	半紙		Ⅲ-326-117
2070	〔書簡〕(黒須の処遇の事)	状	1通				13.7×9.0	楮紙		Ⅲ-372-51
2071	〔書簡〕(源公の風説の解釈につき)	状	1通	六月十日	[] 拝	頼先生閣下	14.0×16.0	楮紙	前欠	Ⅲ-372-91
2072	〔書簡〕(春水が無事に帰着したか尋ねたき事)	状	1通			春水先生侍史	16.4×14.5	楮紙(薄赤色)	封上書「春水先生侍史[] 但野梅晴書風作御涉頼月為媒村小紙 □安知事在述幾度」	Ⅲ-372-95
2073	〔書簡〕(備前岡山梅仙蔵と申す画人周旋の事)	状	1通	七月三日		(頼聿庵)	16.0×30.1	楮紙	前欠(封上書部分のみ欠損)	Ⅲ-378-9
2074	〔書簡〕(額字之義につき, 翠楊楼と御調奉希候)	状	1通	七月九日出		千秋先生江之書状	14.4×28.0	諸口紙	封上書「千秋先生江之状」, 端裏書(頼春水筆)「七月九日出, 廿七日至」, 『○』, 後欠	Ⅲ-378-13